

博士学位論文

令和6年度

里地里山の景観における視点場の環境デザインと屋外公共空間への応用
—アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じて

南出 倫子

女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

要旨

本研究は、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画するために、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究対象事例として、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、どのように屋外公共空間の環境デザインに応用することができるのかを検証することを目的とした。「視点場」とは、視対象を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況であり^{1), 2)}、「視対象」とは、視点から眺められる対象である。「たんねのあかり」とは、新潟県柏崎市谷根（たんね）地区の里地里山を舞台に、2009年から2018年まで、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らが地域と大学で協働して実施した、アート作品の展示や空間演出を行った屋外イベントである。

第1章序論では、屋外公共空間の景観と課題、および「たんねのあかり」の活動が展開した経緯について述べた。近年、日本の都市部を中心に、横浜市関内エリアの日本大通りのように、屋外公共空間を地域資源の一つと捉え、より積極的に活用して地域の価値向上へとつなげていく、街路や都市公園などの公共空間活用の動向が活発になっている。「地域資源」とは、地域内に存在する資源であり、地域の自然、歴史、伝統、文化などの有形、無形のあらゆる要素を指す³⁾。屋外公共空間は、地域住民と来訪者などの多様な利用者が屋外活動を行う場所である。したがって、さまざまな利用者を想定した環境デザインの計画には、対象場所の現状把握のために、景観の観察と聞き取り調査によるフィールドワーク調査が有効な手段の一つであるといえる。このような背景から、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探るために開始した地域と大学の協働による活動が、「たんねのあかり」の活動へと展開した。

第2章では、研究対象地とした新潟県柏崎市谷根地区中心部について、文献調査とフィールドワーク調査をもとに地域の特徴を把握した。屋外公共空間を計画する場合、さまざまな利用者を想定するため、都市部とは異なる地域の事例として、里地里山の谷根地区を研究対象地とした。谷根地区中心部は米山の裾に位置し、谷根川を中心とした低地と丘陵地に、田んぼや棚田、暮らしの場が集中する農村景観の基本構造をもった特徴的な地形である。農村景観の基本構造は、「田の広がる平場、田に水を供給する山、それらの間の山際の集落⁴⁾」によって形成される。地区の高台に位置する神社と寺院を拠点として、かつての生業であった稲作に関連した谷根神社の春祭りといった祭祀や、谷根大和舞といった地域芸能などの地域文化が根付いている。おもな生業が稲作であったことから、大雨や雪どけ水による増水などの自然災害への対策を含む谷根川との関わりが、日々の生活の中で重要であった。また、谷根川に架かる橋梁は東西の地域をつなぎ、橋上空間は春祭りの際の悪魔祓いの舞の舞台になるなど、祭事にも利用される地域文化と暮らしに欠かせない場所である。

本研究では、谷根地区中心部を対象地として、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働による「たんねのあかり」の活動を通じて得られた情報を分析の対象とした。分析は、分析-1「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所⁵⁾と見学ルートの経路形状

の比較（第3章）、分析-2「たんねのあかり」における「選定場所⁶⁾」と「視点場」の類型抽出（第4章）の二部構成とした。

第3章分析-1では、（1）開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握、（2）開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析を行った。（1）では、使用場所を特徴づける文化的要素を抽出し、これらの要素は「①稲作文化に関わるもの」、「②神社と寺院」、「③地域の文化や信仰に関わるもの」、「④地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」の4つに分類された。（2）では、開催年ごとの見学ルートの経路形状を地図上に示して比較を行った。開催年ごとの見学ルートの経路形状を抽出し、見学ルートの特徴から分類を行った。第一に、見学ルートは経路形状の特徴から、谷根川を中心とした「回遊型」、棚田（鉄塔下）の中央の道路を用いた「中通路型」、谷根川と棚田（鉄塔下）の双方のタイプを組み合わせた「回遊・中通路型」の3つのタイプに分類されることがわかった。第二に、見学ルートの距離と形状の分析から、ショートカットルートがある場合、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まることがわかった。第三に、見学ルートの起点と終点の位置は、滞留空間となる使用場所に多く設定されたことがわかった。「たんねのあかり」の見学ルートの特徴は、起点と終点を同一地点として、谷根地区中心部に点在する使用場所を巡る、おもに回遊性のある経路であったことが確認できた。

第4章分析-2では、（1）「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定、（2）「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定、（3）「選定場所」の類型と分析、（4）「視点場」の類型と地域の固有性の分析を行った。（1）では、「たんねのあかり」の候補場所⁷⁾の分析を行った。候補場所は、生活拠点となる場所や地域の文化や個性を形成する要素によって構成された65か所であった。候補場所65か所から、イベント時の実用性から定められた3つの条件（①イベント対象エリア内に位置すること、②イベント時に占有可能な場所であること、③施工可能な場所であること）を満たしたものとして、選定場所46か所が設定された。（2）では、選定場所の分析項目を設定した。空間の特徴から設定した分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感⁸⁾」とした。景観の特徴から設定した分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ⁹⁾」、「i. 文化的意味」とした。（3）では、選定場所46か所を、空間の特徴と景観の特徴から設定した9つの分析項目を用いて、クラスター分析にて分類を行った。分析の結果、選定場所46か所は、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」、「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」の6つの類型に分類された。（4）では、6つの類型の選定場所の特徴と視点場となった選定場所の構成を分析し、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出した。6つの視点場の類型は、「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観¹⁰⁾を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」であ

った。これらの視点場はいずれも、谷根地区の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の個性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であると考えられた。「たんねのあかり」にて設定された視点場は、視点場から眺めることができる地域の個性を形成する視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める要因になると分析した。

第5章では、分析-1、2をもとに、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割について考察した。分析-1から地域の回遊性に焦点をおいて、①点在する文化的要素と視点位置、②経路形状と回遊性、③移動空間と滞留空間について考察を行った。分析-2から地域の固有性に焦点をおいて、①地域固有の景観と生活景、②地形の目利きと地域文化、③視点場の設定と地域の固有性について考察を行った。これらの考察を踏まえ、地域と視点場の関係に焦点をおいて、①里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場、②小盆地の回遊性と固有性、③視点場と地域の回遊性と固有性について考察を行った。以上から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場は、地域の回遊性や固有性に関わり、地域のさまざまな視対象を眺め、観察し、地域を知るための視覚的な情報を得ることができる位置を、地域住民と来訪者に示すという役割があることがわかった。これらのことから、里地里山の景観における視点場の環境デザインは、里地里山の地域において人びとが生活と生業を営む上で、住まう地域の地形の目利き¹¹⁾にはじまり、地形を活かした地域文化を育むとともに、日常生活の中で形成される自然と人為の関係を構築する上で欠かせないものである。これは、「人と人の活動を取り巻く環境」、「視覚環境である景観」、そして「人」との関係のデザインであるといえる。また、地域における自然と人為の関係は、地域住民にとっては日常生活の中で身近な存在であるため、特別なものとして意識されにくい場合が多い。よって、地域住民と来訪者との協働の活動や交流を通じて多角的な視点をもつことができれば、地域での人と地形、自然と人為などの関係の中に、地域の固有性の意味や価値を見いだすことが可能である。地域内外の多角的な視点をもって地域に視点場を設定し、視対象となる地域の個性や特徴を表す文化的要素への視線を導くことは、地域の固有性を高めるために重要な方法である。そして、地域に視点場を設定する場合、起点と終点を同位置とし、道路空間や橋上空間などの移動空間に連続する公共的な視点場を設定することによって、地域の回遊性が形成される。地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場を移動することで、人は地域の固有性を表す要素群を複合的に里地里山の景観の中に眺めることができる。回遊性と固有性は相互に影響しあい、地域の個性や特徴を形成する。

第6章結論では、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論を整理し、屋外公共空間への応用に向けた、「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」を抽出した。この要点は、「A. 里地里山の景観における回遊性」、「B. 里地里山の景観における固有性」、「C. 里地里山の景観における視点場」、「D. 里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性」の4項目に分類された12の要点で構成した。また、「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重

要な5つの項目」をまとめた。

第7章と第8章では、都市部の一つの地域として表参道周辺地域を事例として取り上げ、「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いて、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるのかを検証し、今後の課題と展望について述べた。地域を知って把握するための身体的、視覚的な体験を提供する環境デザインの方法として、回遊性をもった地域の経路と地域固有の景観に関わる6つの種類の視点場を設定し、都市部の一つの地域を事例とした屋外公共空間における検証例を提示した。検証の結果、本論文で提示した「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いることによって、地域の視点場、回遊性、固有性に焦点をおいた、里地里山の景観における視点場の環境デザインを、都市部の地域における屋外公共空間の計画に展開する応用の可能性を示した。

要旨 註、引用・参考文献

- 1) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、30-35 頁。
- 2) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、18-20 頁。
- 3) 環境省「平成 27 年度版 環境・循環型社会・生物多様性白書（PDF 版）」、
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h27/pdf.html>（閲覧 2025 年 1 月 31 日）
- 4) 篠原修、他（著・編）前掲書（註 1）、167 頁。
- 5) 「使用場所」とは、「たんねのあかり」にて、イベント実施時に作品を配置して空間演出が行われ、実際に使用された場所を指す。
- 6) 「選定場所」とは、「たんねのあかり」を開催するにあたり、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象の候補となった場所（候補場所）の中から、設定された条件を満たして選定された場所を指し、視対象にもなる場所である。
- 7) 「候補場所」とは、「たんねのあかり」において空間演出の対象の候補となった場所を指す。
- 8) 「囲繞感」とは、例えば、壁面や屋根などといった空間を感じる要素によって囲まれているような感覚を指し、囲まれ感とも表現される。

参考文献：

- ・ 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、69 頁。
 - ・ 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、46-47 頁。
- 9) 「見え隠れ」とは、視点の移動にともない、対象が建造物や樹木などの視線を遮る要素によって、見えたり見えなくなったりする景観の特徴を指す。また、空間演出の方法としても用いられる。

参考文献：

- ・ 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典 増補改訂版』井上書院、2016 年、115 頁。
- 10) 「文化的景観」とは、文化財保護法第二条の文化財の定義によると、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」としている。

引用文献：

- ・ e-Gov ポータル (<https://www.e-gov.go.jp>) 「文化財保護法」、
<https://laws.e-gov.go.jp/law/325AC0100000214>（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
- 11) 「地形の目利き」とは、ある対象物の良否や性質を鑑定するように、建築、都市計画、環境デザイン分野において、対象となる土地の地形から、その土地の特徴や性質を調査

して把握することを指す。また、「地質の目利き」や「地形、土地を読む」とも表現される場合もある。『景観用語事典 増補改訂第二版』（前掲書、註 1、168 頁）では、「水田耕作を中心としたわが国の農村では、微地形をも含めた山や川の自然地形を目利きし、使い込み、さらにそれらを強調し、補完するために樹木・樹林を使うということを行ってきたのである。」といった記述例がある。

目次

要旨

第1章 序論	1
1.1 研究の背景	2
1.1.1 屋外公共空間の景観と課題	2
1.1.2 屋外公共空間の現状と状態把握の方法	3
1.1.3 環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性	4
1.1.4 里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」	6
1.1.5 里地里山の景観と視点場	8
1.2 既往研究からみる本研究の位置づけ	9
1.3 研究の目的	12
1.4 本研究の構成と方法	14
第2章 研究対象地 新潟県柏崎市谷根地区	21
2.1 本章の目的	22
2.2 新潟県柏崎市谷根地区の概要	23
2.3 地形と成り立ち	26
2.4 歴史と地域文化	29
2.5 河川と橋梁	31
2.6 谷根地区中心部の里地里山の景観	33
2.7 里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」	35
2.8 まとめ	37
第3章 分析-1「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較	41
3.1 本章の目的	42
3.2 アートイベント「たんねのあかり」概要	43
3.3 分析方法	55
3.4 開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握	56
3.4.1 谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置	56
3.4.2 開催年ごとの使用場所の種類と位置	58
3.4.3 「たんねのあかり」における使用場所の総数と位置	67
3.4.4 「たんねのあかり」における使用場所の特徴	69
3.5 開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析	76
3.5.1 開催年ごとの見学ルートの特徴と分類	76
3.5.2 使用場所の位置と見学ルートの回遊性	81

3.6 分析結果：開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較	84
第4章 分析-2「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型	89
4.1 本章の目的	90
4.2 分析方法	92
4.3 「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定	93
4.3.1 空間演出の対象となる候補場所	93
4.3.2 空間演出の対象となる選定場所	97
4.4 「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定	103
4.4.1 「視対象」と「視点場」の関係による選定場所の特徴の分析項目の設定	103
4.4.2 分析項目の設定	106
（1）「空間の特徴」の分析項目の設定	106
（2）「景観の特徴」の分析項目の設定	107
4.4.3 分析項目の定義	108
（1）「空間の特徴」の分析項目の定義	109
（2）「景観の特徴」の分析項目の定義	112
4.5 「選定場所」の類型と分析	115
4.6 「視点場」の類型と地域の固有性の分析	123
4.7 分析結果：「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型	132
第5章 谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割	137
5.1 本章の目的	138
5.2 里地里山の景観と回遊性	140
5.2.1 点在する文化的要素と視点位置	141
5.2.2 経路形状と回遊性	142
（1）地域の中心となる河川空間と経路形状	142
（2）経路形状の回遊性と視線の向き	143
（3）経路形状と回遊性を高める要因	145
5.2.3 移動空間と滞留空間	147
（1）見学ルートと移動空間と滞留空間の関係	147
（2）地域の拠点と滞留空間	149
（3）谷根地区中心部の移動空間と経路の意味	150
5.3 里地里山の景観と固有性	152
5.3.1 地域固有の景観と生活景	152
5.3.2 地形の目利きと地域文化	154
5.3.3 視点場の設定と地域の固有性	158
5.4 視点場と地域の回遊性と固有性	164
5.4.1 里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場	165

5.4.2 小盆地の回遊性と固有性	169
5.4.3 視点場と地域の回遊性と固有性	173
5.5 まとめ：谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割	176
第6章 結論 里地里山の景観における視点場の環境デザイン	181
6.1 本章の目的	182
6.2 「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における 視点場	183
6.3 里地里山の景観における視点場の環境デザイン	195
第7章 里地里山の景観における視点場の環境デザインの屋外公共空間での検証 ...	209
第8章 今後の課題と展望	219
 註、引用・参考文献	222
写真提供	236
謝辞	238

- 1.1 研究の背景
 - 1.1.1 屋外公共空間の景観と課題
 - 1.1.2 屋外公共空間の現状と状態把握の方法
 - 1.1.3 環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性
 - 1.1.4 里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」
 - 1.1.5 里地里山の景観と視点場
- 1.2 既往研究からみる本研究の位置づけ
- 1.3 研究の目的
- 1.4 本研究の構成と方法

第1章 序論

1.1 研究の背景

1.1.1 屋外公共空間の景観と課題

街路、広場、公園などの屋外公共空間は、おもに建物や工作物といった人工要素と、植物や自然光といった自然要素によって構成される公共的な屋外のオープンスペースである。屋外公共空間では、移動、交流、休憩などの人びとのさまざまな屋外活動が、その場所を構成する要素群による環境の中で展開している¹⁾。これらの人びとの活動を内包する屋外公共空間の環境の眺めは、景観形成において、場所や地域の固有性を高める景観の一つとなることが求められている。中村良夫は、「景観とは人間をとりまく環境のながめにほかならない²⁾」と定義しており、人間を中心に景観が形成されることを示している。国土交通省『景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」』第Ⅱ編 第2章 事業の流れと景観形成では、「地域個性の演出の考え方」に関し、良好な都市景観は、地域固有の特性と密接に関連するものとし、都市整備事業において、地域の個性を活かした景観形成に取り組むことが望ましいと解説されている³⁾。また、地域個性を演出する場合、個別の要素単独の個性の表現ではなく、その場の全体像を対象とした個性の演出を検討することが望ましいと述べられている。

一方、場所や地域の個性が表れる景観は、季節、天候、時間などの自然現象による変動要因によって変化する特徴をもつ⁴⁾。自然現象による変動要因は、屋外公共空間を構成する自然要素の植物にも影響することで、植物の生長と形態だけではなく、屋外公共空間での人びとの活動にも変化をもたらす。自然要素の樹木を一例として挙げると、春には開花、夏には生い茂った葉がつくる木陰によって、人びとの活動の内容や位置に変動要因による影響としての変化が生まれる。屋外公共空間には、変化をとまなう自然要素の形態と人びとの活動によって形づくられる、人と自然の関係による景観が存在すると考えられる。

多様な人びとの活動が展開する屋外公共空間では、人はそれぞれの活動の位置から、安全面の確認や個々の興味によって、人工要素、自然要素、そして自分以外の人びとの活動などを、周囲の環境との複合的な対象物として眺めている。これらの視覚的に捉えられる対象物は、例えば、街路を散歩しながら眺められる建物の外観や並木であったり、公園のベンチに座って眺められる子どもたちの遊ぶ様子だったり、眺める人と場所との関係によって成り立つ、単体だけではなく複合的な対象物である。屋外公共空間にて対象物と対象物を取り巻く環境を眺めることは、屋外公共空間での人びとのさまざまな屋外活動の一つといえる。

以上から、屋外公共空間には、人工要素や自然要素などの空間の構成要素と、人びとの屋外活動によって創出される景観がある。このような屋外公共空間が多くみられる都市部では、都市景観を良好に形成するために、場所や地域の個性を演出する取り組みが必要である。次に、屋外公共空間では、人びとの屋外活動と自然現象の変動要因によって変化をとまなう人と自然の関係と、対象物を眺める人と場所との関係がある。これらの人、自然、場所の関

係と空間を構成する要素によって、屋外公共空間の景観は形成される。人と自然、人と場所の関係から形成される景観において、場所や地域固有の特性をどのように環境デザインに反映できるのかを検証していくことが、屋外公共空間の計画においての課題であると考えられる。

1.1.2 屋外公共空間の現状と状態把握の方法

近年、日本の都市部を中心に、横浜市関内エリアの日本大通りのように、屋外公共空間を地域資源の一つと捉え、より積極的に活用して地域の価値向上へとつなげてゆく、街路や都市公園などの公共空間活用の動向が活発になっている。「地域資源」とは、地域内に存在する資源であり、地域の自然、歴史、伝統、文化などの有形、無形のあらゆる要素を指す⁵⁾。

令和2年(2020年)9月に施行された国土交通省「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律(令和2年法律第43号)⁶⁾」では、近年の頻発・激甚化する自然災害や、生産年齢人口の減少、社会経済の多様化に対応するために、安全で魅力的なまちづくりの推進が必要として、「安全なまちづくり」と「魅力的なまちづくり」の推進が柱とされた。柱の一つ「魅力的なまちづくり」では、「まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することのできる空間を形成」していくことを掲げ、『「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出⁷⁾』のための官民一体での取り組みが推進されている。

おもに街路と広場を対象とした取り組みの一例では、都市再生整備計画の中で市町村が滞在快適性向上区域(通称:「まちなかウォーカブル区域」)を指定し、公共による街路の広場化と民間によるオープンスペースの提供と利活用を進め、「ウォーカブルなまちなかの形成」を行うものが挙げられる。都市公園においては、経済成長、人口増加などを背景とし、昭和31年(1956年)に都市公園法が施行され、緑とオープンスペースの量の整備が進められた。平成28年(2016年)にとりまとめられた国土交通省「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終報告書⁸⁾」では、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備などを背景として、新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的な考え方が示された。この検討会にて示された今後の都市の方向性をもとに、都市公園の量の整備の段階から、質を高める段階に向けて、平成29年(2017年)に都市公園法が改正された。この都市公園法改正の項目の一つに公募型設置管理制度(Park-PFI)の創設がある。公募型設置管理制度は、公民連携によって都市公園の再生・活性化を推進し、より柔軟に公共空間を使いこなすことを目標としている。

以上の社会動向から、今度さらに都市における地域資源としての既存ストックを活かしながら、量より質を重視した使われる屋外公共空間が求められている。

居心地が良く、より使われる屋外公共空間の実現を目指し、整備を推進して質の向上を図った公共空間を活用する取り組みの成果を、私たちはどのように知ることができるのか。前述のような、おもに屋外の公共空間における取り組みは、人の移動と滞留行動の観測調査、またはアンケートやヒアリングによる実態調査などにより、その成果を把握すること

が可能である。例えば、国土交通省では、居心地のよい空間形成のための取り組みを支援する分析ツールとして、「まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver. 1.1）⁹⁾」を、「活用の手引き」とともに提供している。調査票や分析用入力フォームを併せて提供することで、分析ツールの簡便性を高めている。この指標は、「都市空間の質を可視化する指標」として作成され、調査者が対象地にて利用者の活動を観察し、調査票を活用しながら、対象地の居心地の良さや場の使いやすさなどの状態を把握することを目的としている。以上の指標の提示は、人と場所との関係を観察することが、質的向上を目指した使われる屋外公共空間の状態を把握するためには重要であることを示している。ヤン・ゲールは、パブリックスペースとパブリックライフの調査手法について、著書の中で提示した調査手法の技術を用いることは、「都市空間の利用実態について、より深く理解することができ、ひいては空間をよりよく機能的に変えられるでしょう。このとき分析手法のカギとなるもの、それが「観察」です¹⁰⁾」と述べている。

屋外公共空間の人と場所の関係を観察によって把握する場合、観察者がどこで観察を行うのか、観察者の立ち位置の設定が、対象場所の状態の把握の度合いに影響をおよぼすと推察する。このとき、対象場所の環境の眺めを見て、観察する人の立ち位置が視点であり、視点に立つ人の周囲の空間や状況が「視点場」である^{11)、12)}。

以上から、質的向上を目指した使われる屋外公共空間を計画する上で、計画対象地における観察による調査と分析が、対象場所の状態把握の方法として重要であると考えられる。そして、調査観察を行う人の立ち位置である視点場の設定は、対象場所の状態把握に影響すると考えられる。

1.1.3 環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性

計画対象場所の環境をデザインするにあたり、対象場所およびその周辺環境の地理的条件、物理的条件などに関する現地調査を実施し、場所の状態と特性を把握することは、建築や都市計画を進める初期段階における基礎的作業である。環境デザインの範囲は、地域、社会基盤、都市、建築、ランドスケープ、インテリアなどが含まれ、広範囲におよぶ¹³⁾。本研究では、その範囲を地域、都市、ランドスケープとし、とくに屋外公共空間の環境デザインに焦点を絞る。また、対象となる屋外公共空間は、都市部に位置するものに限定せず、郊外や田舎の屋外にある公共空間として研究の対象とする。屋外公共空間の環境デザインを行う場合の現地調査において、フィールドワークによる調査（以後、「フィールドワーク調査」という）は、対象場所の特性や利用実態を把握するために必要な工程である。屋外公共空間は、対象地とその周辺の地域住民と来訪者など、多様な利用者が屋外活動を行う場所である。そのため、さまざまな利用者を想定した環境デザインの計画の実現に向けて、フィールドワーク調査が有効な手段の一つとなる。本論文において、「来訪者」とは、地域外からある地域を訪れる人を指し、地域活性化やまちづくり活動においては、部外者やよそ者と表現される場合もある。また、前述の「フィールドワーク」とは、計画対象場所での人と空間の関係

および景観の観察と聞き取りによる、地域の特徴を知るための調査方法を指す¹⁴⁾。

屋外公共空間を事例とした環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探る目的で、筆者と女子美術大学の教員、卒業生、学生らと共に学外活動を企画し、2009 年より実践的な研究活動を開始した¹⁵⁾。さまざまな人びとの屋外活動の場である屋外公共空間を研究対象にすることから、この学外活動の企画に際して、学外の多分野、多世代の方々との協働による活動での計画と実施を目標とした。そこで、①女子美術大学以外の場所であり、大学構内および周辺とは異なる環境であること、②女子美術大学の外部の人びととの協働による活動であること、の2点を企画の条件として定めた。

以上の学外活動を進める中で、女子美術大学関係者である新潟県柏崎市在住の知人を通じて、柏崎市谷根（たんね）地区と柏崎市立上米山小学校（2009 年度閉校／以後、2009 年度は上米山小学校とし、閉校以降は、旧上米山小学校という）の人びとと交流する機会が設けられた。谷根地区の地域住民と、来訪者である女子美術大学の教員と学生らとの活動における共通理解を深めるため、協働による活動の企画立案を目的とした、谷根地区の地域住民の案内によるフィールドワーク調査を実施した。フィールドワーク調査と話し合いを重ね、アートとデザインによって地域を知って学ぶことを目的としたワークショップと、ワークショップの成果の公表を兼ねたアートイベントを、地域と大学との協働で企画し、谷根地区にて実施した。この企画が、2009 年夏に上米山小学校と谷根地区中心部にて、上米山小学校の閉校記念イベントの一つとして開催された“「あかり」と「そこにあるもの」をテーマにしたアートイベント「たんねのあかり」”である。その後、2018 年まで、谷根地区の地域住民と女子美術大学との協働によるアートイベント開催を軸とした、「たんねのあかり」プロジェクトの活動を継続して行った。アートイベント「たんねのあかり」では、おもに旧上米山小学校の校庭を拠点とし、谷根地区中心部の地域を巡りながら、アート作品や空間演出を鑑賞する見学ルートが設定された。このアートイベントは、谷根地区中心部の屋外公共空間を用いた見学ルートに沿って鑑賞場所を巡ることで、地域の個性や魅力を知って学ぶ機会を、イベント時の来訪者に提供することを試みた。

以上の経緯から、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探るために開始した学外活動が、本研究で扱う実践事例となる 2009 年から 2018 年まで継続したアートイベント「たんねのあかり」の活動へと展開した。おおよそ 10 年にわたる「たんねのあかり」プロジェクトの活動では、地域住民と来訪者による協働でのフィールドワーク調査やイベント実施に向けて、数多くの意見交換の場やワークショップの機会を重ね、計画が進められた。このような生活環境や立場が異なる者同士の協働の取り組みにおける共通理解の深化が必要であることは、屋外公共空間の状況の把握や利用方法、また、景観の捉え方に地域住民と来訪者といった見る人の立場によって、読み取る意味が異なることを示唆している。「たんねのあかり」の活動におけるフィールドワーク調査は、地域住民と来訪者の相互間の共通理解を促し、多角的な視点を融合させて計画対象場所の特性を把握する上で重要であった。柳澤雅之は、フィールドワークは方法論であるとし、「社会や人びとの暮らし

を研究することは、フィールドとする社会や人びとと関わることである。フィールドワークは関わりの方法論である¹⁶⁾」と記述している。このことから、フィールドワーク調査は、地域住民と来訪者との協働による活動のように、地域内外の人びとの関わりや、地域の人びとの暮らしとの関わりをもちながら、地域を知るために重要な調査であるといえる。

1.1.4 里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」

アートイベント「たんねのあかり」（以後、「たんねのあかり」という）は、谷根地区の里地里山を舞台とした屋外イベントである。「里地里山」とは、原生的な自然と都市との間に位置し、集落とそれを取り巻く農地、ため池、二次林と人工林、草原などで構成される、人為的な関与によって形成されてきた地域である¹⁷⁾。イベントを企画するにあたり、来訪者である女子美術大学側の教員と学生らは、谷根地区の地域住民と協働にて、フィールドワーク調査を重ねていった。この調査では、地域住民の案内で、旧上米山小学校の校庭を拠点として、地域中心部を南北に流れる谷根川沿いを周回する道路を歩き、地域の文化資源や歴史、地形、景観についての観察と聞き取り調査を行った。地域を歩くことで地形を体感し、景観を眺めることで地域の文化や歴史、人びとの生活の一端を知るといった空間体験は、地域を知るためのフィールドワーク調査において重要な方法であると考えられる。例えば、はじめて訪れた旅先では、駅前広場や市庁舎前広場などを拠点とし、広場から続く街路を散策し、ときに路地を通過して、公園で休憩をとり、ふたたび街路を歩いて広場に戻るといった一連の行動は、その場所を知る方法の一例である。これらの空間体験は、おもに屋外公共空間にて得られる体験である。

「たんねのあかり」では、フィールドワーク調査で歩いた、旧上米山小学校の校庭を起点と終点とした回遊性のある動線を活かし、谷根川沿いを周回する道路、および道路に面する棚田や空地が、作品展示と空間演出の計画対象場所とされた。空間における「回遊性」とは、出発地点から、点在する場所を巡ってふたたび出発地点へと戻ることが可能となつたりをもつ空間の性質を指す¹⁸⁾、¹⁹⁾。なお、本論文における「回遊性」は、起点と終点が同位置にあるものとし、例えば、まちづくりの分野などで用いる、起点と終点の位置が異なり、地域を自由に散策して歩き回るものは、その対象としないこととする。アートイベントの全体構想では、これらの谷根地区中心部の屋外公共空間を用いて、イベント時の来訪者が地域を歩き、地域の特徴ある場所を巡り作品や演出空間を鑑賞しながら、地域を知って学ぶ屋外アートミュージアムが想定された。このような、対象地域を歩いて作品展示や空間演出を見て回るアートイベントの事例では、国内各地で開催されている地域芸術祭がある。地域芸術祭の代表的な事例として、新潟県十日町を中心として開催される「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（2000年開始）²⁰⁾」、神奈川県横浜市のみなとみらい地区と都心臨海部にて開催される「横浜トリエンナーレ（2001年開始）²¹⁾」、瀬戸内海の島々を舞台にした「瀬戸内国際芸術祭（2010年開始）²²⁾」などが挙げられる。これらの地域芸術祭では、対象地域を歩き、点在する作品群を巡りながら、同時に地域固有の景観を眺めて地域を知る

体験を来訪者に提供している。また、キャンドルや人工照明などによるあかりを用いて、特定地域内の空間演出を施す地域イベントの代表的な事例では、全国各地で夏至と冬至の夜に開催される「100万人のキャンドルナイト（2003年開始）²³⁾」、石川県金沢市中心市街地で開催される「金澤月見光路（2004年開始）²⁴⁾」、熊本県熊本市の熊本城周辺にて開催される「熊本暮らし人まつり みずあかり（2004年開始）²⁵⁾」などが挙げられる。一方、里地里山を知るための活動では、地域内外の人びとの交流を行いながら、里山の手入れ、田んぼや畑での共同作業、自然観察、里地里山にある自然素材を活かしたものづくり体験などによる取り組みが、岐阜県美濃加茂市と加茂郡を拠点とした市民のための学びの場「さとやまシユレー²⁶⁾」が一例に挙げられるように、地方自治体やNPOなどの主催により国内各地で行われている。

さまざまな取り組みのなかで、里山を知るために地域を散策しながらの自然観察活動や、地域住民や専門家から自然や文化に関する解説を受けながら地域を歩き巡る活動などが、国内でも数多く行われている。飯能市が取り組むエコツーリズム活動²⁷⁾や、東京都公園協会による多摩丘陵の里地里山体験とウォーキング²⁸⁾などが事例として挙げられる。これらの活動は、里地里山の地域を歩いて巡り、地域固有の動植物を観察したり、里山と農村の景観をあらゆる場所から眺めたりすることで、里地里山の地形と生活や文化を立体的かつ空間的に把握する、里地里山を知るための効果的な方法である。すなわち、里地里山の地形、生活や文化などから成る環境とその景観を知るためには、活動において対象地域を歩いて巡る回遊性をともなう身体的かつ視覚的な体験が重要であることを示している。

「たんねのあかり」では、おもに旧上米山小学校を起点とし、谷根川を中心に地域を巡り、ふたたび旧上米山小学校に戻る回遊性のある見学ルートが、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働で設定された。この見学ルートの経路設定では、起点と終点を同地点として、谷根川を中心に地域を回遊することで、来訪者が谷根川を目印に自身の位置を確認し、道に迷わずに見学できることが目指された。地域の中心に位置する谷根川のような目印の存在は、ある環境において自身の立ち位置をわかりやすく把握するために重要な要素である。レイチェル・カプランらは、環境の「好みに関するマトリックス」の四つの情報因子の一つに「わかりやすさ」を挙げている。「わかりやすさ」は、風景の中で自分の位置を把握するために役立つものとし、「わかりやすい場所では、目的地にたどり着くだけでなく、帰り道も無事見つかるだろうという予測ができる。目印（ランドマーク）となるものや場所が一つあれば、経路探索はとても簡単になる。²⁹⁾」と述べている。

以上から、「たんねのあかり」の計画のように、来訪者が里地里山の地域を知って把握するためには、どのような体験、具体的には、地域を歩いて巡る身体的な体験と、地域固有の景観を眺める視覚的な体験が重要であるのかを探る必要があると考えられる。

そして、「たんねのあかり」の実践から得られた情報を分析することで、地域を知って把握するための身体的、視覚的な体験の形成過程を示すことであれば、「たんねのあかり」の

実践は、来訪者が屋外公共空間を把握するための有効な方法の提示に展開することができるのではないだろうか。

1.1.5 里地里山の景観と視点場

これまで、述べてきた内容は以下のとおりである。質的向上を目指した使われる屋外公共空間を計画する上で、第一に、人と自然、人と場所の関係から形成される景観において、場所や地域固有の特性をどのように環境デザインに反映できるのかを検証していくことが課題であり（1.1.1）、第二に、対象空間の状態把握のための観察、ならびに観察を行う人の立ち位置である視点場の設定が重要であると述べた（1.1.2）。次に、屋外公共空間は、対象地とその周辺の地域住民と来訪者など、多様な利用者が屋外活動を行う場所である。多様な利用者を想定した屋外公共空間の環境デザインの計画を行う上で、景観の観察と聞き取り調査から成るフィールドワーク調査が有効な手段の一つであることを示した。そして、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探るために開始した学外活動が、アートイベント「たんねのあかり」の活動へと展開した経緯を説明した（1.1.3）。柏崎市谷根地区の里地里山を舞台とした「たんねのあかり」の実践を通じ、里地里山の地域の特徴を立体的かつ空間的に把握するためには、地域を歩いて巡る回遊性をともなう身体的な体験と、地域固有の景観を眺める視覚的な体験が重要であることを述べた（1.1.4）。

屋外公共空間の計画において、人と自然、人と場所の関係から形成される景観と、場所や地域固有の特性をどのように環境デザインに反映できるのかを検証するという課題（1.1.1）と、日本の都市部を中心とした、屋外公共空間を地域資源の一つと捉え、より積極的に活用して地域の価値向上へとつなげていく公共空間活用の動向が活発になっているという屋外公共空間の環境デザインの現状（1.1.2）を起点とし、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探るために「たんねのあかり」の活動が展開した。この活動の実践を踏まえ、地域を知って把握するためには、地域を歩き巡る回遊性をともなうどのような身体的な体験と、地域固有の景観を眺めるどのような視覚的な体験が重要であるのか探る必要がある。また、場所と地域の個性を演出するためには、その対象地固有の景観が関わる。よって、谷根地区を事例として、里地里山の景観とその景観を眺めたり、観察したりするための視点場の環境デザインを分析し、地域固有の景観と視点場の環境デザインをどのように屋外公共空間の計画にいかせるのかを検証することが重要である。

本節では、研究の背景について述べてきた。1.1.1（屋外公共空間の景観と課題）と1.1.2（屋外公共空間の現状と状態把握の方法）では、屋外公共空間に関し、1.1.3（環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性）では、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査と観察することの重要性に関し、1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）では、里地里山の地域を知るための体験や景観に関して述べてきた。次節では、「里地里山の景観に関する研究」、「屋外公共空間に関する研究」、「環境デザインに関する研究」に焦点をおいて既往研究を概観し、本研究の位置づけを行う。

1.2 既往研究からみる本研究の位置づけ

里地里山の景観に関する研究は、おもに保全や再生および利用を目的として、田園、農村、森林景観の研究において多くみられ^{30)、31)、32)、33)}、「生物多様性国家戦略 2010³⁴⁾」の中で提示された、生物多様性と文化的景観による価値づけによって、里地里山・田園地域の景観として近年ふたたび注目される^{35)、36)}。また、同戦略資料の中では、里地里山・田園地域は、奥山自然地域と都市地域の間に位置する「自然の質や人為干渉が中間的な地域」とし、「人の手が入ることによりつくり出される身近な自然環境」であり、農山村の活性化や生物多様性保全とともに地域活性化、文化や伝統的知識の継承の重要性を示している³⁷⁾。このような動向の中で、日本の農山漁村の景観を観光資源と捉えた研究³⁸⁾や、環境教育とした研究³⁹⁾もみられる。一方、里地里山の農村景観を自然と人為のデザインとして捉え、その景観の維持や形成を目的とした研究^{40)、41)}や、伝統的農村集落の道空間に着目したアノニマスな形態についての研究⁴²⁾などがある。いずれも里地里山や農村の景観は自然と人為による関係が表われた地域固有の景観であり、使いながら保全することの重要性を示している。

前述のとおり、奥山自然地域と都市地域の間の自然と人為によって形成された里地里山では、盆地、谷、山の辺、平地などの自然地形と人間生活の調和による日本の景観の原型も見られる^{43)、44)}ように、人びとが住まう地域の特徴的な地形や地質を目利きした⁴⁵⁾生業や生活の表れが景観を眺めることで読み取れるといえる。ある地域において、自然の地形を目利きして日々の暮らしを営む中で形成される、人びとの生活や文化による生活景についての研究もみられる⁴⁶⁾。また、生活景は対象となる地域の生活者（地域住民）と来訪者によって景観の捉え方や意味が異なる一方で、共有される価値も存在するという特徴を示した研究⁴⁷⁾も行われている。

日本の農業の中心は水田耕作であり、その生活は水の流れを慎重に扱った微地形の目利きと利用に基づいていた。そして、「生産と生活の場である農村が、国土の典型的な空間の形となって」いき、「その特徴が都市空間にも強く影響を与えており、日本の都市のアイデンティティを考えるうえでも、農村の特徴を知っておくこと」の重要性が、『景観用語辞典増補改訂第二版』の農村景観の解説において示されている⁴⁸⁾。若月幸敏は『見えがくれする都市』の中で、微地形と場所性について、日本の代表的都市として東京を例に挙げ、「東京は都市というよりも、むしろ巨大な村落」と述べ、その微地形を下絵と表現し、近年モビリティの増大するにつれ見えにくくなっているものの、場所の固有性（場所性）を浮かび上がらせる微地形を見ることで、日本的な都市空間の成り立ちや特徴が読み取れることを、前述の樋口による地形空間の型⁴⁹⁾を参照しつつ記している⁵⁰⁾。これらの研究を概観することによって、地形の目利きを行いながら自然と人為の関係を築き、生活や生業を営んできた人びとの暮らしが、農村景観や里地里山の景観、生活景として表れ、また、人びとの暮らしが集中していった都市空間の成り立ちとのつながりがあることがわかる。

人びとの暮らしが都市部に集中していく中で、屋外公共空間の研究も増えていった。次に、

おもに都市部を中心とした屋外公共空間に関する研究を概観する。

屋外公共空間に関する研究は、都市計画や建築分野にてみられるものが多い。車社会や都市開発の動向に対して、人が中心の生活の場を取り戻すように、人と街路や公園、広場などの公共空間との関係に焦点をあてた研究が1960年代以降に増えていった。ジェイン・ジェイコブスは、ニューヨークを中心とした都市部の街路や公園での人びとの行動を観察し、街路は人に見られることと使われることで安全になるとして、継続的に人の目が注がれる重要性を述べている⁵¹⁾。バーナード・ルドフスキーは、街路は単なる歩行空間ではなく、人びとの交流、取引、祭事などが行われる応接間であり取引所のような、豊かな人間的な生活が営まれる空間であると述べている⁵²⁾。ヤン・ゲールは、各国の都市でのリサーチを通じ、街の主役は人とし、人を引きつける生き生きとした街には、安全面、持続可能性が必要であるとすると同時に、人びとの街のアクティビティが、街の魅力となることを示している。また、スカンジナビアでの「人は人のいるところにやってくる」という格言を引用し、「人びとは、他の人びとの存在や活動にごく自然に触発され、引きつけられる⁵³⁾」と述べ、公共空間において人の活動を見ることで、別の人の活動が誘発されることを示唆している。そして、公共空間での視覚的ふれあいの重要性にも言及し、街のアクティビティや人びとが眺められる場所に位置するベンチや腰掛けほど、よく利用されていると事例を挙げて説明している。街の公共空間において、よい眺めが不可欠であることを示し、空間を構成する要素を例示した上で、構成要素の「複数の魅力を組み合わせれば、よりよい眺めを提供することができる。街の質を高めるには、眺めと眺望対象を慎重に考慮することが必要である⁵⁴⁾」と述べ、公共空間では眺望と視線を注意深く扱う必要性を主張している。また、公共空間においての人の活動と場所の関係を把握するため、観察と聞き取りによるフィールドワーク調査をもとにした研究も数多くまとめられている⁵⁵⁾、⁵⁶⁾、⁵⁷⁾。これらの研究から、公共空間にて、人と人の活動と場所とのよりよい関係を構築する上で、まず観察による調査を実施することが必須であることがわかる。

なお、これまで提示した研究の対象は、文献では公共空間またはパブリックスペースと表記され、おもに街路や広場などの屋外にある公共空間である。一方、図書館、博物館、公民館、駅、学校などの屋内空間も公共空間である。本研究では、街路を含む道路や広場などの屋外にある公共空間を対象とするため、屋外公共空間と表記し、屋内公共空間と区別する。

次に、環境デザインに関する研究は、環境デザインの範囲が、地域、社会基盤、都市、建築、ランドスケープ、インテリアなどが含まれ広範囲におよぶ⁵⁸⁾ことから、多岐にわたる。デザイン領域の中に絞って対象を例示すれば、視覚、プロダクト、テキスタイル、インテリア、照明、エクステリア、建築、都市、土木、造園、景観、パブリック、メディアなどの分野での環境デザインに関する研究が挙げられる⁵⁹⁾。本研究では、対象範囲を地域、都市、ランドスケープとし、とくに屋外公共空間の環境デザインに焦点を絞る。本研究において、環境デザインとは、「人間と人間活動を取りまき、影響をおよぼすさまざまな自然的、人工的、社会的要素を対象とし、対象そのものおよび相互の関係を理解、分析、デザインすることで

ある。デザインでは、調査、分析、計画、設計の手順を踏む場合が多い。また、関係のデザインともいえる」と定義する^{60)、61)、62)}。ただし、空気環境や設備環境に関する環境デザインは本研究の対象外とする。

本研究の研究対象地は、里地里山の集落である新潟県柏崎市谷根地区中心部である。研究対象となる情報は、2009年から2018年にかけて同地区で開催されたアートイベント「たねのあかり」の活動に基づいている。この活動は、谷根地区の地域住民と、来訪者である女子美術大学の筆者を含む教員と学生らとの協働によるものであった。谷根地区中心部の里地里山の地形、地域固有の景観、文化的要素などから構成される地域の特徴を生かして、空間演出を行うイベント開催が活動の軸となっていた。このような地域芸術祭に分類される活動は、実践を通じた研究成果として、おもに報告書などにおいて示される場合が多い。

プロジェクトなどの実践を通じたものは、里地里山の景観まちづくりや観光まちづくりを事例とした研究においてみられるものの^{63)、64)}、里地里山を舞台とした地域芸術祭に分類されるもので、地域住民と来訪者による協働での実践活動を通じて得られた情報を環境デザイン分野での応用を目指した研究は多いとは言い難い。

1.3 研究の目的

本研究の目的は、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画するために、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究対象事例として、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、どのように屋外公共空間の環境デザインに応用することができるのかを検証することである。アートイベント「たんねのあかり」は、谷根地区中心部のおもに道路や広場などの屋外公共空間を用いて空間演出を行った屋外イベントである。

前節で示したとおり、屋外公共空間の環境デザインの課題と現状から、フィールドワーク調査の重要性を探るための学外活動が開始され、「たんねのあかり」が展開した。「たんねのあかり」の実践を通じ、地域を知って把握するためには、地域を歩き巡る回遊性をともなうどのような身体的な体験と、地域固有の景観を眺めるどのような視覚的な体験が重要であるのか探る必要がある。また、場所と地域の個性を演出するためには、その対象地固有の景観が関わる。よって、谷根地区を事例として、里地里山の景観を眺めるための視点場の環境デザインを分析し、視点場の環境デザインを、どのように屋外公共空間の計画にいかせるのかを検証することが重要である。これらのことから、地域住民と来訪者との協働による、「たんねのあかり」での実践から得られた情報を分析することで、地域を知って把握するための身体的、視覚的な体験による方法と、地域固有の景観に関わる視点場を抽出することができれば、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間の計画において、それらの方法や要素が応用できると考える。

以上から、「たんねのあかり」の実践から得られた情報を、地域固有の景観と回遊性との関係に着目して分析と考察を行う。また、場所と地域の特徴を把握し、これらの個性を演出するためには、その対象地固有の景観が関わることから、谷根地区を事例として、里地里山の景観とその景観を眺めたり、観察したりするための視点場の環境デザインを分析し、おもに都市部の屋外公共空間の計画に視点場の環境デザインがどのようにいかせるのかを検証する。

具体的に明らかにする項目は以下の3点である。

- (1) 「たんねのあかり」の実践を通じて得られた地域、景観、空間に関する情報を整理し、イベント時の演出対象場所と見学ルート分析(第3章)をもとに、地域の特徴の把握に関わる景観に着目した、身体的かつ視覚的な空間の体験と回遊性の関係を明らかにする(第5章)。

本論文において、「身体的かつ視覚的な空間の体験」とは、人が特定の場所にて滞在または移動をして、その場所にある自然要素や人工要素などの空間を構成する要素を見たり、地形の起伏や自然光や風といった自然現象などを五感で感じたりする実際の空間において得る体験を指す。

- (2) 谷根地区を事例として、里地里山の景観を構成する場所と視点場の類型化（第4章）
を通して、地域の固有性を表す場所と、それらの場所によって形成される地域固有の
景観を眺められる視点場との関係と特徴を明らかにする（第5章）。
- (3) 里地里山の景観と視点場、および点在する視点場をつなぐ地域の回遊性を活かした屋
外公共空間の環境デザインへの展開方法を明らかにする（第6章、第7章）。

1.4 本研究の構成と方法

本研究の構成と章ごとの研究方法は以下のとおりである（図1-1）。

第1章は、序論とし、研究の背景と目的を示し、既往研究における本研究の位置づけを明確にするとともに、研究の構成と方法について述べる。

第2章は、研究対象地の概要説明とし、新潟県柏崎市谷根地区の概要、地形と成り立ち、歴史と地域文化、河川と橋梁、谷根地区中心部の里地里山の景観の5つの項目を挙げ、文献調査と現地調査をもとに地域の特徴を把握する。次に、谷根地区中心部の里地里山において展開したアートイベント「たんねのあかり」の活動の全体概要をまとめる。

第3章は、アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じた本研究の分析-1とし、「たんねのあかり」の実践を通じて得られた情報の整理と分析を行う。研究方法は、まず、「たんねのあかり」にて作品を配置して空間演出が行われた対象場所の情報整理と分析を行い、対象場所の特徴を把握する。次に、イベント開催年ごとに設定された見学ルートを比較し、空間演出の対象場所と対象場所を見る視点位置、および見学ルートの回遊性について分析する。

第4章は、アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じた本研究の分析-2とし、「たんねのあかり」にて設定された選定場所と視点場の類型を抽出する。研究方法は、まず、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象とされた65か所の候補場所から46か所の選定場所が定められた過程を分析し、選定理由を考察する。次に、46か所の選定場所を空間の特徴と景観の特徴をもとにクラスター分析を用いて分類し、選定場所および選定場所を眺める視点場の類型を抽出する。抽出された視点場の類型から、谷根地区を事例とした里地里山の固有性を高める要因を探る。

第5章は、アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じた分析-1、2のまとめとし、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割について、場所や地域の回遊性と固有性に焦点をおいて考察する。

第6章は、結論とし、第一に、アートイベント「たんねのあかり」が展開した谷根地区中心部を事例とし、この研究対象地での調査や分析から得られた情報を整理し、「たんねのあかり」の実践を通じた研究の結論とする。第二に、「たんねのあかり」の実践を通じた研究の結論を踏まえ、第5章の考察をもとに、里地里山の景観における視点場の環境デザインを、屋外公共空間の環境デザインに応用できるように情報を整理する。

第7章は、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるのか、都市部の一つの地域を事例に挙げて検証する。

第8章は、今後の課題と展望として、質的向上を目指した使われる屋外公共空間に対する課題を提示するとともに、屋外公共空間における視点場と視点場をつなぐ経路に着目した環境デザインの活用の可能性について述べる。

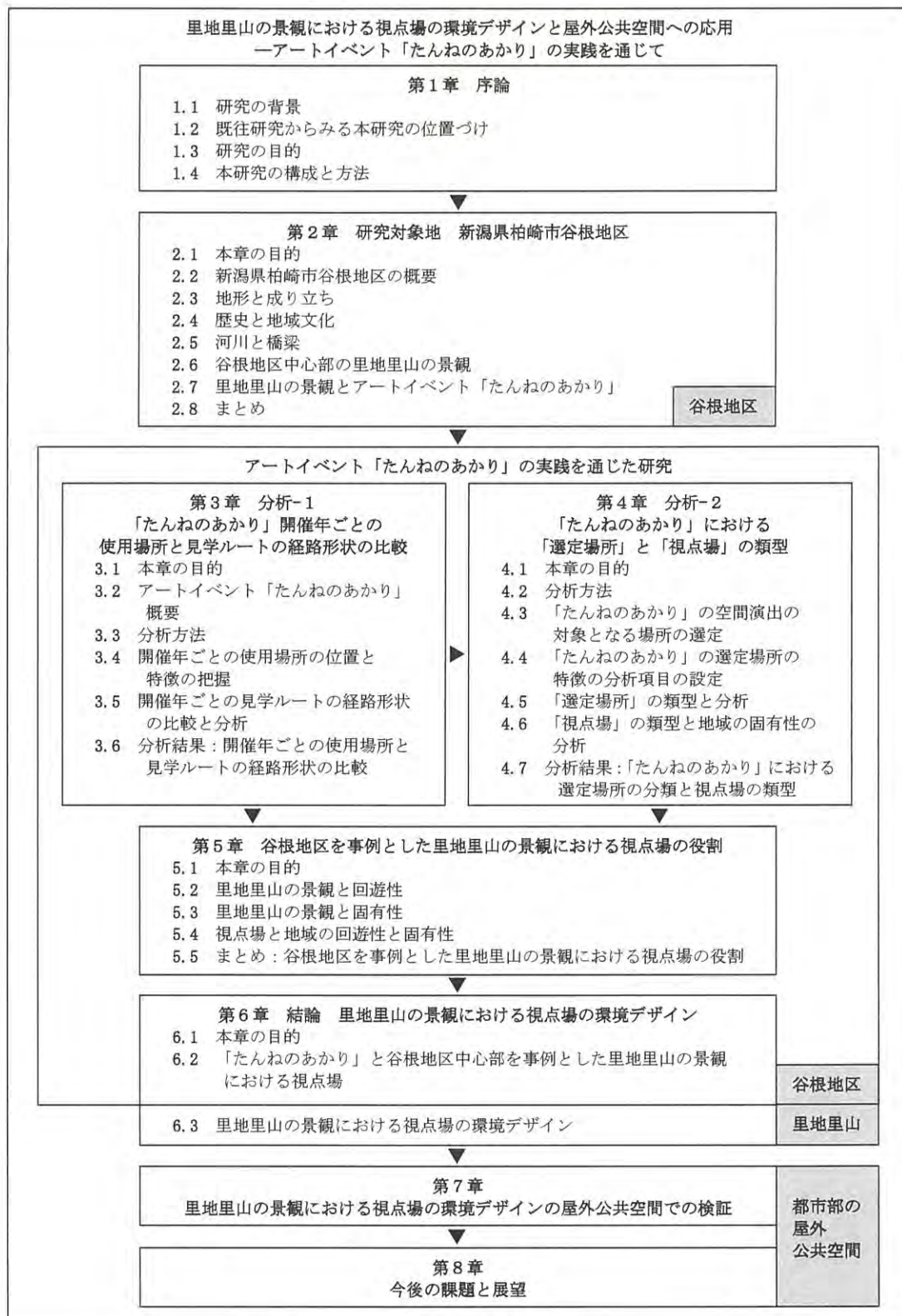


図1-1 本論文の構成

第1章 註、引用・参考文献

註および引用文献

1.1

- 1) ヤン・ゲール（著）、北原理雄（訳）『建物のあいだのアクティビティ』鹿島出版会、2011年、14-21頁。
※ヤン・ゲール（著）、北原理雄（訳）『屋外空間の生活とデザイン』鹿島出版会、1990年の新装版である。
- 2) 土木工学大全編集委員会（編）、中村良夫、他（著）『土木工学大系 13 景観論』彰国社、1977年、2頁。
- 3) 国土交通省「景観形成ガイドライン 都市整備に関する事業」（平成23年6月改訂）、本文 <https://www.mlit.go.jp/common/000234676.pdf>
解説編 第1編、第2編 <https://www.mlit.go.jp/common/000234678.pdf>（閲覧2024年8月3日）
- 4) 土木学会（編）『街路の景観設計』技報堂出版、1985年、2-3頁。
- 5) 環境省「平成27年度版 環境・循環型社会・生物多様性白書（PDF版）」、
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h27/pdf.html>（閲覧2025年1月31日）
- 6) 国土交通省 都市局都市計画課「安全で魅力的なまちづくりを進めるための都市再生特別措置法等の改正について」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000070.html（閲覧2024年5月20日）
- 7) 国土交通省 まちづくり推進課「居心地が良く歩きたくなる まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000072.html（閲覧2024年5月20日）
- 8) 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課「新たなステージに向けた 緑とオープンスペース政策の展開について（新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終報告書）」（平成28年5月）、
<https://www.mlit.go.jp/common/001152250.pdf>（閲覧2024年5月20日）
- 9) 国土交通省 都市局まちづくり推進課「まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver.1.1）」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000081.html（閲覧2024年7月20日）
- 10) ヤン・ゲール、ビアギッテ・スヴァア（著）、鈴木俊治、他（訳）『パブリックライフ学入門』鹿島出版会、2016年、12頁。
- 11) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021年、30-35頁。
- 12) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム

- 社、2015 年、18-20 頁。
- 13) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、55 頁。
 - 14) 高橋伸夫、他（編著）『現代地理学入門 身近な地域から世界まで』古今書院、2005 年、16-20 頁。
 - 15) ①市民自主企画事業「Asao Fish Flag Project」（2009 年）神奈川県川崎市麻生区 ※麻生市民館と協働、②アトラボはしもと「風-景-観 見逃した世界 ここにある世界」のプログラムとして開催した「こどものまち」ワークショップと展示（2012 年）神奈川県相模原市橋本、③「あかり」と「そこにあるもの」をテーマにしたアートイベント「たんねのあかり」（2009 年～2018 年）新潟県柏崎市谷根地区
 - 16) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、京都大学東南アジア研究所（編）『京大式フィールドワーク入門』NTT 出版、2006 年、5 頁。
 - 17) 環境省「里地里山保全活用行動計画 ～自然と共に生きるにぎわいの里づくり～」、
https://www.env.go.jp/nature/satoyama/keikaku/1-1_keikaku.pdf（閲覧 2024 年 8 月 6 日）
 - 18) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註 13）、40 頁。
 - 19) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016 年、104 頁、140 頁。
 - 20) NPO 法人越後妻有里山協働機構「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」
<https://www.echigo-tsumari.jp/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
※地域芸術祭の事例は多数あるが、本論文執筆の 2024 年時点で継続中のものを、代表的な事例とした（註 20、註 21、註 22）。
 - 21) 横浜トリエンナーレ組織委員会「横浜トリエンナーレ」
<https://www.yokohamatriennale.jp/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
 - 22) 瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭」
<https://setouchi-artfest.jp/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
 - 23) 大地を守る会「100 万人のキャンドルナイト」
<https://candle-night.tokyo/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
※キャンドルや人工照明などによるあかりを用いて、特定地域内の空間演出を施す地域イベントの代表的な事例は多数あるが、本論文執筆の 2024 年時点で継続中のものを、代表的な事例とした（註 23、註 24、註 25）。
 - 24) 金沢工業大学「金澤月見光路」
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/tsukimi/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
 - 25) 一般社団法人 熊本暮らし人まつり、みずあかり運営委員会「熊本暮らし人まつり みずあかり」
<http://mizuakari.net/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）

- 26) 美濃加茂市市民協働部まちづくり課「さとやまシュール」、
<https://satoyamaschule.com/>（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
 - 27) 環境省 自然観光局「エコツーリズムの推進、推進法認定団体 飯能市エコツーリズム推進協議会（埼玉県飯能市）」、
<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/hannou/index.html>（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
 - 28) 公益財団法人 東京都公園協会「平山城址公園 里地里山体験！身近なところに別世界が！～平山城址公園・宮嶽谷戸・堀之内寺沢里山公園ウォーキング～」、
https://www.tokyo-park.or.jp/park/hirayama-joshi/news/2024/park_info_8.html
（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
 - 29) Kaplan, R., Kaplan, S., and Ryan, R.L. (1988) *With people in mind*. Island Press.
羽生和紀（監訳）『自然をデザインする ―環境心理学からのアプローチ』誠信書房、2009 年、9-12 頁。
- 1.2
- 30) 武内和彦、他（編）『里山の環境学』東大出版会、2001 年
 - 31) 武内和彦、三瓶由紀（編）「特集②里山の保全と再生 里山保全に向けた土地利用規制」『都市問題』第 97 巻・第 11 号、後藤・安田記念東京都市研究所、2006 年、55-62 頁。
 - 32) 森林総合研究所関西支所「里山の過去、現在、未来」（2004 年 10 月）、
https://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/research/pubs/documents/satoyamal_200410.pdf
（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
 - 33) 深町加津枝「農山村における土地利用とランドスケープの変化」『ランドスケープ研究』64 巻・2 号、日本造園学会、2000 年、147-150 頁。
 - 34) 環境省「生物多様性国家戦略 2010」（平成 22 年 3 月 16 日）、
https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives4/files/01_mainbody.pdf
（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
 - 35) 亀山章（総編集）『造園大百科事典』朝倉書店、2022 年、77 頁、300-301 頁。
 - 36) 「文化的景観」とは、文化財保護法第二条（文化財の定義）において、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されている。
e-Gov ポータル (<https://www.e-gov.go.jp>)「文化財保護法」、
<https://laws.e-gov.go.jp/law/325AC0100000214>（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
 - 37) 環境省、前掲資料（註 34）、47 頁、135 頁。
https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives4/files/01_mainbody.pdf
（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
 - 38) 西田正憲「自然・景観・観光をめぐる動きと風景へのまなざし」『地域創造学研究 創刊号』第 19 巻・第 3 号、奈良県立大学、2009 年、7-35 頁。

- 39) 西城潔「歴史性と人の営みに着目した里地里山景観の理解とその教育への展開事例」
『宮城教育大学 環境教育研究紀要』第18巻、宮城教育大学、2016年、35-41頁。
- 40) 進士五十八、他（編）『ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法 農に学ぶ都市環境づくり』学芸出版社、1994年
- 41) 岩田俊二（著）『農村景観のパタン・ランゲージ 伊賀市での景観基準づくり研究』農林統計出版、2016年
- 42) 大山勲『伝統的農村集落における道空間の形態と形成要因に関する研究：甲府盆地の平坦地に立地する集居農村集落を対象として』学位論文、東京大学工学系研究科社会基盤工学専攻、2001年
- 43) 樋口忠彦（著）『日本の景観』筑摩書房、1993年、175-186頁。
- 44) 樋口忠彦（著）『景観の構造』、技報堂出版、1975年
- 45) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註11）、170-171頁。
- 46) 社団法人日本建築学会（編）『生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり』学芸出版社、2009年
- 47) 渡邊優、佐々木葉「来訪者による生活景の捉え方に関する研究」『景観・デザイン研究講演集』No.8、土木学会、2012年、104-109頁。
- 48) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註11）、166-167頁。
- 49) 樋口忠彦（著）、前掲書（註44）、84-149頁。
- 50) 槇文彦、他（著）『見えがくれする都市 SD選書162』鹿島出版会、1980年、91-137頁。
- 51) ジェーン・ジェイコブス（著）、黒川紀章（訳）『アメリカ大都市の死と生 SD選書118』鹿島出版会、1977年、39-67頁。
- 52) バーナード・ルドフスキー（著）、平良敬一、岡野一字（訳）『人間のための街路』鹿島出版会、1973年、101-119頁。
- 53) ヤン・ゲール（著）、北原理雄（訳）『人間の街 公共空間のデザイン』鹿島出版会、2014年、71-73頁、156-157頁。
- 54) 同前、156-157頁。
- 55) ケヴィン・リンチ（著）、丹下健三、富田玲子（訳）『都市のイメージ』岩波書店、1968年
- 56) ロベルト・ブランビラ、ジャンニ・ロンゴ（著）、月尾嘉男（訳）『歩行者空間の計画と運営』鹿島出版会、1979年
- 57) クレア・クーパー・マーカス、キャロライン・フランシス（編）、湯川利和、湯川聡子（訳）『人間のための屋外環境デザイン ―オープンスペース設計のためのデザイン・ガイドライン』鹿島出版会、1993年
- 58) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註13）、55頁、213頁。
- 59) 日本デザイン学会 環境デザイン部会（編）『つなぐ 環境デザインがわかる』朝倉書店、2012年

※『つなぐ 環境デザインがわかる』には、環境デザイン部会所属の会員によるさまざまな分野からの研究がまとめられている。

- 60) 土肥博至 (監修)、環境デザイン研究会 (編著)、前掲書 (註 13)、51 頁、55-56 頁、213 頁。
- 61) 日本デザイン学会 環境デザイン部会 (編)、前掲書 (註 59)、4-6 頁。
- 62) 篠原修、他 (著・編)、前掲書 (註 11)、10-11 頁、92-93 頁。
- 63) 小島周作、他「吉沢八景選定プロジェクトからみる都市近郊の里地里山地域における子ども達の景観認識」『ランドスケープ研究』80 巻・5 号、日本造園学会、2017 年、575-578 頁。
- 64) 東南裕美、安斎勇樹「観光まちづくりにおけるデザイン・ワークショップの提案 —神奈川県三浦半島における観光まちづくりを事例として」『デザイン学研究』第 68 巻・第 3 号、日本デザイン学会、2021 年、43-52 頁。

参考文献

平塚勇司『都市公園のトリセツ 使いこなすための法律の読み方』学芸出版社、2020 年
泉山塁威、他 (編著)『パブリックスペース活用辞典 図解 公共空間を使いこなすための制度とルール』学芸出版社、2023 年

第2章 研究対象地 新潟県柏崎市谷根地区

- 2.1 本章の目的
- 2.2 新潟県柏崎市谷根地区の概要
- 2.3 地形と成り立ち
- 2.4 歴史と地域文化
- 2.5 河川と橋梁
- 2.6 谷根地区中心部の里地里山の景観
- 2.7 里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」
- 2.8 まとめ

第2章 研究対象地 新潟県柏崎市谷根地区

2.1 本章の目的

本章の目的は、まず、本研究の研究対象地である新潟県柏崎市谷根地区のおもに中心部（以後、「谷根地区中心部」という）の特徴を、地形や歴史、地域文化から把握することである。次に、谷根地区中心部の里地里山の景観の中で、アートイベント「たんねのあかり」（以後、「たんねのあかり」とし、アートイベントを強調する場合は、アートイベント「たんねのあかり」という）がどのように展開したのか、また、「たんねのあかり」がアートイベントとして目指したものと景観との関係について、谷根地区での地域住民と来訪者との協働による活動を通じて得られた情報を整理することを目的とする。本章の構成を図2-1に示す。

2.2 から 2.6 では、2009 年から 2018 年に開催された「たんねのあかり」を軸とするプロジェクトの活動期間中に実施した、観察、聞き取り、測量、実施テストなどによるフィールドワーク調査と、谷根地区に関する文献調査による情報を中心にまとめる¹⁾。なお、本論文の執筆にあたり、谷根地区における新規のフィールドワーク調査は行っていない。

2.7 では、谷根地区中心部の里地里山の景観を舞台に展開した「たんねのあかり」の活動について、活動を通じて得られた情報を整理し、アートイベントとして掲げられたテーマと景観との関係について考察する。

「たんねのあかり」のイベントの正式名称は、「あかり」と「そこにあるもの」をテーマにしたアートイベント「たんねのあかり」である。

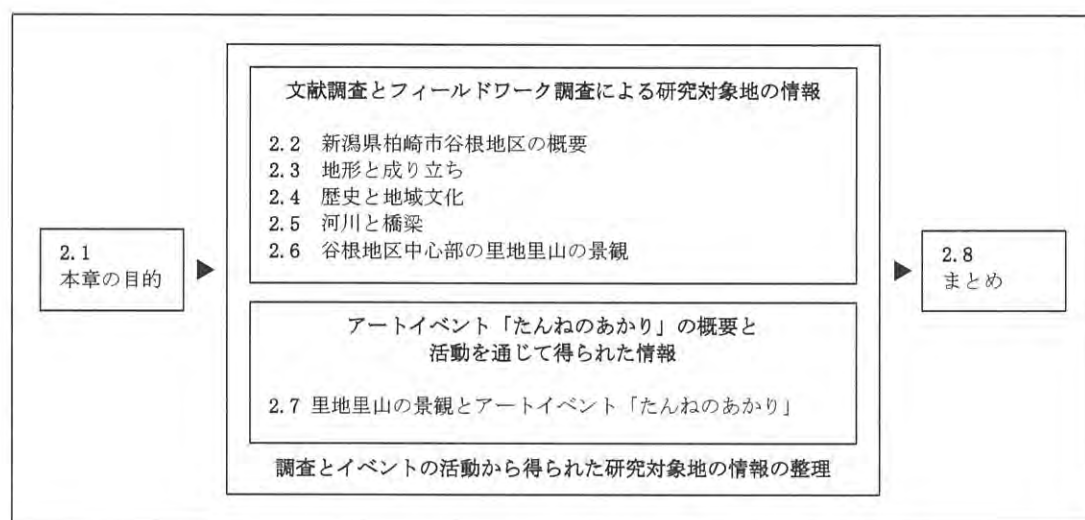


図2-1 「第2章 研究対象地 新潟県柏崎市谷根地区」の構成

2.2 新潟県柏崎市谷根地区の概要

新潟県柏崎市谷根地区の中心部は、柏崎市内から約 10km（車で約 20 分）の距離に位置している。米山（よねやま）の麓、柏崎市民約 7.7 万人²⁾の水源である谷根ダム（1973 年竣工）と赤岩ダム（1989 年竣工）から続く、谷根川が中央に流れる里地里山³⁾である。谷根地区中心部は、谷根川を挟んだ川東地域と川西地域に広がる約 0.6 km²（約 60 ヘクタール）の地域である。この地域内に、上米山コミュニティセンターや上米山郵便局といった公共・生活利便施設と住宅群、棚田や田畑などが集中し、谷根地区のおもな生活圏を形成している。谷根地区中心部の谷根川上流付近と、中流から下流付近の丘陵地から平坦部にかけて棚田が広がり、川東地域の高台には慈眼寺と日蓮宗正平寺、川西地域の高台には谷根神社が位置している。新潟県柏崎市谷根地区の位置図を図 2-2 に、谷根地区中心部の主要施設と地域拠点の位置図を図 2-3 に示す。

谷根地区の世帯数と人口は、柏崎市の「住民基本台帳からみる柏崎市の人口の推移（町名別）⁴⁾」によると、2024 年 3 月末時点では、90 世帯、人口 156 人であった。「たんねのあかり」の初回開催年であった 2009 年 8 月末時点では、79 世帯、人口 258 人であり、開催最終年の 2018 年では、98 世帯、人口 198 人であった。谷根地区は柏崎市の行政区では、上米山地区に属する⁵⁾。

谷根地区中心部には、名所として知られる場所が点在する。地区内には、道祖神や石仏が数多くあることから、周辺地域を散策する案内用小冊子「石仏の里 ―谷根・小杉・吉備―」が、柏崎市上米山公民館（現：上米山コミュニティセンター）によって発行された。とくに、歴史ある男女仲睦まじい姿の双体道祖神が、同地区内に集中して現存していることは類例が少ない事象とされ、観光だけではなく、研究を目的とした見学者も訪れる。

また、谷根地区中心部の田んぼ脇や高台に群生する谷根のハナモモは、柏崎市の花見の観光場所の一つとして市内外に紹介され、春の開花時期には多くの来訪者を迎える⁶⁾。谷根川上流付近には、米山（標高 993m）の谷根コース登山道入り口があり、登山の拠点になっている。山頂には米山薬師堂があり、豊作を祈願する参詣のための登山や、山岳信仰の米山講などが行われていた⁷⁾。谷根地区中心部は、農村景観や里地里山の景観を形成する要素が集まった、自然資源と地域資源が豊かな地域である。

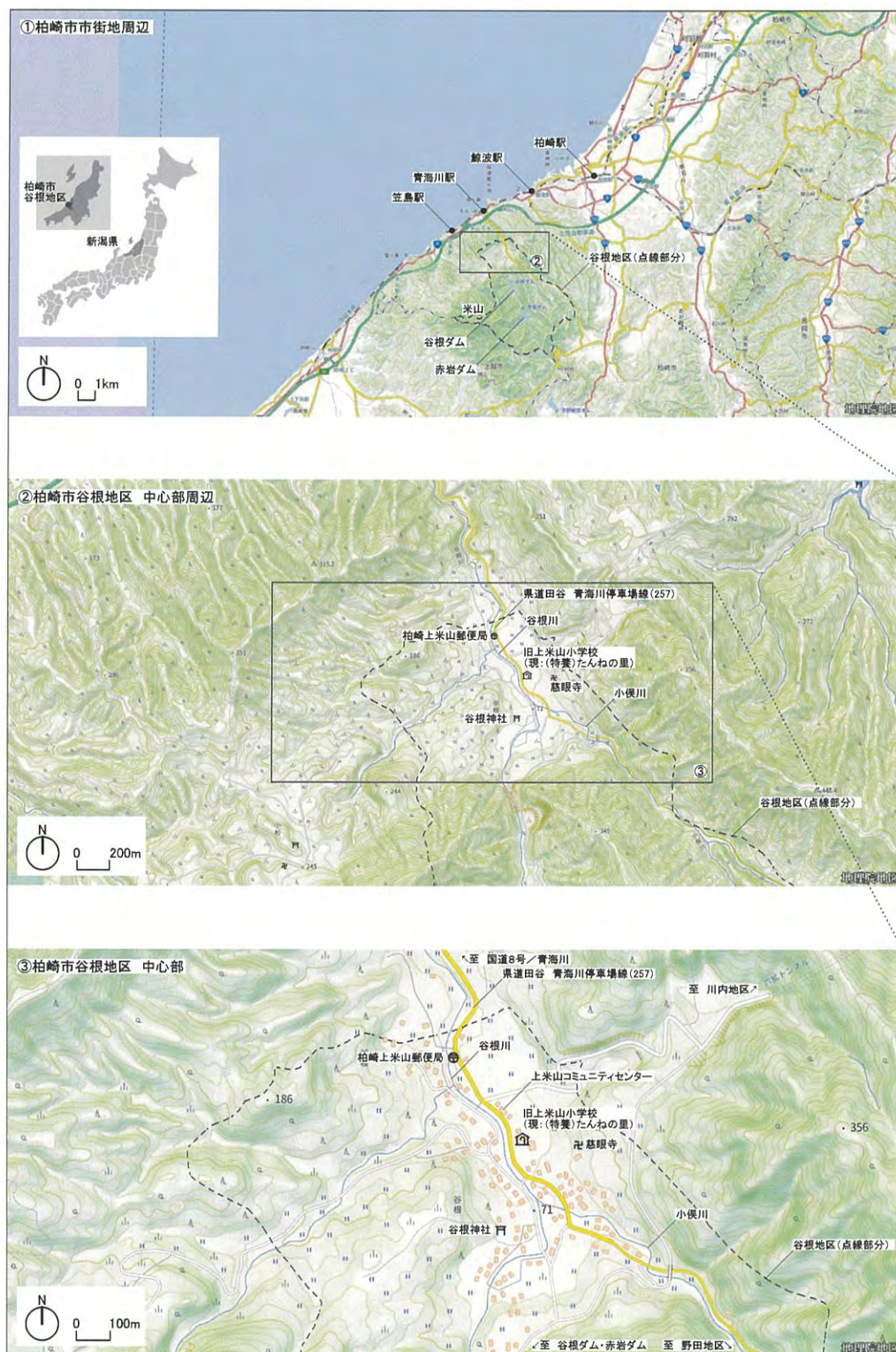


図 2-2 新潟県柏崎市谷根地区 位置図



図 2-3 谷根地区中心部の主要施設と地域拠点 位置図

2.3 地形と成り立ち

谷根地区は、柏崎市と上越市の境に位置する米山（標高 993m）の北面の裾から日本海へと向かう山ひだの中に位置している。米山と周囲の山地の山ひだの雨水が集まって谷根川、小俣川となって、それらの川が合流して日本海へと注がれている⁸⁾。谷根中心部の地形は、周囲を山に囲まれ、谷根川と小俣川の流れによって形成された丘陵と平坦地という小盆地の特徴をもつ。この小盆地は谷根盆地と呼ばれる。文献によると、この平坦地からは石器時代の遺跡を示す土器片や石器が採集されており、土器の形式から縄文式中期の時代と推定されることが記録されている⁹⁾。住居跡の確認はできていないものの、出土品の記録から、この地での人びとの生活の歴史が長いことが読み取れる。谷根川を挟んで東西に広がる丘陵と平坦地は、現在、棚田や田んぼ、公共・生活利便施設と住宅地が集まる谷根地区中心部である。

南北方向に長い形状の谷根地区中心部の地形を標高からみると、南端部の通信用鉄塔付近では標高 90.9m、谷根川上流の久保橋付近では標高 76.5m、谷根川下流の下和田橋付近では標高 63.3m、北端部の谷根集落排水処理場付近では標高 60.5m である。南端部の通信用鉄塔付近の標高地点と北端部の谷根集落排水処理場付近の標高地点間では、約 30.4m の高低差がある¹⁰⁾。各地点の標高を図 2-4 に示す。南端部の通信用鉄塔付近と北端部の谷根集落排水処理場付近の標高から地形を見ると、南北 2 点間の地図上の直線距離は約 1,000m であり、直線距離を水平距離、高低差を垂直距離とするならば、勾配は南側から北側へと下る約 3% の傾斜面である。

谷根地区中心部は、緩やかに蛇行する谷根川を中心として、低地の平坦部から丘陵地にかけて、田んぼや棚田、住宅地が広がり、低地を見下ろす高台には神社と寺院がある。これらの平坦地と丘陵を取り囲むように、かつて薪炭林であった雑木林（二次林）¹¹⁾ があり、その背後には米山などの人工林と天然林があるという地形の構造がある。『景観用語事典 増補改訂第二版』では、農村景観に関して、「田の広がる平場、田に水を供給する山、それらの間の山際の集落が農村景観の基本構造である¹²⁾」と説明されている。谷根地区中心部は、農村景観の基本構造をもった特徴的な地形であるといえる（図 2-5）。

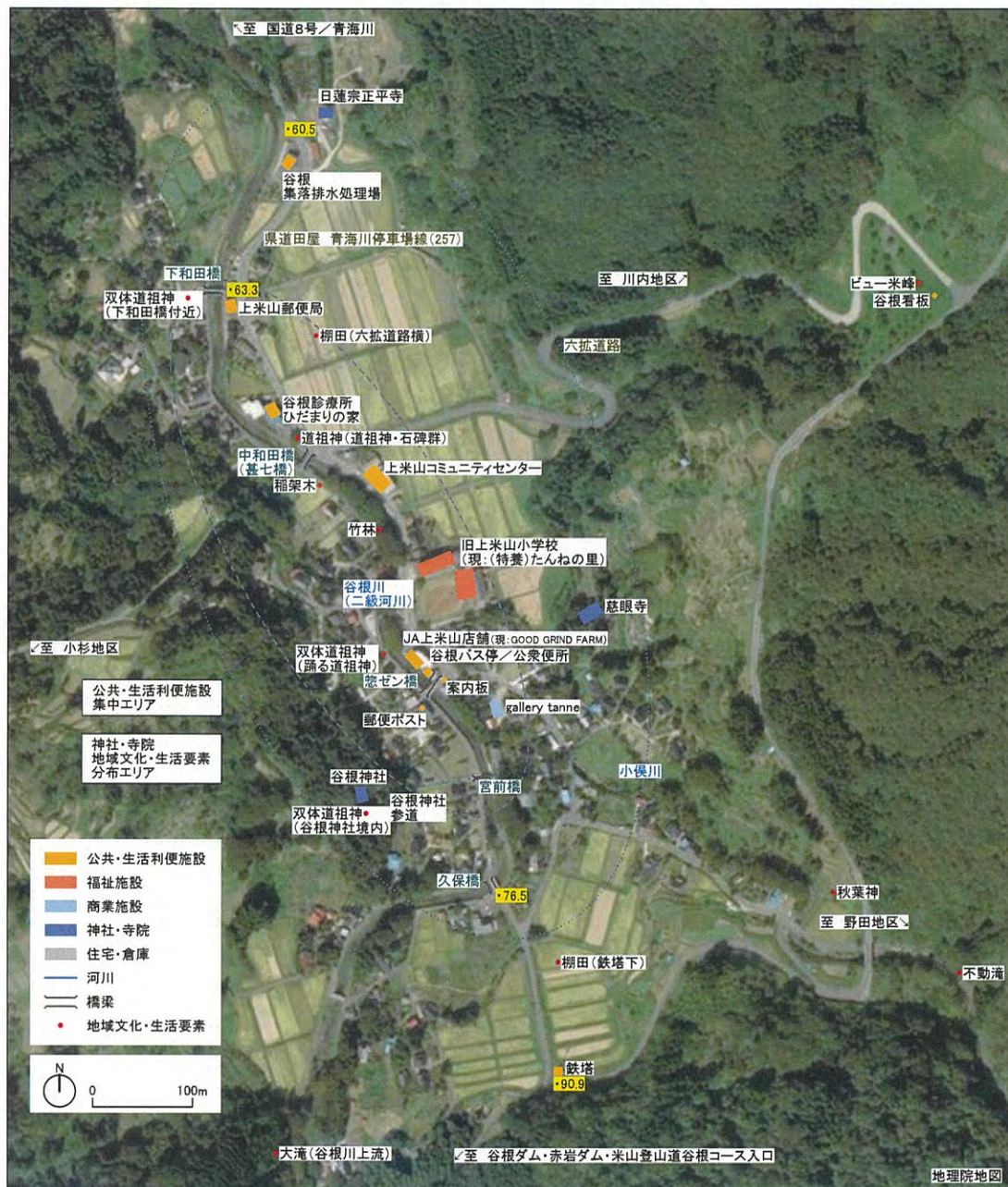


図 2-4 谷根地区中心部の各地点の標高



図 2-5 南端の棚田付近から眺めた谷根地区中心部の農村景観（2010 年 5 月筆者撮影）

2.4 歴史と地域文化

谷根地区の歴史は、前掲の文献によると、「谷根の歴史は、柏崎の周辺遺跡に見られるように、自然条件に比重を置く縄文文化の定着するころに開幕した。東日本的な、日本海側文化の曙を告げるころであった。¹³⁾」と記されている。縄文時代前期ごろ、豊かな自然の中で、採集と農耕による暮らしが始まっていったと推察する。また、同文献によると、鎌倉時代の北条氏と和田氏の伝承や、戦国時代から江戸時代初期の上杉氏の交通や連絡の要所として谷根が戦場となった時代もあったことが記録として残っているとの記述がある¹⁴⁾。現在の谷根地区の地名、中和田橋や下和田橋といった橋梁、祠、道祖神の名称などに、それらの歴史の跡が残されている。このような歴史的背景を踏まえると、谷根地区を拠点として、古くから地域内外とのつながりや文化交流が行われる中で、地域固有の文化が形づくられていったと考えられる。

江戸時代以降のおもな生業は、稲作が中心の農業、炭焼き、牛飼、養蚕であった。現在でも、稲作で使われた田杵（たわく）や養蚕で使われた蚕網（かいこあみ）が、各家の納屋や屋根裏に保管されており、「たんねのあかり」では、それらの道具類を作品の素材として借用していた¹⁵⁾。

生業の中心が稲作であった谷根地区では、4月上旬、谷根神社にて五穀豊穡を祈る春祭りが執り行われてきた。谷根神社は、地域を見下ろす高台に位置している。文献によると、「正月には、年神さんをお迎えし、是非今年も豊年でありますようにと田植から稲刈りまでの仕事を真似てみせる。この予祝行事をして、年神さん（田ノ神さん）に五穀豊穡を約束させ、4月の春まつりでは、田ノ神さんに山から降りて戴き、そして、本番の田仕事が始まる¹⁶⁾」と記されている。近年の春祭り当日は、午前には、谷根地区の各家々を悪魔祓いがまわり、谷根地区中心部の北側にある下和田橋を最終地点として、橋上にて悪魔祓いの舞が行われる。午後には、谷根神社の舞殿にて谷根大和舞が奉納される（図2-6）。かつては、春祭り際には、地元の子どもたちによる提灯行列が行われていたが、少子化などの諸事情から現在は行われていない。

谷根地区においての人びとの暮らしは、文献によれば、出土品から縄文時代ごろからとされ、その歴史は長い。その歴史の中で、谷根の土地は、交通や情報の要所にもなり、地域外とのつながりや文化の交流があったとみられる。そして、谷根地区中心部は、山々に囲まれた谷根川周囲に広がる平坦部と丘陵部から成る小盆地の地形を活かした、稲作中心の生業があった。稲作を中心とした農耕による営みの中で、田ノ神を祀り、五穀豊穡を願う地域文化が形成され、現在に継承されている。



図2-6 谷根神社春祭りにて奉納される谷根大和舞（2011年4月筆者撮影）

2.5 河川と橋梁

谷根地区中心部のほぼ中央を南北にわたって、河川が縦断して流れている。この二級河川谷根川は、米山の北麓に源があり、途中で小俣川と合流して、下流端は青海川地区で日本海に至る、延長約 7,900m の河川である¹⁷⁾。

前掲の文献によると、安永 6 年 (1777) の春に大出水で谷根川の石堤が崩れて普請工事をした記録や、享和 3 年 5 月 (1803) には川土手が崩れ、田に石や砂が流れ込んで川欠けによる損地となり、年貢の一部免除といった記録が残っていると記されている¹⁸⁾。また、谷根川は雪どけ水によって水量を増すことや、米山湖 (谷根川上流にある谷根ダムのダム湖名) ができるまでは、大雨のたびに鉄砲水が出て、川岸のものが流出することもあったとの記録も残る¹⁹⁾。近年も梅雨時期の大雨や台風の影響により、一部の護岸が崩れて補修工事が行われた。かつて、おもな生業が稲作であった谷根地区では、自然災害への対策を含む谷根川との関わりが日々の生活の中で重要であったと推察する。

一方、谷根川の谷根地区中心部とその周辺には、カジカガエルやゲンジボタルが生息し、谷根川広域では、「谷根川さけの森づくり」活動が進められている^{20)、21)}。谷根川は豊かな生態系を育む河川である。

谷根川の谷根地区中心部では、上流から順に、久保橋、宮前橋、惣ゼン橋、中和田橋、下和田橋の 5 本の橋梁が架かっている。久保橋は、地域の南端の棚田を越え、谷根ダムと赤岩ダムへ向かう道路に続いている。宮前橋は、谷根神社の参道の延長線上にあり、住宅地の間を通る小道へとつながる。惣ゼン橋、中和田橋、下和田橋は、谷根川を挟む川東地域と川西地域をつなぎ、生活の利便性を高めている。また、下和田橋は、前節 2.4 で述べた谷根神社の春祭りの際に、その橋上空間が悪魔祓いの舞の舞台となっており、地域文化と暮らしの中で重要な場所になっている (図 2-7)。

以上から、谷根地区中心部の中央を流れる谷根川とそこに架かる橋梁は、過去から現在にいたるまで、地域の生活に密着した自然と人為の深い関係が築かれている場所であることがわかる。



図 2-7 下和田橋の橋上空間にて行われる春祭りの悪魔祓いの舞（2016 年 4 月筆者撮影）

2.6 谷根地区中心部の里地里山の景観

谷根地区中心部は、谷根川を中心に平坦部の低地と丘陵地に田んぼや棚田、住宅群が広がっている。その周囲にある高台からは地域を広範囲で眺めることができ、土地を見守るように寺院と神社が配されている。また、稲作を生業とした歴史から、田んぼや棚田の状態や配置を眺めて確認できる高台が、丘陵地と低山地の境界付近に存在する。

2009年から2018年までのフィールドワーク調査時には、谷根地区中心部の特徴ある眺望が得られる地点として、いくつかの視点場を谷根地区の地域住民の案内で訪れた。それらの視点場は、いずれも谷根川が流れる平坦部を望む丘陵地の高台に位置していた。代表的な視点場からの眺望を挙げると、「(A) 高台から見下ろす棚田(六辻道路横)の眺望」、「(B-1、B-2) 高台から見下ろす棚田(鉄塔下)の眺望」、「(C) 谷根神社境内から見下ろす参道と田んぼの眺望」、「(D-1、D-2) ビュー米峰から見下ろす谷根地区中心部方面の眺望」といった俯瞰景であった。(A)から(D)の視点場の位置、視線の方向、得られた眺望を図2-8に示す。

一方、谷根川が流れる低地部から眺めることができた谷根地区中心部の景観の特徴は、3つのタイプに分類される。第一に、谷根川を背後にし、棚田の低地部から、丘陵地高地部や山林を眺めたり、高台の寺院や神社を眺めたりする俯瞰景の特徴である。第二に、道路や橋上空間から、谷根川や田んぼ、住宅や諸施設を眺める水平景の特徴である。第三に、蛇行する谷根川沿いの道路を移動しながら眺めるシークエンス景観の特徴である。

「視対象」とは、視点から眺められる対象であり、「視点場」とは、視対象を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況を指す。「俯瞰景」とは、視対象を見る視線の角度が水平より低く、見下ろす角度をもった景観である。「仰瞰景」とは、視対象を見る視線の角度が水平より高く、見上げる角度をもった景観である。「水平景」とは、視対象を見る視線の角度がおおむね水平のときの景観である。「シークエンス景観」とは、道路や神社参道などを歩行する際、視点の移動にともなって継起的に変化して捉えられる一連の眺めを指す²²⁾、²³⁾、²⁴⁾。「俯瞰景」、「仰瞰景」、「水平景」は、静止した視点からある方向に向けられた視線が捉える眺めを指し、これらは「シーン景観」に分類される眺めのタイプである²⁵⁾。視点の静止に着目すると、「シーン景観」は静の視点によるものに分類され、「シークエンス景観」は、動の視点によるものに分類される²⁶⁾。

谷根地区中心部の里地里山の景観は、①丘陵地の高台から田んぼや棚田、住宅群を眺める「俯瞰景」、②谷根川沿いの低地部から丘陵地や山林、高台の寺院や神社を眺める「仰瞰景」、③谷根川の沿い道路や橋上空間から谷根川や田んぼ、住宅や諸施設を眺める「水平景」、④蛇行する谷根川沿いの道路を移動しながら眺める「シークエンス景観」の組み合わせによって構成されるという特徴をもつ。①から④の事例を、フィールドワーク調査から得られた谷根地区中心部の里地里山の景観の4つの特徴として図2-9に示す。



図2-8 谷根地区中心部の（A）から（D）の視点場の位置と眺望



図2-9 谷根地区中心部の里地里山の景観の4つの特徴

2.7 里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」

これまで述べてきた、研究対象地である新潟県柏崎市谷根地区中心部の地形、歴史と地域文化、里地里山の景観について、概要を以下にまとめる。

柏崎市谷根地区中心部は、柏崎市と上越市の境に位置する米山の北面の裾から日本海へと向かう山ひだの中に位置している、里地里山の集落である。谷根地区中心部のほぼ中央の南北方向に谷根川が流れ、河川を中心に川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼと棚田や人びとの暮らしの場が集中している。その周囲を雑木林（二次林）や人工林、天然林が囲み、自然豊かな里地里山の景観が広がっている。高台に位置する神社と寺院を拠点として、かつての生業であった稲作に関連した祭祀や地域芸能などの地域文化が根付いている。また、谷根地区の長い歴史の中で、この地が交通や情報の要所となったこと、米山講の登山口があることや、地域に点在する双体道祖神や石仏に関する文献による記録などから、地域外との文化交流の一端を読み取ることができる^{27)、28)}。以上のように、谷根地区中心部は、里地里山の豊かな自然、歴史、伝統、文化によって形成されてきた地域資源と、谷根地区の自然と人為による歴史の中で育まれてきた景観資源に恵まれた土地であるといえる。また、緩やかに蛇行する谷根川の河川形状に沿った地区内の道路を辿っていくと、谷根地区中心部の仰瞰景、水平景、シークエンス景観が複合した変化に富む里地里山の景観を眺めることができる。そして、谷根地区の低地部を取り囲む丘陵地からは俯瞰景を望むことができ、農村景観の基本構造をもつ特徴的な形を知ることができる。

この谷根地区中心部を舞台に、2009年から2018年まで、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって、アートイベント「たんねのあかり」が7回開催された²⁹⁾。「たんねのあかり」のきっかけは、環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性を探る目的で女子美術大学の教員と学生らが行った学外活動に端を発した、柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントであった。このイベントを計画するにあたり、地域内外の人びとへ向けた告知資料に記された参加と来場を促す呼びかけの文章を以下に記載する³⁰⁾。なお、この呼びかけ文章は、2009年5月に女子美術大学の教員と学生らによって開設された、「たんねのあかり」ブログに掲載され、その後、告知資料にも用いられた。

— 新潟県柏崎市に「谷根（たんね）」という山と川とたくさんの自然に囲まれたちいさな地域があります。谷根にはひとつ小学校があります。児童数8人の上米山小学校は135周年を迎えた2009年度をもって閉校になります。

今夏、小学校のみなさんと谷根地域のみなさんと一緒に、「あかり」と「そこにあるもの（自然環境・景色・地域・素材・伝統・らしさ…など）」をテーマにしたアートイベント「たんねのあかり」を行うことになりました。

ある夏の夜のある時間、キャンドルのあかりで小学校と地域と思い出をほんのり照らします。あかりのアートやデザインによって、みんなで心地よい時間と場所を共有し、いまま

でとこれからをつなぐやわらかくやさしい景色と記憶をつくりませんか？

谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働で実施したフィールドワーク調査をもとに、アートイベントのテーマは、“「あかり」と「そこにあるもの」”と設定された。「あかり」は、キャンドルに火を灯したあかりである。谷根地区には、古くは生業としての炭焼きや谷根神社の春祭りの際の子どもたちの提灯行列など、夜とあかりの地域文化があり、それらを継承するものとして、「あかり」がテーマの一つに掲げられた。もう一つのテーマの「そこにあるもの」は、前述の呼びかけ文のとおり、谷根地区の自然環境、景色、地域、素材、伝統、らしさなどであり、地域資源と景観資源を指す。「あかり」と「そこにあるもの」は、谷根地区の地域の固有性を表す要素といえる。

「たんねのあかり」は、イベント時の来訪者が地域を歩き、「そこにあるもの」である地域の固有性を表す場所や要素を巡り、地域素材を活かした作品や、「あかり」による演出空間を鑑賞しながら、地域を知って学ぶ屋外アートミュージアムを想定して計画された。このアートイベントにおいて、「そこにあるもの」とは、谷根地区の里地里山の景観の中に点在する地域の固有性を表す地域資源と景観資源であった。これらの地域の固有性を表すものの存在は、地域住民にとっては、日常生活の中で身近に目にする何気ないものである場合が多いと考えられる。このような地域の固有性を表す要素によって構成される、身近な生活環境の景観を生活景と呼び、身近な事物に生活という人間の日常行為や記憶がともなうてできあがったものとされる³¹⁾。生活景について、西田正憲は、瀬戸内海の風景に関する著書の中で、瀬戸内海特有の風景を自然と融合した人文系・生活景と位置づけ、「十九世紀の欧米人は瀬戸内海のこの風景をいち早く賞賛した。それは異国人という、定住者の眼ではない旅行者の眼がより強く捉えることができた風景であった³²⁾」と述べている。さらに、「瀬戸内海は人文景・生活景が自然に溶けこみ、美しい風景を織りなしている所であった。欧米人は特にこの風景を瀬戸内海に捉えることができた。定住者ではない異国の旅行者である欧米人が発見し捉えた風景であった³³⁾」と、地域住民である定住者と、来訪者であり部外者である旅行者がもつ、景観に対する異なる視点について述べている。以上から、地域の固有性を表す要素は、地域住民と来訪者との多角的な視点をもってその価値を見いだすことができるのではないかと考えられる。そして、アートイベント「たんねのあかり」の舞台となった谷根地区中心部の里地里山の景観は、人びとの身近な生活環境の中で、地域の固有性を表す要素群によって形成された景観であるといえる。

「たんねのあかり」のテーマに掲げられた「あかり」と「そこにあるもの」は、谷根地区の地域資源と景観資源を指す。「たんねのあかり」がアートイベントとして目指したものは、地域住民と来訪者の協働活動を通じて、もともとそこにある地域資源や景観資源の価値を見だし、地域の固有性を里地里山の景観の中に再発見し、地域の魅力として地域外にも発信することであった。

2.8 まとめ

本章では、まず、本研究の対象地である新潟県柏崎市谷根地区のおもに中心部について、文献調査とフィールドワーク調査から得られた情報を、2.2から2.6まで、研究対象地の概要、地形と成り立ち、歴史と地域文化、河川と橋梁、里地里山の景観の5つの項目に分けて整理し、地域の特徴を把握した。次に、前述の地形、歴史、地域文化を背景として、谷根地区中心部の里地里山において展開したアートイベント「たんねのあかり」の活動の経緯と概要をまとめ、アートイベントとして掲げられたテーマと景観との関係について述べた。

2.2（新潟県柏崎市谷根地区の概要）では、谷根地区の現状について、地理的位置、地域内の配置構成、人口、名所などについて、文献調査を中心に情報を整理した。

2.3（地形と成り立ち）では、谷根地区中心部が米山の裾に位置し、地区を南北方向に流れる谷根川を中心に、川東地域と川西地域の低地と丘陵地に田んぼと棚田や暮らしの場が集中している、農村景観の基本構造をもった特徴的な地形であることが把握できた。

2.4（歴史と地域文化）では、谷根地区の高台に位置する神社と寺院を拠点として、かつての生業であった稲作に関連した祭祀や地域芸能などの地域文化が、谷根地区に根付いていることがわかった。また、地区内にある米山講の登山口や、点在する双体道祖神や石仏に関する文献から、地域の長い歴史の中にも、数々の地域外との文化交流があったことが読み取れた。

2.5（河川と橋梁）では、谷根地区のかつてのおもな生業が稲作であり、自然災害への対策を含む谷根川との関わりが日々の生活の中で重要であったこと、谷根川に架かる橋梁は東西の地域をつなぎ、橋上空間は祭事の空間にも利用されている地域文化と暮らしに重要な場所であることを述べた。谷根川と橋梁は、地域の生活に密着した自然と人為の深い関係が築かれている場所であることがわかった。

2.6（谷根地区中心部の里地里山の景観）では、おもにフィールドワーク調査を通じ、谷根地区中心部の里地里山の景観において、以下の4つの特徴が把握できた。

- ①丘陵地の高台から田んぼや棚田、住宅群を眺める「俯瞰景」
- ②谷根川沿いの低地部から丘陵地や山林、高台の寺院や神社を眺める「仰瞰景」
- ③谷根川の沿い道路や橋上空間から谷根川や田んぼ、住宅や諸施設を眺める「水平景」
- ④蛇行する谷根川沿いの道路を移動しながら眺める「シークエンス景観」

谷根地区中心部の景観は、これらの景観の組み合わせによって構成されることがわかった。

2.7（里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」）では、「たんねのあかり」がアートイベントとして目指したものについて、地域住民と来訪者との協働活動および里地里山の景観の中に見いだされる地域の固有性に着目して述べた。

以上、第2章での研究対象地である谷根地区についての文献調査とフィールド調査によって得られた結果を踏まえ、第3章では、「たんねのあかり」の実践を通じた分析-1として、空間演出の対象場所の位置と視点位置、見学ルートの回遊性との関係について分析を行う。

第2章 註、引用・参考文献

註および引用文献

2.1

- 1) 1973年の谷根ダム竣工記念として、同年に柏崎市ガス水道局から出版された文献が、『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』である。以後、おもに柏崎市ガス水道局から出版された文献と合わせた計4点（註8、註16、参考文献2点）を本章の文献調査にて用いた。

2.2

- 2) 柏崎市役所「柏崎市の人口 住民基本台帳人口に基づく人口と世帯数 令和6（2024）年3月末日現在の人口・世帯数」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html>（閲覧2024年4月27日）
- 3) 「里地里山（さとちさとやま）」とは、環境省 自然環境局によると、「里地里山とは、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域」と定義されている。
環境省 自然環境局「里地里山の保全・活用」、
<https://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html>（閲覧2024年4月28日）
- 4) 柏崎市役所 企画政策課「柏崎市の人口 各種人口データ 町名別人口（人口と世帯数、地区別人口）住民基本台帳からみる柏崎市の人口推移（町名別）令和6（2024）年、平成21（2009）年、平成30（2018）年」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html>（閲覧2024年4月27日）
- 5) 柏崎市の行政区上米山地区は、谷根（63世帯）、小杉（1世帯）、吉備（0世帯）、たんねの里（27世帯）で構成されている。「たんねの里」は、谷根地区の旧上米山小学校を改築してつくられた特別養護老人ホームである。2011年4月開設。
柏崎市役所 企画政策課「柏崎市の人口 各種人口データ 行政区別人口（人口と世帯数、自然動態と社会動態、地区別人口、推計人口）住民基本台帳からみる柏崎市の人口推移（行政区別）令和6（2024）年3月」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html>（閲覧2024年4月30日）
- 6) 柏崎市役所 産業振興部 商業観光課 観光振興係「谷根のハナモモ」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/soshikiichiran/sangyoshinkobu/shogyokanka/kankosinko/23/26/2/20022.html>（閲覧2024年4月27日）
- 7) 柏崎市役所 産業振興部 商業観光課 観光振興係「米山（標高993メートル）の登山コース」、

<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/soshikiichiran/sangyoshinkobu/shogyokankoka/kankosinko/46/34/2/5495.html> (閲覧 2024 年 4 月 27 日)

2.3

- 8) 月橋会、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973 年、134-135 頁。
- 9) 同前、134-135 頁。
- 10) 標高の数値は国土交通省 国土地理院「地理院地図（電子国土 Web）」による。
<https://www.gsi.go.jp/> (閲覧 2024 年 4 月 28 日)
- 11) 月橋会、他、前掲書（註 8）、156-158 頁。
- 12) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、167 頁。

2.4

- 13) 月橋会、他、前掲書（註 8）、135 頁。
- 14) 月橋会、他、前掲書（註 8）、135-138 頁。
- 15) 2009 年には、「たんねのあかり」のプレイベント「なかよしワークショップ 第一部・第二部」を開催した。第一部では、作品制作を行い、第二部では、「昔の農具のことや谷根の自然・地域・歴史を知ろう！」と題して、谷根地区の地域住民から、女子美術大学関係者と上米山小学校の学生たちに谷根地区の歴史や文化、農具・民具の使い方についてのレクチャーが行われた。「たんねのあかり」では、これらの農具・民具を借用して、作品制作が行われた。
- 16) 月橋会、他『谷根—自然・文化・生活—』柏崎市ガス水道局、1978 年、70 頁。

2.5

- 17) 新潟県 土木部河川管理課「新潟県の河川一覧 二級河川」、
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kasenkanri/1202317242294.html> (閲覧 2024 年 4 月 29 日)
- 18) 月橋会、他、前掲書（註 8）、145-147 頁。
- 19) 月橋会、他、前掲書（註 16）、10-11 頁。
- 20) JF 新潟漁連（新潟県漁業協同組合連合会）「新潟県柏崎市谷根川 さけの森づくり」、
<http://www.van-rai.net/nigyoren/mori/sakenomori/sakenomori.htm> (閲覧 2024 年 4 月 30 日)
- 21) 公益社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会「谷根川さけの森づくり推進協議会」、
<https://www.midori100.com/volunteer/detail/cd/50/> (閲覧 2024 年 4 月 30 日)

2.6

- 22) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 12）、66 頁、28 頁、46-47 頁。
- 23) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、15 頁、129 頁、275 頁。

- 24) 国土交通省 国土技術政策総合研究所「国総研資料 第 945 号 公園緑地における眺望保全・再生の手引き（案）」、
<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0945.htm>（閲覧 2024 年 4 月 30 日）
- 25) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、20-21 頁。
- 26) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 12）、15 頁。
- 2.7**
- 27) 月橋会、他、前掲書（註 8）、56-158 頁。
- 28) 月橋会、他、前掲書（註 16）、10-11 頁、70 頁。
- 29) アートイベント「たんねのあかり」は、2009 年、2010 年、2011 年、2012 年、2014 年、2016 年、2018 年の 7 回開催された。「たんねのあかり」プロジェクトに携わった女子美術大学の関係者は、女子美術大学の教員、学生、卒業生で構成された。参加人数は、2009 年 12 名、2010 年 16 名、2011 年 23 名、2012 年 10 名、2014 年 9 名、2016 年 13 名、2017 年 13 名、2018 年 19 名であった。なお、2017 年は、アートイベント「たんねのあかり」の開催はなく、ワークショップ開催や地域の PR 冊子制作などのプロジェクト活動のみ実施された。
- 30) 女子美術大学「たんねのあかり」イベントチーム代表 下田倫子（編集）『「あかり」と「そこにあるもの」をテーマにしたアートイベント たんねのあかり 2009 SUMMER 報告書』女子美術大学「たんねのあかり」イベントチーム、2009 年、2 頁。
※「たんねのあかり」のイベント告知の呼びかけ文章は、「たんねのあかり」ブログ（2009 年 5 月開設、<http://tannenoakari.jugem.jp/>）に掲載された。その後、女子美術大学や谷根地区内外で配布されたイベント告知資料などに掲載された。
- 31) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註 23）、172 頁。
- 32) 西田正憲『瀬戸内海の発見』中央公論新社、1999 年、85 頁。
- 33) 同前、87 頁。

参考文献

- 月橋会、他『谷根—TANNE—水への決意』柏崎市ガス水道局、1985 年
- 月橋会、他『谷根—水との連想』月橋会（発行責任者）、1997 年

第3章 分析-1

「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較

- 3.1 本章の目的
- 3.2 アートイベント「たんねのあかり」概要
- 3.3 分析方法
- 3.4 開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握
 - 3.4.1 谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置
 - 3.4.2 開催年ごとの使用場所の種類と位置
 - 3.4.3 「たんねのあかり」における使用場所の総数と位置
 - 3.4.4 「たんねのあかり」における使用場所の特徴
- 3.5 開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析
 - 3.5.1 開催年ごとの見学ルートの特徴と分類
 - 3.5.2 使用場所の位置と見学ルートの回遊性
- 3.6 分析結果：開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較

第3章 分析-1

「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較

3.1 本章の目的

本章の目的は、「たんねのあかり」の開催年ごとの空間演出の対象場所の特徴を把握し、見学ルートの経路形状の比較と分類から、空間演出の対象場所の位置と回遊性との関係进行分析することである。本章の構成を図3-1に示す。

3.2では、柏崎市谷根地区中心部にて展開した「たんねのあかり」プロジェクトの2009年から2018年までの活動期間に、7回開催した「たんねのあかり」の概要をまとめる。

3.3では、本章の分析方法を述べる。

3.4では、「たんねのあかり」にて、作品を配置して空間演出を行った対象場所を「使用場所」とし、それらを開催年ごとに整理して分析を行い、各場所の位置と特徴を把握する。本論文において、「使用場所」とは、「たんねのあかり」にて、イベント実施時に作品が配置され空間演出が行われた、実際に使用された場所を指す。

3.5では、まず、「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート7点を比較し、経路形状の特徴から分類を行う。次に、使用場所の位置と使用場所を見る視点位置、および見学ルートの回遊性について分析する。

3.6では、「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所の特徴と見学ルートの経路形状の比較をもとに、使用場所の位置と見学ルートの関係を回遊性に着目して分析し、本章の分析結果をまとめる。

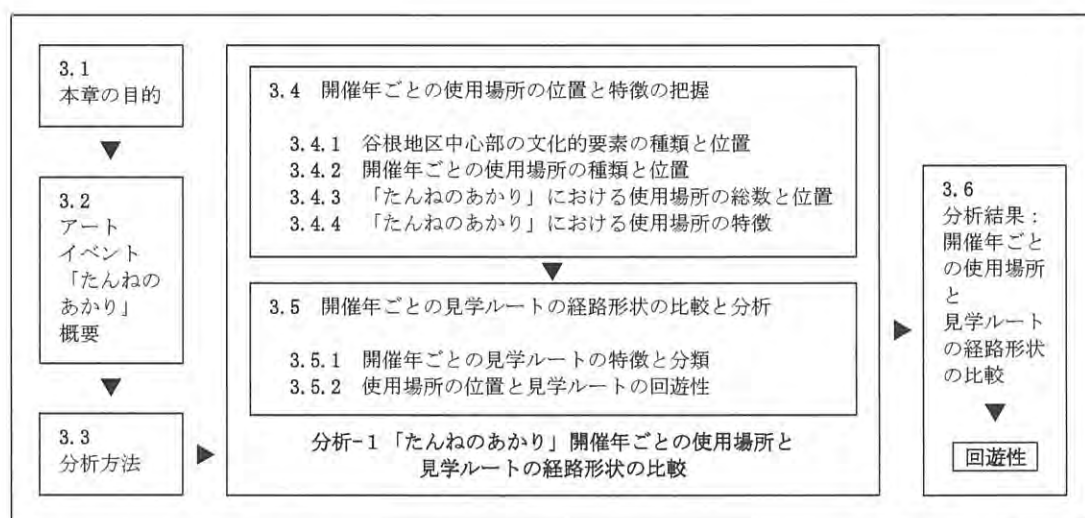


図3-1 「第3章 分析-1「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較」の構成

3.2 アートイベント「たんねのあかり」概要

本研究の研究対象地である柏崎市谷根地区中心部にて、「たんねのあかり」プロジェクトが展開した。「たんねのあかり」プロジェクトとは、2009年から新潟県柏崎市谷根地区中心部で始まった、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働で進められた地域活性化を目指したプロジェクトであった¹⁾。プロジェクトの活動では、10月中旬に開催されるアートイベント「たんねのあかり」が主軸であった。「たんねのあかり」は、谷根地区の里地里山を舞台に、キャンドルのあかりによる演出効果を活かした、アート作品の展示や空間演出が行われたイベントであった。初回となった2009年の「たんねのあかり」は、同年度に閉校となる柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントとして、8月に開催された。2009年の「たんねのあかり」イベント開催後、谷根地区では、地域をつなぐ役割を担っていた小学校に代わるものとして「たんねのあかり」を位置づけ、協働による活動の継続を期待したことと、女子美術大学では、学外活動での学びの可能性を広げることを期待したことから、「たんねのあかり」の実施を軸とした、この活動が継続することとなった²⁾。以後、2010年から2012年まで毎年開催し、その後、隔年の2014年、2016年、2018年に開催された。

「たんねのあかり」が開催される一年のスケジュールでは、2月ごろからフィールドワーク調査やイベント企画などの準備が開始され、8月に作品制作とレクチャーで構成するワークショップがプレイベントとして実施された。その後、10月に「たんねのあかり」が開催され、同時に谷根地区の地元産物や新米の販売が行われた。イベント時の来訪者は、おもに日没から夜にかけての3時間の演出時間に、谷根地区中心部を散策して作品の鑑賞を行った³⁾。また、イベント開催を継続する中で、地元産物の販売開始時間に合わせ、日中から谷根地区を訪れ、地域を散策したり、「たんねのあかり」設営風景を見学したりするイベント時の来訪者が増える傾向が見られた。

「たんねのあかり」では、谷根地区中心部にある地域資源や景観資源を、「そこにあるもの」と名づけて開催年ごとの演出テーマを設定し、棚田や河川、橋梁、道路といった外部空間のさまざまな場所を使って、作品展示や空間演出が行われた。また、開催年ごとに、谷根地区内に点在する作品と演出された空間を巡る見学ルートが設定された。「たんねのあかり」は、見学ルートをもとに地域を散策しながら作品群を鑑賞する空間体験の場を、イベント時の来訪者に提供したイベントであった。イベント開催時には、イベント時の来訪者に見学ルートや作品説明、イベント概要をまとめた案内マップが配布された。イベント時の来訪者は案内マップの見学ルートを参考にし、谷根地区中心部を散策しながら作品群を鑑賞した。

「たんねのあかり」のイベント開催は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによって企画・運営された。谷根地区中心部での開催場所の計画では、まず、開催年ごとに、谷根地区側からメイン会場が設定された。次に、谷根地区の地域住民の案内によるフィールドワーク調査をもとに、①メイン会場を中心としたイベント対象エリア、②作品展示や空間

演出の対象となる「使用場所」の配置計画、③見学ルートの設定が行われた。これら①、②、③の設定は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの作品試作や現地での演出テストなどを実施して調整したのち、協議によって決定された。上記②の作品展示や空間演出の対象となる「使用場所」は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによって選定され、イベント時に使用された場所である。

2009年から2018年までに7回実施した「たんねのあかり」のイベント概要とイベント対象エリアの一覧を開催年ごとに、図3-2に示す。

なお、本論文では、「たんねのあかり」にて用いた作品名をそのまま使用する。また、作品番号は、「00（開催年）-00（作品番号）」で表記する。例えば、イベント開催年2009年の作品番号01のものは、「09-01」と記す。そして、「たんねのあかり」では、開催年ごとのイベント実施内容を区別するため、例えば、「たんねのあかり 2009」のように、開催年を末尾に記してイベント名称としていた。本論文でも同様に、開催年をつけ加えた表記を、開催年ごとのイベント名称として用いることにする。

イベント実施年月日	イベント対象エリア ○エリア全域 ○メイン	使用場所 ◎メイン ○サブ	◎メイン使用場所 構成要素	○サブ使用場所 構成要素	メイン使用場所 空間演出事例
2009年 8月22日(土) <第1回> たんねのあかり 2009		 ◎柏崎市立上米山小学校 ○谷根川、橋梁、道路	◎柏崎市立上米山小学校 ・校舎 ・体育館 ・校庭 ・遊具 ・階段	○谷根川、橋梁、道路 ・河川 ・護岸、水制ブロック ・橋梁 ・道路 ・樹木 ・はさ木 ・道祖神	 演出テーマ： 「ちいさなたんねの ゆたかないきもの」
2010年 10月16日(土) <第2回> たんねのあかり 2010		 ◎棚田(鉄塔下) ○谷根川、橋梁、道路	◎棚田(鉄塔下) ・棚田 ・畦道 ・道路	○谷根川、橋梁、道路 ・河川 ・護岸 ・橋梁 ・道路 ・はさ木	 演出テーマ： 「美しいたんねの風景を 創り出すもの」
2011年 10月8日(土) <第3回> たんねのあかり 2011		 ◎谷根川 ○道路、田んぼ、 谷根神社	◎谷根川 ・河川 ・護岸、水制ブロック ・樹木 ・はさ木	○道路、田んぼ、谷根神社 ・橋梁 ・道路 ・広場 ・田んぼ ・竹林 ・道祖神 ・谷根神社境内	 演出テーマ： 「あかりで、たんねという 場所を読み、たんねを知る」
2012年 10月13日(土) <第4回> たんねのあかり 2012		 ◎棚田(六広道路横) ○谷根川、道路、 谷根神社	◎棚田(六広道路横) ・棚田 ・畦道 ・道路	○谷根川、道路、谷根神社 ・河川 ・護岸、水制ブロック ・橋梁 ・道路 ・田んぼ ・はさ木 ・谷根神社境内	 演出テーマ： 「あかりの森」
2014年 10月11日(土) <第5回> たんねのあかり 2014		 ◎棚田(鉄塔下) ○谷根川、道路、 谷根神社	◎棚田(鉄塔下) ・棚田 ・畦道 ・道路	○谷根川、道路、谷根神社 ・河川 ・護岸 ・橋梁 ・道路 ・広場 ・田んぼ ・谷根神社境内	 演出テーマ： 「まるいもの」
2016年 10月8日(土) <第6回> たんねのあかり 2016		 ◎田んぼ(谷根神社下) ○谷根川、道路、 谷根神社	◎田んぼ(谷根神社下) ・田んぼ ・畦道 ・道路	○谷根川、道路、谷根神社 ・河川 ・護岸 ・橋梁 ・道路 ・広場 ・竹林 ・道祖神、谷根神社境内	 演出テーマ： 「たんね、いいね」
2018年 10月13日(土) <第7回> たんねのあかり 2018		 ◎道路(谷根川沿道) ○谷根川、田んぼ、 谷根神社	◎谷根川、道路 ・河川 ・護岸、水制ブロック ・橋梁 ・道路	◎田んぼ、谷根神社 ・広場 ・竹林 ・田んぼ ・はさ木 ・道祖神 ・谷根神社境内	 演出テーマ： 「つながるもの」

※「イベント対象エリア/地図」出典：国土地理院ウェブサイト <https://www.gsi.go.jp/>

図3-2 「たんねのあかり」開催年ごとのイベント対象エリア一覧

「たんねのあかり」イベント概要：

<第1回> たんねのあかり 2009

開催日時：2009年8月22日（土）18時～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 柏崎市立上米山小学校（2009年当時）⁴⁾、谷根川、橋梁、護岸、道路

実施内容：柏崎市立上米山小学校（2009年当時）の閉校記念イベントの一つとして開催された。小学校の校舎と校庭がメイン会場として空間演出され、また、地域を流れる谷根川周辺にあかりの作品が配置された。「たんねのあかり 2009」のイベント概要を図3-3に示す。

イベント来場者数：約1000人⁵⁾

<第2回> たんねのあかり 2010

開催日時：2010年10月16日（土）13時～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 棚田（鉄塔下）、谷根川、橋梁、護岸、道路、工場前広場

実施内容：稲刈り後の棚田に水を張り、作品を展示して空間演出が行われた。谷根川にも作品が置かれた。「たんねのあかり 2010」のイベント概要を図3-4に示す。

イベント来場者数：約3000人

<第3回> たんねのあかり 2011

開催日時：2011年10月8日（土）13時～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、（特養）たんねの里（グラウンドのみ）

実施内容：地域を流れる谷根川と、道路や小道にあかりの作品が広範囲に配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。「たんねのあかり 2011」のイベント概要を図3-5に示す。

イベント来場者数：約6000人

<第4回> たんねのあかり 2012

開催日時：2012年10月13日（土）13時30分～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 棚田（六広道路横） 谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、（特養）たんねの里（グラウンドのみ）

実施内容：稲刈り後の棚田がおもな演出対象場所となった。対象の棚田は水面と土の部分に二分割して、作品を展示して空間演出が行われた。谷根川にも作品が置かれた。「たんねのあかり 2012」のイベント概要を図3-6に示す。

イベント来場者数：約8000人

<第5回> たんねのあかり 2014

開催日時：2014年10月11日（土）13時30分～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 棚田（鉄塔下）、谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、（特養）たんねの里（グラウンドのみ）

実施内容：稲刈り後の棚田に水を張り、作品を展示して空間演出が行われた。谷根川と道路にも作品が配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。「たんねのあかり 2014」のイベント概要を図3-7に示す。

イベント来場者数：約8000人

<第6回> たんねのあかり 2016

開催日時：2016年10月8日（土）15時～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 田んぼ（神社下）、谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、（特養）たんねの里（グラウンドのみ）

実施内容：稲刈り後の田んぼに水を張り、作品を展示して空間演出が行われた。田んぼには水上舞台が設置され、谷根大和舞を上演する計画が行われた。谷根川にも作品が置かれた。当日、荒天のため、一部作品の移動と中止、および谷根大和舞は谷根神社にて上演変更となった。「たんねのあかり 2016」のイベント概要を図3-8に示す。

イベント来場者数：約3000人（イベント当日雨天）

<第7回> たんねのあかり 2018

開催日時：2018年10月13日（土）15時～21時

作品配置場所：柏崎市谷根地区中心部 道路、谷根川、橋梁、護岸、谷根神社、田んぼ、（特養）たんねの里（グラウンドのみ）

実施内容：谷根川沿いの道路と橋上空間がおもな演出対象場所とされた。谷根川と、道路や小道にあかりの作品が広範囲に配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。

「たんねのあかり 2018」のイベント概要を図3-9に示す。

イベント来場者数：約7000人

2009年

<第1回> たんねのあかり 2009

イベント対象エリア／作品配置



たんねのあかり 2009 マップ

イベント概要

開催日時	2009年8月22日(土) 18時 - 21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 柏崎市立上米山小学校、谷根川、橋梁、護岸、道路
演出テーマ	「ちいさなたんねのゆたかないきもの」
作品数	9点
見学ルート	644.43m
実施内容	柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントのひとつとして開催。小学校の校舎と校庭がメイン会場として空間演出された。谷根地区中心部を南北に流れる谷根川周辺にあかりの作品が配置された。

作品番号／作品写真／作品名／使用場所

09-01
(22)



作品名 : 上米山小学校
使用場所: 上米山小学校
(現: (特養)たんねの里)

09-09
(24)



作品名 : その他(鏡／提灯)
使用場所: 上米山小学校
(現: (特養)たんねの里)など

09-02
(17)



作品名 : クローバー
使用場所: 谷根川
中和田橋-惣ゼン橋間

09-03
(10)



作品名 : 道路+橋
使用場所: 道路+中和田橋

09-04
(13)



作品名 : はさ木
使用場所: 稲架木

09-05
(15)



作品名 : しろたま
使用場所: 谷根川
水割ブロック

09-06
(27)



作品名 : 道祖神
使用場所: 双休道祖神
(踊る道祖神)

09-07
(25)



作品名 : 農具・民具
使用場所: 谷根川護岸
(踊る道祖神付近)

09-08
(29)

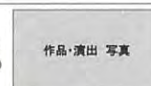


作品名 : いかだ
使用場所: 谷根川
(惣ゼン橋付近)

※作品番号は、開催年と作品番号で示す。
(例) 2009年、作品番号01の場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品番号
(使用場所番号)



作品名 : (イベント開催時の作品名称)
使用場所: (名称または位置)

図 3-3 「たんねのあかり 2009」 イベント概要

2010年

<第2回> たんねのあかり 2010

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所



イベント概要

開催日時	2010年10月16日(土) 13時～21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 棚田(鉄塔下)、谷根川、橋梁、護岸、道路、工場前広場
演出テーマ	「美しいたんねの風景を創り出すもの」
作品数	11点
見学ルート	854.18m
実施内容	稲刈り後の棚田に水を張り、作品を展示して空間演出を行った。谷根川にも作品が置かれた。

10-01
(48)



作品名 : 実りのあかり
使用場所: 久保橋

10-09
(60)
(62)



作品名 : 山のあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下)

10-02
(49)



作品名 : 学生作品 A
使用場所: 久保橋

10-10
(63)



作品名 : 向日葵畑
使用場所: 棚田(鉄塔下)

10-03
(47)



作品名 : しるたまの遡上
使用場所: 谷根川
久保橋周辺

10-11
(66)



作品名 : 星のあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下)

10-04
(51)



作品名 : 学生作品 B
使用場所: 棚田(鉄塔下) 脇空地

10-05
(54)



作品名 : はさ木のあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下) 脇空地+稲架木

10-06
(53)
(55)
(64)



作品名 : 雪のあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下)

10-07
(57)



作品名 : 結びのあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下)
※道路を挟んだ両側棚田に配置

10-08
(58)
(59)



作品名 : 月のあかり
使用場所: 棚田(鉄塔下)

※作品番号は、開催年と作品番号で示す。
(例) 2009年、作品番号01の場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品番号 (使用場所番号)	作品・演出 写真
	作品名 : (イベント開催時の作品名称) 使用場所 : (名称または位置)

図 3-4 「たんねのあかり 2010」 イベント概要

＜第3回＞ たんねのあかり 2011

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所

たんねのあかり 2011 マップ

イベント概要

開催日時	2011年10月8日(土) 13時～21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、(特養)たんねの里
演出テーマ	「あかりで、たんねという場所を読み、たんねを知る」
作品数	16点
見学ルート	見学ルート1166.27m、ショートカットルート644.27m
実施内容	地域を流れる谷根川と、道路や小道にあかりの作品が広範囲に配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。

※作品番号は、開催年と作品番号で示す。
(例) 2009年、作品番号01の場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品
番号
(使用
場所
番号)

作品・演出 写真

作品名 : (イベント開催時の作品名称)
使用場所 : (名称または位置)

11-01 (22)		11-09 (27)	
作品名 : たんね(点灯式) 使用場所: 旧上米山小学校 (現: (特養)たんねの里)		作品名 : 道祖神 使用場所: 双体道祖神 (踊る道祖神)	
11-02 (15)		11-10 (36)	
作品名 : 秋のほたる 使用場所: 谷根川 水制ブロック		作品名 : たんねTシャツ 使用場所: 田んぼ (宮前橋付近)	
11-03 (09)		11-11 (43)	
作品名 : 向日美畑2011 使用場所: 棚田(六松道路橋)		作品名 : 谷根神社参道 使用場所: 谷根神社参道	
11-04 (11)		11-12 (35)	
作品名 : 橋のあかり 使用場所: 中和田橋(基七橋)		作品名 : わく 使用場所: 谷根川護岸 (小俣川合流地点)	
11-05 (13)		11-13 (44)	
作品名 : はさ木 使用場所: 稲架木		作品名 : しろたま 使用場所: 道路(小道) (宮前橋付近)	
11-06 (16)		11-14 (40)	
作品名 : いろたま 使用場所: 竹林		作品名 : 稲穂トンネル 使用場所: 道路(小道) (宮前橋付近)	
11-07 (19)		11-15 (39)	
作品名 : 道のあかり 使用場所: 道路(曲線状道 ／竹林付近)		作品名 : 風のあかり 使用場所: 小俣川 (中和田橋間)	
11-08 (25)		11-16 (33)	
作品名 : あかり箱 使用場所: 谷根川護岸 (踊る道祖神付近)		作品名 : 川のめもり 使用場所: 谷根川(小俣川合流 地点-中和田橋間)	

図3-5 「たんねのあかり 2011」イベント概要

＜第4回＞ たんねのあかり 2012

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所

たんねのあかり2012 map

「あかり」と「そこにあるもの」をテーマに、谷根地域の特色を出しました。
秋の色を感じながら、あかり作品をご覧ください。

谷根神社 11 あかりの森
谷根神社 12 あかりの道
谷根神社 13 あかりの橋
谷根神社 14 あかりの川
谷根神社 15 あかりの山
谷根神社 16 あかりの里
谷根神社 17 あかりの空
谷根神社 18 あかりの夜
谷根神社 19 あかりの朝
谷根神社 20 あかりの夕
谷根神社 21 あかりの月
谷根神社 22 あかりの星
谷根神社 23 あかりの雲
谷根神社 24 あかりの雨
谷根神社 25 あかりの風
谷根神社 26 あかりの雪
谷根神社 27 あかりの花
谷根神社 28 あかりの果実
谷根神社 29 あかりの動物
谷根神社 30 あかりの植物
谷根神社 31 あかりの昆虫
谷根神社 32 あかりの鳥
谷根神社 33 あかりの魚
谷根神社 34 あかりの虫
谷根神社 35 あかりの草花
谷根神社 36 あかりの野菜
谷根神社 37 あかりの果物
谷根神社 38 あかりの調味料
谷根神社 39 あかりの飲料
谷根神社 40 あかりの食品
谷根神社 41 あかりの日用品
谷根神社 42 あかりの衣類
谷根神社 43 あかりの文具
谷根神社 44 あかりの玩具
谷根神社 45 あかりの楽器
谷根神社 46 あかりの本
谷根神社 47 あかりの図画
谷根神社 48 あかりの文芸
谷根神社 49 あかりの科学
谷根神社 50 あかりの歴史
谷根神社 51 あかりの文化
谷根神社 52 あかりの芸術
谷根神社 53 あかりのスポーツ
谷根神社 54 あかりの健康
谷根神社 55 あかりの安全
谷根神社 56 あかりの防災
谷根神社 57 あかりの環境
谷根神社 58 あかりのエネルギー
谷根神社 59 あかりの情報通信
谷根神社 60 あかりの未来

たんねのあかり 2012 マップ

イベント概要

開催日時	2012年10月13日(土) 13時30分 - 21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 棚田(六拡道路横)、谷根川、 橋梁、護岸、道路、谷根神社、(特養)たんねの里
演出テーマ	「あかりの森」
作品数	15点
見学ルート	見学ルート1834.42m、ショートカットルート1313.01m
実施内容	稲刈り後の棚田をおもな演出対象場所とした。 対象の棚田は水面と土の部分に二分割して、 作品を展示して空間演出を行った。 谷根川にも作品が置かれた。

※作品番号は、
開催年と作品番号で示す。
(例)2009年、作品番号01の
場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品
番号
(使用
場所
番号)

作品・演出 写真

作品名 : (イベント開催時の
作品名称)
使用場所: (名称または位置)

12-01 (22)		12-09 (03)	
作品名 : たんね(点灯式) 使用場所: 旧上米山小学校 (現:(特養)たんねの里)		作品名 : しるたま 使用場所: 棚田(六拡道路横)	
12-02 (21)		12-10 (04)	
作品名 : 「たんねの里」作品 使用場所: 旧上米山小学校 (現:(特養)たんねの里)		作品名 : たんねワシー 使用場所: 棚田(六拡道路横)	
12-03 (15)		12-11 (06)	
作品名 : 秋のほたる 使用場所: 谷根川 水割ブロック		作品名 : 野点のあかり 使用場所: 上米山郵便局 付近広場	
12-04 (09)		12-12 (12)	
作品名 : 向日葵2012 使用場所: 棚田(六拡道路横)		作品名 : 「ひだまり」作品 使用場所: 道路脇空地 (中和橋付近)	
12-05 (07)		12-13 (38)	
作品名 : あかりの森 使用場所: 棚田(六拡道路横)		作品名 : あかりの福穂 使用場所: 宮前橋	
12-06 (08)		12-14 (42)	
作品名 : あかりの道 使用場所: 六拡道路		作品名 : 谷根神社 使用場所: 谷根神社 (神社・境内)	
12-07 (05)		12-15 (01)	
作品名 : いろたまたま 使用場所: 棚田(六拡道路横) 脇空地		作品名 : 正平寺のあかり 使用場所: 日蓮宗正平等 (寺院・境内)	
12-08 (02)			
作品名 : はさ木のあかり 使用場所: 棚田(六拡道路横) 空地+稲架木			

図3-6 「たんねのあかり 2012」 イベント概要

＜第5回＞ たんねのあかり 2014

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所

たんのあかり 2014 マップ

イベント概要

開催日時	2014年10月11日(土) 13時30分 - 21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 棚田(鉄塔下)、谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、(特養)たんの里
演出テーマ	「まるいもの」
作品数	16点
見学ルート	見学ルート1523.45m、ショートカットルート1167.25m
実施内容	稲刈り後の棚田に水を張り、作品を展示して空間演出を行った。谷根川と道路にも作品が配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。

※作品番号は、
開催年と作品番号で示す。
(例)2009年・作品番号01の
場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品
番号
(使用
場所
番号)

作品・演出 写真

作品名 : (イベント開催時
の作品名称)
使用場所 : (名称または位置)

14-01 (50)		14-09 (34)	
作品名 : 本部(点灯式) 使用場所: 池田工務店 工場前広場		作品名 : あかりの道しるべ 使用場所: 道路+橋梁 (小俣川付近)	
14-02 (56)		14-10 (32)	
作品名 : あかりのテーブル 使用場所: 棚田(鉄塔下)		作品名 : gallery tanne 使用場所: gallery tanne	
14-03 (58)		14-11 (22)	
作品名 : あかりのネックレス 使用場所: 棚田(鉄塔下)		作品名 : たんのバザール 使用場所: 旧上米山小学校 (現・特養)たんの里)	
14-04 (65)		14-12 (01)	
作品名 : 秋のぼたる 使用場所: 田んぼ(ビニール ハウスフレーム内)		作品名 : 正平寺のあかり 使用場所: 日蓮宗正平寺 (寺院・境内)	
14-05 (61) (62)		14-13 (35)	
作品名 : あかりのアーチ 使用場所: 棚田(鉄塔下)		作品名 : 杵のあかり 使用場所: 谷根川護岸 (小俣川合流地点)	
14-06 (58) (59)		14-14 (36)	
作品名 : あかりのドーム 使用場所: 棚田(鉄塔下)		作品名 : 野点のあかり 使用場所: 田んぼ (宮前橋付近)	
14-07 (52)		14-15 (42)	
作品名 : 向日葵畑 使用場所: 棚田(鉄塔下)		作品名 : 社のあかり 使用場所: 谷根神社 (神社・境内)	
14-08 (46)		14-16 (48)	
作品名 : あかりの道 使用場所: 道路(曲線状/ 県道田屋三叉路)		作品名 : あかりの稲穂 使用場所: 久保橋	

図 3-7 「たんねのあかり 2014」 イベント概要

2016年

<第6回> たんねのあかり 2016

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所



イベント概要

開催日時	2016年10月8日(土) 15時～21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 田んぼ(神社下)、谷根川、橋梁、護岸、道路、谷根神社、(特養)たんねの里
演出テーマ	「たんね、いいね」
作品数	20点
見学ルート	見学ルート1174.05m、ショートカットルート629.96m
実施内容	稲刈り後の田んぼに水を張り、作品を展示して空間演出を行った。田んぼには水上舞台を設置し、谷根大和舞を上演する計画をした。谷根川にも作品が置かれた。当日、荒天のため、一部作品の移動と中止、谷根大和舞は谷根神社にて上演変更となった。



作品名 : 本部(点灯式)
使用場所 : 田んぼ
(宮前橋付近)



作品名 : 社のあかり
使用場所 : 谷根神社
(神社・境内)



作品名 : 窓あかり
使用場所 : 田んぼ
(宮前橋付近)



作品名 : 双体道祖神のあかり
使用場所 : 双体道祖神
(谷根神社境内)

※ 作品番号は、開催年と作品番号で示す。
(例) 2009年、作品番号01の場合、「09-01」と表記する。



作品名 : 稗のあかり
使用場所 : 谷根川護岸
(小俣川合流地点)



作品名 : 向日葵畑
使用場所 : 棚田(六弘道路横)



作品名 : 春の小径
使用場所 : 道路(小道／宮前橋付近)
※ 当日雨天にて中止



作品名 : 正平寺のあかり
使用場所 : 日蓮宗正平寺
(寺院・境内)



作品名 : gallery tanne
使用場所 : gallery tanne



作品名 : 橋のあかり
使用場所 : 中和田橋(基七橋)
※ 当日雨天にて場所変更



作品名 : あかりの道
使用場所 : 道路
(gallery tanne付近)



作品名 : 鯉波小のあかり
使用場所 : 道路脇空地
(中和田橋付近)
※ 当日雨天にて場所変更



作品名 : 秋のぼたる
使用場所 : 谷根川(小俣川合流地点-中和田橋間／急せん橋下)



作品名 : とんぼ
使用場所 : 竹林



作品名 : たんねバザール
使用場所 : 旧上米山小学校
(現:(特養)たんねの里)



作品名 : 水たまりのあかり
使用場所 : 道路(曲線状坂道／竹林付近)
※ 当日雨天にて場所変更



作品名 : かまぐらのあかり
使用場所 : 谷根川
水割ブロック



作品名 : さざなみ学園のあかり
使用場所 : 擁壁上部
(踊る道祖神付近)
※ 当日雨天にて中止



作品名 : しろたま
使用場所 : 谷根川護岸
(上米山コミュニティセンター付近)



作品名 : 双体道祖神のあかり
使用場所 : 双体道祖神
(踊る道祖神)

図3-8 「たんねのあかり 2016」イベント概要

2018年

＜第7回＞ たんねのあかり 2018

イベント対象エリア／作品配置

作品番号／作品写真／作品名／使用場所



イベント概要

開催日時	2018年10月13日(土) 15時～21時
作品配置場所	柏崎市谷根地区中心部 道路、谷根川、橋梁、護岸、谷根神社、田んぼ、(特養)たんねの里
演出テーマ	「つながるもの」
作品数	17点
見学ルート	見学ルート1197.27m、ショートカットルート644.44m
実施内容	谷根川沿いの道路と橋上空間をおもな演出対象場所とした。谷根川と、道路や小道にあかりの作品が広範囲に配置され、地域を巡って作品鑑賞をするように計画された。

18-05 (09)	 作品名 : 向日葵畑+タンネッシー 使用場所: 棚田(六協道路横)	18-13 (35)	 作品名 : 柿のあかり 使用場所: 谷根川護岸 (小俣川合流地点)
18-06 (01)	 作品名 : 正平寺のあかり 使用場所: 日蓮宗正平寺 (寺院・境内)	18-14 (42)	 作品名 : 社のあかり 使用場所: 谷根神社 (神社・境内)
18-07 (11)	 作品名 : 橋の休憩所 A 使用場所: 中和田橋(甚七橋)	18-15 (38)	 作品名 : 秋のぼたる 使用場所: 宮前橋
18-08 (18)	 作品名 : さかなとり 使用場所: 谷根川周辺道路 全域(一部空地含)	18-16 (32)	 作品名 : gallery tanne 使用場所: gallery tanne
18-09 (19)	 作品名 : あかりの道 使用場所: 道路(曲線状坂道 竹林付近)	18-17 (28)	 作品名 : そよぐあかり 使用場所: 道路(曲線状 県道田屋惣ゼン橋付近)
18-10 (27)	 作品名 : 双体道祖神のあかり 使用場所: 双体道祖神 (踏る道祖神)		
18-11 (41)	 作品名 : 橋の休憩所 B 使用場所: 道路脇空地 (宮前橋横)		
18-12 (30)	 作品名 : 鯉波小のあかり 使用場所: 道路脇空地 (惣ゼン橋横)		

※作品番号は、開催年と作品番号で示す。
(例)2009年、作品番号01の場合、「09-01」と表記する。

凡例:

作品番号 (使用場所番号)	作品・演出 写真 作品名 : (イベント開催時の作品名称) 使用場所: (名称または位置)
------------------	---

図 3-9 「たんねのあかり 2018」イベント概要

3.3 分析方法

本章では、第一に、「たんねのあかり」にて作品が配置され、空間演出が行われた対象場所を使用場所とし、開催年ごとに整理して分析を行い、それらの場所の位置と特徴を把握する。第二に、「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート7点を比較し、経路形状の変化の過程から、使用場所の位置と視点位置、見学ルートの回遊性との関係について分析する。

(1) 開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握 (3.4)

「たんねのあかり」開催年ごとの作品と使用場所は、前節のイベント概要をまとめた図3-3から図3-9に示した通りである。まず、空間演出の対象場所の設定にあたり、配置計画の拠点となった谷根地区の文化的要素の種類と位置の情報を整理する。次に、イベント実施時に使用された空間演出の対象場所を使用場所とし、開催年ごとの使用場所とそれらの位置を地図上に示して、各使用場所の位置と全体の配置計画について情報を整理する。続いて、2009年から2018年までの「たんねのあかり」における、すべての使用場所の位置を一つの地図上にまとめ、使用場所の総数と位置を示す。最後に、整理した文化的要素と使用場所の位置の情報を踏まえ、イベント実施時の用途の種類、使用場所の種類の分類を行う。これらの分類内容を分析することで、「たんねのあかり」における使用場所の特徴を把握する。

(2) 開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析 (3.5)

まず、「たんねのあかり」開催年ごとに、点在する使用場所を巡る経路で計画された見学ルートを抽出する。イベント実施時に交流・休憩などの「滞留空間」として計画された使用場所の位置を、見学ルートとともに地図上に示す。イベント実施時の交流・休憩などの「滞留空間」は、旧上米山小学校の校庭（現：（特養）たんねの里グラウンド）に設けられた本部、地元産物の販売や飲食の屋台、休憩スペース、参拝と作品鑑賞で人びとが滞留した谷根神社の境内などである。なお、「滞留空間」とは、人がある場所で歩みを緩め、止まり、たまるといった滞留行動が起こる空間を指す^{6), 7)}。滞留行動には、「広場や界限（かいわい）における待合せや休憩などの人の自由な意思によるものと、通勤ラッシュなど混雑で移動が困難になる人の意思によらないものがある⁸⁾」とされるが、「たんねのあかり」では、おもに前者の滞留行動が起こるような会場構成が計画された。次に、抽出された見学ルート7点を比較し、経路形状の特徴から分類を行う。続いて、使用場所の位置と使用場所を見る視点位置、および見学ルートの回遊性について分析する。

3.4 開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握

3.4.1 谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置

谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働による活動の中で、2009 年のフィールドワーク調査では、谷根地区の地域住民の案内により、同地区に点在するさまざまな文化的要素が位置する場所を訪れた。地域における文化的要素とは、日々の暮らしの中で育まれてきた、地域固有の歴史や文化に関わる要素である。例示すると、稲作文化に関わる棚田や稲架木（はさぎ）、地域の信仰に関わる神社と寺院や、谷根地区に点在する道祖神などである。また、谷根地区中心部の中央に位置する旧上米山小学校も地域のコミュニティならびに文化の形成に重要な文化的要素として挙げられる。

「たんねのあかり」の開催に向けた全体計画では、谷根地区中心部の文化的要素が位置する場所を、おもに空間演出の対象場所の配置計画の拠点とした。これらの文化的要素は、「①稲作文化に関わるもの」、「②神社と寺院」、「③地域の文化や信仰に関わるもの」、「④地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」の4つの種類に分類される。「①稲作文化に関わるもの」では、地区中心部の北側に位置する棚田（六抔道路横）と南側に位置する棚田（鉄塔下）、中和田橋付近の谷根川に面した位置にある稲架木がある。「②神社と寺院」では、谷根川を挟んだ西側の谷根神社と東側にある慈眼寺、地区中心部北側の日蓮宗正平寺があり、いずれも谷根地区中心部を望む高台に位置している。「③地域の文化や信仰に関わるもの」では、谷根川沿いの竹林、下和田橋付近の双体道祖神、中和田橋と惣ゼン橋の中間に位置する双体道祖神（踊る道祖神）、谷根神社境内の双体道祖神、中和田橋付近の道祖神と石碑群がある。「④地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」では、旧上米山小学校がある。この旧上米山小学校は、2009 年度の閉校後、福祉施設に用途変更された。現在、旧上米山小学校の校庭は、福祉施設に併設したグラウンドとして、地域住民が祭事などを行う地域コミュニティの拠点の一つとなっている。以上の谷根地区中心部の文化的要素の位置を図3-10に示す。

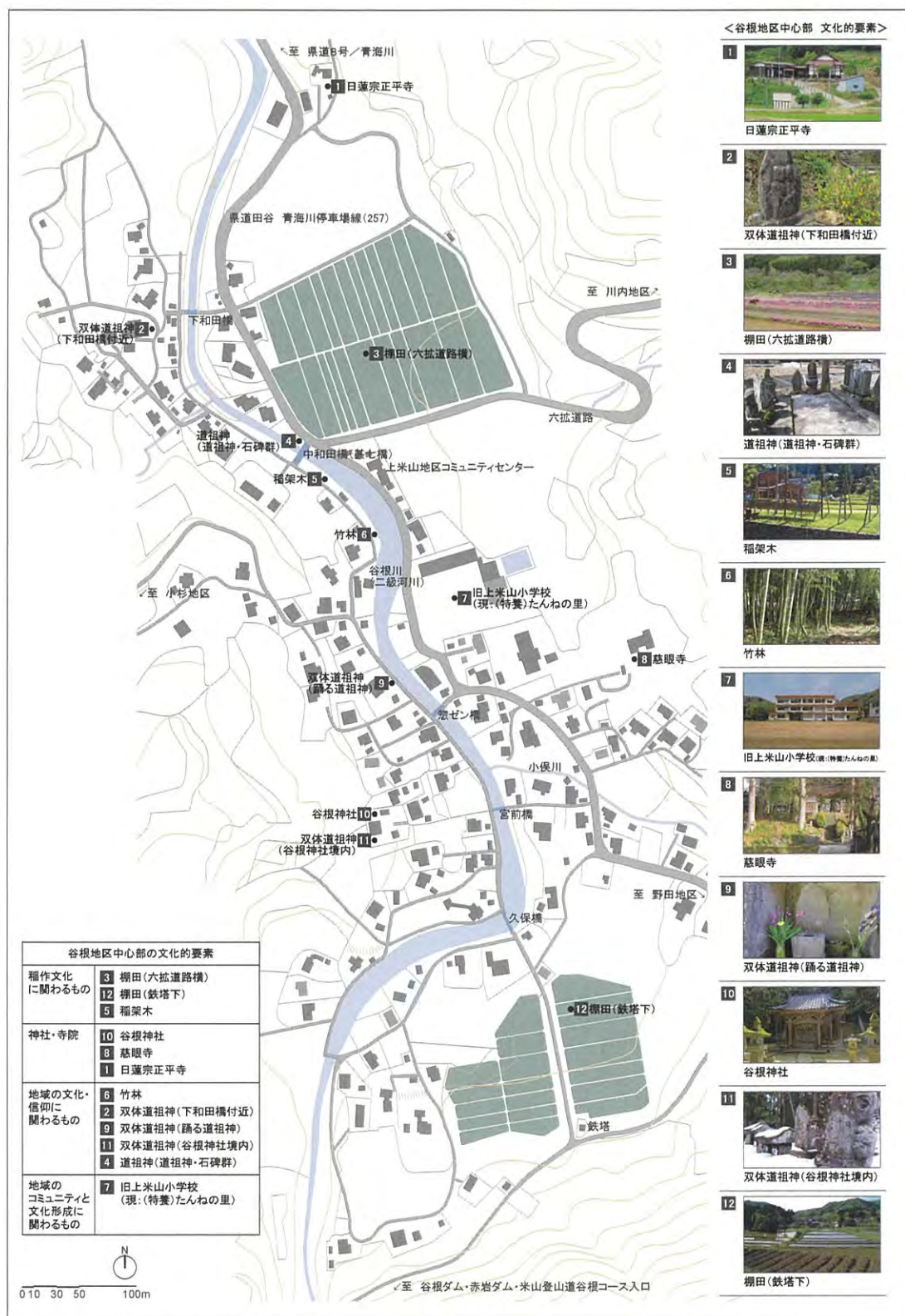


図 3-10 谷根地区中心部の文化的要素の位置

3.4.2 開催年ごとの使用場所の種類と位置

前述の文化的要素が位置する場所を、「たんねのあかり」の空間演出の対象場所の配置計画の拠点として、開催年ごとにイベント対象エリア全体の配置計画が行われた。配置計画、およびイベント実施時に使用した空間演出の対象場所を「使用場所」と呼ぶ。また、使用場所の名称は、旧上米山小学校や谷根神社などの特定の場所の名称があるものは、その名称を用いる。棚田や谷根川、双体道祖神や稲架木などの特定の場所の名称がないものは、文化的要素の名称、または位置を示す表現にて場所の名称とする。例えば、場所の名称にて位置を示す表現では、棚田（六抔道路横）や谷根川（惣ゼン橋付近）など、位置を括弧つきで表記する。「たんねのあかり」の空間演出の計画において、開催年ごとにメインとなる演出場所（以後、メイン演出場所という）と、サブとなる演出場所（以後、サブ演出場所という）を定めて計画が行われた。2009年から2018年までの間に7回実施された「たんねのあかり」について、開催年ごとの使用場所の情報とそれらの地図上の位置、および見学ルートを、図3-11から図3-17に示す。図3-11から図3-17において、開催年ごとの使用場所の情報は、使用場所の名称または位置、使用場所の写真、イベント開催時の作品名称、作品番号をまとめる。また、開催年ごとの使用場所の位置を地図上に示すにあたり作品番号を用いる。

<開催年ごとの使用場所>

・「たんねのあかり 2009」:

2009年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、柏崎市立上米山小学校と校庭に設定され、サブ演出場所は、谷根川と周囲の道路とされた。文化的要素が位置する使用場所は、上米山小学校に2か所、稲架木、双体道祖神（踊る道祖神）であった。その他の使用場所は、谷根川では水制ブロック上や川面に2か所、および護岸を用い、道路では中和田橋とその周辺の道路を用いた使用場所であった。2009年に設定した使用場所は、9か所であった（図3-11）。

・「たんねのあかり 2010」:

2010年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、谷根地区中心部南側の棚田（鉄塔下）に設定され、サブ演出場所は、棚田（鉄塔下）の中央部を南北方向に通る道路に続く久保橋と、その周辺の谷根川とされた。文化的要素が位置する使用場所は、棚田（鉄塔下）に6か所であった。その他の使用場所は、棚田脇の空地に2か所、久保橋に2か所、谷根川の川面に1か所であった。2010年に設定した使用場所は、11か所であった（図3-12）。

・「たんねのあかり 2011」:

2011年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、谷根川に設定され、サブ演出場所は、谷根川と谷根川を周回する道路と道路脇の空地、田んぼ、谷根神社とされた。文化的要素が位置する使用場所は、旧上米山小学校、棚田（六抔道路横）、稲架木、竹林、双体道祖神（踊る道祖神）、谷根神社であった。谷根川では、水制ブロック上に1か所、護岸に2か所、川面に2か所、小俣川では、河川上部の空間が使用場所とされた。その他の使用場所は、中和

田橋、道路（曲線状坂道）、道路（小道）、田んぼであった。2011年に設定した使用場所は、16か所であった（図3-13）。

・「たんねのあかり 2012」:

2012年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、谷根地区中心部北側の棚田（六抔道路横）に設定され、サブ演出場所は、谷根川と谷根川を周回する道路と道路脇の空地、谷根神社と宮前橋などとされた。文化的要素が位置する使用場所は、棚田（六抔道路横）に4か所、旧上米山小学校に2か所、谷根神社、日蓮宗正平寺であった。棚田（六抔道路横）の空間演出を近景として、日蓮宗正平寺を遠景として演出が行われた。その他の使用場所は、棚田脇の空地に2か所、六抔道路、道路脇空地、谷根川の水制ブロック上、宮前橋、上米山郵便局付近広場であった。2012年に設定した使用場所は、15か所であった（図3-14）。

・「たんねのあかり 2014」:

2014年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、2010年開催時と同じ棚田（鉄塔下）に設定され、サブ演出場所は、谷根川と谷根川を周回する道路と道路脇の空地と田んぼ、谷根神社などとされた。文化的要素が位置する使用場所は、棚田（鉄塔下）に5か所、旧上米山小学校、谷根神社、日蓮宗正平寺であった。その他の使用場所は、田んぼに2か所、道路に2か所、谷根川護岸、久保橋、工務店工場前広場、gallery tanneであった。工務店前広場には本部と里神楽の舞台が設置された。また、gallery tanneでは、イベント時の来訪者が憩うスペースが設けられた。2014年に設定した使用場所は、16か所であった（図3-15）。

・「たんねのあかり 2016」:

2016年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、谷根神社の参道横に位置する田んぼに設定され、サブ演出場所は、谷根川と谷根川を周回する道路、竹林、双体道祖神、谷根神社などとされた。文化的要素が位置する使用場所は、棚田（六抔道路横）、旧上米山小学校、谷根神社、日蓮宗正平寺、竹林、双体道祖神（踊る道祖神、谷根神社境内）であった。その他の使用場所は、谷根川の水制ブロック上と護岸に2か所、および橋梁下の河川上部の空間、中和田橋、道路に3か所、道路脇空地、擁壁上部、田んぼに2か所、gallery tanneであった。2016年の開催では、当日が雨天であったため、計画していた使用場所を一部移動して実施、または演出が中止となったものもあった。2016年に設定した使用場所は、20か所であった（図3-16）。

・「たんねのあかり 2018」:

2018年開催時の配置計画では、メイン演出場所は、谷根川と谷根川を周回する道路や橋梁をメイン演出場所に設定され、サブ演出場所は、道路や橋梁脇の空地、田んぼ、竹林、谷根神社とされた。文化的要素が位置する使用場所は、旧上米山小学校に2か所、棚田（六抔道路横）、稲架木、双体道祖神（踊る道祖神）、谷根神社、日蓮宗正平寺であった。その他の使用場所は、谷根川の水制ブロック上と護岸、中和田橋、宮前橋、道路に3か所、道路脇空地に2か所、gallery tanneであった。2018年に設定した使用場所は、17か所であった（図3-17）。

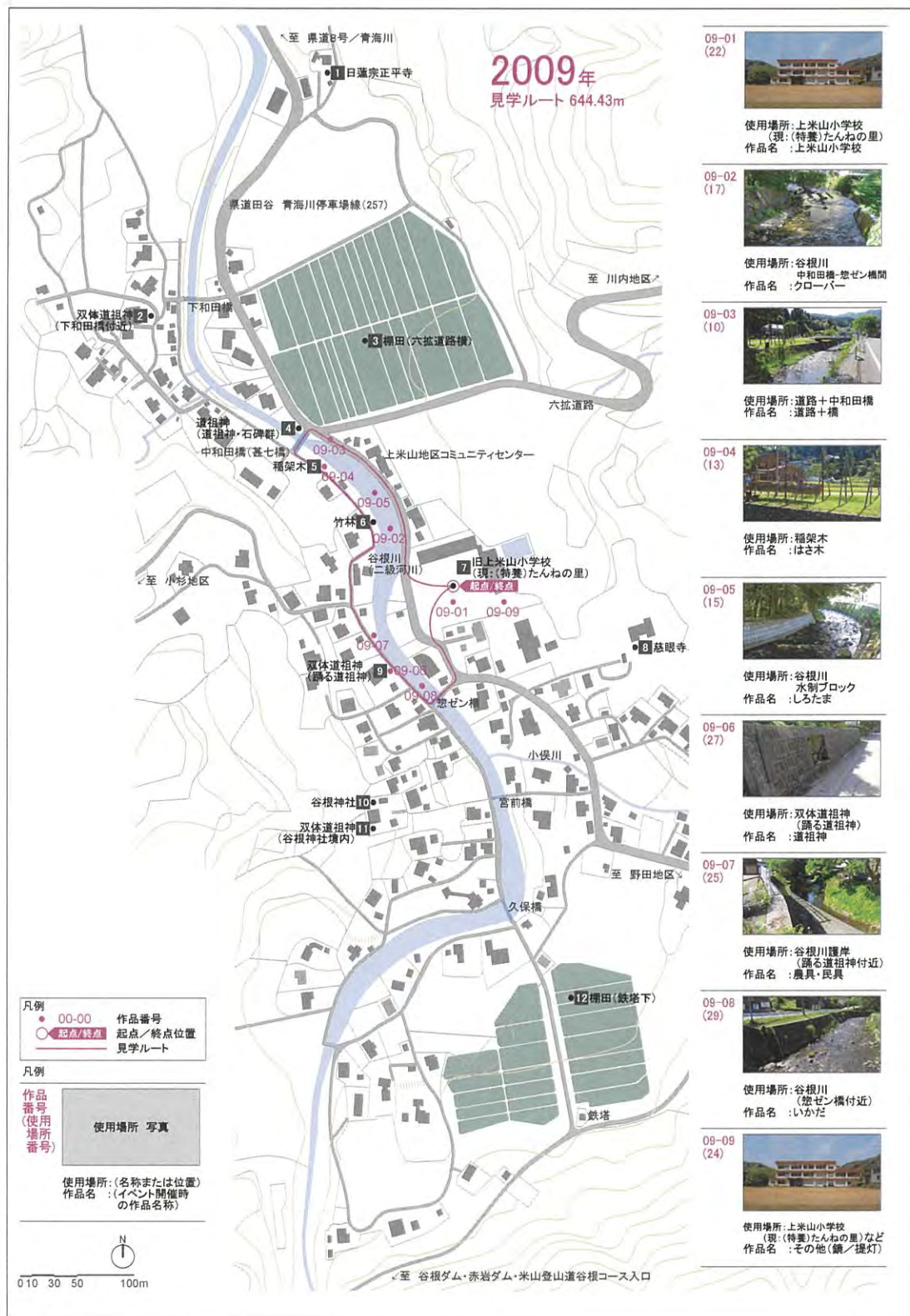


図 3-11 「たんののあかり 2009」使用場所の位置 (2009 年開催)

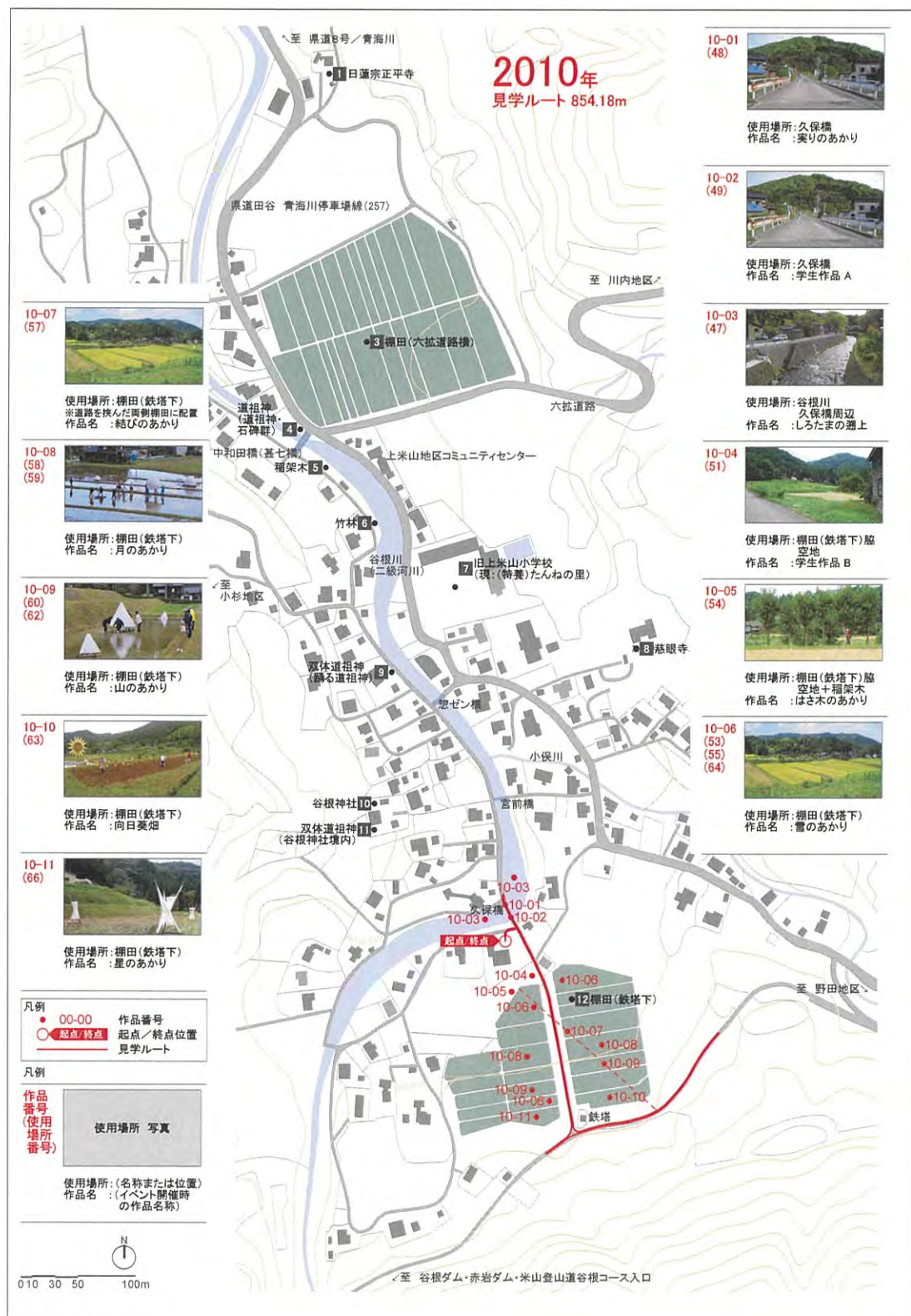


図 3-12 「たanneのあかり 2010」使用場所の位置 (2010 年開催)

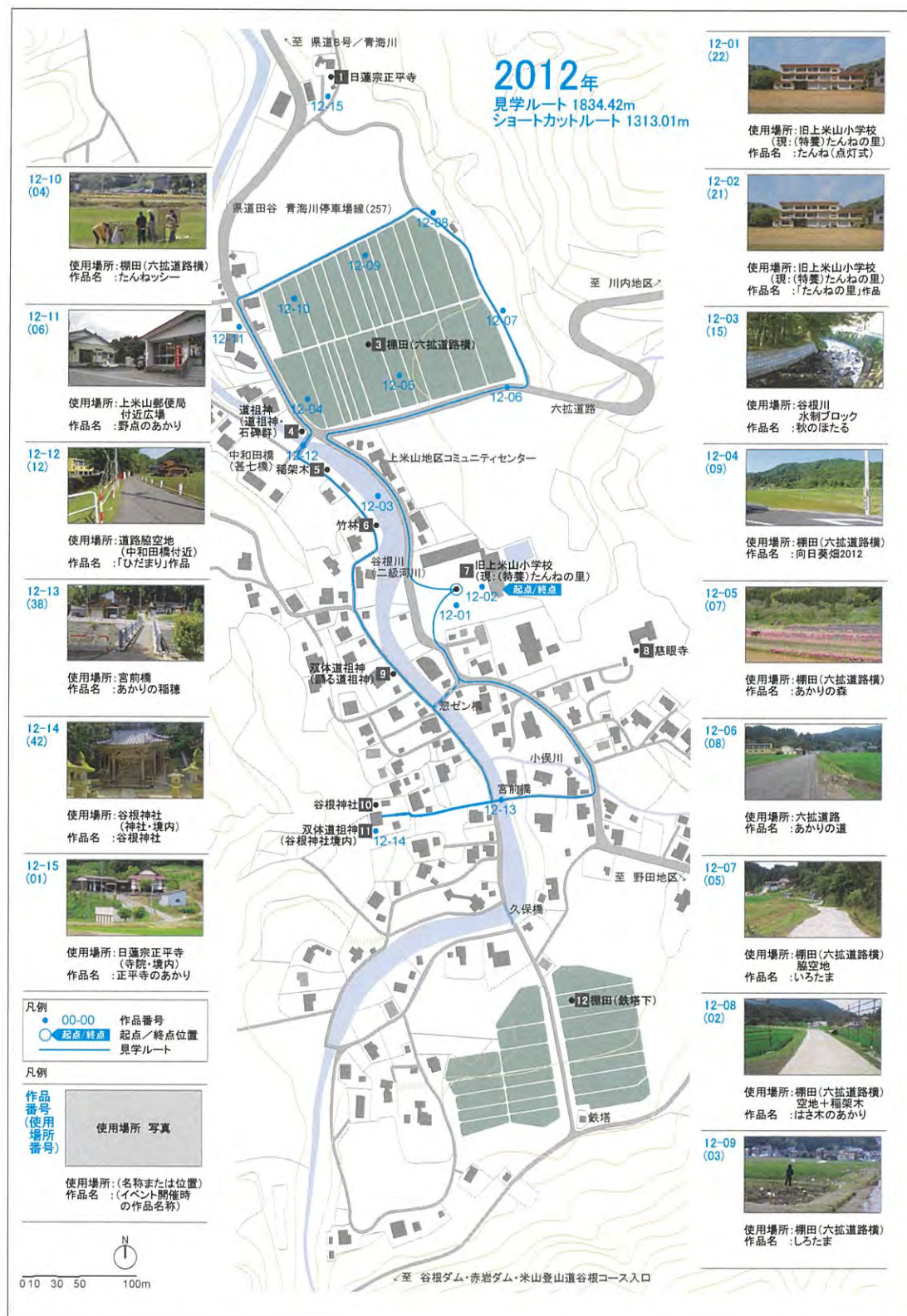


図 3-14 「たんねのあかり 2012」使用場所の位置 (2012 年開催)

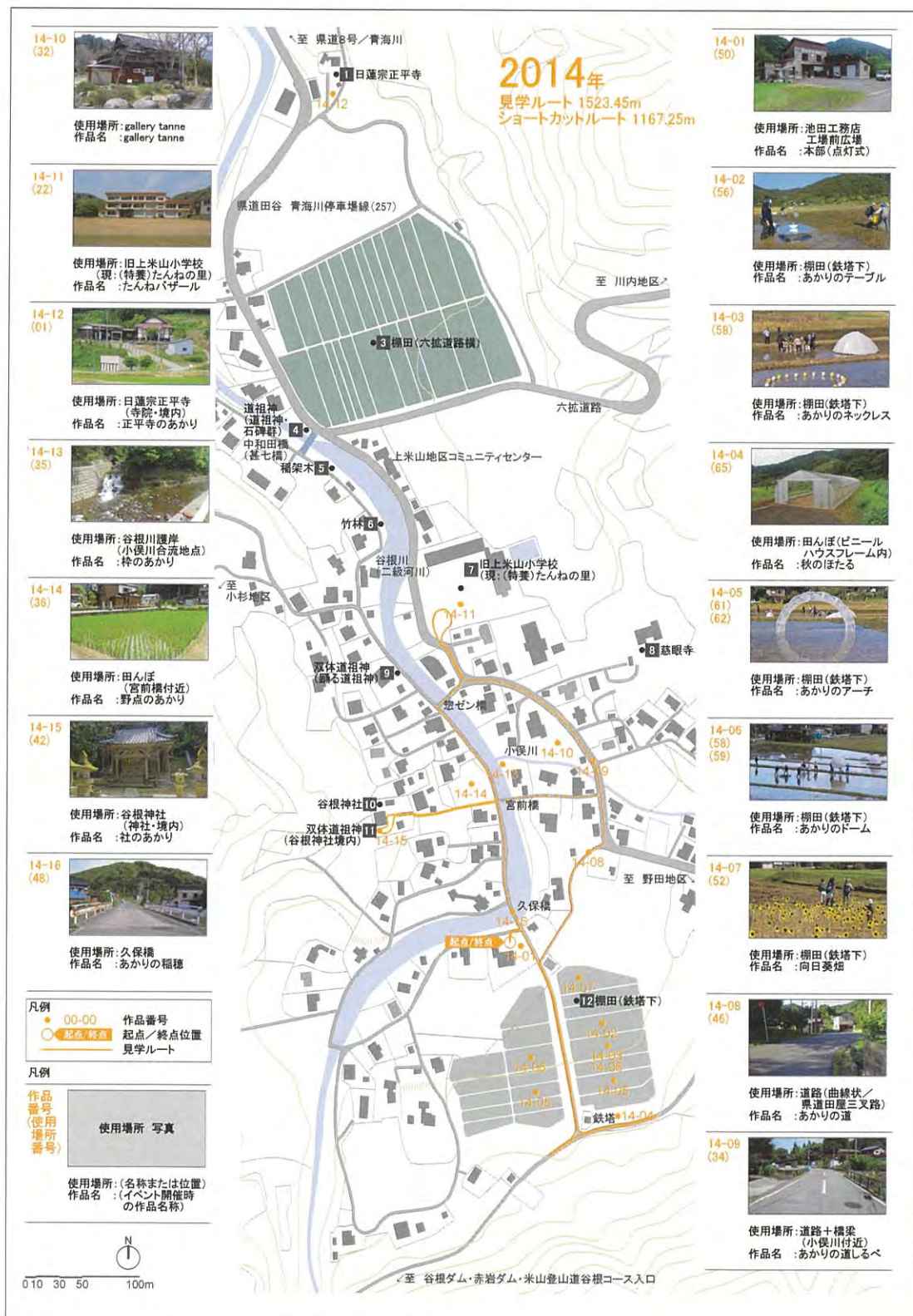


図3-15 「たんねのあかり 2014」使用場所の位置 (2014年開催)

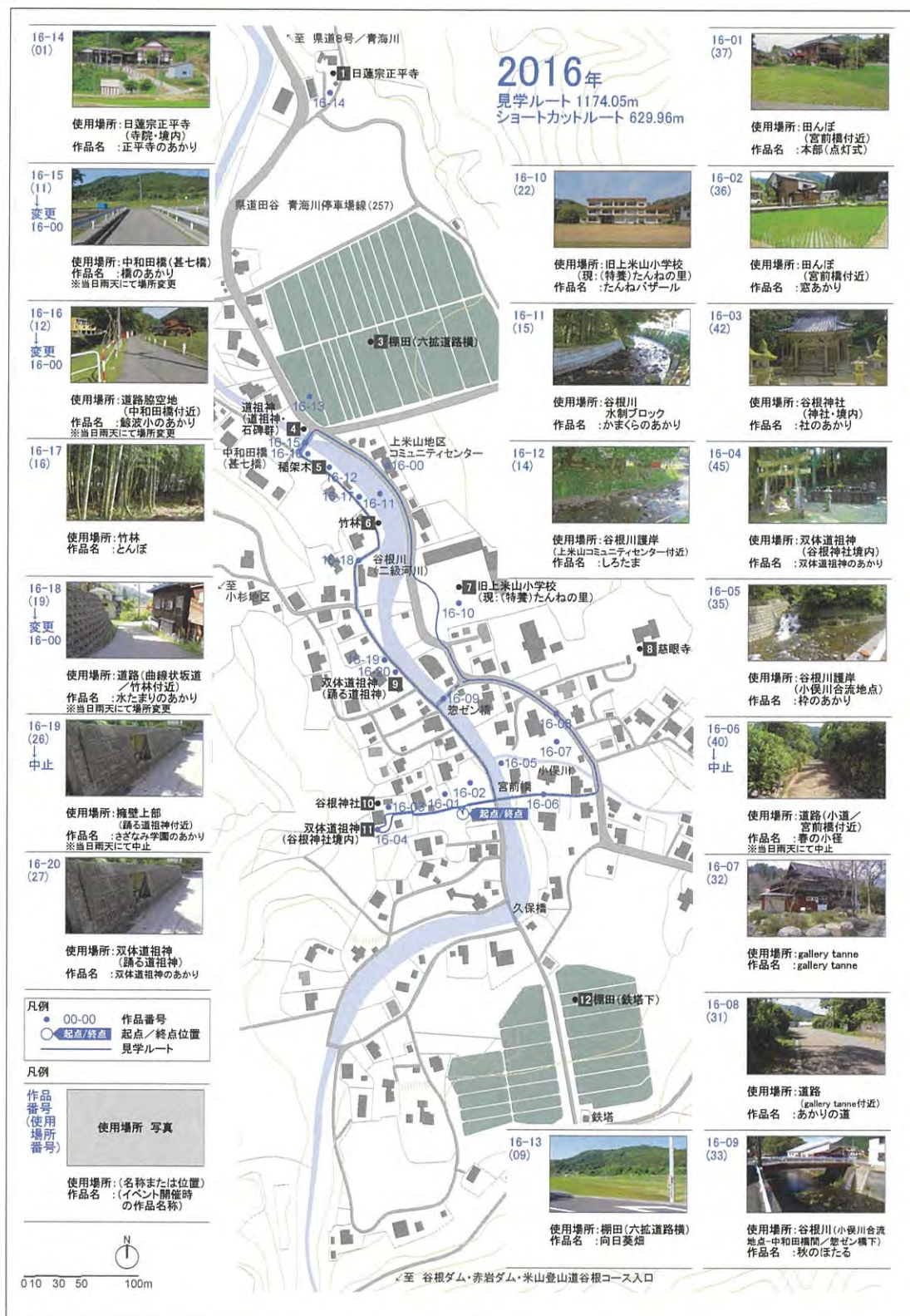


図 3-16 「たんのあかり 2016」使用場所の位置 (2016 年開催)

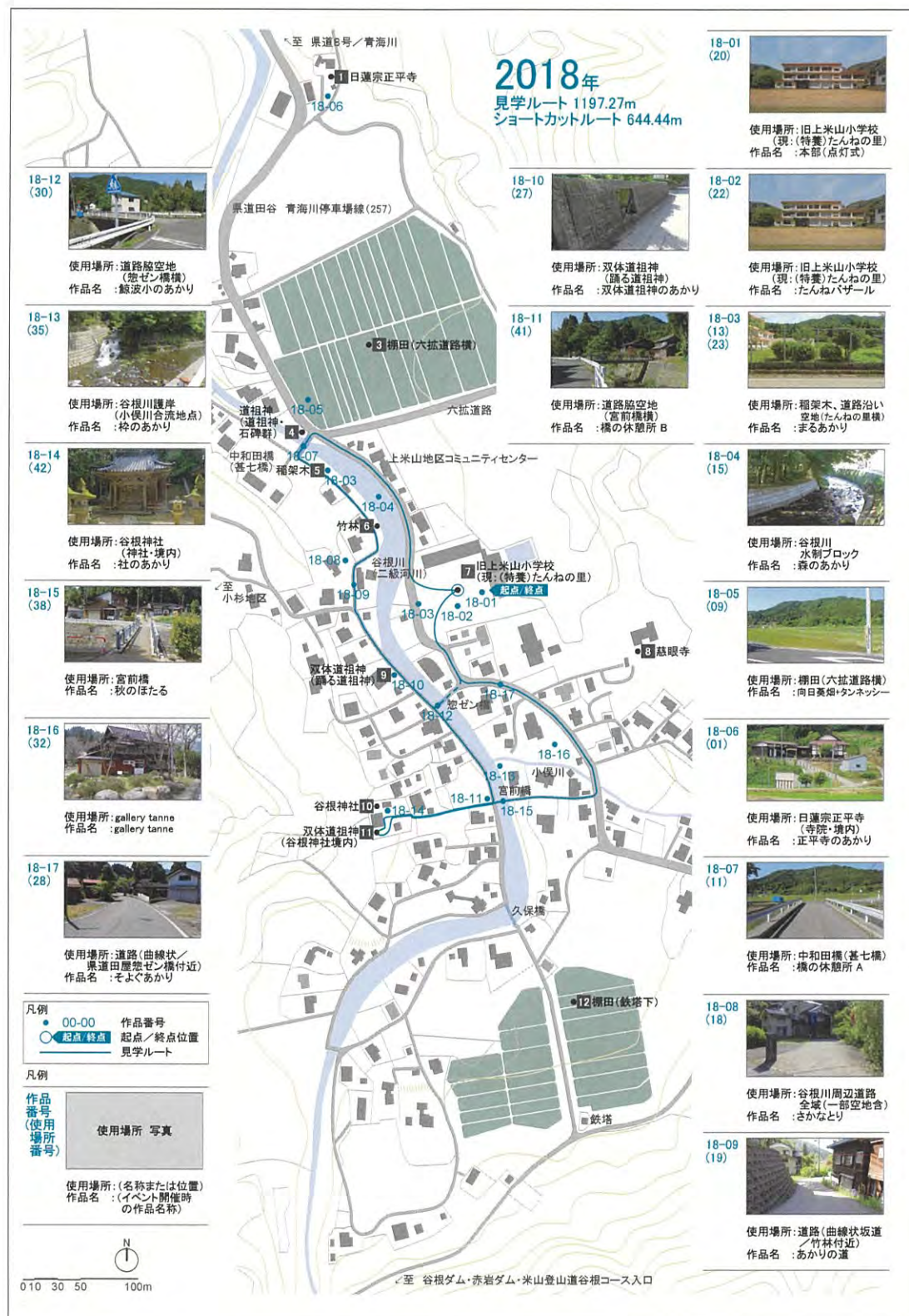


図 3-17 「たんねのあかり 2018」使用場所の位置 (2018 年開催)

3.4.3 「たんねのあかり」における使用場所の総数と位置

前項で述べたとおり、開催年ごとの使用場所は、2009 年 9 か所、2010 年 11 か所、2011 年 16 か所、2012 年 15 か所、2014 年 16 か所、2016 年 20 か所、2018 年 17 か所であった。これらの使用場所の中で、使用回数が 1 回のみのものであれば、複数回繰り返し使用された場所もあった。例えば、旧上米山小学校は、空間演出を行うとともに、イベント本部や物販、休憩や交流の拠点が配置されることが多かったため、複数回使用された場所であった。また、谷根川の水制ブロック上は、使用場所として作品設置の施工性がよいことと、道路からの視界が良好な位置であることから、繰り返し使われた場所であった。前項では、開催年ごとの使用場所とそれらの位置を地図上に示して、各使用場所の位置とイベント対象エリア全体の配置計画について情報を整理した。以上の開催年ごとに分けて整理したすべての使用場所を、一つの地図上にマッピングし、複数回使用した同一場所を統合した。その結果、7 回にわたるイベントを通じて、「たんねのあかり」における使用場所の総数は 66 か所であった。使用場所 66 か所の位置を図 3-18 に示す。使用場所 66 か所には通し番号をつけ、以後、その番号を本章においての使用場所の呼称とする。

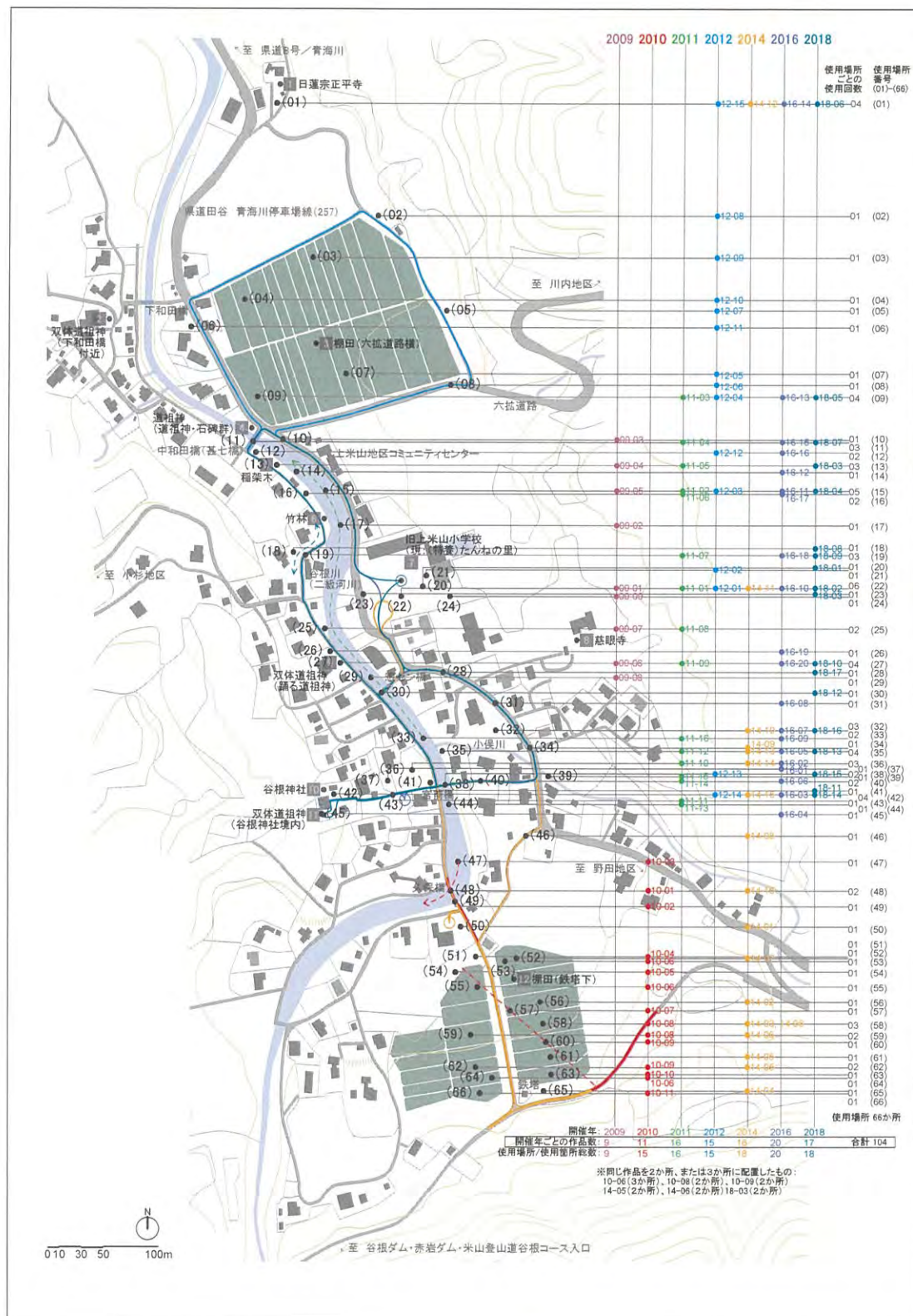


図 3-18 「たんねのあかり」使用場所 66 か所の位置

3.4.4 「たんねのあかり」における使用場所の特徴

「たんねのあかり」における使用場所 66 か所の使用場所番号と使用場所を表 3-1 示す。使用場所番号 (01) から (66) の作品番号、作品名、用途の種類、使用場所の種類を項目ごとに分類し、表 3-2 ①および表 3-2 ②に示す。作品番号と作品名は、本章 3.2 の図 3-3 から図 3-9 にて示したとおりである。

表 3-1 「たんねのあかり」使用場所 66 か所の使用場所番号と使用場所

使用場所番号	使用場所	使用場所番号	使用場所	使用場所番号	使用場所	使用場所番号	使用場所
(01)	日蓮宗正平寺 (寺院・境内)	(21)	旧上米山小学校	(41)	道路脇空地 (宮前橋横)	(61)	棚田 (鉄塔下)
(02)	棚田 (六広道路横) 脇空地+稲架木	(22)	旧上米山小学校	(42)	谷根神社 (神社・境内)	(62)	棚田 (鉄塔下)
(03)	棚田 (六広道路横)	(23)	道路沿い空地 (たんねの里横)	(43)	谷根神社参道	(63)	棚田 (鉄塔下)
(04)	棚田 (六広道路横)	(24)	旧上米山小学校など	(44)	谷根川 (宮前橋付近)	(64)	棚田 (鉄塔下)
(05)	棚田 (六広道路横) 脇空地	(25)	谷根川護岸 (踊る道祖神付近)	(45)	双体道祖神 (谷根神社境内)	(65)	田んぼ (ビニールハウスフレーム内)
(06)	上米山郵便局付近 広場	(26)	擁壁上部 (踊る道祖神付近)	(46)	道路 (曲線状/県道 田屋三叉路)	(66)	棚田 (鉄塔下)
(07)	棚田 (六広道路横)	(27)	双体道祖神 (踊る道祖神)	(47)	谷根川 (久保橋周辺)		
(08)	六広道路	(28)	道路 (曲線状/県道 田屋惣ゼン橋付近)	(48)	久保橋		
(09)	棚田 (六広道路横)	(29)	谷根川 (惣ゼン橋付近)	(49)	久保橋		
(10)	道路+中和田橋	(30)	道路脇空地 (惣ゼン橋横)	(50)	池田工務店工場前 広場		
(11)	中和田橋 (甚七橋)	(31)	道路 (gallery tanne 付近)	(51)	棚田 (鉄塔下) 脇空地		
(12)	道路脇空地 (中和田橋付近)	(32)	gallery tanne	(52)	棚田 (鉄塔下)		
(13)	稲架木	(33)	谷根川 (小俣川合流 地点-中和田橋間)	(53)	棚田 (鉄塔下)		
(14)	谷根川護岸 (上米山 コミュニティセンター付近)	(34)	道路+橋梁 (小俣川付近)	(54)	棚田 (鉄塔下) 脇空地+稲架木		
(15)	谷根川 (水制ブロック)	(35)	谷根川護岸 (小俣川合流地点)	(55)	棚田 (鉄塔下)		
(16)	竹林	(36)	田んぼ (宮前橋付近)	(56)	棚田 (鉄塔下)		
(17)	谷根川 (中和田橋- 惣ゼン橋間)	(37)	田んぼ (宮前橋付近)	(57)	棚田 (鉄塔下)		
(18)	谷根川周辺道路全 域 (一部空地含)	(38)	宮前橋	(58)	棚田 (鉄塔下)		
(19)	道路 (曲線状坂道 /竹林付近)	(39)	小俣川	(59)	棚田 (鉄塔下)		
(20)	旧上米山小学校	(40)	道路 (小道/宮前橋 付近)	(60)	棚田 (鉄塔下)		

表3-2① 「たんねのあかり」使用場所66か所の用途と場所の種類

使用場所番号 (01) - (33)

使用場所 番号	使用場所	作品番号	作品名 ※作品名・作品設置と 空間演出をした場所	用途の種類										使用場所の種類														文化的 要素	
				作品タイプ	交流・休憩					神社系				河川(谷根川・小俣川)				標田(○)・田んぼ(○)				*1	境内	参道	竹林	空地	擁壁		敷地内
					鑑賞	体験	物販	飲食	休憩	参拝	川面	水側	空中	護岸	水面	地面	扇空地	道路	橋梁	広場									
(01)	日蓮宗正平寺(寺院・境内)	12-15	正平寺のあかり	○																	○	△							●
		14-12	正平寺のあかり	○																	○	△							●
		16-14	正平寺のあかり	○																	○	△							●
		18-06	正平寺のあかり	○																	○	△							●
(02)	標田(六松道路橋)扇空地+稲架木	12-08	はさ木のあかり	○	○											○													●
(03)	標田(六松道路橋)	12-09	しろたま	○													○												●
(04)	標田(六松道路橋)	12-10	たんねッシー	○														○											●
(05)	標田(六松道路橋)扇空地	12-07	いろたま	○														○											●
(06)	上米山郵便局付近広場	12-11	野点のあかり	○				○	○											○									●
(07)	標田(六松道路橋)	12-05	あかりの森	○												○													●
(08)	六松道路	12-06	あかりの道	○	○														○										●
(09)	標田(六松道路橋)	11-03	向日葵2011	○														○											●
		12-04	向日葵2012	○															○										●
		16-13	向日葵畑	○																○									●
		18-05	向日葵畑+タンネッシー	○																	○								●
																						○	△						
(10)	道路+中和田橋	09-03	道路+橋	○	○															○	△								
(11)	中和田橋(蒼七橋)	11-04	橋のあかり	○																									
		16-15	橋のあかり	○*	○*															○*									
		18-07	橋の休憩所A	○	○				○											○									
		12-12	ひだまり作品	○																							○		
(12)	道路扇空地(中和田橋付近)	16-18	緑波小のあかり	○*																						○*			
		09-04	はさ木	○	○																					○			●
(13)	稲架木	11-05	はさ木のあかり	○																						○			●
		18-03	まるあかり	○																					○			●	
(14)	谷根川護岸(上米山コミュニティセンター付近)	16-12	しろたま	○										○															
(15)	谷根川(水刺ブロック)	09-05	しろたま	○																									
		11-02	秋のぼたる	○									△	○															
		12-03	秋のぼたる	○									△	○															
		16-11	かまくらのあかり	○									○																
		18-04	森のあかり	○									○																
		11-06	いろたま	○																						○			●
(16)	竹林	16-17	とんぼ	○																						○		●	
		09-02	クローバー	○																						○		●	
(17)	谷根川(中和田橋-窓ゼン橋間)	09-02	クロアバー	○									○																
(18)	谷根川周辺道路全域(一部空地含)	18-05	さかなり	○	○										△					○	△	△	△	△	△	△	△	△	
(19)	道路(曲線状坂道/竹林付近)	11-07	道のあかり	○	○															○									
		16-18	水たまりのあかり	○*	○*															○*									
		16-09	あかりの道	○	○															○									
(20)	旧上米山小学校	18-01	本部(点灯式)	○																									●
(21)	旧上米山小学校	12-02	たんねの星作品	○																									●
(22)	旧上米山小学校 (現:(特選)たんねの星) ※2009年開催時のみ 「上米山小学校」と表記する	09-01	上米山小学校(校舎・校庭)	○		○	○	○	○												○								●
		11-01	たんね(点灯式)	○		○	○	○	○												○								●
		12-01	たんね(点灯式)	○		○	○	○	○												○								●
		14-11	たんねバザール	○		○	○	○	○												○								●
		16-10	たんねバザール	○		○	○	○	○												○								●
		18-02	たんねバザール	○		○	○	○	○												○								●
(23)	道路沿い空地(たんねの星橋)	18-03	まるあかり	○																					○				
(24)	旧上米山小学校など	09-09	その他(鏡/提灯)	○																									
(25)	谷根川護岸(語る道祖神付近)	09-07	農具・民具	○											○														
		11-08	あかり箱	○												○													
(26)	鏡屋上部(語る道祖神付近)	16-19	さざなみ学園のあかり	○**																							○**		
		09-06	道祖神	○																	○								●
		11-09	道祖神	○																	○								●
		16-20	豆体道祖神のあかり	○																	○								●
		18-10	豆体道祖神のあかり	○																	○								●
(28)	道路(曲線状/東道田豊祭ゼン橋付近)	18-17	そよごあかり	○	○																								
(29)	谷根川(窓ゼン橋付近)	09-08	いまだ	○									○																
(30)	道路扇空地(語る道祖神)	18-12	緑波小のあかり	○																						○			
(31)	道路(gallery tanne付近)	16-08	あかりの道	○	○																○								
(32)	gallery tanne	14-10	gallery tanne	○		○	○	○	○																			○	
		16-07	gallery tanne	○		○	○	○	○																			○	
		18-16	gallery tanne	○		○	○	○	○																				○
		11-16	川のももり	○																									
(33)	谷根川(小俣川合流地点-中和田橋間)	11-16	川のももり	○											○														
		16-09	秋のぼたる	○										△	○							△							

表3-2② 「たんねのあかり」使用場所66か所の用途と場所の種類

使用場所番号 (34) - (66)

使用場所 番号	使用場所	作品 番号	作品名 ※作品名・作品設置と 空間演出をした場所	用途の種類										使用場所の種類														文化 的要素																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
				作品タイプ	交流・休憩	神社等	河川(谷根川・小俣川)	標田(○)・田んぼ(△)	水田	地面	橋空地	道路	橋梁	広場	境内	参道	竹林	空地	側道	敷地内																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
(34)	道路+橋梁(小俣川付近)	14-09	あかりの道しるべ	○	○												○	△																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
(35)	谷根川橋岸(小俣川合流地点)	11-12	わく	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		14-13	神のあかり	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		16-05	神のあかり	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		18-13	神のあかり	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
(36)	田んぼ(宮前橋付近)	11-10	たんねッシー	○														○+																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		14-14	野点のあかり	○				○	○										○+																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		16-02	窓あかり	○															○+																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
(37)	田んぼ(宮前橋付近)	16-01	本部(点灯式)	○					○										○+																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
(38)	宮前橋	12-13	あかりの稲穂	○	○							△									○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		18-15	秋のほたる	○	○							△										○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(39)	小俣川	11-15	風のあかり	○								○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
(40)	道路(小俣川/宮前橋付近)	11-14	稲穂トンネル	○	○																○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		16-06	夢の小径	○**	○**																	○**																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(41)	道路脇空地(宮前橋横)	18-11	橋の休憩所B	○	○				○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
(42)	谷根神社(神社・境内)	12-14	谷根神社	○	○					○																							●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		14-15	社のあかり	○	○						○																						●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		16-03	社のあかり	○	○						○																						●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		18-14	社のあかり	○	○						○																						●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(43)	谷根神社参道	11-11	谷根神社参道	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
(44)	谷根川(宮前橋付近)	11-13	しろたま	○						○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
(45)	双体道祖神(谷根神社境内)	16-04	双体道祖神のあかり(境内)	○						○																							●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(46)	道路(曲線状/県道田屋三叉路)	14-08	あかりの道	○	○													○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
(47)	谷根川(久保橋周辺)	10-03	しろたまの道	○							○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
(48)	久保橋	10-01	実りのあかり	○	○																○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		14-16	あかりの稲穂	○	○																	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(49)	久保橋	10-02	学生作品A	○	○				○												○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
(50)	池田工務店工場前広場	14-01	本部(点灯式)	○					○													○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(51)	標田(鉄塔下)橋空地	10-04	学生作品B	○	○																		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
(52)	標田(鉄塔下)	14-07	両日葉図	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(53)	標田(鉄塔下)	10-06	雪のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(54)	標田(鉄塔下)橋空地+稲葉木	10-05	はさ木のあかり	○																	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
(55)	標田(鉄塔下)	10-08	雪のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(56)	標田(鉄塔下)	14-02	あかりのテーブル	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(57)	標田(鉄塔下)	10-07	結びのあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(58)	標田(鉄塔下)	10-08	月のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		14-06	あかりのドーム	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(59)	標田(鉄塔下)	10-08	月のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		14-03	あかりのネックレス	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		14-06	あかりのドーム	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(60)	標田(鉄塔下)	10-09	山のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(61)	標田(鉄塔下)	14-05	あかりのアーチ	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(62)	標田(鉄塔下)	10-09	山のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		14-05	あかりのアーチ	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(63)	標田(鉄塔下)	10-10	両日葉図	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(64)	標田(鉄塔下)	10-06	雪のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(65)	田んぼ(ビニールハウスフレーム内)	14-04	秋のほたる	○																○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
(66)	標田(鉄塔下)	10-11	星のあかり	○																○													●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
使用場所: 66か所				使用場所の総使用回数: 111				使用場所の使用回数(○印のみ):				19											33											16											8											11											9											1											2											8											1											3											50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

使用場所の種類 凡例

○ : 使用場所

○* : 当日雨天にて場所変更

*1 : 広場は、旧上米山小学校校庭

△ : 補助的な使用場所

○** : 当日雨天にて中止

(2009年当時)および福祉施設

グラウンドを含む

使用場所66か所の分類				箇所数 合計
分類	場所別分類	箇所数	場所数	
河川	谷根川	9 広場	8	66
	小俣川	1 境内・参道	4	
標田	六松道路橋	6 竹林	1	5
	鉄塔下	16 道路脇空地	5	
田んぼ		2 野原	1	1
道路		10 施設内敷地	1	
橋梁		4		

使用場所 66 か所を、用途の種類ごとに、「①作品」、「②交流・休憩（物販、飲食、休憩）」、「③神社など（参拝）」に分類する。用途の種類では、(01) から (66) の使用場所は、作品を配置した空間演出の対象場所であり、「たんねのあかり」における作品である。

＜使用場所の用途の種類＞

① 作品

作品タイプでは、すべて鑑賞する対象であり、「鑑賞型」の作品であった。「たんねのあかり」において、「鑑賞型」の作品とは、見学ルートまたは使用場所から眺めることができるタイプの作品を指す。また、「鑑賞型」の作品の中には、鑑賞の対象になると同時に「体験型」となる作品もあった。「体験型」の作品とは、見学ルートまたは使用場所から眺めることができ、さらに鑑賞と同時に、作品に触れたり、演出空間を通り抜けたりするタイプの作品を指す。

体験型の作品は、道路や橋梁の路面や欄干を用いて演出を施し、道路空間や橋上空間を歩行しながら演出空間を体験する (08)、(10)、(11) 11-04 と 16-15、(18)、(19)、(28)、(31)、(34)、(38)、(40)、(41)、(43)、(46)、(48) があった。また、学生らが制作したベンチや遊具の作品を配置した (11) 18-07、(49)、(51) は、イベント時の来訪者に実際に使用された体験型の作品であった。(02)、(13) 09-04 は、稲架木を用いてトンネル、またはゲートのような形状をした作品であった。イベント時の来訪者は、作品にとりつけた竹鳴子を鳴らしたり、トンネル状の空間を通過して自分が影絵のモチーフとなったりする体験ができる作品であった。(42) は、谷根神社の境内である。参拝だけではなく、谷根神社の位置する高台から谷根地区を眺めることや、石仏群や稲荷神社を見学するなど、境内に滞留できるように作品群を配して空間演出が行われた。これらの作品は、使用場所に滞留することで谷根地区の地域資源や景観資源によって形成された空間を体験する作品といえる。

② 交流・休憩（物販、飲食、休憩）

交流・休憩の使用場所は、(06)、(11) 18-07、(22)、(32)、(36) 14-14、(37)、(41)、(49)、(50) であり、イベント時の地元産物販売や飲食店、休憩所などが設けられ、空間演出が施された対象場所であった。

③ 神社等（参拝）

神社等は、(27)、(42)、(45) であり、谷根神社と双体道祖神のある使用場所で、参拝のためにイベント時の来訪者が訪れる場所でもあった。

「たんねのあかり」では、谷根地区中心部のおもに河川空間、棚田、道路空間を使用して、体験型を含む作品鑑賞の空間を演出し、旧上米山小学校の校庭をイベントの本部や物販、飲食、休憩などの人びとが集まる拠点として、イベントの会場構成が行われた⁹⁾。第2章で述べたとおり、谷根地区中心部の地理的特徴は、地区のほぼ中央部の南北方向に谷根川が流れ、その谷根川を囲むように、河川形状に沿った緩やかな曲線形状の道路が配され、南端部と北

端部に2つの棚田が、その中心部を挟むように位置している。そして、南北2つの棚田の間の谷根地区中心部のほぼ中央の位置に、旧上米山小学校（現：特別養護老人ホームたんねの里）がある。旧上米山小学校の校庭は、谷根地区住民が地区の催しや祭事を行う場所であり、生活の中の拠点でもある。「たんねのあかり」において、作品が配置され、演出が施された使用場所かつ交流・休憩空間であった（22）旧上米山小学校の校庭は、もともと人びとが集うための敷地の規模をもち、地区内でアクセスしやすい位置にあったことがわかる。

66か所の使用場所を種類ごとに、「①河川（谷根川・小俣川）」、「②棚田（田んぼ含む）」、「③道路」、「④橋梁」、「⑤広場」、「⑥境内（寺院・神社）」、「⑦参道」、「⑧竹林」、「⑨道路脇空地」、「⑩擁壁」、「⑪施設敷地内」の11項目に分類する。開催年によって、イベント対象エリアは異なるものの、メイン演出場所と設定した使用場所は、おもに谷根地区中心部の谷根川と谷根川沿いの道路、地区北側と南側の2か所の棚田周辺である。

<使用場所の種類>

① 河川（谷根川・小俣川）

谷根川の河川空間と護岸に設定された使用場所は、(14)、(15)、(17)、(25)、(29)、(33)、(35)、(44)、(47)の9か所である。(39)は小俣川の河川空間の1か所である。

② 棚田（田んぼ含む）

「たんねのあかり 2012」では、メイン演出場所は北側の棚田（六広道路横）と設定され、(02)、(03)、(04)、(05)、(07)、(09)の6か所が使用場所である。なお、(02)の棚田脇空地も棚田に分類する。「たんねのあかり 2010」と「たんねのあかり 2014」では、メイン演出場所は南側の棚田（鉄塔下）と設定され、(51)、(52)、(53)、(54)、(55)、(56)、(57)、(58)、(59)、(60)、(61)、(62)、(63)、(64)、(65)、(66)の16か所の使用場所が棚田内に点在している。なお、(51)と(54)の棚田脇空地、および棚田上段部分の(65)田んぼ（ビニールハウスフレーム内）も棚田に分類する。田んぼと分類する使用場所は、(36)、(37)の2か所であり、「たんねのあかり 2016」では、メイン演出場所と里神楽の舞台が配置された。

③ 道路

道路空間で使用場所と設定されたものは、(8)(10)、(18)、(19)、(27)、(28)、(31)、(34)、(40)、(46)の10か所である。なお、(27)は、双体道祖神（踊る道祖神）が擁壁のくぼみ部分に祀られている場所である。演出が施される際に、擁壁のくぼみ部分と前面の道路が用いられたことから、道路空間を使用場所として分類する。

④ 橋梁

谷根川に架かる橋梁の橋上、桁下空間に設定された使用場所は、(11)中和田橋、(38)宮前橋、(48)と(49)久保橋の4か所である。

⑤ 広場

(06)上米山郵便局付近広場、(20)、(21)、(22)、(24)の旧上米山小学校と校庭（現：

(特養) たんねの里グラウンド)、(50) 池田工務店工場前広場の6か所の使用場所は広場と分類する。(06) および(50) は通常、駐車場としても使われる場所だが、イベント開催時にはイベント本部や里神楽の舞台、休憩所を配する広場として開放された。また、旧上米山小学校の校庭には、イベント本部や地元物産展と飲食店、休憩所が配置され、交流・休憩のための広場が演出された。

⑥境内(寺院・神社)

(01) 日蓮宗正平寺、(42) 谷根神社、(45) 双体道祖神(谷根神社境内)の3か所は、境内に分類する。(01) は、棚田越しに眺める遠景の演出として、あかりの作品が施された。

⑦参道

参道に分類する(43) 谷根神社参道は、谷根川に架かる宮前橋と高台に位置する谷根神社との間の斜面に位置している、道路部分と階段部分から成る参道である。

⑧竹林

竹林に分類する(16) 竹林は、谷根川と道路に挟まれた場所に位置している。

⑨道路脇空地

道路脇空地と分類する使用場所は、(12) 中和田橋付近の橋詰空間でもある空地、(13) 稲架木が置かれている空地、(23) 旧上米山小学校横の道路脇の空地、(30) 惣ゼン橋付近の橋詰空間でもある空地、(41) 宮前橋付近の橋詰空間でもある空地の5か所である。

⑩擁壁

擁壁に分類する使用場所は、(26) 擁壁上部(踊る道祖神付近)の1か所である。(26) は、(27) 双体道祖神(踊る道祖神) 付近の擁壁上に設定された場所である。

⑪施設内敷地

施設内敷地に分類する使用場所は、(32) gallery tanne の1か所である。(32) は、休憩場所が提供され、敷地内の庭部分に演出が施された使用場所である。

以上をまとめると、「たんねのあかり」における使用場所66か所は、河川空間では谷根川9か所と小俣川1か所、棚田では六抔道路横6か所と鉄塔下16か所、田んぼ2か所、道路空間10か所、橋梁4か所、広場6か所、境内3か所、参道1か所、竹林1か所、道路脇空地5か所、擁壁1か所、施設内敷地1か所に分類された。

前述の「たんねのあかり」における使用場所の種類ごとに箇所数を比較すると、谷根地区中心部の中央に位置する谷根川の河川空間に9か所、谷根川を取り囲むように配された道路空間に10か所、谷根地区の北側の棚田(六抔道路横)に6か所、南側の棚田(鉄塔下)に16か所と、これらの場所に使用場所が数多く設定されたことがわかった。これらの使用場所は、谷根地区中心部の中央に位置する河川と周回する道路、南北それぞれの低地から丘陵地へかけての端部に位置する棚田という、谷根地区の地形の特徴が表れている場所である。また、これらの場所は、「たんねのあかり」開催に向けた、谷根地区中心部でのフィールドワーク調査において、調査者が自身の立ち位置を把握するときの基準となった場所で

あった。そして、旧上米山小学校や谷根神社、稲架木や道祖神などの文化的要素が地域の特徴的な地形の中に点在し、「たんねのあかり」では、これらの要素群を見学ルートでつないでいくように計画された。「たんねのあかり」における使用場所の特徴は、谷根地区中心部の地形の特徴が表れている河川、道路、棚田の位置を基準とし、これらの基準となった場所を文化的要素群が取り囲むように点在しているという関係があることがわかった。

「たんねのあかり」は、これまで述べてきた谷根地区中心部の 66 か所の使用場所に、作品の配置と空間演出が施された、谷根地区の里地里山を舞台に展開したアートイベントであった。地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって、棚田や河川、橋梁、道路、神社などの外部空間を使用場所として、作品配置と空間演出が行われ、これらの使用場所をつなぐ見学ルートが設定された。イベント時の来訪者は、見学ルートに沿って地域を歩き、作品群を鑑賞した。この見学ルートは、言い換えれば、作品である使用場所を見るための連続した視点位置であると考えられる。「たんねのあかり」において、使用場所を見る視点位置は、歩行空間である見学ルートの設定から、おもに道路空間と橋上空間であった。一方、旧上米山小学校の校庭や谷根神社は、これらの用途の種類から、人びとが滞留する空間であり、同時に使用場所を見る視点位置でもあった。

以上から、「たんねのあかり」における使用場所は、谷根地区中心部の地形、および地域を構成する文化的要素の配置などの特徴から設定された 66 か所であった。これらの 66 か所の使用場所は、作品が配置されて空間演出が行われた場所であり、同時に、その場所自体が「たんねのあかり」において作品として扱われた。「たんねのあかり」では、イベント時の来訪者が、谷根地区中心部に点在する使用場所の作品群を鑑賞するために、見学ルートが設定された。この見学ルートは、作品を見るための連続した視点位置であった。また、作品が配置され、空間演出が行われた使用場所は、鑑賞の対象として、人が使用場所の外側から見る対象であり、同時に、その使用場所の内側から、別の使用場所を対象として見るときの視点位置になるという場所の特徴があると考えられる。「たんねのあかり」の使用場所の中で、このような特徴をもつ場所を例示すると、谷根川の橋上空間が挙げられる。具体的な使用場所で事例を挙げると、谷根川沿いの道路“(10) 道路+中和田橋”を歩く人が、作品が配置され空間演出された橋上空間“(11) 中和田橋(甚七橋)”を見て、その橋上空間“(11) 中和田橋(甚七橋)”にいる人が、橋詰空間付近の使用場所となった文化的要素の稲架木“(13) 稲架木”を見ている状態が生じるような場所の特徴をもつ橋上空間である。そして、見学ルートは、イベント時の来訪者が対象を見るための連続した視点位置としての場所の特徴をもつと考えられる。「たんねのあかり」は、おもに作品を鑑賞するアートイベントであったことから、作品が配置されて空間演出が施された使用場所の特徴をさらに把握するには、作品を見る視点位置についても分析する必要がある。よって、次節では、「たんねのあかり」で開催年ごとに視点位置として設定された見学ルートについて分析を行う。

3.5 開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析

3.5.1 開催年ごとの見学ルートの特徴と分類

前節の図3-11から図3-17にて、使用場所の位置とともに地図上に示した見学ルートを、開催年ごとに抽出する。「たんねのあかり」の見学ルートは、イベント時の来訪者が対象である使用場所を見るための連続した視点位置として設定された。7回開催された「たんねのあかり」の7点の見学ルートを図3-19に示す。図3-19では、「たんねのあかり」開催年ごとのイベント対象エリアの位置図に、開催年ごとの対象エリアの範囲を枠線にて図示する。また、開催年ごとに、使用場所の位置（作品番号を付記）、見学ルート、起点と終点の位置、滞留空間の位置を地図に示す。なお、「たんねのあかり」の見学ルート設定において、7回の開催で共通して、開催年ごとに起点と終点は同位置とした。開催年ごとの見学ルートの概要を、以下にまとめる。

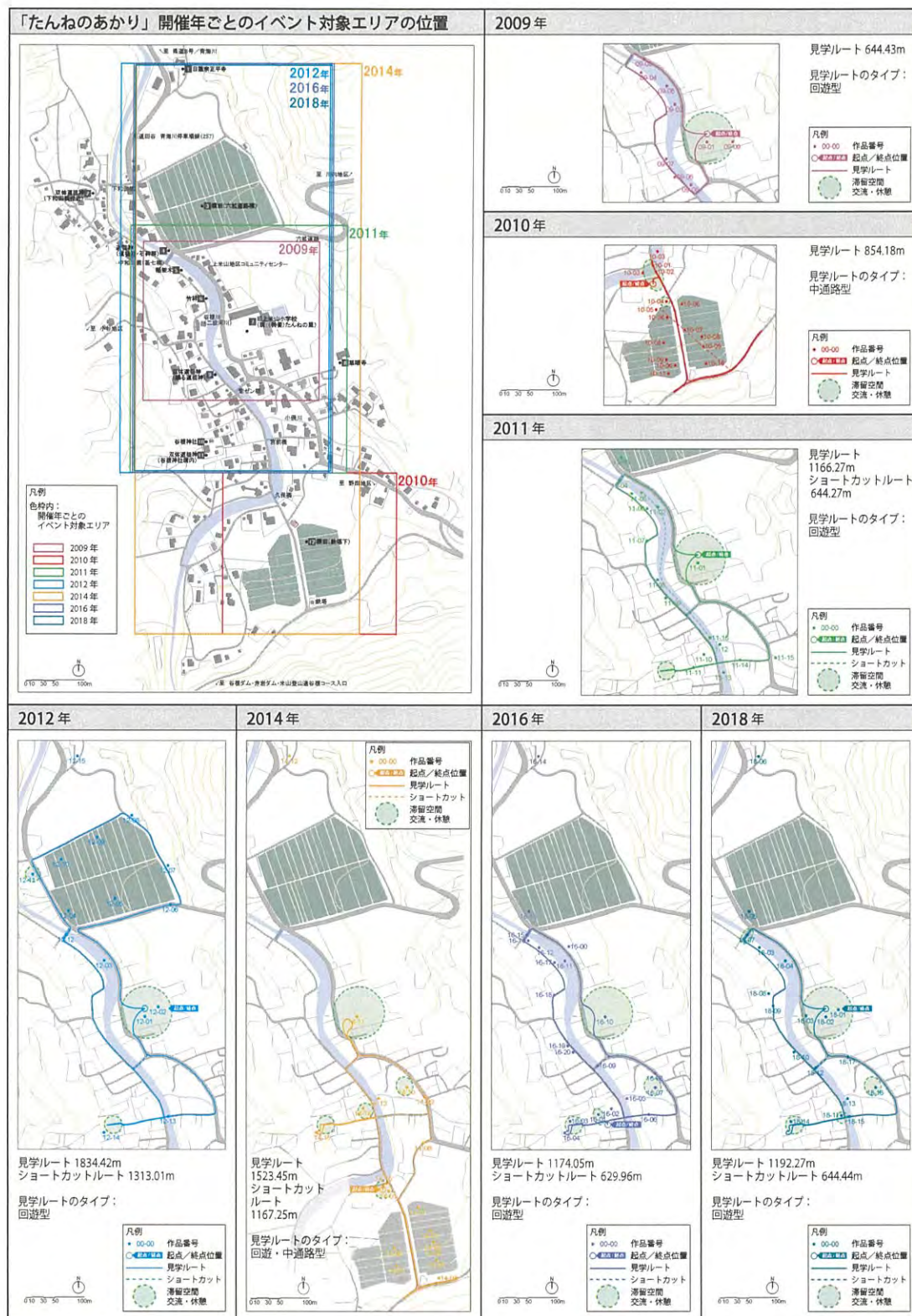


図 3-19 「たねのあかり」開催年ごとの見学ルート

＜開催年ごとの見学ルート概要＞

・「たんねのあかり 2009」:

2009 年開催時のイベント対象エリアは、柏崎市立上米山小学校（以後、本章において「上米山小学校」という）をメイン演出場所として、谷根川の中和田橋から惣ゼン橋までの間を目安に設定された。見学ルートは、上米山小学校を起点として、谷根川沿いの道路を北上し、中和田橋を渡り、文化的要素である稲架木、双体道祖神の場所を巡りながら南下し、惣ゼン橋を渡って終点である上米山小学校に戻る経路が計画された。また、谷根川を使用場所として、川面に作品群を配する演出が施された。これらの演出をさまざまな方向から鑑賞できるように、「回遊型」の見学ルートが設定された。本論文において、「回遊型」の見学ルートとは、起点と終点を同位置として、出発地点の起点から、谷根川や棚田（六拡道路）などの中心となるものを取り囲むように進み、点する場所を巡って、ふたたび出発地点であった終点へと戻ることが可能なつながりをもつ経路形状の見学ルートを指す。

見学ルートの距離は、644.43mであった。見学ルートの起点と終点とした上米山小学校には、本部と物販、飲食所などが設けられた。滞留空間は、上米山小学校の1か所であった。

・「たんねのあかり 2010」:

2010 年開催時のイベント対象エリアは、谷根地区中心部南側の棚田（鉄塔下）をメイン演出場所として、棚田（鉄塔下）付近の谷根川と久保橋周辺に設定された。見学ルートは、工務店工場前広場を起点として、棚田（鉄塔下）の中央を通る道路を丘陵部に向けて上り、棚田最上部の左右に枝分かれする道路から棚田（鉄塔下）を一望し、ふたたび同じ棚田（鉄塔下）の中央の道路を下り、久保橋の橋上空間にて谷根川の川面の演出空間を眺め、ベンチで休憩して、終点の工務店工場前広場に戻る経路が計画された。棚田（鉄塔下）中央の道路を歩きながら、左右に広がる棚田に点する作品群を眺める「中通路型」の見学ルートが設定された。本論文において、「中通路型」の見学ルートとは、起点と終点を同位置として、出発地点の起点から、棚田（鉄塔下）のような、ある広がりをもつ場所の中央を通る道路を往復し、ふたたび出発地点であった終点に戻ることが可能なつながりをもつ経路形状の見学ルートを指す。見学ルートの距離は、854.18mであった。滞留空間は、見学ルートの起点と終点とした工務店工場前広場と広場前の道路、および久保橋の周囲を一つのまとまりとして1か所と、棚田（鉄塔下）脇の空地に設置された学生作品の子どもの遊具の1か所、合計2か所が設けられた。

・「たんねのあかり 2011」:

2011 年開催時のイベント対象エリアは、谷根川をメイン演出場所として、中和田橋から宮前橋付近までの谷根川とその周辺、および旧上米山小学校、谷根神社の境内と参道を含み設定された。見学ルートは、旧上米山小学校を起点として、谷根川沿いの道路を北上し、中和田橋を渡り、稲架木、竹林、双体道祖神の場所を巡りながら南下し、谷根神社に立ち寄り、宮前橋を渡って終点である上米山小学校に戻る経路が計画された。また、中和田橋と宮前橋の間に位置する惣ゼン橋を渡ることで、見学ルートをショートカットできるように計

画された。2009 年の見学ルートは、中和田橋と惣ゼン橋の 2 本の橋梁間に設けられ、2010 年の見学ルートには、久保橋の 1 本の橋梁のみが位置していた。これらの見学ルート上には、谷根川を渡って経路のショートカットが可能となる橋梁は位置していなかった。2011 年の見学ルートには、中和田橋、惣ゼン橋、宮前橋の 3 本の橋梁があったことから、谷根川の川東側と川西側を往来する経路選択の自由度が増すように、ショートカットルートが設定された。ショートカットルートが設定されたおもな理由は、見学ルートの延長による目的地への移動の不便さを軽減するためであった。具体的には、案内所と救護所、休憩所、販売所などを設けた本部が置かれた、旧上米山小学校への移動の利便性を見学ルートにおいて提供するためであった。2009 年の配置計画と同様に、谷根川を中心に谷根地区中心部を巡る「回遊型」の見学ルートが設定された。見学ルートの距離は 1166.27m、ショートカットルートの距離は 644.27m であった。滞留空間は、本部と物販、飲食所などが設けられた旧上米山小学校と谷根神社の境内の 2 か所であった。

・「たんねのあかり 2012」:

2012 年開催時のイベント対象エリアは、谷根地区中心部北側の棚田（六抔道路横）をメイン演出場所として、中和田橋から宮前橋付近までの谷根川とその周辺、および旧上米山小学校、谷根神社と日蓮宗正平寺の境内と参道を含み設定された。谷根地区中心部の北端の高台に位置する日蓮宗正平寺は、見学ルート上に位置していないが、棚田越しの遠景の演出としてイベント対象エリアに含まれた。見学ルートは、旧上米山小学校を起点として、谷根川沿いの道路を北上し、六抔道路を棚田（六抔道路横）に配された作品群を眺めながら丘陵部に向けて上り、棚田（六抔道路横）の周囲を回り、上米山郵便局付近広場の休憩場所を通り、中和田橋を渡って谷根川沿いの道路を南下し、谷根神社に立ち寄り、宮前橋を渡って終点である上米山小学校に戻る経路が計画された。また、2011 年開催時と同様に惣ゼン橋を渡ること、見学ルートをショートカットできるように計画された。棚田（六抔道路横）と谷根川を中心に谷根地区中心部を巡る「回遊型」の見学ルートが設定された。見学ルートの距離は 1834.42m、ショートカットルートの距離は 1313.01m であった。滞留空間は、本部と物販、飲食所などが設けられた旧上米山小学校、野点の場所を設けた上米山郵便局横広場、谷根神社の境内の 3 か所であった。

・「たんねのあかり 2014」:

2014 年開催時のイベント対象エリアは、谷根地区中心部南側の棚田（鉄塔下）をメイン演出場所として、棚田（鉄塔下）と物販、飲食所などが設けられた旧上米山小学校の二拠点をつなぐように、谷根川とその周辺、および谷根神社と日蓮宗正平寺の境内と参道を含んで設定された。日蓮宗正平寺は、棚田越しの遠景の演出となった。見学ルートは、2010 年開催時と同様に、工務店工場前広場を起点として、棚田（鉄塔下）の中央を通る道路を丘陵部に向けて上り、棚田最上部の左右に枝分かれする道路から棚田（鉄塔下）を一望し、ふたたび同じ棚田（鉄塔下）の中央の道路を下り、東側へ道路を曲がり、galley tanne 前を通って旧上米山小学校に向かい、惣ゼン橋を渡って、谷根神社に立ち寄り、久保橋を渡って、終

点の工務店工場前広場に戻る経路が計画された。棚田（鉄塔下）の中央を通る道路を歩く中通路型と、谷根川を中心に谷根地区中心部を巡る回遊型を組み合わせた、「回遊・中通路型」の見学ルートが設定された。本論文において、「回遊・中通路型」の見学ルートとは、「回遊型」の見学ルートと「中通路型」の見学ルートを組み合わせた経路形状の見学ルートを指す。また、谷根神社参道と宮前橋に続く道路がショートカットの経路として設定された。見学ルートの距離は1523.45m、ショートカットルートの距離は1167.25mであった。滞留空間は、本部と里神楽の舞台が設けられた工務店工場前広場、galley tanne、旧上米山小学校、宮前橋付近の田んぼに設けられた野点の場所、谷根神社の境内の5か所であった。

・「たんねのあかり 2016」:

2016 年開催時のイベント対象エリアは、谷根神社参道横の田んぼ（宮前橋付近）をメイン演出場所として、中和田橋から宮前橋付近までの谷根川とその周辺、および旧上米山小学校、谷根神社と日蓮宗正平寺の境内と参道を含んで設定された。日蓮宗正平寺は、棚田越しの遠景の演出となった。見学ルートは、本部を置いたメイン演出場所の田んぼ（宮前橋付近）を起点とし、谷根神社を訪れ、宮前橋を渡って続く道路を進み、galley tanne 前を通って旧上米山小学校の校庭を経由して、棚田（六抔道路横）と遠景の日蓮宗正平寺を眺め、中和田橋を渡り、竹林、双体道祖神の場所を巡りながら谷根川沿いの道路を南下して、終点である田んぼ（宮前橋付近）に戻る経路が計画された。また、惣ゼン橋を渡ること、見学ルートをショートカットできるように計画された。2009 年と 2011 年の配置計画と類似した、谷根川を中心に谷根地区中心部を巡る「回遊型」の見学ルートが設定された。見学ルートの距離は1174.05m、ショートカットルートの距離は629.96mであった。滞留空間は、本部と里神楽の舞台が設けられた田んぼ（宮前橋付近）、谷根神社の境内、galley tanne、旧上米山小学校の4か所であった。

・「たんねのあかり 2018」:

2018 年開催時のイベント対象エリアは、谷根川と谷根川を周回する道路や橋梁をメイン演出場所として、中和田橋から宮前橋付近までの谷根川とその周辺、および旧上米山小学校、谷根神社の境内と参道を含んで設定された。見学ルートは、旧上米山小学校を起点として、谷根川沿いの道路を北上し、棚田（六抔道路横）と遠景の日蓮宗正平寺を眺め、休憩場所を設けた中和田橋を渡り、稲架木、双体道祖神の場所を巡って、谷根神社に立ち寄り、参道の先に設けた休憩場所を経由し、宮前橋を渡って続く道路を進み、galley tanne 前を通って終点である旧上米山小学校に戻る経路が計画された。また、惣ゼン橋を渡ること、見学ルートをショートカットできるように計画された。2011 年の配置計画とほぼ同じ経路を用いた、谷根川を中心に谷根地区中心部を巡る「回遊型」の見学ルートが設定された。見学ルートの距離は1192.27m、ショートカットルートの距離は644.44mであった。滞留空間は、本部と物販、飲食所などが設けられた旧上米山小学校、学生作品のスツールが置かれ休憩場所となった中和田橋の橋上空、野点の演出が施された休憩場所となった宮前橋横の道路脇空地、galley tanne、谷根神社の境内の5か所であった。

以上から、開催年ごとの見学ルートの特徴と分類の分析について、以下の4項目に整理してまとめる。項目は、経路形状、ショートカットルート、起点と終点の位置、滞留空間である。

第一（経路形状）に、「たんねのあかり」の開催年ごとに設定された見学ルートの経路形状の特徴を比較し、谷根川を中心とした「回遊型」、棚田（鉄塔下）の中央の道路を用いた「中通路型」、谷根川と棚田（鉄塔下）の双方のタイプを組み合わせた「回遊・中廊下型」の3つの見学ルートのタイプに分類した。「回遊型」の見学ルートは、開催年2009年、2011年、2012年、2016年、2018年に用いられた。「中通路型」の見学ルートは、2011年に用いられた。「回遊・中廊下型」の見学ルートは2014年に用いられた。

第二（ショートカットルート）に、見学ルートの距離を開催年ごとに比較すると、2009年では644.43m、2010年では854.18m、2011年では1166.27m、2012年では1834.42m、2014年では1523.45m、2016年では1174.05m、2018年では1192.27mであった。見学ルートの距離が1000mを越えた2011年以降、惣ゼン橋や宮前橋から続く道路を用いた、ショートカットルートが設定された。イベント時の来訪者の行動を観察したところ、ショートカットルートがある場合、興味をもった演出対象の使用場所や谷根神社を再訪したり、旧上米山小学校に設置された物販、飲食所を拠点として、イベント対象エリアを自由に散策したりする行動が見られた。回遊性がある経路におけるショートカットルートの存在は、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる傾向にあると考えられる。

第三（起点と終点の位置）に、見学ルートの起点と終点の位置は、旧上米山小学校に4回、工務店工場前広場に2回、田んぼ（宮前橋付近）に1回、設定された。見学ルートの起点と終点の位置は、滞留空間となる使用場所の位置に多く設定された。

第四（滞留空間）に、滞留空間となった場所の数は、2009年では1か所、2010年では2か所、2011年では2か所、2012年では3か所、2014年では5か所、2016年では4か所、2018年では5か所であった。「たんねのあかり」の開催年を重ねるごとに、イベントの全体計画の中で、滞留空間となった使用場所の数が徐々に増えていった。これは、開催年ごとにイベント来場者数が増加したことも影響したと考えられる。滞留空間となった使用場所は、本部や物販、飲食店が置かれた旧上米山小学校、本部が置かれた工務店工場前広場と田んぼ（宮前橋付近）、谷根神社、休憩空間となった中和田橋、久保橋、上米山郵便局付近広場、道路脇空地（宮前橋横）、galley tanne、子どもの遊び場がつけられた棚田（鉄塔下）脇空地であった。

3.5.2 使用場所の位置と見学ルートの回遊性

前項の「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルートの特徴の分析から、経路形状によって、見学ルートは3つのタイプに分類した。3つのタイプは、谷根川を中心とした「回遊型」、棚田（鉄塔下）の中央の道路を用いた「中通路型」、谷根川の回遊型と棚田（鉄塔下）の中

通路型の双方を組み合わせた「回遊・中通路型」とした。前項の図3-19にて示した、「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルートと、地図上の黒点の印と作品番号を記した使用場所の位置との関係について、見学ルートの3つのタイプでは、以下のような特徴が見られる。ただし、2012年から2018年までの4回の「たんねのあかり」にて、使用場所の一つとした日蓮宗正平寺（作品番号 12-15、14-12、16-14、18-06）は、谷根地区中心部北側の高台にあり、見学ルートから棚田（六拡道路横）越しの遠景を眺める演出を行った使用場所であった。この使用場所は、見学ルートから眺められる場合（2012年、2016年、2018年）と、見学ルートからは眺めにくいものの、中和田橋付近に設置したイベントのシャトルバスの臨時停留所から眺めるための演出の場合（2014年）があったため、ここでは見学ルートと回遊性の関係の分析において、特例として扱う。

「回遊型」の見学ルート（2009年、2011年、2012年、2016年、2018年）と使用場所の位置は、見学ルートに囲まれた谷根川が位置する内側部分と、見学ルート上または近接している位置に使用場所が数多くあることから、見学ルートが点在する使用場所を取り囲むかたちを形成する関係である。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの内側へ向かうものと進行方向に向かうものが多い。「中通路型」の見学ルート（2010年）と使用場所の位置は、棚田（鉄塔下）中央の南北方向に通る見学ルートを中心に、東西方向に位置する棚田（鉄塔下）内に多数の使用場所が配置されたことから、使用場所の作品群が見学ルートを取り囲むかたちを形成する関係である。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの外側へ向かうものが多い。

「回遊・中通路型」の見学ルート（2014年）と使用場所の位置は、前述の谷根川を中心とした回遊型と、棚田（鉄塔下）の中央の道路を用いた中通路型の見学ルートの組み合わせによるものであり、見学ルートが点在する使用場所を取り囲む場所と、使用場所の作品群が見学ルートを取り囲む場所が併存するかたちを形成する関係である。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、おもに見学ルートの内側と外側へ向かうもの、および進行方向に向かうものである。

「たんねのあかり」の見学ルートは、メイン演出場所として棚田（鉄塔下）が用いられた2010年開催時以外は、回遊型または回遊・中通路型の経路形状で、谷根地区中心部に点在する使用場所を巡る回遊性のある経路であった。3.2（アートイベント「たんねのあかり」概要）にて述べたとおり、見学ルートの設定は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって行われた。開催年ごとに谷根地区側からメイン会場が設定されたのち、谷根地区の地域住民の案内によるフィールドワーク調査を協働で実施し、見学ルートが定められた。おもに「たんねのあかり」の見学ルートは、谷根地区中心部の中央を流れる谷根川を中心として、その周囲を取り囲むように配された河川沿いの道路と、川東地域と川西地域をつなぐ橋梁によってつくられる回遊性のある経路であった。このことから、谷根川沿いの道路と橋梁を用いた、これらの見学ルートは、旧上米山小学校の校庭や谷根神社などの地域の拠点となる場所をつなぐ、地域の日常生活における動線でもあったと分析する。

2.7（里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」）にて述べたとおり、「たんねのあかり」は、イベント時の来訪者が地域を歩き、「そこにあるもの」である地域の固有性を表す場所や要素を巡り、地域を知って学ぶ屋外アートミュージアムを想定して計画されたアートイベントである。「そこにあるもの」である「地域の固有性を表す場所や要素」とは、本章において、演出の対象となった文化的要素や地域のさまざまな活動拠点などの使用場所を指す。また、地域を知るためのフィールドワーク調査が、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによる協働活動を通じた「たんねのあかり」を開催するきっかけであった。1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）にて述べたとおり、フィールドワーク調査と同様に、谷根地区の里地里山の地域を知って把握するためには、地域を歩いて巡り、地域固有の景観を眺めるといった身体的かつ視覚的な体験が重要であると考えられる。

以上から、まず、「たんねのあかり」における見学ルートは、そのルート上を歩いて、演出対象である使用場所を見るための連続した視点位置であった。次に、見学ルートの回遊性は、起点と終点を同位置として、出発地点の起点から、谷根川や棚田（六拡道路）などの中心となるものを取り囲むように進み、点在する谷根地区の文化的要素などの使用場所を巡って、ふたたび出発地点であった終点へと戻ることが可能なつながりをもつ、見学ルートの経路形状による歩行空間の性質によるものであった。また、谷根川沿いの道路と橋梁を用いた見学ルートは、旧上米山小学校の校庭や谷根神社などの地域の拠点となる場所をつなぐ、地域の日常生活における動線であったと考えられた。これらのことから、「たんねのあかり」の見学ルートの回遊性は、もともと谷根地区中心部にあった、地域の地形と地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものと考えられる。そして、「たんねのあかり」が展開して継続する過程の中で、谷根地区中心部に点在する使用場所を巡りながら、地域を構成するさまざまな要素を対象として見て、地域の知するという体験の創出のために設定された回遊性のある見学ルートは、ショートカットルートによる経路選択と行動の自由度とともに、その回遊性を高めていったと分析する。

3.6 分析結果：開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較

本章の目的は、アートイベント「たんねのあかり」の開催年ごとの空間演出の対象場所の特徴を把握し、見学ルートの経路形状の比較と分類から、空間演出の対象場所の位置と回遊性との関係进行分析することであった。

3.2（アートイベント「たんねのあかり」概要）では、アートイベント「たんねのあかり」の概要をまとめた。谷根地区中心部のどのような場所を空間演出の対象場所である使用場所として、2009年から2018年までイベントが7回実施されたのか、開催年ごとに概要を整理した。

3.3（分析方法）では、「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握、および見学ルートの経路形状の比較のための分析方法を述べた。分析方法は、以下の二部構成とした。第一の分析方法では、「たんねのあかり」にて作品が配置されて空間演出が行われた対象場所を、開催年ごとに整理して分析を行い、それらの場所の位置と特徴を把握する手順について記述した（3.4）。第二の分析方法では、「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート7点を比較し、経路形状の変化の過程から、空間演出の対象場所の位置と視点位置、見学ルートの回遊性との関係について分析する手順について記述した（3.5）。

3.4（開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握）では、開催年ごとの使用場所の位置と特徴について分析を行った（3.4.1）。まず、使用場所の配置計画で拠点となった、谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置をまとめた。文化的要素は、「①稲作文化に関わるもの」、「②神社と寺院」、「③地域の文化や信仰に関わるもの」、「④地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」の4つの種類に分類された。次に、開催年ごとの使用場所の種類と位置を整理したのち、使用場所の位置を図3-11から図3-17の地図上にマッピングして、それらの位置関係を把握した（3.4.2）。開催年ごとの使用場所は、2009年9か所、2010年11か所、2011年16か所、2012年15か所、2014年16か所、2016年20か所、2018年17か所であった。続いて、使用場所の総数と位置を図3-18のとおり、一つの地図上にまとめた。使用場所の総数は66か所であった（3.4.3）。最後に、使用場所の特徴について、用途と使用場所の種類にて分類した（3.4.4）。使用場所の用途の種類では、「①作品」、物販・飲食・休憩のための「②交流・休憩」の場所、参拝のための「③神社等」の場所の3項目に分類した。「①作品」の分類においては、すべての使用場所を作品とし、「鑑賞型」と「鑑賞・体験型」の2項目に分類した。場所の種類では、使用場所を、「①河川（谷根川・小俣川）」、「②棚田（田んぼ含む）」、「③道路」、「④橋梁」、「⑤広場」、「⑥境内（寺院・神社）」、「⑦参道」、「⑧竹林」、「⑨道路脇空地」、「⑩擁壁」、「⑪施設敷地内」の11項目に分類した。開催年ごとの使用場所の位置と特徴を分析し、「たんねのあかり」の使用場所は、谷根地区中心部の谷根川や棚田、低地部と丘陵部から成る地形、および地域を構成する文化的要素の配置などの特徴から設定された66か所であることがわかった。

3.5（開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析）では、谷根地区中心部に点在す

る使用場所を巡るように計画された、開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較を行った。見学ルートは、イベント時の来訪者が、対象である使用場所を見るための連続した視点位置として設定された。まず、開催年ごとの見学ルートの経路形状を抽出し、見学ルートの特徴から分類を行った(3.5.1)。第一に、見学ルートは、経路形状の特徴から、谷根川を中心とした「回遊型」、棚田(鉄塔下)の中央の道路を用いた「中通路型」、谷根川と棚田(鉄塔下)の双方のタイプを組み合わせた「回遊・中通路型」の3つの見学ルートのタイプに分類された。第二に、見学ルートの距離について分析した。「たんねのあかり」の開催を継続する中で、2011年開催時以降、ショートカットルートが設定された。見学ルートにショートカットルートがある場合、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる傾向にあると考えられた。第三に、見学ルートの起点と終点の位置は、滞留空間となる使用場所の位置に多く設定されたことがわかった。第四に、滞留空間となった場所の数の増加は、イベント開催を継続し、来場者数が増加したことによる影響も考えられた。次に、使用場所の位置と見学ルートの回遊性について分析した(3.5.2)。「回遊型」の見学ルートと使用場所は、見学ルートが点在する使用場所を取り囲むかたちを形成する関係であった。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの内側へ向かうものと進行方向に向かうものが多くみられた。「中通路型」の見学ルートと使用場所は、使用場所の作品群が見学ルートを取り囲むかたちを形成する関係であった。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの外側へ向かうものが多くみられた。「回遊・中通路型」の見学ルートと使用場所は、上記の「回遊型」と「中通路型」の見学ルートの特徴を組み合わせた関係と視線の向きであった。「たんねのあかり」の見学ルートの経路形状は、「回遊型」、「中通路型」、「回遊・中通路型」の3つのタイプがあり、その特徴は、起点と終点を同一地点として谷根地区中心部に点在する使用場所を巡る、おもに回遊性のある経路であったことが確認できた。

本章での分析から、この見学ルートは、谷根地区中心部の中央を流れる谷根川を取り囲むように配された河川沿いの道路と、川東地域と川西地域をつなぐ橋梁によってつくられる回遊性のある経路であったことが確認できた。そして、谷根川沿いの道路と橋梁を用いた見学ルートは、旧上米山小学校の校庭や谷根神社などの地域の拠点となる場所をつなぐ、地域の日常生活における動線であったと考えられた。このことから、「たんねのあかり」の見学ルートの回遊性は、もともと谷根地区中心部にあった、地域の地形と地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものと考えられる。

以上から、「たんねのあかり」の開催年ごとの空間演出の対象場所である使用場所の特徴を把握し、見学ルートの経路形状の比較と分類を行った。これらの分類を踏まえて、使用場所の位置と経路形状との関係を分析することで、「たんねのあかり」の見学ルートは、おもに回遊性のある経路であったことが確認できた。そして、この見学ルートの回遊性は、もともと谷根地区中心部にあった、地域の地形と地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものと考えられた。

「たんねのあかり」において、空間演出を施して作品とした 66 か所の使用場所は、アートイベントにおいてイベント時の来訪者が見る対象としての場所であった。これら 66 か所の使用場所は、対象として人に見られるという特徴から、「視対象」であったといえる。「視対象」とは、視点から見られる眺めの対象である。また、谷根地区中心部のイベント対象エリアにおいて、点在する使用場所を鑑賞するために設定された回遊性をともなった見学ルートは、対象を見るための連続した視点位置であり、「視点場」であったといえる。「視点場」とは、視対象を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況である。「たんねのあかり」は、谷根地区中心部の里地里山の景観の中で展開したアートイベントであった。「たんねのあかり」において、空間演出の作品となった使用場所は、「視対象」であり、使用場所を見るための連続した視点位置から構成された見学ルートは、「視点場」であった。本章で述べてきた、使用場所 66 か所は、「たんねのあかり」の活動にて、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らが協働して、谷根地区中心部のイベント対象エリア内で選定して使用された場所である。次章では、本章で分析した使用場所 66 か所を再整理し、どのような特性を有する場所が、「たんねのあかり」の選定場所となったのかについて整理し、さらに、選定場所（視対象）に対応する視点場の類型を抽出することを目的とする。

註および引用文献

3.2

- 1) アートイベント「たんねのあかり」は、新潟県柏崎市谷根地区中心部にて、2009 年から開催された里地里山をキャンドルのあかりで演出するイベントであった。2009 年は 8 月に開催され、柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントの一つとして位置づけられた。2010 年以降は 10 月上旬から中旬に行われた。プロジェクトの活動内容は、あかりのアートイベントを主軸とし、夏季には近隣の小学校の子どもたちとのワークショップ開催や、アートやデザインに関するレクチャーなどが実施された。また、たんねのあかり実行委員会を中心に、谷根地区のシンボルマークや看板、ウォーキングマップが制作され、地域活性化を目指した活動が行われた。2024 年 4 月、たんねのあかり実行委員会（事務局：上米山コミュニティセンター内／柏崎市谷根地区）は解散し、活動を終了した。

※（公財）新潟県文化振興財団助成事業（2010～2012、2014、2016、2018 年度）

※女子美術大学 100 周年記念大村文子基金大村特別賞 平成 23 年度受賞

- 2) 2009 年開催の「たんねのあかり」では、女子美術大学「たんねのあかり」イベントチームが主催となり、谷根地区では、たんねのあかりサポート委員会（本部：上米山コミュニティセンター）が設置されて協働による運営が行われた。2010 年以降、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員らで構成された、たんねのあかり実行委員会が主催となり、以後、「たんねのあかり」でのさまざまな活動の運営が行われた。なお、本論文で述べた、2009 年の柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントとして実施された「たんねのあかり」が、2009 年以降も継続されるようになった理由は、「NST 新潟総合テレビ制作『たんねのあかり ～農村を照らす心の灯～』（2010 年 11 月 6 日放映）」での、谷根地区の地域住民や女子美術大学の関係者へのインタビュー内容を参照した。
- 3) アートイベント「たんねのあかり」は、13 時ごろから地元産物や新米などの販売店が開かれ、21 時まで行われていた。日没時間に合わせ、18 時に提灯行列と点灯式が執り行われ、あかりによる空間演出の鑑賞時間は 21 時までの 3 時間であった。
- 4) 柏崎市立上米山小学校は、2009 年度をもって閉校となった。校舎、校庭のリノベーションが行われ、2024 年現在は、特別養護老人ホームたんねの里となっている。2010 年以降の「たんねのあかり」では、イベント時の本部、飲食店や休憩所の場所として、特別養護老人ホームたんねの里のグラウンドを借用していた。
- 5) 「たんねのあかり」イベント来場者数は、2009 年：約 1000 人、2010 年：約 3000 人、2011 年：約 6000 人、2012 年：約 8000 人、2014 年：約 8000 人、2016 年：約 3000 人（当日雨天）、2018 年：約 7000 人であった。なお、来場者数は、イベント時には地区内の乗用車ででの来場は禁止されており、臨時駐車場の駐車台数および臨時シャトルバ

ス乗車人数から算出して、公表された来場者数である。

3.3

- 6) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016年、61 頁。
- 7) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007年、187 頁。
- 8) 同前、187 頁。

3.4

- 9) 「たanneのあかり 2010」では、おもな空間演出の対象場所が棚田（鉄塔下）と設定され、本部が対象場所近くの久保橋横の工務店工場前広場に置かれた。この開催年のみ、旧上米山小学校校庭は、イベント実施エリア外であったため使用されなかった。「たanneのあかり 2014」では、棚田（鉄塔下）がおもな空間演出の対象場所に設定され、旧上米山小学校校庭には、物販、飲食、休憩場所が設けられてイベント時の来訪者が集合する拠点の一つとされた。

- 4.1 本章の目的
- 4.2 分析方法
- 4.3 「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定
 - 4.3.1 空間演出の対象となる候補場所
 - 4.3.2 空間演出の対象となる選定場所
- 4.4 「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定
 - 4.4.1 「視対象」と「視点場」の関係による選定場所の特徴の分析項目の設定
 - 4.4.2 分析項目の設定
 - (1)「空間の特徴」の分析項目の設定
 - (2)「景観の特徴」の分析項目の設定
 - 4.4.3 分析項目の定義
 - (1)「空間の特徴」の分析項目の定義
 - (2)「景観の特徴」の分析項目の定義
- 4.5 「選定場所」の類型と分析
- 4.6 「視点場」の類型と地域の固有性の分析
- 4.7 分析結果：「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型

第4章 分析-2

「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型

4.1 本章の目的

本章の目的は、「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型を抽出し、抽出された類型から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の地域の固有性を高める要因を探ることである。本章における「選定場所」とは、「たんねのあかり」を開催するにあたり、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象の候補（候補場所）となった場所の中から、設定された条件を満たして選定された場所を指す。「候補場所」とは、空間演出の対象の候補となった場所を指す。本章では、場所の特徴による分類に焦点をあてることから、一つの場所に複数の「使用場所」があったものを整理して一つの場所としてまとめ、「選定場所」とする。本章の構成を図4-1に示す。

4.2 では、本章の分析方法を述べる。

4.3 では、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象となった候補場所から、選定場所を定めた過程とその選定理由を分析する。

4.4 では、選定場所の特徴を分析するために、「たんねのあかり」のイベント対象エリアにおいての視対象と視点場の関係に着目して、分析項目の設定を行う。3.5（開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較と分析）にて示したように、「たんねのあかり」において、空間演出の作品となった選定場所は、「視対象」であり、選定場所を見るための連続した視点位置から構成された見学ルートは、「視点場」であったことから、視対象と視点場の関係に着目する。分析項目は、選定場所の空間の特徴および景観の特徴から設定する。

4.5 では、前節にて設定した空間の特徴と景観の特徴による分析項目をもとに、「選定場所」をクラスター分析にて類型化する。

4.6 では、前節の分析結果を踏まえ、選定場所および選定場所を眺める「視点場」の類型を抽出する。次に、抽出された「たんねのあかり」の視点場の類型から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の固有性を高める要因について分析する。

4.7 では、「たんねのあかり」における「選定場所」の分類と「視点場」の類型の分析結果から、本章のまとめを行う。

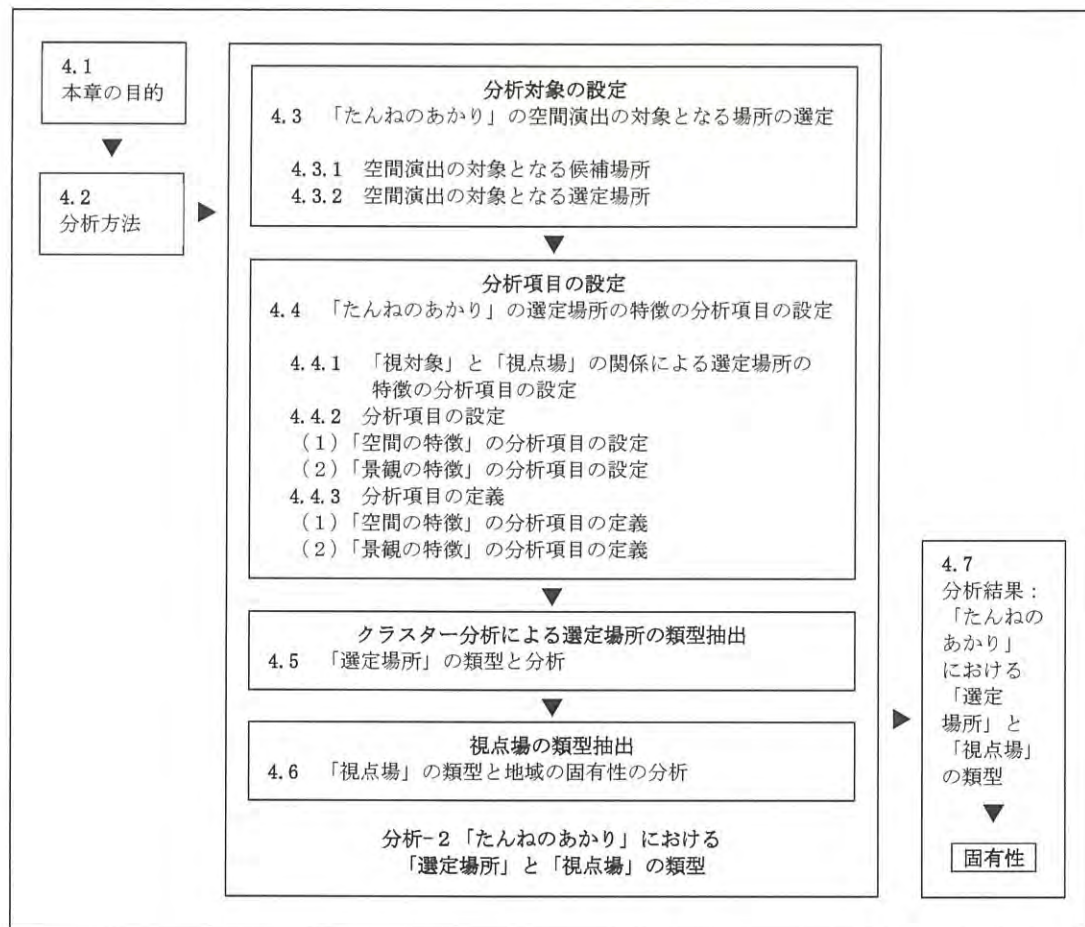


図4-1 「第4章 分析-2 「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型」の構成

4.2 分析方法

本章では、分析方法を次の4つの段階で構成する。第一に、「たんねのあかり」において、空間演出の対象となった候補場所と選定場所について情報を整理する。第二に、選定場所の特徴を把握するための分析項目の設定を行う。第三に、設定した分析項目を用い、クラスター分析にて「選定場所」の類型化を行う。第四に、分類された選定場所から「たんねのあかり」における「視点場」の類型を抽出し、谷根地区中心部を事例とした里地里山の固有性を高める要因について分析する。各段階の手順は以下の通りである。

(1) 「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定 (4.3)

まず、「たんねのあかり」の開催に向けた、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによるフィールドワーク調査を通じて見いだした、空間演出の対象となる候補場所65か所を整理する。次に、候補場所65か所の中から、どのように選定場所46か所に絞られていったのか、その選定理由について場所の意味や地域個性から分析する。選定場所は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによって、協働による活動を通じて候補場所から選定された。前章において用いた、イベント対象エリア内に設定された、空間演出の対象場所を指す使用場所との相違についても説明する。

(2) 「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定 (4.4)

選定場所の特徴を分析するために、「たんねのあかり」のイベント対象エリアにおいての視対象と視点場の関係に着目して、分析項目の設定を行う。分析項目は、選定場所の空間の特徴および景観の特徴から設定する。また、分析項目とする空間の特徴では5項目、景観の特徴では4項目について、本論文においての分析項目ごとの定義を行う。これらの分析項目をもとに、次節にてクラスター分析を行う。

(3) 「選定場所」の類型と分析 (4.5)

前節で設定した空間の特徴と景観の特徴による9項目の分析項目を変数とし、「選定場所」46か所をクラスター分析にて類型を抽出する。クラスター分析時に得られたデンドログラムと標準化得点から、分類されたクラスターを分析して選定場所の特徴を把握する。

(4) 「視点場」の類型と地域の固有性の分析 (4.6)

前節で分類された選定場所と分類ごとの選定場所の特徴から、「たんねのあかり」における「視点場」の類型を抽出する。抽出された「たんねのあかり」の視点場の類型から、谷根地区を事例とした里地里山の固有性を高める要因について分析する。

4.3 「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定

4.3.1 空間演出の対象となる候補場所

谷根地区中心部の里地里山を舞台に展開した「たんねのあかり」では、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働で行ったフィールドワーク調査を通じて、空間演出の対象となる場所が設定された。「たんねのあかり」における空間演出の対象場所とは、谷根地区中心部にて、作品が配置され空間演出が行われた対象の場所、ならびに空間自体を作品として空間演出が行われた対象の場所を指す。本章では、これらの場所を「選定場所」と呼ぶ。例示すると、前者は、谷根地区と近隣子どもたちによる、田植え杵を活用して制作された作品を橋梁脇に設置して周囲の空間演出が行われたものが挙げられる。後者は、既存の双体道祖神を中心に、その周囲の空間演出が行われたものが挙げられる。前者、後者ともに、「たんねのあかり」において、谷根地区中心部での地域の活動拠点となる場所や、地域個性を表す場所などから設定された選定場所である。

なお、前章では、谷根地区中心部での「たんねのあかり」のイベント対象エリア内で、空間演出の対象として選定されて使用された場所に対して「使用場所」という呼称を用いた。本章では、まず、場所の特徴による分類に焦点をあてることから、一つの場所に複数の「使用場所」があったものを整理して一つの場所としてまとめる。前章での「使用場所」の中で、棚田（六拡道路横）、棚田（鉄塔下）、田んぼ（宮前橋付近）、旧上米山小学校、久保橋が整理の対象である。複数の「使用場所」があったものを以下に示し、それぞれ一つの場所にまとめる。括弧内の番号は、図3-18で地図上に示した番号である。

- ・棚田（六拡道路横）：使用場所4か所（03）、（04）、（07）、（09）
- ・棚田（鉄塔下）：使用場所13か所（52）、（53）、（55）、（56）、（57）、（58）、（59）、（60）、（61）、（62）、（63）、（64）、（66）
- ・田んぼ：使用場所2か所（36）、（37）
- ・旧上米山小学校：使用場所4か所（20）、（21）、（22）、（24）
- ・久保橋：使用場所2か所（48）、（49）

次に、開催年ごとのイベント対象エリアの設定を行うよりも前の時点での、イベント対象エリア外も含めた谷根地区中心部に対象の範囲を広め、空間演出の対象場所について「候補場所」、または「選定場所」という呼称を用いる。「候補場所」とは、フィールドワーク調査において、谷根地区の地域住民の案内による地域の伝統文化や生活の拠点などの場所と、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって空間演出の対象の候補とされた場所を指す。「選定場所」とは、さまざまな候補場所の中で、「たんねのあかり」実施計画においての諸条件を満たした場所から選定された場所を指す。この「選定場所」の中に、前述のとおり整理した「使用場所」が含まれる。

「たんねのあかり」の候補場所は、フィールドワーク調査において、谷根地区の地域住民の案内による場所と、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって

候補とされた場所の二通りにわけられる。ここでは、前者を、「案内による候補場所」とし、後者を、「協働による候補場所」として、呼称を区別する。「案内による候補場所」と「協働による候補場所」は、ともに地域において、場所の意味をもつものとして候補場所とされた。まず、「案内による候補場所」は、谷根地区の主要施設や地域拠点となっている場所であり、谷根地区の地域文化や生活において場所の意味をもつものである。また、これらの場所は、地域への愛着と誇りを形成する場所と考えられる。次に、「協働による候補場所」は、地域の個性や魅力を創出する場所であり、谷根地区を特徴づける場所であると考えられることから、「たんねのあかり」での協働活動によって設定された場所の意味をもつものである。なお、「たんねのあかり」の候補場所の設定において、まず、「案内による候補場所」が設定され、その後、活動を通じて「協働による候補場所」が追加されていった。

「案内による候補場所」は、公共・生活利便施設、商業施設や神社・寺院などの地域の「主要施設・地域拠点」、谷根川と小俣川などの「河川」、「橋梁」、双体道祖神や棚田などの「地域文化・生活要素」の4つに分類する。まず、「主要施設・地域拠点」は、生活拠点であり来訪者の滞在時の利便性にも関わる、公共・生活利便施設6か所、商業施設1か所、地域の伝統文化拠点としての神社・寺院3か所のあわせて10か所であった。次に、「河川」10か所、「橋梁」5か所の候補場所は、地域の文化や個性を形成するものとして分類した。

続いて、「地域文化・生活要素」12か所の候補場所は、地域の伝統文化と生活拠点、および地域の文化や個性を形成するものとして分類した。「案内による候補場所」は、合計37か所であった。

「協働による候補場所」は、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとのフィールドワーク調査にて選出された地域個性を創出する場所である。周囲に視線を遮るものが少なく目につきやすい場所であることや、施工しやすい場所であることなどから、イベント時の会場構成と演出方法に適した場所であった。「協働による候補場所」は、2009年から2018年までイベントの開催を重ねながら、場所の数が増えていき、合計28か所であった。

「案内による候補場所」は37か所、「協働による候補場所」は28か所で、「たんねのあかり」の空間演出の対象となる候補場所は、合計して65か所であった。

以上の「案内による候補場所」37か所を、主要施設・地域拠点10か所、河川10か所、橋梁5か所、地域文化・生活要素12か所に分類し、また、「協働による候補場所」28か所とあわせて、候補場所の番号を1から65までつけ、各候補場所の名称と概要および位置を次の図2点にまとめる。「たんねのあかり」の候補場所65か所を分類し、これらの名称と概要を図4-2に、図4-2に対応した候補場所の位置を図4-3の地図に示す。

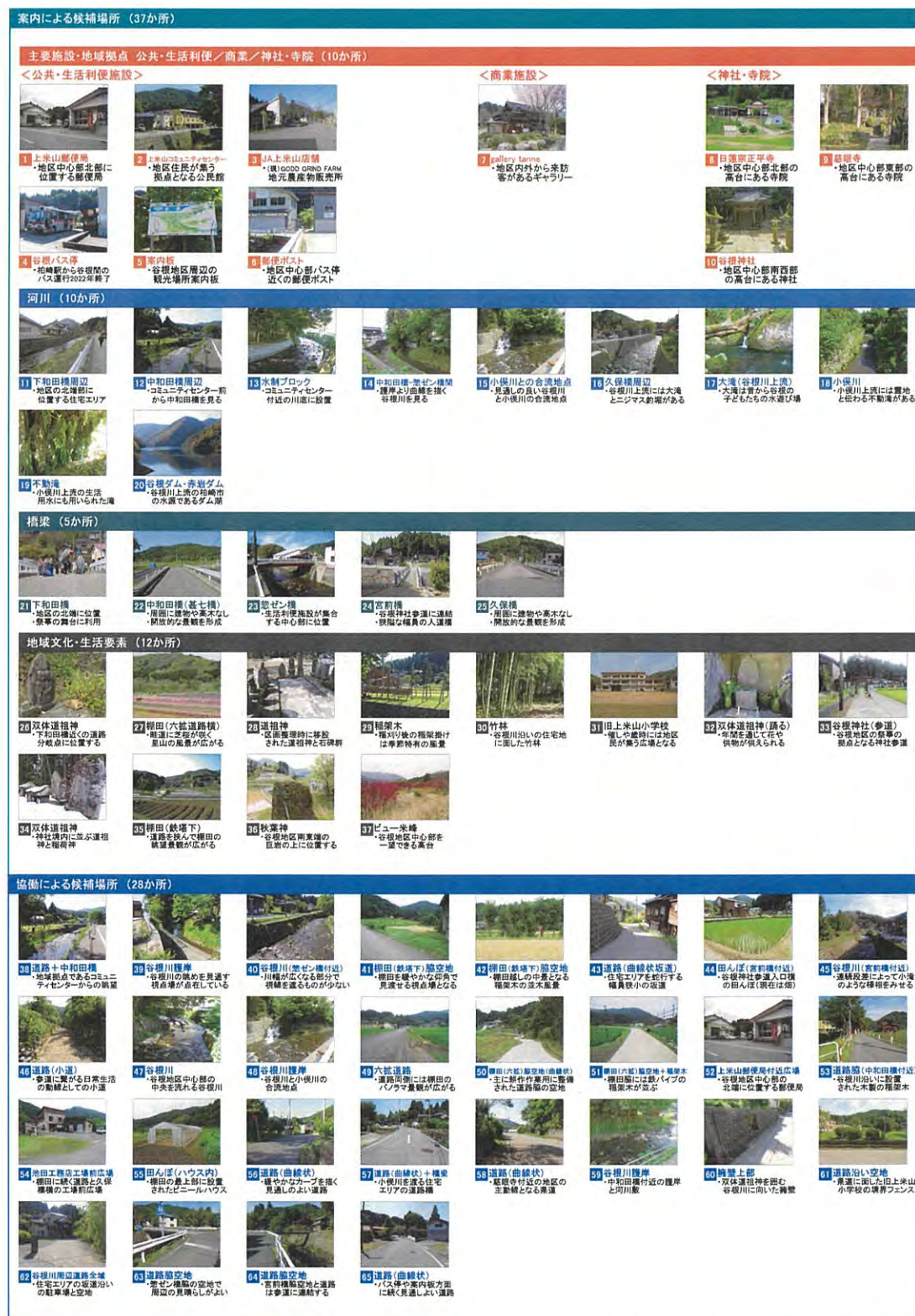


図4-2 「たねのあかり」の候補場所65か所の概要



図4-3 「たんののあかり」の候補場所65か所の位置

4.3.2 空間演出の対象となる選定場所

前項にて分類した「たんねのあかり」の候補場所65か所は、イベント実施計画において、イベント時の実用性から定められた3つの条件により46か所が選定され、「選定場所」として設定された。一つ目の条件は、イベント対象エリア内にある候補場所であることであった。この条件では、候補場所が、開催年ごとに設定されたイベント対象エリア内で、谷根地区中心部を回遊する見学ルートの設定範囲内、または近接している場所であることが選定基準となった。ただし、一部、遠景を演出するために用いた、谷根地区中心部北側の高台に位置する寺院（候補場所の番号8、日蓮宗正平寺）がある場所は、見学ルートの設定範囲内または近接している場所ではないが、特例として選定の対象とする。二つ目の条件は、イベント時に占有可能な候補場所であることであった。この条件では、候補場所が、イベント時に占有して使用可能であることが選定基準となった。また、イベント時には、イベント対象エリア内は谷根地区の地域住民以外の車両進入禁止とされ、道路空間においては道路占用許可を得た上で、占有可能とされた候補場所も含まれる。三つ目の条件は、候補場所が、空間演出を施す際に施工可能であることであった。この条件では、イベント設営時に、作品設置や空間演出のための施工が可能であることが選定基準となった。おもに陸上の候補場所は施工可能な場所であったが、河川空間では、水深や水量と流れの不安定さなどから、候補場所の施工可能性の可否が判断された。

候補場所65か所に、前項での分類をもとにした1から65までの候補場所の番号、候補場所の種類、候補となった理由、およびイベント時の実用性から定められた3つの条件から選定された選定場所46か所と選定理由をまとめ、表4-1①および表4-1②に示す。

表4-1① 「たんねのあかり」候補場所 65 か所から選定場所 46 か所の選定理由

項目	用途種別	候補場所 (85か所)	① 場所の種類										② 候補理由 (場所の意味)		③ 選定理由 (イベント時の実用性)		④ 選定場所 (46か所)	⑤ 選定外の場所 (19か所)									
			番号 (41-46)	名称	施設 番号	神社・ 寺等	河川 谷根川	小俣川	湯ノダム	橋梁	榊田・ 田んぼ	竹林	道路	遊歩道	文化・生活 +1	地域個性 +2		自然環境 +3	占有可能 +4	施工可能 +5	番号 (01-46)	番号 (01-46)	番号 (01-46)				
主要施設・ 利便施設 地域拠点 (候補:6) (選定:10) (選定:3)	公共・生活	1	上米山郵便局	○										○		○	×	×	×	-	-	-	10				
		2	上米山コミュニティセンター	○											○		○	×	×	×	-	-	-	11			
		3	JA上米山店舗(農:GOOD GRIND FARM)	○											○		○	×	×	×	-	-	-	12			
		4	谷根バス停/公衆便所	○											○		○	×	×	×	-	-	-	13			
		5	案内板	○											○		○	×	×	×	-	-	-	14			
		6	郵便ポスト	○											○		○	×	×	×	-	-	-	15			
	商業施設 (候補:1/選定:1) 神社・寺院 (候補:3/選定:2)	7	gallery tanne	○											○		○	○	○	○	○	01	-	-	-		
		8	日蓮宗正平寺(神社・境内)		○++										○		○	○	○	○	○	02	-	-	-		
		9	稲葉寺		○										○	×	-	-	-	-	-	01	-	-	-		
		10	谷根神社(神社・境内)		○++										○		○	○	○	○	○	03	-	-	-		
河川 (候補:10) (選定:4)	11	下和田橋周辺					○							○		×	-	-	-	-	-	02	-	-			
	12	中和田橋周辺					○							○		○	○	×	-	-	-	-	16				
	13	谷根川 水神ブロック(上米山コミュニティセンター付近)					○							○		○	○	○	○	○	04	-	-				
	14	中和田橋-釜ヶ谷間(語る道祖神付近)					○							○		○	○	○	○	○	05	-	-				
	15	小俣川との合流地点					○							○		○	○	×	-	-	-	17					
	16	久保橋周辺					○							○		○	○	○	○	○	06	-	-				
	17	大滝(谷根川上流)				○		○						○		×	-	-	-	-	-	03	-				
	18	小俣川					○							○		○	○	○	○	○	07	-	-				
	19	不動滝												○		×	-	-	-	-	-	04	-				
	20	谷根ダム・赤岩ダム						○								×	-	-	-	-	-	05	-				
橋梁 (候補:5) (選定:3)	21	下和田橋						○						○		×	-	-	-	-	-	06	-				
	22	中和田橋(第七橋)							○					○		○	○	×	×	×	08	-	-				
	23	釜ヶ谷橋							○					○		○	×	×	×	-	-	18					
	24	宮前橋							○					○		○	○	○	○	○	09	-	-				
	25	久保橋							○					○		○	○	○	○	○	10	-	-				
地域文化・ 生活要素 (候補:12) (選定:8)	26	京体道祖神(下和田橋付近)											○*			×	-	-	-	-	-	07	-				
	27	榊田(六協道路橋)							○					○		○	○	○	○	○	11	-	-				
	28	道祖神(道祖神・石神宮)											○*			○	○	○	○	-	-	-	19				
	29	榊田											○*			○	○	○	○	○	12	-	-				
	30	竹林								○				○		○	○	○	○	○	13	-	-				
	31	旧上米山小学校(農:(特産)たんねの里)		○										○		○	○	○	○	○	14	-	-				
	32	京体道祖神(語る道祖神)											○*			○	○	○	○	○	15	-	-				
	33	谷根神社参道							○**					○		○	○	○	○	○	16	-	-				
	34	京体道祖神(谷根神社境内)							○**					○		○	○	○	○	○	17	-	-				
	35	榊田(鉄塔下)								○				○		○	○	○	○	○	18	-	-				
協働による 候補場所 (候補:28) (選定:28)	36	秋葉神											○*			×	-	-	-	-	-	08	-				
	37	ビュース峰											○			×	-	-	-	-	-	09	-				
	38	道路(無道田原)・中和田橋						○						○		○	○	○	○	○	19	-	-				
※協働で 選定した 地域の個性 や魅力を 感じられる 谷根地区を 特徴づける 場所	39	谷根川護岸(語る道祖神付近)							○					○		○	○	○	○	○	20	-	-				
	40	谷根川(釜ヶ谷橋付近)						○						○		○	○	○	○	○	21	-	-				
	41	榊田(鉄塔下)庭園地												○		○	○	○	○	○	22	-	-				
	42	榊田(鉄塔下)庭園地・榊田								○*				○		○	○	○	○	○	23	-	-				
	43	道路(曲線状街道/竹林付近)												○		○	○	○	○	○	24	-	-				
	44	田んぼ(宮前橋付近)								○				○		○	○	○	○	○	25	-	-				
	45	谷根川(宮前橋付近)							○					○		○	○	○	○	○	26	-	-				
	46	道路(小俣川/宮前橋付近)									○			○		○	○	○	○	○	27	-	-				
	47	谷根川(小俣川合流地点・中和田橋間)							○					○		○	○	○	○	○	28	-	-				
	48	谷根川護岸(小俣川合流地点)								○				○		○	○	○	○	○	29	-	-				
	49	六協道路											○			○	○	○	○	○	30	-	-				
	50	榊田(六協道路橋)庭園地(曲線状)								○*				○		○	○	○	○	○	31	-	-				
	51	榊田(六協道路橋)庭園地・榊田								○**				○		○	○	○	○	○	32	-	-				
	52	上米山郵便局付近広場												○		○	○	○	○	○	33	-	-				
	53	道路(庭園地・中和田橋付近)											○		○	○	○	○	○	○	34	-	-				
	54	池田工務店工場前広場												○		○	○	○	○	○	35	-	-				
	55	田んぼ(ゼニールハウス内)								○				○		○	○	○	○	○	36	-	-				
	56	道路(曲線状/無道田原三叉路付近)												○		○	○	○	○	○	37	-	-				
	57	道路(曲線状/無道田原小俣川付近)・榊田								○				○		○	○	○	○	○	38	-	-				
	58	道路(曲線状/無道田原gallery tanne付近)												○		○	○	○	○	○	39	-	-				
	59	谷根川護岸(上米山コミュニティセンター付近)									○			○		○	○	○	○	○	40	-	-				
	60	舞臺上部(語る道祖神付近)												○		○	○	○	○	○	41	-	-				
	61	道路(庭園地・たんねの里グラウンドフェンス内)												○		○	○	○	○	○	42	-	-				
	62	谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)											○		○	○	○	○	○	○	43	-	-				
	63	道路(庭園地・釜ヶ谷橋)												○		○	○	○	○	○	44	-	-				
	64	道路(庭園地・宮前橋)												○		○	○	○	○	○	45	-	-				
	65	道路(曲線状/無道田原釜ヶ谷橋付近)												○		○	○	○	○	○	46	-	-				

○ 「たんねのあかり」選定場所(46か所)

○ 「たんねのあかり」イベント対象エリア外(9か所)

○ 「たんねのあかり」イベント対象エリア内未選定場所(10か所)

○* :道路脇空地に配された地域文化要素

(道祖神 no. 26, 28, 32, 34, 秋葉神 no. 36, 榊田 no. 29, 42, 51)

○+ :「①場所の分類」では、榊田地区は「榊田」に分類する。(no. 41, 42, 50, 51)

○++ :「①場所の分類」では、神社・寺院の参道および境内は「神社・寺院」として分類する。(no. 8, 10, 33, 34)

*1 :候補理由(場所の意味)「文化・生活」とは、①谷根地区の主要施設、地域拠点となっている場所であること、②谷根地区の地域住民の案内による場所、地域文化や暮らしに関連した要素と誇りを持つ場所を指す。

*2 :候補理由(場所の意味)「地域個性」とは、谷根地区の地域住民と女子美スタッフとの協働によって選定した、地域の個性や魅力を感じられる谷根地区を特徴づける場所を指す。

*3 :選定理由(イベント時の実用性)「対象エリア内」とは、「たんねのあかり」イベント時の谷根地区中心部を回遊する見学ルート(約0.65-1.5km)の設置範囲内であることを指す。

*4 :選定理由(イベント時の実用性)「占有可能」とは、「たんねのあかり」イベント時に対象場所を占有して使用可能であることを指す。

*5 :選定理由(イベント時の実用性)「施工可能」とは、「たんねのあかり」イベントにて作品設置や演出のための施工が可能であることを指す。

表4-1② 「たんねのあかり」候補場所 65 か所から選定場所 46 か所の選定理由

項目	用途種別	候補場所 (65か所)	⑤ 候補・選定理由 説明 (「たんねのあかり」選定場所46ヶ所の選定可否理由)
		番号 (1-65)	
主要施設 ・ 地域拠点 (候補:6) (選定:0) (選定:3)	公共・生活 ・ 利便施設	1 上米山郵便局	利便施設のため「たんねのあかり」イベント設置対象外
		2 上米山コミュニティセンター	「たんねのあかり」演出場所ではなく第二本部として機能。学生滞在校舎
		3 JA上米山店舗(現 GOOD ORND FARM)	利便施設のため「たんねのあかり」イベント設置対象外。2009年のみ駐車場を飲食スペースとして活用
		4 谷根バス停/公衆便所	「たんねのあかり」イベント時は通行止め、バス停位置移動、公衆便所使用あり
		5 案内板	利便施設のため「たんねのあかり」イベント設置対象外
		6 郵便ポスト	利便施設のため「たんねのあかり」イベント設置対象外
	商業施設 (候補:1/選定:1) 神社・寺院 (候補:3/選定:2)	7 gallery tanne	「たんねのあかり」イベント時はカフェとギャラリーとして営業
		8 日蓮宗正平寺(神社・境内)	榊田(六波道路橋)の遠景演出。特別バス停位置から見える来訪者を歓迎するような景観演出ができる
		9 慈恵寺	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		10 谷根神社(神社・境内)	祭事の中心部であり地域の誇りと愛着を育む拠点。地域資源、境内、参道、道祖神の演出、高台からの夜景眺望
河川 (候補:10) (選定:4)		11 下和田橋周辺	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		12 中和田橋周辺	水量の変化によって水の流れの速度が不安定であること、川面へのアクセスが容易でないことから設置困難と判断
		13 谷根川	水割ブロックによってあり作品設置時の施工性が高い。大ケヤキ沿いの位置で樹木を活かした演出が可能。大ケヤキに愛着ある住民が多い
		14 谷根川-惣ゼン橋間(諸道道祖神付近)	川面へ降りる階段位置によりあり作品設置時の施工性が高い。谷根川の見過しがい場所
		15 小泉川との合流地点	水量が不安定な砂浜のある川の合流地点のため設置困難
		16 久保橋周辺	谷根川の幅員が広い部分で川の見過しがい、川辺にアクセスしやすい川面での作品設置の施工性高い
		17 大滝(谷根川上流)	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		18 小泉川	住宅エリア端部のため街灯が少なく夜間は暗い。夜間の暗さを活かした演出が可能。川幅が狭く風が通り抜ける
		19 不動滝	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		20 谷根ダム・赤岩ダム	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
橋梁 (候補:5) (選定:3)		21 下和田橋	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		22 中和田橋(七七橋)	谷根川、榊田(六波道路橋)の見過し、見渡し眺望がよい。幅員の広さから眺望や休憩スペースとして演出
		23 惣ゼン橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路であり車両通行のため橋上空間の使用不可
		24 宮前橋	谷根神社参道からの眺望。住宅エリアの小道に通じる幅員の狭い橋であることから見学ルートの空間体験の変化を考慮
		25 久保橋	谷根川、榊田(鉄塔下)の見過し、見渡し眺望がよい。幅員の広さから眺望や休憩スペースとして演出
地域文化 ・ 生活要素 (候補:12) (選定:8)		26 双体道祖神(下和田橋付近)	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		27 榊田(六波道路橋)	谷根川地区中心部でもっとも広大な面積の榊田。見渡し眺望がよい。回遊するルートが設定しやすい。
		28 道祖神(道祖神・石碑群)	榊田の六波道の縁やかな緑の面によって歩行時にシークエンス眺望が期待できる
		29 稲葉木	広田町(現)に移設された道祖神と石碑群。地域の歴史との関連性が見え出し演出場所とならなかった *6
		30 竹林	谷根川に面した見過しがい場所。設置された稲葉木、谷根を代表する谷根川、中和田橋、榊田といった自然と人の暮らしが感じられる里山風景のひとつ
		31 旧上米山小学校(現・特養「たんねの家」)	住宅エリアにある小規模な竹藪。道路に面して竹藪が続いている。竹藪の緑から谷根川の風景が見え隠れする
		32 双体道祖神(道祖神)	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		33 谷根神社参道	谷根川地区中心部に位置する参道。参道は谷根川地区でも珍しく地域外からの見学者も訪れる。地域資源の代表格
		34 双体道祖神(谷根神社境内)	参道などの地区民が集う祭事の拠点となる。江戸・寛永年間の神社が明治45年に三社合併。合併の由来から縁結びの神と崇められる。地域資源
		35 双体道祖神(谷根神社境内)	谷根神社境内に祀られた「縁結びの神」といわれる双体道祖神。地域内外からの参拝者も多い。双体道祖神と稲葉木の緑が並ぶ。地域資源
協働による 候補場所 (候補:28) (選定:28)		36 榊田(鉄塔下)	谷根川地区中心部南側に位置する参道を挟んで東西に広がる榊田、山並みを背景に榊田のバラム風景が見渡せる。
		37 秋葉神	「たんねのあかり」の夜間演出時には道路を挟んで広がる榊田の水面によって、浮遊感を覚える演出が期待できる
		38 ビューポイント	「たんねのあかり」イベント対象エリア外
		39 道路(鳥道田)と中和田橋	上米山コミュニティセンターの道路からの榊田、谷根川、中和田橋、稲葉木といった谷根川地区の里山の景観構成要素が凝縮して一望できる場所である
		40 谷根川(谷根川合流地点-中和田橋)	緑やかな曲線を谷根川の形状が見え隠れするポイント。谷根川沿いの列をなす樹木がトンネル効果をもたらすことによって自然な視線の流れを演出できる
		41 谷根川(惣ゼン橋付近)	谷根川地区中心部と参道の交通要路は川幅が広がっている。周囲に高木がなく見渡しがい。橋上空間が谷根川を眺めるポイントとなる
		42 榊田(鉄塔下)の空地	榊田(鉄塔下)中央を通る道路の空地。榊田(鉄塔下)を演出空間とした場合の導入部としての効果も期待できる場所。山並みを背景とした眺望景観
		43 榊田(鉄塔下)の空地と稲葉木	榊田(鉄塔下)の先の上米山小学校の中庭と中庭と稲葉木。人工的な稲葉木ではなく並木を利用したもので里山風景を構成する自然との営みを感じる要素
		44 道路(鳥道田)と竹村付近	住宅エリアを8字状の曲線を描く坂道。幅員が狭く見学ルートのシークエンス景観に変化をもたらす。無常寺と近距離でのあり作品演出効果も期待される
		45 田んぼ(宮前橋付近)	谷根神社の鳥居と参道橋に位置する田んぼ。田んぼ周囲は住宅によって囲まれている。小規模な田んぼではあるが角地であるため眺望を築きやすい
米協働で 選定した 地域の個性 や魅力を 感じられる 谷根川を 特徴づける 場所		46 谷根川(宮前橋付近)	谷根神社参道に繋がる宮前橋より眺められる谷根川。地区中央部の川面と異なり、上流からの連続的な谷根川によって小滝のような様相を見せる
		47 道路(小田・宮前橋付近)	参道に繋がる住宅エリアを通る小田、見学ルートのシークエンス景観に変化をもたらす演出効果も期待できる。両側が樹木、住宅外壁で囲まれている
		48 谷根川(小泉川合流地点-中和田橋)	谷根川地区中央を流れる谷根川の全体を連続した流れを感じさせる演出ができる。見学ルートから見え隠れする谷根川の変化する景観を見ることが出来る
		49 谷根川(小泉川合流地点)	谷根神社方面に続く道路から眺められる谷根川と小泉川の合流地点の眺望。道路の縁やかな曲線形状によって見過しがい、アースアップとなる場所
		50 六波道路	六波道路側には榊田(六波道路橋)のバラム風景が広がる。道路を見学ルートとして緑やかな傾斜面をいかしてバラムのシークエンス景観演出ができる
		51 榊田(六波道路橋)の空地(曲線状)	榊田(六波道路橋)の橋脚作業用道路の空地。周囲に街灯が少なく夜間景観の演出が期待できる
		52 榊田(六波道路橋)の空地(稲葉木)	榊田(六波道路橋)の橋脚作業用道路の空地。周囲に街灯が少なく夜間景観の演出が期待できる。鉄パイプ製の稲葉木をフレームとした作品制作
		53 上米山郵便局付近広場	榊田(六波道路橋)に面して建つ生活利便施設の駐車場に繋がる小広場。榊田(六波道路橋)のバラム風景の眺望のための観望場となる
		54 道路(鳥道田)と中和田橋付近	谷根川沿いの空地で見過しがい場所。設置された木製の稲葉木、緑やかな法面の空地で対岸と中和田橋の橋上空間からの眺望が集中しやすい
		55 池田工務店工場前広場	榊田(鉄塔下)の南側敷地上に設置されたビニールハウス。高台に位置し榊田(鉄塔下)を緑やかな傾斜で見下ろし、谷根川地区の里山風景が一望できる
米協働で 選定した 地域の個性 や魅力を 感じられる 谷根川を 特徴づける 場所		56 道路(曲線状/鳥道田三叉路付近)	緑やかなカーブを描く見過しがい。道路、道路側には住宅が点在しつつも傾斜が広がるバラム風景。見学ルートとしてシークエンス景観の演出効果も期待できる
		57 道路(曲線状/鳥道田三叉路付近)と稲葉木	小泉川を渡る住宅エリアの道路。橋梁としては自立した。谷根神社に繋がる小田と鳥道の交差点にあり、見学ルートの分岐点として動線を促す演出が必要
		58 道路(曲線状/鳥道田三叉路付近)	慈恵寺参道入口付近の縁やかな曲線形状の鳥道。幅員が広く道路自体を作品とした演出や作品展示を行える可能性がある道路空間
		59 中和田橋付近の榊田と河川敷	上米山コミュニティセンター前道から榊田から谷根川まで一望しがい。ほぼ平坦な河川敷で作品設置作業の施工性が高い
		60 榊田(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		61 榊田(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		62 谷根川(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		63 道路(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		64 道路(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている
		65 道路(鳥道田)と中和田橋	谷根川地区中心部と参道の交通要路に位置する小学校。グラウンドは地区民の集りや祭事の場所としてコミュニティ形成の中心の場となっている

「たんねのあかり」選定場所(46か所)
「たんねのあかり」イベント対象エリア外(0か所)
「たんねのあかり」イベント対象エリア内米選定場所
(10か所)

*6 候補場所65か所から選定場所46か所とした際に、「⑤選定理由(イベント時の実用性)」○であったものの、唯一選定しなかった場所である。
「候補場所」no. 28 道祖神(道祖神、石碑群)は、広田町(現)に移設されたもので、地域の歴史との関連性が見出し難いことから
演出場所として選定しなかった。

まず、一つ目の条件による選定理由の対象エリア内であったものは、候補場所の番号1から8、10、12から16、18、22から25、27から35、38から65までの56か所であった。次に、対象エリア内の候補場所56か所の中で、二つ目の条件による選定理由の占有可能であったものは、候補場所の番号7、8、10、12から16、18、22、24、25、27から35、38から65までの49か所であった。続いて、対象エリア内かつ占有可能であった候補場所49か所の中で、三つ目の条件による選定理由の施工可能であったものは、7、8、10、13、14、16、18、22、24、25、27から35、38から65までの47か所であった。3つの条件を満たした候補場所は47か所であり、その中で、候補場所の番号28の道祖神（道祖神・石碑群）は、条件を満たしているものの、「たんねのあかり」の全体計画において、唯一選定されなかった場所である。この候補場所は、区画整理時に移設されて一つの場所に集められた道祖神と石碑群であり、イベント実施の時点では、地域の歴史との関連性を見いだすことが難しいと判断され、選定外となった。

以上から、「たんねのあかり」において、候補場所65か所から、選定場所は46か所となり、選定外の場所は19か所となった。選定場所46か所のうち、案内による候補場所は18か所、協働による候補場所は28か所であった。候補場所の番号の順番をもとにして、改めて、選定場所の番号を01から46までつけ、選定場所の位置と写真を次の2点の図にまとめる。「たんねのあかり」の選定場所46か所の位置を図4-4に、図4-4に対応した選定場所46か所の写真を図4-5に示す。

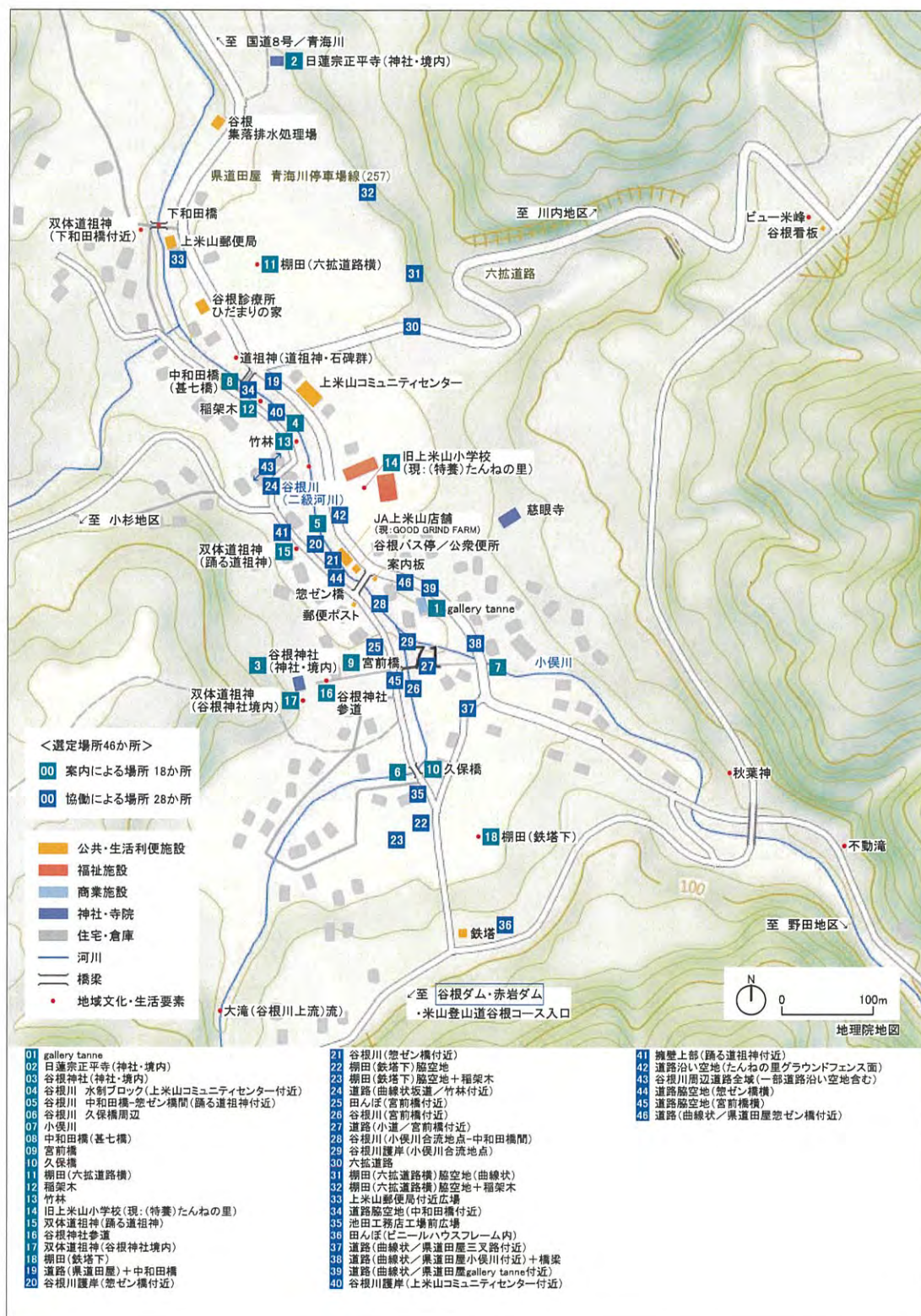


図4-4 「たんねのあかり」の選定場所46か所の位置



図 4-5 「たんののあかり」の選定場所 46 か所の写真

4.4 「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定

4.4.1 「視対象」と「視点場」の関係による選定場所の特徴の分析項目の設定

「たんねのあかり」において、空間演出が施された選定場所は、「視対象」であり、選定場所を見るための連続した視点位置から構成された見学ルートは、「視点場」であった。アートイベント「たんねのあかり」の空間演出方法では、まず、谷根地区中心部の地域の特徴を印象づける要素や場所が「視対象」となった。次に、それらの視対象を眺める場所を「視点場」として、点在する視点場をつなぐ見学ルートが設定された。2009年から2018年までの活動期間中に行ったフィールドワーク調査から、作品展示や空間演出が施される候補場所が検討され、開催年を重ねるごとに候補場所の数は増えていった。候補場所65か所から、「①開催年ごとに設定されたイベント対象エリア内であること」、「②イベント時に占有が可能な場所であること」、「③施工が可能な場所であること」の3つの条件を満たした46か所が選定場所となった。選定場所46か所は、いずれも地域の特徴や個性を形成する地域資源や景観資源であり、「たんねのあかり」において「そこにあるもの」と名づけられて、それらすべてが視対象として計画された。

選定場所46か所は、地域を特徴づける要素や場所で構成される場所である。これらの「たんねのあかり」における選定場所は、「①視対象のみになるもの」、または「②視対象にも視点場にもなるもの」の二つのタイプに大別ができる。まず、「①視対象のみになるもの」は、第一に、視対象として形状が明確である、双体道祖神や稲架木などが例として挙げられる。第二に、対象物と立ち入ることのできない空間の複合的な場所としての視対象があり、谷根川や棚田などが例として挙げられる¹⁾。例えば、視対象が谷根川である場合、対象物が谷根川で、立ち入ることのできない空間が河川空間である。なお、本論文において、立ち入ることのできない空間とは、「たんねのあかり」にて安全面や所有関係から、立ち入り不可とされた場所である。次に、「②視対象にも視点場にもなるもの」は、視対象として眺められることも、視点場となって別の視対象を眺めることもできる場所である。また、高木などで周囲を囲まれた場所が視対象である場合、その内部景観を眺めるための視点場にも同時になりうる場合がある。例示すると、前者は、谷根川に架かる橋梁の橋上空間や道路空間であり、後者は、谷根神社境内や竹林などが挙げられる。

以上から、「たんねのあかり」の選定場所46か所を、視対象と視点場の関係から分類すると、内数として「①視対象のみになるもの」は23か所、「②視対象にも視点場にもなるもの」は23か所であった。「①視対象のみになるもの」の23か所の内数として、視対象として形状が明確であるものが3か所、場所として視対象になるもの（立ち入り不可）が20か所であった。「②視対象にも視点場にもなるもの」の23か所の内数として、視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場にもなるものが16か所、周囲を囲まれた視対象で、視対象自体を眺める視点場になるものが7か所であった。

選定場所46か所を、「①視対象のみになるもの」と、「②視対象にも視点場にもなるもの」

に分類して分類ごとの代表的な選定場所の例とともに、図4-6に示す。

①視対象のみになるもの

双体道祖神（踊る道祖神）

<視対象として形状が明確であるもの>

稲架木

棚田（鉄塔下）

<場所として視対象となるもの>

谷根川

②視対象にも視点場にもなるもの

中和田橋（甚七橋）

<視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場にもなるもの>

道路（曲線状坂道／竹林付近）

谷根神社（神社・境内）

<周囲を囲まれた視対象で、視対象自体を眺める視点場になるもの>

竹林

項目	用途種別	選定場所 (46か所)	①視対象のみになるもの		②視対象にも視点場にもなるもの		
			視対象として形状が明確であるもの	場所として視対象になるもの (立ち入り不可)	視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場にもなるもの	周囲を囲まれた視対象で、視対象自体を眺める視点場になるもの	
主要施設・地域拠点 (選定:3)	商業施設(選定:1) 神社・寺院(選定:2)	番号 (01-46)	名称				
		01	gallery tanne			○	
		02	日蓮宗正平寺(神社・境内)		○		
		03	谷根神社(神社・境内)			○	
		04	水制ブロック(上米山コミュニティセンター付近)		○		
		05	谷根川 中和田橋-惣ゼン橋間(踊る道祖神付近)		○		
		06	久保橋周辺		○		
河川 (選定:4)		07	小俣川		○		
		08	中和田橋(甚七橋)			○	
		09	宮前橋			○	
		10	久保橋			○	
橋梁 (選定:3)		11	棚田(六弘道路橋)		○		
		12	稲架木	○			
		13	竹林			○	
		14	旧上米山小学校(現:「特養」たんねの里)			○	
地域文化・生活要素 (選定:8)		15	双体道祖神(踊る道祖神)	○			
		16	谷根神社参道			○	
		17	双体道祖神(谷根神社境内)	○			
		18	棚田(鉄塔下)		○		
		19	道路(県道田谷)＋中和田橋			○	
		20	谷根川(惣ゼン橋付近)		○		
		21	谷根川(惣ゼン橋付近)		○		
		22	棚田(鉄塔下)脇空地			○	
※協働で選定した地域の個性や魅力を感じられる谷根地域を特徴づける場所	協働による候補場所 (選定:28)	23	棚田(鉄塔下)脇空地＋稲架木		○		
		24	道路(曲線状坂道／竹林付近)			○	
		25	田んぼ(宮前橋付近)		○		
		26	谷根川(宮前橋付近)		○		
		27	道路(小俣川／宮前橋付近)			○	
		28	谷根川(小俣川合流地点-中和田橋間)		○		
		29	谷根川(小俣川合流地点)		○		
		30	六弘道路			○	
		31	棚田(六弘道路橋)脇空地(曲線状)		○		
		32	棚田(六弘道路橋)脇空地＋稲架木		○		
		33	上米山郵便局付近広場			○	
		34	道路脇空地(中和田橋付近)			○	
		35	池田工務店工場前広場			○	
		36	田んぼ(ビニールハウス内)		○		
		37	道路(曲線状／県道田屋三叉路付近)			○	
		38	道路(曲線状／県道田屋小俣川付近)＋橋梁			○	
		39	道路(曲線状／県道田屋gallery tanne付近)			○	
		40	谷根川(上米山コミュニティセンター付近)		○		
		41	擁壁上部(踊る道祖神付近)		○		
		42	道路沿い空地(たんねの里グラウンドフェンス面)		○		
		43	谷根川(小俣川合流地点)脇空地(一部道路沿い空地含む)			○	
		44	道路脇空地(惣ゼン橋)			○	
		45	道路脇空地(宮前橋)			○	
		46	道路(曲線状／県道田屋惣ゼン橋付近)			○	
箇所数			3	20	16	7	
箇所数合計			23		23		

図4-6 視対象と視点場による選定場所46か所の分類

選定場所 46 か所の特徴を分析するにあたり、「①視対象のみになるもの」と、「②視対象にも視点場にもなるもの」という対象の二つの特性に着目すると、視対象が置かれる空間、視対象となる空間、視対象を眺める空間といった「空間」に関する分析項目を設定する必要があると考えられる。例えば、空間形状や空間を構成する要素などの分析項目の設定である。本章での分析項目の設定における「空間」は、もともとその選定場所がもっている空間の特性や、空間構成要素から成り立つ場所の特徴であり、客観的に捉えることができるものとする。一方、選定場所 46 か所の視対象と視点場の関係において、対象となる場所の環境の視覚的な捉え方に特徴があるものや、地域の文化的要素が眺めの対象となる場所があり、「景観」に関する分析項目を設定することも必要であると考えられる。ここでいう「環境」は、人間と人間活動などの主体を中心とした空間的概念であり、その主体を取り巻き、直接的あるいは間接的に影響を及ぼす要因を示す^{2), 3)}。本章での分析項目の設定における「景観」は、主体である人間が視点場に立ち、視対象を見るという視覚を通じた関係であることと、主体の立場や見方によって視対象の見え方が異なる場合があると考えられることから、主観的に捉えることができるものとする。「たんねのあかり」では、谷根地区中心部の地形の上に、自然と人為によって時間をかけて形成された「空間」があり、その中で人びとの営みから成り立つ地域固有の視覚環境である「景観」が眺められ、それらの「空間」と「景観」から構成される場所を選定場所として定めていった。

以上から、「視対象」と「視点場」の関係による選定場所 46 か所の場所の特徴を分析するため、「空間の特徴」と「景観の特徴」から分析項目を設定する。

4.4.2 分析項目の設定

(1) 「空間の特徴」の分析項目の設定

「空間の特徴」の分析項目は、谷根地区中心部の地形の特徴と、その空間形状や空間を構成する要素から考える。谷根地区は、標高 933m の米山北面の山ひだの雨水が集められて谷根川と小俣川となり、それらの流れが形づくったわずかな丘陵と平坦地に位置している⁴⁾。選定場所が定められた谷根地区中心部は、谷根川を中心に川東と川西の 2 つの地域にわかれ、河川沿いを囲むように配された道路と橋梁が、点在する生活拠点をつないでいる。谷根地区中心部は、地区のほぼ中央を流れる谷根川を基点として形づくられてきた地域であるといえる。フィールドワーク調査をもとに、この中心部の特徴的な空間の構成要素を見てみると、自然要素では、河川、棚田、山、高木、竹林があり、人工要素では、道路、小道、橋梁、神社と寺院などがある。谷根地区中心部の地形の特徴と空間の構成要素を踏まえ、選定場所 46 か所の「空間の特徴」の分析するため、以下の 5 つの分析項目を設定する。

第一項目を、河川と山や丘陵地から成る地形の特徴から、「高低差」とする。第二項目を、棚田などの丘陵地や平坦地の地形の特徴と、周囲に視線を遮る要素が少ない河川と橋上空間といった空間の構成要素の面から、「空間の広がり」とする。第三項目を、空間的に連続している線形をもつ河川や道路空間の特徴と、河川沿いの連続する高木や護岸、神社境内や

参道の高木や鳥居の配列といった、空間構成要素によって強調される空間の特徴から、「奥行き」とする。第四項目を、緩やかに蛇行する曲線形状をもった谷根川の線形の特徴と、谷根川に沿ってつくられた道路形状の特徴から、「曲線形状」とする。第五項目を、神社境内や敷地の境界を示すように並ぶ高木、塀や擁壁といった空間を囲む構成要素によって形成された場所特徴から、「囲繞感」とする。「囲繞感」とは、例えば、壁面や屋根などといった空間を感じる要素によって囲まれているような感覚を指し、囲まれ感とも表現される^{5)、6)}。

以上から、選定場所 46 か所の「空間の特徴」の分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」の 5 つの項目を設定する。

(2)「景観の特徴」の分析項目の設定

「景観の特徴」の分析項目は、谷根地区中心部に設定された選定場所について、それらの環境の視覚的な捉え方に特徴があるものや、地域の文化的要素が眺めの対象となる場所の特徴から検討する。谷根地区中心部の地域を構成するさまざまな要素を整理すると、まず、谷根地区中心部を流れる谷根川は、上流の大滝付近から下和田橋下流までの約 1.2km の距離の中で、二連の S 字状のかたちをしている。谷根川のかたちに沿って、河川を囲むように一周できる道路と 5 本の橋梁が配置されている。道路のかたちも谷根川同様に緩やかな曲線を描いている。次に、谷根川上流の大滝付近と下流の下和田橋付近の 2 か所の平坦部から丘陵地にかけて棚田が広がっている。谷根川の線形と平坦地から丘陵地にある棚田群が、谷根地区中心部のおもな景観を形成している。そして、高台に建つ神社や寺院、道路の交差する場所や路傍に置かれ祀られた双体道祖神、田んぼや棚田の脇に建てられた稲架木などが、谷根地区中心部の里地里山の農村景観を構成する要素となっている。

このように、谷根地区中心部の景観は、谷根川を中心として形成された景観であることと、特徴ある地形を活かしながら、人びとの暮らしの中で育まれた自然と人為によって成り立つ景観であると考えられることから、選定場所 46 か所の「景観の特徴」の分析するため、以下の 4 つの項目を設定する。

第一項目を、周辺に視線を遮蔽する要素が少ない、平坦部から丘陵地にかけて広がる棚田や、谷根川に架かる橋梁の橋上空間から棚田や周辺環境を眺めることができるといった、選定場所がもつ景観の特徴から、「見晴らし」とする。第二項目を、谷根地区中心部の高台にある谷根神社への参道の平坦部⁷⁾や、谷根川の橋上空間から橋軸方向に見る道路と流軸方向への河川の眺めの特徴から、「見通し」とする。第三項目を、谷根地区中心部の高台にある谷根神社へと続く参道上の高木や大藤⁸⁾が沿道に配された階段部や、谷根川沿いの曲線状の道路から見る景観の特徴から、「見え隠れ」とする。「見え隠れ」とは、視点の移動にともない、対象が建造物や樹木などの視線を遮る要素によって、見えたり見えなくなったりする景観の特徴を指す。また、空間演出の方法としても用いられる⁹⁾。第四項目を、谷根地区住民が祭事や地域のイベントを開催する際の地域拠点となっている、谷根神社や旧上米山小学校の校庭、また、棚田と稲架木、道祖神といった地域個性を形成する景観の構成要素の特徴から、「文化的意味」とする。

以上から、選定場所 46 か所の「景観の特徴」の分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」の 4 つの項目と設定する。

4.4.3 分析項目の定義

「たねのあかり」の空間演出を計画するにあたり、選定した場所は 46 か所であった。選定場所の特徴を把握するため、「空間の特徴」について 5 つの項目、「景観の特徴」について 4 つの項目を分析項目として設定した。「空間の特徴」の分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」の 5 つである。「景観の特徴」の分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」の 4 つである。いずれも谷根地区中心部の地形を土台とし、その上に築かれてきた自然と人為の関係から考えられる「空間の特徴」と「景観の特徴」についての分析項目である。「空間の特徴」の 5 つの分析項目と、「景観の特徴」の 4 つの分析項目、および事例の一覧を図 4-7 に示す。次に、選定場所 46 か所の特徴を分析するにあたり、これら 9 つの分析項目の用語を定義する。

空間の特徴				
				
日蓮宗正平寺（神社・境内） a. 高低差	棚田（六拡道路横） b. 空間の広がり	谷根川護岸（踊る道祖神付近） c. 奥行き	道路（曲線状／県道田谷惣ゼン橋付近） d. 曲線形状	道路（小道／宮前橋付近） e. 囲繞感
景観の特徴				
				
棚田（鉄塔下） f. 見晴らし	谷根神社参道 g. 見通し	道路（曲線状坂道／竹林付近） h. 見え隠れ	稲架木 i. 文化的意味	

図 4-7 「空間の特徴」と「景観の特徴」の分析項目と事例

(1)「空間の特徴」の分析項目の定義

選定場所 46 か所の「空間の特徴」の分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」の 5 つの項目である。これら 5 項目の用語を、以下の通り定義する。

a. 高低差

- 対象となる空間に階段や傾斜路、段差、土地に高低や起伏がある地形で、断面的な特徴があるもの。視点と対象との間に高度の差があり、対象を仰角、または俯角で見る関係があるもの、または視点場と視対象の位置に標高の差があるものを指す。
- 谷根地区中心部において、断面的な特徴がある場所は、視点位置の地盤面を±0 m 地点とした場合、低所で最大約−3.5 m、高所で最大約+14 m の標高の差がある。
- 谷根地区中心部の選定場所では、河川護岸の最低地点と最高地点の標高差（約 2 ～ 3.5 m）、棚田の最低地点から最高地点までの標高差（約 6.5 ～ 14 m）、坂道や傾斜路の最低地点から最高地点までの標高差（約 7.5 ～ 9 m）がある空間がある¹⁰⁾。

<定義>

ここでは、日本人成人平均身長から目線の高さの基準を 150 cm と設定する¹¹⁾。

- ① 視点位置の目線の高さを一定にして、正面方向に対象を見たときの視線を水平とした場合、視点と対象との間に高度の差があり、対象を仰角、または俯角で見る関係がある空間
 - ② 視点場と視対象の位置の標高の差が 150 cm 以上となる関係がある空間
- ①、②のうち、一点以上の特徴をもつ空間を、「高低差」があるものとする。



b. 空間の広がり

- 対象空間自体の面積が広いものや、対象空間周囲の水平方向に、視線を遮る人工物や自然物がほとんどなく、周囲を見渡すことができる空間を指す。
- 谷根地区中心部の選定場所では、敷地面積として規模が大きく、面的な広がりをもつ棚田2か所（面積約18,600 m²/鉄塔下、約59,500 m²/六広道路横）や、旧米山小学校の校庭であった広場（小学校敷地面積約6,950 m²、校庭面積約2,550 m²）がある。また、視界を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる橋上空間などがある。

<定義>

- ① 対象空間周囲の水平方向に視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる空間（例：棚田、小学校校庭、橋上空間）
- ② ①に付属する空間（例：棚田脇空地と道路、橋詰空間や橋梁につながる道路）
- ①、②のうち、一点以上の特徴をもつ空間を、「空間の広がり」があるものとする。



c. 奥行き

- 視点位置から見た対象となる空間自体に距離があるものや、道路や河川のように対象となる空間の長さが視界の先まで続いているものを指す。空間が視界の先まで長く続いていることで距離感が生じ、視線の先が明確に見えず、把握しづらい場合がある。また、神社境内や竹林といった奥性¹²⁾を感じる空間も含む。
- 谷根地区中心部において、視点位置から見た対象となる空間自体に距離がある空間は、最低地点から最高地点まで距離がある棚田が挙げられる。棚田の最低地点から最高地点までの距離は、棚田（六広道路横）は約215m、棚田（鉄塔下）は約150mである。
- 谷根地区中心部の選定場所では、低所と高所間に距離がある空間、視界から先へと続く長さがある河川と道路、奥性を感じる神社境内や竹林の空間がある。

<定義>

- ① 視点位置を対象となる空間の手前端部とした場合、対象空間の奥の端部までの視距離が、視覚を通じた人間の活動の認知限界である135m以上の空間¹³⁾（例：棚田）
 - ② 対象空間自体の長さが視界から先へと続いている空間（例：河川、道路）
 - ③ 奥性を感じる空間（例：神社境内、竹林）
- ①から③の中で、一点以上の特徴をもつ空間を、「奥行き」があるものとする。



d. 曲線形状

- 道路空間や道路に沿った空地、河川空間の線形や空間形状が、平面的に曲線形状で長さがあるものを指す。
- 谷根地区中心部において、曲線形状で長さがあるものとは、視点位置から対象となる空間を見て、その線形が曲線、かつ長さが視界から先へと続いているものを指す。
- 谷根地区中心部の選定場所では、河川と河川沿いの道路や空地、住宅街の坂道などに見られる緩やかに曲がった線形をもつ空間がある。

<定義>

対象となる空間である道路や道路沿い空地、河川の線形が曲線であり、視点位置から見た対象となる空間の長さが視界から先へと続く特徴をもつ空間を、「曲線形状」があるものとする。



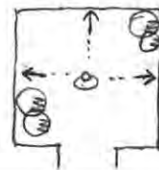
e. 囲繞感

- 対象となる空間に視点位置がある場合、その周囲に遮蔽を感じる人工物や自然物の要素が、多い・高い・近い場合に感じる、囲まれているような感覚を指す。
- 遮蔽を感じる要素とは、高さのある建物や建造物、塀やフェンスといった人工物や樹木などがあり、人工物や樹木は群になる場合、遮蔽をより強く感じる。
- 谷根地区中心部の選定場所では、① 1階建て以上の建物や樹木群に挟まれた幅員4m以下の道路空間、② 面積約500㎡以下である敷地や空地の側面が二面以上、1階建て以上の建物や雑木林・竹林によって囲まれた対象となる空間にて感じる空間の特徴である。

<定義>

1階建て以上の建物や樹木群を、遮蔽を感じる要素とする。

- ① 遮蔽を感じる要素に挟まれた幅員4m以下の道路空間
 - ② 面積約500㎡以下である敷地や空地の側面二面以上が、遮蔽を感じる要素に囲まれた空間
- ①、②のうち、一点以上の特徴をもつ空間を、「囲繞感」があるものとする。



（２）「景観の特徴」の分析項目の定義

選定場所 46 か所の「景観の特徴」の分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」の４つの項目である。これら４項目の用語を、以下の通り定義する。

f. 見晴らし

- 遠くまでの視界が確保され、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる景観の特徴を指す。
- 谷根地区中心部では、棚田の最低地点、または最高地点からの棚田全景の眺めや、橋上空間から見る河川空間や周辺環境まで視界が広がる眺めを得られる場所が挙げられる。

<定義>

遠くまでの視界が確保され、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる景観が得られる場所を、「見晴らし」があるものとする。



g. 見通し

- 視線の正面方向の延長線を見たときに、視線を遮るものがなく、遠くまで視線が通る景観の特徴を指す。正面方向に視線を遮るものがないため、視線の先が明確に見え、把握しやすい。遠くまで見た視線の先に、山やモニュメントなどのアイストップが置かれる場合もある。また、視線を遠くまで誘導する人工物や自然物などの要素がある場合、その見通しが強調される。
- 谷根地区中心部において、視線を遠くまで誘導する要素とは、並木、道路や河川自体の線形、橋の欄干、河川両側の護岸などがある。
- 谷根地区中心部の橋上空間では、河川側を見る流軸景と、橋梁の橋詰空間側をみる道路景観の二通りの景観が分析対象として挙げられる。

<定義>

視線の正面方向の延長線を見たときに、視線を遮るものがなく、遠くまで視線が通る景観、または遠くまで見た視線の先に、山やモニュメントなどのアイストップがある景観が得られる場所を、「見通し」があるものとする。



h. 見え隠れ

- 視点の移動にともない、対象が建造物や樹木などの視線を遮る要素によって、見えたり見えなくなったりする景観の特徴を指す。対象が見えなくなるとき、対象が遮蔽物に隠れて見えないことから「隠れ」と表現する。
- 谷根地区中心部では、おもに谷根川を中心に回遊できる道路や、神社参道を移動する際に、建造物や樹木などの数量や配置によって、対象が見えたり隠れたりする景観の特徴がある。また、見えたり隠れたりする対象の例として、谷根川自体とその河川空間が挙げられる。

<定義>

視点の移動にともない、対象が建造物や樹木などの視線を遮る要素によって見えたり隠れたりする景観が得られる場所を、「見え隠れ」があるものとする。



i. 文化的意味

- 地域の歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を表すものであり、その地域の景観を形成する重要な要素となるものを表す特徴である。とくに地域住民にとって生活の中で意味をもつものを指す。
- 谷根地区中心部では、祭事の拠点となる神社、地域コミュニティの拠点となる広場（旧上米山小学校校庭）、点在する道祖神、里地里山の景観を形成する棚田や稲架木などが文化的意味をもつものとして挙げられる。それらが構成要素となって地域の特徴ある場所となり、文化的意味をもつ景観を形成している。

<定義>

歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を表すものや、地域住民にとって生活の中で意味をもつものによって形成される場所であり、また地域を特徴づける景観となる場所を、「文化的意味」があるものとする。



以上から、「たんねのあかり」の選定場所46か所の特徴を分析するにあたり、空間の特徴では5つの項目、景観の特徴では4つの項目を分析項目として設定した。空間の特徴の分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」とした。景観の特徴の分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」とした。本項では、これらの分析項目として用いる用語の定義を行った。

次節では、本節にて空間の特徴と景観の特徴から設定した9つの分析項目を用いて、選定場所46か所をクラスター分析にて分類する。クラスター分析時に得られたデンドログラムと標準化得点から、分類されたクラスターを分析して選定場所の特徴を把握する。

4.5 「選定場所」の類型と分析

本節では、「たんねのあかり」の選定場所 46 か所を、空間の特徴と景観の特徴による 9 つの分析項目を用いてクラスター分析を行い、選定場所の類型を抽出して、谷根地区中心部に設定されたこれらの場所の特徴を分析する。

類型を抽出する対象は選定場所 46 か所とし、空間の特徴と景観の特徴から設定した 9 つの分析項目を用いてクラスター分析を行った。クラスター分析では、HAD18¹⁴⁾を使用した。各選定場所の 9 つの分析項目について、あるを「1」とし、ないを「0」としたダミー変数を用いて、分析データをまとめた。選定場所 46 か所の 9 つの分析項目による分析データを表 4-2 に示す。ウォード法を用いて、距離 2.12 で分類し、6 つのクラスターを得た。デンドログラムによるクラスター分析の結果を図 4-8 に示す。また、分析時に得た標準化得点によるクラスターの特徴を表 4-3 に示す。各クラスターを構成する所属メンバーと、標準化得点を分析し、各クラスターの特徴を次のように解釈した。

6 つのクラスターの類型は、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のもと（橋詰空間）」、「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」と解釈した。6 つのクラスターの特徴と所属メンバーを、選定場所 46 か所の空間の特徴と景観の特徴による 6 つの類型として、図 4-9 に示す。なお、図 4-9 でのクラスターごとの選定場所の配列順は、デンドログラムによる選定場所の配列順に従った。また、クラスターごとに標準化得点の特徴から分析項目を比較する場合の記述では、標準化得点の数値を分析項目の後の括弧内に記す。

表4-2 選定場所46か所の9つの分析項目による分析データ

項目	用途種別	選定場所 (46か所)		① 選定場所の特徴-A (空間の特徴) 1:ある 0:ない					選定場所の特徴-B (景観の特徴) 1:ある 0:ない				
				a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.	i.	
		番号 (01-46)	名称	高低差	空間の 広がり	奥行き	曲線形状	囲繞感	見晴らし	見通し	見え隠れ	文化的 意味	
主要施設 ・地域拠点 (選定:3)	商業施設(選定:1)	01	gallery tanne	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	神社・寺院(選定:2)	02	日蓮宗正平寺(神社・境内)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
河川 (選定:4)		03	谷根神社(神社・境内)	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
		04	水制ブロック(上米山コミュニティセンター付近)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		05	谷根川 中和田橋-惣ゼン橋間(語る道祖神付近)	1	0	1	1	0	0	0	0	0	
		06	久保橋周辺	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
橋梁 (選定:3)		07	小俣川	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
		08	中和田橋(基七橋)	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
		09	宮前橋	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
地域文化 ・生活要素 (選定:8)		10	久保橋	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
		11	棚田(六松道路横)	1	1	1	0	0	1	0	0	1	
		12	稲架木	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		13	竹林	0	0	1	0	1	0	0	1	0	
		14	旧上米山小学校(現:「特養」たんねの里)	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		15	双体道祖神(語る道祖神)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		16	谷根神社参道	1	0	1	0	0	0	1	1	1	
		17	双体道祖神(谷根神社境内)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
協働による 候補場所 (選定:28)		18	棚田(鉄塔下)	1	1	1	0	0	1	0	0	1	
		19	道路(黒道田谷)＋中和田橋	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
		20	谷根川護岸(語る道祖神付近)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
		21	谷根川(惣ゼン橋付近)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		22	棚田(鉄塔下)脇空地	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
		23	棚田(鉄塔下)脇空地＋稲架木	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
		24	道路(曲線状坂道／竹林付近)	1	0	1	1	1	0	0	1	0	
	※協働で 選定した 地域の個性 や魅力が 感じられる 谷根地域を 特徴づける 場所		25	田んぼ(宮前橋付近)	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			26	谷根川(宮前橋付近)	1	0	0	0	0	0	0	0	0
			27	道路(小道／宮前橋付近)	0	0	1	0	1	0	0	1	0
			28	谷根川(小俣川合流地点-中和田橋間)	1	0	1	1	0	0	0	0	0
			29	谷根川護岸(小俣川合流地点)	1	0	0	0	0	0	0	0	0
			30	六松道路	1	1	1	0	0	1	1	0	0
			31	棚田(六松道路横)脇空地(曲線状)	0	0	0	1	0	1	0	0	0
			32	棚田(六松道路横)脇空地＋稲架木	0	1	0	0	0	1	0	0	1
			33	上米山郵便局付近広場	0	0	0	0	1	0	0	0	0
			34	道路脇空地(中和田橋付近)	0	1	0	0	0	1	0	0	0
			35	池田工務店工場前広場	0	0	0	0	1	0	0	0	0
			36	田んぼ(ビニールハウスフレーム内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			37	道路(曲線状／黒道田屋三叉路付近)	0	0	1	1	0	0	0	0	1
			38	道路(曲線状／黒道田屋小俣川付近)＋橋梁	0	0	0	1	0	0	0	1	0
			39	道路(曲線状／黒道田屋gallery tanne付近)	0	0	1	1	0	0	0	1	0
			40	谷根川護岸(上米山コミュニティセンター付近)	1	0	0	0	0	0	0	0	0
			41	擁壁上部(語る道祖神付近)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			42	道路沿い空地(たんねの里グラウンドフェンス面)	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		43	谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)	1	0	1	1	0	0	0	1	0	
		44	道路脇空地(惣ゼン橋横)	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
		45	道路脇空地(宮前橋横)	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
	46	道路(曲線状／黒道田屋惣ゼン橋付近)	0	0	1	1	0	0	0	1	0		

1	ある
0	ない

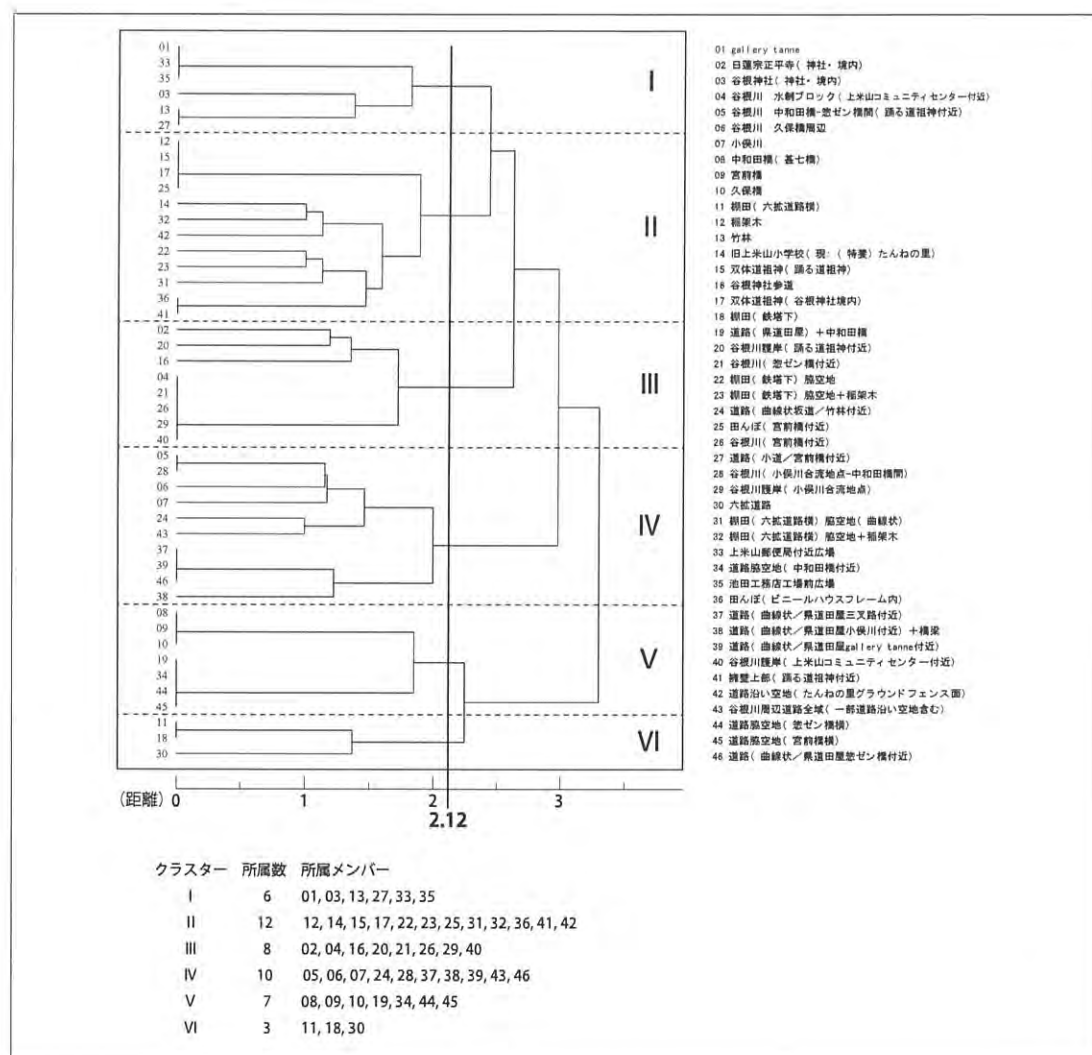


図4-8 分析項目による選定場所46か所のクラスター分析結果

表4-3 標準化得点によるクラスターの特徴

クラスター	選定場所の特徴-A					選定場所の特徴-B			
	空間の特徴					景観の特徴			
	高低差	空間の広がり	奥行き	曲線形状	囲繞感	見晴らし	見通し	見え隠れ	文化的意味
I	-0.76	-0.62	0.37	-0.52	2.33	-0.65	-0.38	0.34	-0.21
II	-0.76	-0.07	-0.69	-0.32	-0.42	0.06	-0.38	-0.49	0.73
III	1.29	-0.62	-0.42	-0.52	-0.42	-0.65	0.35	-0.18	-0.02
IV	0.47	-0.62	1.00	1.64	-0.14	-0.65	-0.38	1.01	-0.59
V	-0.76	1.58	-0.69	-0.52	-0.42	1.50	0.88	-0.49	-0.59
VI	1.29	1.58	1.42	-0.52	-0.42	1.50	0.60	-0.49	0.91

凡例：00 1番目に高い 00 2番目に高い 00 3番目に高い

I	境界をもつ 内部的場所	 01 gallery tanne	 33 上米山郵便局 付近広場	 35 池田工務店 工場前広場	 03 谷根神社 (神社・境内)	 13 竹林	 27 道路(小道 ／宮前橋付近)
II	地域個性を 形成する 要素と場所	 12 稲架木	 15 双体道祖神 (踊る道祖神)	 17 双体道祖神 (谷根神社境内)	 25 田んぼ (宮前橋付近)	 14 旧上米山小学校 (現・(特養)たんねの里)	 32 棚田(六拡道路横) 空地＋稲架木
		 42 道路沿い空地 (たんねの里ランドファンクス側)	 22 棚田(鉄塔下) 脇空地	 23 棚田(鉄塔下) 脇空地＋稲架木	 31 棚田(六拡道路横) 脇空地(曲線状)	 36 田んぼ(ビニール ハウスフレーム内)	 41 擁壁上部 (踊る道祖神付近)
III	河川と高台 による 低地部と 高地部	 02 日蓮宗正平寺 (寺院・境内)	 20 谷根川護岸 (踊る道祖神付近)	 16 谷根神社参道	 04 谷根川 水割ブロック	 21 谷根川 (惣ゼン橋付近)	 26 谷根川 (宮前橋付近)
		 29 谷根川護岸 (小俣川合流地点)	 40 谷根川護岸(上米山 コミュニティセンター付近)				
IV	蛇行する 河川と 河川のかたち に沿った道路	 05 谷根川 中和田橋－惣ゼン橋間	 28 谷根川(小俣川合流 地点－中和田橋間)	 06 谷根川 久保橋周辺	 07 小俣川	 24 道路(曲線状坂道 ／竹林付近)	 43 谷根川周辺道路全線 (一帯道路沿い空地含む)
		 37 道路(曲線状 ／県道田屋三叉路)	 39 道路(曲線状／県道 田屋gallery tanne付近)	 46 道路(曲線状／県道 田屋惣ゼン橋付近)	 38 道路(曲線状／県道 田屋小俣川付近)＋橋梁		
V	河川の 橋上空間と 橋のたもと (橋詰空間)	 08 中和田橋(甚七橋)	 09 宮前橋	 10 久保橋	 19 道路(県道田屋 ＋中和田橋)	 34 道路脇空地 (中和田橋付近)	 44 道路脇空地 (惣ゼン橋橋)
		 45 道路脇空地 (宮前橋橋)					
VI	開けた 傾斜地の 棚田	 11 棚田(六拡道路横)	 18 棚田(鉄塔下)	 30 六拡道路			

図 4-9 選定場所 46 か所の空間の特徴と景観の特徴による 6 つの類型

＜選定場所の6つのクラスターと特徴＞

・「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」：

「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」の所属メンバーは、(01) gallery tanne、(03) 谷根神社（神社・境内）、(13) 竹林、(27) 道路（小道／宮前橋付近）、(33) 上米山郵便局付近広場、(35) 池田工務店工場前広場の6か所であった。標準化得点の特徴から分析項目を比較すると、囲繞感（2.33）が最も高く、続いて、奥行き（0.37）、見え隠れ（0.34）の順であった。これらの選定場所6か所は、周囲の建物や樹木群といった遮蔽を感じる要素によって囲まれた場所である。また、「たんねのあかり」では、滞留空間として、交流や休憩などの機能が備えられた場所である。(01) gallery tanne、(03) 谷根神社（神社・境内）、(33) 上米山郵便局付近広場、(35) 池田工務店工場前広場の4か所は、施設が建つ敷地として境界線があり、境界線に沿った建物や塀、樹木によって囲まれた場所である。(13) 竹林、(27) 道路（小道／宮前橋付近）の2か所は、おもに樹木群によって囲まれた場所で、人が2、3人程度入ることができたり、通り抜けることができたりするような小規模な空間である。クラスターⅠに分類された選定場所6か所は、人工物や自然物などの遮蔽を感じる要素によって囲まれ、選定場所の内側に立って選定場所の外側を見た場合に、視線の先が見えたり隠れたりする場所と考えられる。さらに、これらの選定場所の内側に滞留した場合、外部空間ではあるものの、周囲を取り囲む遮蔽を感じる要素によって、内部空間のような印象を与える場所でもあると考えられる。以上から、クラスターⅠは、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」と解釈した。

・「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」：

「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」の所属メンバーは、(12) 稲架木、(14) 旧上米山小学校（現：（特養）たんねの里）、(15) 双体道祖神（踊る道祖神）、(17) 双体道祖神（谷根神社境内）、(22) 棚田（鉄塔下）脇空地、(23) 棚田（鉄塔下）空地＋稲架木、(25) 田んぼ（宮前橋付近）、(31) 棚田（六拡道路横）脇空地（曲線状）、(32) 棚田（六拡道路横）脇空地＋稲架木、(36) 田んぼ（ビニールハウス内）、(41) 擁壁上部（踊る道祖神）、(42) 道路沿い空地（たんねの里グラウンドフェンス面）の12か所であった。標準化得点の特徴から分析項目を比較すると、文化的意味（0.73）が一番目に高く、見晴らし（0.06）が二番目に高かったものの、ともに1.0以下の数値であった。これは、このクラスターが6つのクラスターの中で、所属メンバーの数が最も多くあり、選定場所の特徴にばらつきが生じたことが要因であると推察する。所属メンバーの構成から分析すると、クラスターⅡは、稲架木や双体道祖神、旧上米山小学校、田んぼなど、谷根地区中心部の歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を形成する、文化的意味をもつ要素がまとまったクラスターであると考えられる。一方、標準化得点の二番目に高い分析項目の見晴らしに着目すると、文化的意味をもつ要素は、視対象として視覚的に捉えやすい見晴らしのよい場所に位置すると考える。以上から、クラスターⅡは、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」と解釈した。

・「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」：

「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」の所属メンバーは、(02) 日蓮宗正平寺（神社・境内）、(04) 谷根川水制ブロック（上米山コミュニティセンター付近）、(16) 谷根神社参道、(20) 谷根川護岸（踊る道祖神付近）、(21) 谷根川（惣ゼン橋付近）、(26) 谷根川（宮前橋付近）、(29) 谷根川護岸（小俣川合流地点）、(40) 谷根川護岸（上米山コミュニティセンター付近）の8か所であった。標準化得点の特徴から分析項目を比較すると、高低差（1.29）が一番目に高く、見通し（0.35）が二番目に高い数値であった。(02) 日蓮宗正平寺（神社・境内）と(16) 谷根神社参道の2か所は、谷根地区中心部の丘陵部の高台、または低地部から丘陵部へと向かう傾斜面に位置する選定場所である。これらの選定場所において、(02) 日蓮宗正平寺（神社・境内）は低地部を、(16) 谷根神社参道は丘陵部または低地部を立ち位置とした場合、視点と対象との間の高度の差があり、対象を仰角、または俯角で見る関係がある空間であると考えられる。(04) 谷根川水制ブロック（上米山コミュニティセンター付近）、(20) 谷根川護岸（踊る道祖神付近）、(21) 谷根川（惣ゼン橋付近）、(26) 谷根川（宮前橋付近）、(29) 谷根川護岸（小俣川合流地点）、(40) 谷根川護岸（上米山コミュニティセンター付近）の6か所は、谷根川の河川空間である。谷根川または谷根川護岸を見る場合、視点場はおもに道路や橋上空間であり、視対象となる谷根川の川面との間に高低差がある選定場所である。また、クラスターⅢに分類された谷根川の選定場所は、河川の蛇行のカーブが緩やかな場所であることから、道路や橋上空間を立ち位置とした場合、谷根川が視線の先の方まで見通しよく見える場所となっている。以上から、クラスターⅢは、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」と解釈した。

・「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」：

「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」の所属メンバーは、(05) 谷根川中和田橋-惣ゼン橋間（踊る道祖神付近）、(06) 谷根川久保橋周辺、(07) 小俣川、(24) 道路（曲線状坂道／竹林付近）、(28) 谷根川（小俣川合流地点-中和田橋間）、(37) 道路（曲線状／県道田屋三叉路付近）、(38) 道路（曲線状／県道田屋小俣川付近）＋橋梁、(39) 道路（曲線状／県道田屋 gallery tane 付近）、(43) 谷根川周辺道路全域（一部道路沿い空地含む）、(46) 道路（曲線状／県道田屋惣ゼン橋付近）の10か所であった。標準化得点の特徴から分析項目を比較すると、曲線形状（1.64）が最も高く、続いて、見え隠れ（1.01）、奥行き（1.00）の順であった。河川空間は、谷根川に3か所、小俣川に1か所、合計4か所であった。これらの河川空間は、「たんねのあかり」の選定場所として、クラスターⅢに分類された河川空間と比較して、距離が長い範囲で設定された場所であることから、蛇行する河川形状を把握しやすい場所である。とくに(06) 谷根川久保橋周辺は、谷根地区中心部の谷根川では、最も急な曲線形状をもつ部分である。一方、道路空間は6か所であり、いずれも曲線形状をもつ選定場所である。谷根地区中心部において、道路空間の線形は、蛇行する谷根川の河川形状、または谷根川と小俣川の流れによって形成された地形に沿ったかたちの曲線形状をもつものが多くみられる。なお、谷根地区中心部には、棚田（鉄塔下）の中央を通る

道路や、棚田（六抔道路横）内の作業用の通路、谷根川に架かる橋梁などが直線形状をもつが、河川形状に沿ったものではなく、生業や生活における利便性によってつくられた形状である。したがって、クラスターⅣに分類された河川空間4か所および道路空間6か所の空間形状は、その線形が曲線を描いている。また、曲線形状をもつ道路空間と河川空間であることから、視点位置から見た対象となる空間の長さが視界から先へと続く特徴をもつ。このような曲線形状の選定場所の空間の特徴から、標準化得点の分析項目の見え隠れと奥行きの数値も高くなったと考えられる。以上から、クラスターⅣは、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」と解釈した。

・「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」：

「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」の所属メンバーは、(08) 中和田橋（甚七橋）、(09) 宮前橋、(10) 久保橋、(19) 道路（県道田屋）＋中和田橋、(34) 道路脇空地（中和田橋付近）、(44) 道路脇空地（惣ゼン橋付近）、(45) 道路脇空地（宮前橋横）の7か所であった。標準化得点の特徴から分析項目を比較すると、空間の広がり（1.58）が最も高く、続いて、見晴らし（1.50）、見通し（0.88）の順であった。棚田（六抔道路横）に近接した（08）中和田橋（甚七橋）、谷根神社参道に続く（09）宮前橋、棚田（鉄塔下）に近接した（10）久保橋、（19）道路（県道田屋）＋中和田橋は、谷根川に架かる3本の橋梁の橋上空間と一部道路部分を含む4つの選定場所である。（34）道路脇空地（中和田橋付近）、（44）道路脇空地（惣ゼン橋付近）、（45）道路脇空地（宮前橋横）の3つの選定場所は、それぞれ橋梁の橋詰空間が選定場所である。クラスターⅤに分類された橋上空間は、周囲の水平方向に高木や建造物などの視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる。このことから、分析項目の空間の広がりが見晴らしが標準化得点では高い数値を得て、クラスターの特徴として表れたと考えられる。橋上空間から近接した広範囲にわたって広がる棚田の景観が眺められることも、空間の広がりという空間の特徴に影響している。また、道路脇空地であり、橋詰空間である選定場所3か所は、橋上空間に連結した空間であることから、橋上空間に近い特徴をもつと考えられる。これらの橋上空間または橋詰空間である選定場所7か所は、選定場所を視点位置とした場合、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる見晴らしのよい場所でもある。以上から、クラスターⅤは、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」と解釈した。

・「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」：

「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」の所属メンバーは、(11) 棚田（六抔道路横）、(18) 棚田（鉄塔下）、(30) 六抔道路の3か所であった。標準化得点の分析項目を比較すると、空間の広がり（1.58）が最も高く、続いて、見晴らし（1.50）、奥行き（1.42）の順であった。（11）棚田（六抔道路横）は谷根地区中心部北側、（18）棚田（鉄塔下）は谷根地区中心部南側のそれぞれ低地部から丘陵部にかけての広範囲にわたる傾斜地に位置している。（30）六抔道路は、（11）棚田（六抔道路横）沿いに位置する、地区内外をつなぐ幅員約6mの道路である。2か所の棚田は、周囲の水平方向に視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことがで

きる空間の広がりをもった空間であり、棚田沿いの六広道路も同様の特徴をもつ空間である。また、クラスターVIの選定場所3か所は、クラスターVと同様に、遠くまでの視界が確保され、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる景観が得られる見晴らしのよい場所である。クラスターVとクラスターVIの標準化得点を比較すると、一番目に高い数値は空間の広がり（1.58）で、二番目に高い数値は見晴らし（1.50）であり、二つのクラスターの空間の広がりで見晴らしの2項目の数値は同じであった。標準化得点によるクラスターVとクラスターVIの特徴の違いは、三番目に高い数値を得た見通しと奥行きの項目の違いであった。橋上空間と橋詰空間で構成されたクラスターVの三番目に高い数値は、見通し（0.88）であった。棚田と棚田沿いの道路で構成されたクラスターVIの三番目に高い数値は、奥行き（1.42）であった。クラスターVでは、橋上空間において、橋梁の直線的な平面形状や橋の欄干などが、視線を遠くまで誘導する要素として機能することで、選定場所の特徴として見通しが高い数値を得たと考えられる。一方、クラスターVIの棚田と棚田沿いの道路は、4.4.3（分析項目の定義）の分析項目の奥行きの定義から、視点位置を対象となる空間の手前端部とした場合、対象空間の奥の端部までの視距離が、視覚を通じた人間の活動の認知限界である135m以上とした空間の特徴に該当する。棚田の最低地点から最高地点までの距離は、(11) 棚田（六広道路横）は約215m、(18) 棚田（鉄塔下）は約150mである。したがって、クラスターVIに分類された3か所は、選定場所の特徴として奥行きが高い数値を得たと考えられる。以上のクラスターVとの比較分析を踏まえ、クラスターVIは、「VI：開けた傾斜地の棚田」と解釈した。

本節では、「たんねのあかり」の選定場所46か所を、空間の特徴と景観の特徴から設定した9つの分析項目を用いて、クラスター分析を行い、選定場所の分類を行った。クラスター分析の結果、選定場所は6つのクラスターに分類された。6つのクラスターを所属メンバーと標準化得点をもとにして、クラスターごとの特徴を分析し、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」、「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」に分類した。以上のクラスター分析によって、「たんねのあかり」の選定場所46か所は、空間と景観に視点をおいた場所の特徴から、6つの類型に分類することができた。次節では、本節のクラスター分析によって分類された選定場所46か所の6つの類型によるグループ（以後、クラスター分析から得た6つのクラスターを「6つのグループ」とする）から、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出する。

4.6 「視点場」の類型と地域の固有性の分析

場所の特徴から6つのグループに分類された選定場所46か所は、「たんねのあかり」において、空間演出の対象となった場所であり、谷根地区中心部の地域を特徴づける要素によって構成される場所であった。また、4.4.1（「視対象」と「視点場」の関係による選定場所の特徴の分析項目の設定）にて述べたとおり、選定場所46か所は、いずれも地域の特徴や個性を形成する地域資源や景観資源であり、「たんねのあかり」において「そこにあるもの」と名づけて、それらすべてを視対象として空間演出の計画が行われた。視対象と設定されたこれらの選定場所46か所の中には、第3章にて示した見学ルートとしても設定された橋上空間や道路空間などのように、視対象であると同時に視点場にもなった場所もあった。以上のことから、選定場所の特徴を把握するための方法の一つとして、選定場所46か所を、「①視対象のみになるもの」、または「②視対象にも視点場にもなるもの」の二つのタイプに分類し、図4-6（4.4.1）の視対象と視点場による選定場所46か所の分類に示した。

本節では、まず、「たんねのあかり」の選定場所46か所の「①視対象のみになるもの」と「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類を踏まえて、6つに分類された選定場所のグループの特徴から、グループごとの視点場について分析を行う。次に、グループの特徴と、視点場となった選定場所の構成を分析し、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出する。

「たんねのあかり」の選定場所46か所を視対象と視点場の関係から分類すると、内数として「①視対象のみになるもの」は23か所、「②視対象にも視点場にもなるもの」は23か所であった。「②視対象にも視点場にもなるもの」の選定場所23か所を、前節の選定場所の6つのグループごとに整理し、視点場になる場所として分析を行う。

<選定場所の6つの類型と視点場>

・「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」における視点場：

「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」における視点場は、(01) gallery tanne、(03) 谷根神社（神社・境内）、(13) 竹林、(27) 道路（小道／宮前橋付近）、(33) 上米山郵便局付近広場、(35) 池田工務店工場前広場の6か所であった。(01) gallery tanne、(03) 谷根神社（神社・境内）、(33) 上米山郵便局付近広場、(35) 池田工務店工場前広場の4か所は、「たんねのあかり」にて、交流や休憩などの滞留空間としての機能が備えられた場所であった。グループⅠの6か所の選定場所は、いずれも「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、周囲を囲まれた視対象で、視対象自体を眺める視点場にもなるものであった。これらの選定場所6か所は、周囲を建物や樹木群といった遮蔽を感じる要素によって囲まれた場所である。また、これらの選定場所の内側に滞留した場合、外部空間ではあるものの、周囲を取り囲む遮蔽を感じる要素によって、内部空間にいるような印象を人に与えやすい場所であると考えられる。以上から、グループⅠに分類された視点場は、滞留空間にもなりうる内

部景観（圍繞景観）を眺める視点場であるといえる。よって、グループⅠの視点場の類型を、「1 内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」とする。

・「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」における視点場：

「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」における視点場は、(14) 旧上米山小学校（現：（特養）たんねの里）、(22) 棚田（鉄塔下）脇空地の2か所であった。(14) 旧上米山小学校（現：（特養）たんねの里）は、谷根地区中心部のほぼ中央に位置し、谷根地区の地域住民の多くが通った小学校であった。旧上米山小学校の校庭は、2009 年の小学校閉校以降も（特養）たんねの里のグラウンドとして、地域の祭事や催し物を行う地域のコミュニティの拠点となっている場所である。(22) 棚田（鉄塔下）空地は、棚田の最下段から最上段に向かって、棚田とその背後に広がる里山を一望できる場所である。2010 年開催の「たんねのあかり」において、女子美術大学の学生による作品であった、背後の山並みをモチーフとした子どもの遊具が設置された場所であった。「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、(14) 旧上米山小学校（現：（特養）たんねの里）は、建物やフェンス、高木群によって周囲を囲まれた視対象で、視対象自体である旧上米山小学校の校舎と校庭を眺める視点場になる場所である。(22) 棚田（鉄塔下）脇空地は、棚田の一部として農作業時に使用される場所であり、棚田とともに視対象として眺められると同時に、この空地を立ち位置として、棚田や稲架木などの別の視対象を眺める視点場になる場所である。グループⅡのこれら2つの視点場は、旧上米山小学校や棚田といった、谷根地区中心部の歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を形成する文化的要素であり、同時にこれらの文化的要素によって構成される景観を眺めることができる場所でもある。以上から、グループⅡに分類された視点場は、谷根地区中心部の文化的景観を眺める視点場であると考えられる。よって、グループⅡの視点場の類型を、「2 文化的景観を眺める視点場」とする。

・「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」における視点場：

「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」における視点場は、(16) 谷根神社参道の1か所であった。(16) 谷根神社参道は、道路幅員約1.6m、水平距離約70mの道路部分と水平距離約15mで高低差約9mの階段部分から成る参道である。「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場になるものであった。この参道は、道路や橋上空から眺められる視対象であり、また、道路部分からは高台にある谷根神社の位置する鎮守の森を見上げて眺められ、階段部分の最上段からは、谷根地区中心部の田んぼや谷根川などを見下ろして一望できる視点場となっている。以上から、グループⅢに分類された視点場は、谷根神社の道路部分と階段部分から成る高低差のある参道であり、移動をすることで仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場であるといえる。よって、グループⅢの視点場の類型を、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」とする。

・「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」における視点場：

「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」における視点場は、(24) 道路（曲線状坂道／竹林付近）、(37) 道路（曲線状／県道田屋三叉路）、(38) 道路（曲線状／県道田屋

小俣川付近) + 橋梁、(39) 道路(曲線状/県道田屋 gallery tanne 付近)、(43) 谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)、(46) 道路(曲線状/県道田屋惣ゼン橋付近)の6か所であった。グループⅣの6か所の選定場所は、いずれも「たんねのあかり」において見学ルートとして設定された道路空間であり、空間演出が施された場所でもあった。「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、これら6か所の道路空間は視対象として眺められ、谷根川や橋梁、双体道祖神などの別の視対象を眺める視点場になるものであった。また、これらの道路空間の線形は、蛇行する谷根川の河川形状、または谷根川と小俣川の流れによって形成された地形に沿ったかたちの曲線形状をもつものである。選定場所としたそれぞれの道路空間の距離は、(24) 道路(曲線状坂道/竹林付近)は約65m、(37) 道路(曲線状/県道田屋三叉路)は約60m、(38) 道路(曲線状/県道田屋小俣川付近) + 橋梁は約55m、(39) 道路(曲線状/県道田屋 gallery tanne 付近)は約40m、(43) 谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)は2016年の「たんねのあかり」見学ルート全長と同じ距離で約1170m、(46) 道路(曲線状/県道田屋惣ゼン橋付近)は約60mであった。これら6か所の選定場所のように、歩行距離のある道路空間において、人は道路を歩行しながら、視点の移動にともなって継起的に変化する景観を眺めている。このような景観を「シークエンス景観」という。また、道路空間が曲線形状をもっている場合、進行方向の視線の先に見える視対象が見え隠れする場合があります、歩行時に変化に富んだシークエンス景観が眺められると考えられる。以上から、グループⅣに分類された視点場は、「たんねのあかり」において設定された見学ルートであり、シークエンス景観を眺める視点場であるといえる。よって、グループⅣの視点場の類型を、「4 シークエンス景観を眺める視点場」とする。

・「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)」における視点場：

「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)」における視点場は、(08) 中和田橋(甚七橋)、(09) 宮前橋、(10) 久保橋、(19) 道路(県道田屋) + 中和田橋、(34) 道路脇空地(中和田橋付近)、(44) 道路脇空地(惣ゼン橋横)、(45) 道路脇空地(宮前橋横)の7か所であった。グループⅤの7か所の選定場所は、谷根川に架かる橋梁の橋上空間、または橋詰空間である。これらの選定場所7か所は、いずれも「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、グループⅣの6か所の道路空間と同様に、視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場になるものであった。これらの橋上空間と橋詰空間は、周囲の水平方向に高木や建造物などの視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる選定場所であった。(08) 中和田橋(甚七橋)、(10) 久保橋では、「たんねのあかり」にて、女子美術大学の学生の作品であったベンチが設置され、イベント時の来訪者が交流や休憩をする滞留空間としての演出が行われた。また、選定場所となった橋上空間は、見学ルートを移動しながら作品群を鑑賞する場所となるだけでなく、ベンチに座ったり、橋上空間にたたずみ河川空間の演出を眺めたりする場所として利用された。また、「たんねのあかり」イベント時には、見学ルートから橋上空間にいる人びとのアクティビティを眺めたり、写真撮影をしたりするイベント時の来訪者も多くみられた。これは、谷根川沿いの見学ルートを移動する

人びとにとって、進行方向の視線の先に交差するように河川に架かる橋梁が目にとまりやすかったことと、橋梁と橋詰空間周辺に視線を遮る要素がほとんどなかったことから、グループVの選定場所が、視点場になると同時に、視覚的に捉えやすい視対象にもなったと推察される。このような見学ルートと選定場所の配置による場所と眺めの関係から、人の視線が交差する場所には、人びとの「見る－見られる関係」が生じると考えられる。「見る－見られる関係」とは、佐々木葉は、「何かを眺めている人が、同時に誰かから眺められる（自分が誰かの眺めの対象になっていることを感じられる）」といった、ある場所に生じる視線の多様な交差状態をいう¹⁵⁾と定義している。以上から、グループVに分類された視点場は、視線が交差する視点場（見る－見られる関係の視点場）であるといえる。よって、グループVの視点場の類型を、「5 視線が交差する視点場（見る－見られる関係の視点場）」とする。

・「VI：開けた傾斜地の棚田」における視点場：

「VI：開けた傾斜地の棚田」における視点場は、(30) 六広道路の1か所であった。(30) 六広道路は、棚田（六広道路横）沿いの幅員約6mの道路である。「②視対象にも視点場にもなるもの」の分類において、視対象として眺められ、別の視対象を眺める視点場になるものであった。六広道路と道路左右に広がる棚田には、周囲の水平方向に視線を遮る要素がなく、周囲を見渡すことができる選定場所である。この選定場所は、橋上空間や道路空間から眺められる視対象であり、また視点場として周囲に広がる棚田などを眺める視点場にもなる場所である。谷根川側の低地部から丘陵部までの距離が約192m、高低差約8.8mで勾配約4.6%の傾斜路となっている。この六広道路を視点場とした場合、低地部からは視点位置の左右に広がる棚田を丘陵部に向かって望め、丘陵部からは、谷根川側に向かって棚田と谷根地区中心部を一望できる。以上から、グループVIに分類された視点場は、眺望景観を眺める視点場であると考えられる。よって、グループVIの視点場の類型を、「6 眺望景観を眺める視点場」とする。

以上の視対象にも視点場にもなった選定場所23か所を、選定場所の6つのグループごとに分析し、6つの視点場の類型を抽出した。6つの視点場の類型は、「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る－見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」である。選定場所46か所の場所の特徴による6つのグループと、6つの視点場の類型を表4-4に示す。6つの視点場の類型に分類された視対象にも視点場にもなった選定場所23か所の谷根地区中心部での位置を図4-10に示す。

表4-4 選定場所46か所の場所の特徴による6つのグループと6つの「視点場」の類型

場所の特徴 によるグループ	選定場所		① 視対象のみになるもの		② 視対象にも視点場にもなるもの		視点場の類型
	(46か所)		視対象として 形状が明確 であるもの	場所として 視対象になるもの (立ち入り不可)	視対象として 眺められ、 別の視対象を 眺める視点場 にもなるもの	周囲を囲まれた 視対象で、 視対象自体を 眺める視点場 になるもの	
	番号 (01-46)	名称					
Ⅰ 境界をもつ 内部的場所 (6か所)	01	gallery tanne				○	1 内部景観 (距離景観)を 眺める視点場 (6か所)
	33	上米山郵便局付近広場				○	
	35	池田工務店工場前広場				○	
	03	谷根神社(神社・境内)				○	
	13	竹林				○	
	27	道路(小道／宮前橋付近)				○	
Ⅱ 地域個性を 形成する 要素と場所 (12か所)	12	稲架木	○				2 文化的景観を 眺める視点場 (2か所)
	15	双体道祖神(語る道祖神)	○				
	17	双体道祖神(谷根神社境内)	○				
	25	田んぼ(宮前橋付近)		○			
	14	旧上米山小学校(現:(特養)たんねの里)				○	
	32	棚田(六拡道路横)脇空地＋稲架木		○			
	42	道路沿い空地(たんねの里グラウンドフェンス面)		○			
	22	棚田(鉄塔下)脇空地			○		
	23	棚田(鉄塔下)脇空地＋稲架木		○			
	31	棚田(六拡道路横)脇空地(曲線状)		○			
	36	田んぼ(ビニールハウスフレーム内)		○			
	41	擁壁上部(語る道祖神付近)		○			
Ⅲ 河川と高台による 低地部と高地部 (8か所)	02	日蓮宗正平寺(神社・境内)		○			3 仰視景観と俯瞰景観を 眺める視点場 (1か所)
	20	谷根川護岸(語る道祖神付近)		○			
	16	谷根神社参道			○		
	04	谷根川 水制ブロック(上米山コミュニティセンター付近)		○			
	21	谷根川(惣ゼン橋付近)		○			
	26	谷根川(宮前橋付近)		○			
	29	谷根川護岸(小俣川合流地点)		○			
	40	谷根川護岸(上米山コミュニティセンター付近)		○			
Ⅳ 蛇行する河川と 河川のかたに 沿った道路 (10か所)	05	谷根川 中和田橋-惣ゼン橋間(語る道祖神付近)		○			4 シーケンズ景観 を眺める視点場 (6か所)
	28	谷根川(小俣川合流地点-中和田橋間)		○			
	06	谷根川 久保橋周辺		○			
	07	小俣川		○			
	24	道路(曲線状坂道／竹林付近)			○		
	43	谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)			○		
	37	道路(曲線状／県道田屋三叉路付近)			○		
	39	道路(曲線状／県道田屋gallery tanne付近)			○		
	46	道路(曲線状／県道田屋惣ゼン橋付近)			○		
	38	道路(曲線状／県道田屋小俣川付近)＋橋梁			○		
Ⅴ 河川の橋上空間 と橋の袂 (7か所)	08	中和田橋(甚七橋)			○		5 視線が交差する 視点場 (見る-見られる 関係の視点場) (7か所)
	09	宮前橋			○		
	10	久保橋			○		
	19	道路(県道田谷)＋中和田橋			○		
	34	道路脇空地(中和田橋付近)			○		
	44	道路脇空地(惣ゼン橋横)			○		
	45	道路脇空地(宮前橋横)			○		
Ⅵ 開けた傾斜地の 棚田 (3か所)	11	棚田(六拡道路横)		○			6 眺望景観を 眺める視点場 (1か所)
	18	棚田(鉄塔下)		○			
	30	六拡道路			○		
			箇所数	3	20	16	7
			箇所数合計	23		23	
			:視対象にも視点場にもなるもの				
			:視点場のみになるもの				



図 4-10 視点場の 6 つの類型に分類された選定場所 23 か所の位置

これまで述べてきたように、選定場所 46 か所はいずれも「たんねのあかり」の視対象であり、そのうちの選定場所 23 か所は、視対象であると同時に視点場にもなった場所であった。4.4.1（「視対象」と「視点場」の関係による選定場所の特徴の分析項目の設定）にて述べたとおり、「たんねのあかり」の空間演出において、視対象は谷根地区中心部の地域の特徴や個性を形成する要素や場所であり、視点場はそれらの視対象を眺める場所として、視対象と視点場による選定場所が設定された。また、見学ルートは、おもに道路空間や橋梁空間に設定され、見学ルート自体が連続する視点場となり、また点在する視点場をつなぐものであった。「たんねのあかり」の選定場所 46 か所の分析をもとに抽出した、谷根地区中心部の 6 つの視点場の類型ごとの特徴を以下のとおりまとめる。

< 6 つの視点場の類型ごとの特徴 >

・「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」:

「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」は、谷根川を挟んで東西に広がる平坦地に位置する諸施設の敷地内と住宅地エリアの竹林と小道、および高台に位置する神社と境内にある視点場である。これらの視点場は高木群や建造物によって囲まれ、人びとが移動する空間となるだけではなく、立ち止まり、滞留する空間にもなりうる内部的な特徴をもつ。

・「2 文化的景観を眺める視点場」:

「2 文化的景観を眺める視点場」は 2 か所で、一つ目は、谷根地区中心部においてコミュニティ活動の拠点となる旧上米山小学校と校庭であり、谷根地区のシンボルかつランドマークとなっている旧小学校校舎を眺めることができる視点場である。二つ目は、谷根地区の稲作や暮らしなどを示す、文化的要素である棚田や里地里山の景観を眺める視点場である。これらの視点場から眺められる地域の景観は、谷根地区の地域住民にとっては日常生活の中で身近に眺められる景観であり、一方、来訪者にとっては、地域の歴史や文化、生活の一端を見ることができる文化的景観であると考えられる。

・「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」:

「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」は、谷根地区中心部の谷根川付近の低地部から高台をつなぐ谷根神社参道である。この参道は、低地部から見上げる鎮守の森と、高台から眺める谷根地区の田んぼや河川、人びとの生活景を眺めることができる視点場である。高低差のある視点場は、谷根地区中心部の地形の特徴、および稲作や地域文化と深いつながりをもつ谷根神社と地域との関係を、景観を眺めることで感じられる場所である。

・「4 シークエンス景観を眺める視点場」:

「4 シークエンス景観を眺める視点場」は、谷根地区中心部を流れる谷根川の蛇行する河川形状、または谷根川と小俣川の流れによって形成された、地形に沿った曲線形状をもつ道路空間の視点場である。この場所は、立ち止まって景観を眺めたり、移動しながら継起的に変化する景観を眺めたりすることができる視点場である。谷根地区中心部を谷根川沿いの道路を歩き、緩やかな地形の起伏を体感しつつ、地域に点在する文化的要素や谷根川と棚

田といった地域の固有性を形成するさまざまな要素から成る景観を、多方向から眺めることができる距離をもった視点場である。

・「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」：

「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」は、谷根川に架かる橋上空間と橋詰空間の視点場である。周囲に高木や建造物などの視界を遮る要素がほとんどなく、周囲を広く見回すことができる場所である。谷根川沿いの道路を歩く人と、谷根川に架かる橋梁を渡ったり橋上で河川を眺めたりする人との視線が交差する視点場である。

・「6 眺望景観を眺める視点場」：

「6 眺望景観を眺める視点場」は、視点位置となる道路の左右両側に視線を遮る要素がないことで周囲を見渡すことができる視点場である。また、谷根地区中心部の低地部から丘陵部にかけての傾斜路であり、低地部から、また丘陵部から地域の眺望を得ることができる場所である。

第2章で述べたように、谷根地区中心部は、地区中央部の南北方向に谷根川が流れ、河川周辺の平坦部を取り囲む丘陵部から成る地形の特徴をもち、長い歴史の中で地形を活かしながら、自然と人為によって里地里山の景観が形成された場所である。6つの視点場の類型から、それぞれの視点場は、地域の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、また、地域の個性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であると考えられる。また、これらの視対象となる要素群は、地域の特徴や個性を形成する地域資源や景観資源などである。これらの視対象を眺めるための視点場は、谷根地区の地域住民と来訪者である女子美術大学の教員や学生らとのフィールドワーク調査によって設定された。地域に点在する視対象は、谷根地区中心部にもともと存在するものであり、地域住民にとっては、普段何気なく目にする地域の景観を構成する要素である。「たんねのあかり」において、地域住民と来訪者による協働での活動を通じて視点場が設定され、視対象となる要素に視線の向きが誘導されて焦点があてられることによって、地域に点在する視対象が保有する地域個性を形成するものとしての意味が再認識されたと分析する。このことから、ある地域において視点場を設定することによって、その視点場から眺められる視対象となるものに、地域の個性としての意味が生じると考えられる。そして、このような視対象と視点場の関係において、設定された視点場から眺めることができる視対象は、地域の景観を形成する個性の一つとして認識されると考えられることから、視点場を設定することは、地域の固有性を高めるための重要な要因になると捉えられる。

以上のように、本節では、まず、「たんねのあかり」の選定場所46か所の分析から、谷根地区中心部の6つの視点場の類型を抽出した。6つの視点場の類型は、「1 内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」であった。次に、6つの視点場

の類型ごとの特徴を分析し、「たんねのあかり」にて設定した視点場は、視点場から眺めることができる地域の個性を形成する視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める一つの要因になると考える。

4.7 分析結果：「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型

本章の目的は、アートイベント「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型を抽出し、抽出された類型から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の地域の固有性を高める要因を探ることであった。

4.2 (分析方法) では、本章の4つの段階で構成した分析方法を述べた。第一に、「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所を選定した手順について述べた。手順は、まず、「たんねのあかり」において、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らによるフィールドワーク調査をもとに、空間演出の対象となった候補場所65か所について情報をまとめる。次に、その中から設定した選定場所46か所について、選定理由を分析して情報を整理する(4.3)。第二に、「たんねのあかり」の選定場所の特徴から設定した分析項目について述べた。手順は、選定場所の特徴を把握するための分析項目を、視対象と視点場の関係に着目して設定する。分析項目は、選定場所の空間の特徴5項目と景観の特徴4項目とし、それぞれの分析項目ごとの定義を行う(4.4)。第三に、選定場所の分類と分析の方法について述べた。手順は、前節にて設定した空間の特徴5項目と景観の特徴4項目を合わせた9項目の分析項目を用い、クラスター分析にて選定場所の分類を行う。クラスター分析では、デンドログラムをもとに選定場所46か所の分類を行い、クラスターごとの標準化得点をもとに特徴の分析をする(4.5)。第四に、選定場所の視点場の類型抽出と地域の固有性の分析の方法について述べた。手順は、まず、クラスター分析にて類型化された選定場所から、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出する。次に、抽出した類型の特徴をまとめ、谷根地区中心部を事例とした里地里山の固有性を高める要因について分析する(4.6)。

4.3 (「たんねのあかり」の空間演出の対象となる場所の選定) では、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象となる候補場所から、選定場所が定められた過程とその選定理由を分析した。まず、「たんねのあかり」における空間演出の対象場所について、案内による候補場所と協働による候補場所を合わせた「候補場所」、および候補場所の中から選定された「選定場所」について本論文での用語の説明を行った。「候補場所」とは、フィールドワーク調査にて、谷根地区の地域住民の案内による地域の伝統文化や生活の拠点などの場所と、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって空間演出の対象の候補とされた場所を指す。「選定場所」とは、さまざまな候補場所の中で、「たんねのあかり」実施計画においての諸条件を満たした場所から選定された場所のことを指す。次に、候補場所について述べた。候補場所は65か所あり、内訳は、案内による候補場所が37か所、協働による候補場所が28か所であった。案内による候補場所は、谷根地区の地域住民の生活拠点となる場所や地域の文化や個性を形成する要素であった。これらは、主要施設・地域拠点、河川、橋梁、地域文化・生活要素の4つに分類された。候補場所65か所の位置を地図上にマッピングするとともに、それぞれの場所の情報を整理して、各候補場所の特徴を把握した。続いて、選定場所46か所について述べた。候補場所65か所から、イベント時

の実用性から定められた3つの条件を満たしたものとして、選定場所46か所を設定した。3つの条件は、第一に、イベント対象エリア内にある候補場所であること、第二に、イベント時に占有可能な候補場所であること、第三に、空間演出を施す際に施工可能であることとした。選定場所46か所の位置を地図上にマッピングして、谷根地区中心部における配置を把握した。また、選定場所46か所それぞれの選定理由をまとめ、候補場所65か所から選定場所46か所に絞った過程について述べた。

4.4（「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定）では、選定場所の特徴を分析するために、「たんねのあかり」のイベント対象エリアにおける視対象と視点場との関係に着目して、分析項目の設定を行った。分析項目は、選定場所の空間の特徴および景観の特徴から設定した。まず、選定場所46か所を視対象と視点場との関係から分類し、内数として視対象のみになるものは23か所、視対象にも視点場にもなるものは23か所であった。次に、選定場所の分析項目として、空間の特徴5項目、景観の特徴4項目を設定した。空間の特徴から設定した分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」とした。景観の特徴から設定した分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」とした。続いて、これらの分析項目9項目について、谷根地区中央部の空間の特徴と景観の特徴に対応させて、本論文における定義を行った。それぞれの定義にあてはまる場所を、その分析項目で提示した特徴があるものとした。例示すると、選定場所（11）棚田（六広道路横）の空間の特徴が、「b. 空間の広がり」の定義にあてはまる場合、この選定場所は「b. 空間の広がり」があるものとした。

4.5（選定場所の類型と分析）では、選定場所46か所を、空間の特徴と景観の特徴から設定した9つの分析項目を用いてクラスター分析を行い、選定場所の類型を抽出した。まず、クラスター分析では、各選定場所の9つの分析項目について、あるを「1」とし、ないを「0」としたダミー変数を用いて、分析データをまとめた。次に、分析データを用いたクラスター分析を行い、選定場所は6つのクラスターに分類された。続いて、6つのクラスターを所属メンバーと標準化得点をもとにして、クラスターごとの特徴を分析し、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」、「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」と解釈して類型を抽出した。以上のクラスター分析によって、「たんねのあかり」における選定場所46か所を、空間と景観に視点をおいた場所の特徴から6つのグループに分類して、谷根地区中心部に設定したこれらの場所の特徴を分析した。

4.6（選定場所の視点場の類型と地域の固有性の分析）では、まず、4.4（「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定）にて述べた、「たんねのあかり」の選定場所46か所について、視対象のみになるもの23か所と、視対象にも視点場にもなるもの23か所の分類を踏まえて、4.5（選定場所の類型と分析）にて6つに分類された選定場所のグループの特徴から、グループごとの視点場について分析を行った。次に、各グループの特徴と視点

場となった選定場所の構成を分析し、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出した。「たんねのあかり」における6つの視点場の類型は、「1 内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」であった。続いて、6つの視点場の類型ごとの特徴を分析し、それぞれの視点場は、谷根地区の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の個性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であることを示した。また、「たんねのあかり」にて設定された視点場は、視点場から眺めることができる地域の個性を形成する視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める一つの要因になると分析した。

これまで、第3章と第4章において、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究事例として扱い、谷根地区中心部とその里地里山の景観について情報を整理して把握し、分析結果をまとめてきた。第3章では、谷根地区中心部で展開した「たんねのあかり」について概要をまとめ、イベント対象エリアに点在する地域の文化的要素などを空間演出の対象場所（使用場所）として、それらをつなぐように設定された見学ルートについて述べた。見学ルートの経路形状の比較と分類を行い、使用場所の位置と経路形状との関係を分析した結果、「たんねのあかり」の見学ルートはおもに回遊性のある経路であったことが確認できた。そして、この見学ルートの回遊性は、もともと地域内に存在する、谷根地区中心部の地形や地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものであると考えられた。第4章では、「たんねのあかり」における空間演出の対象となった選定場所を、クラスター分析によって6つに分類し、これらの分類をもとに6つの視点場の類型を抽出した。抽出された視点場の類型の特徴から、これらの視点場は、視点場から眺めることができる視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める要因になると分析した。

以上の分析を踏まえ、次章では、谷根地区中心部にて2009年から2018年まで開催されたアートイベント「たんねのあかり」の実践を通じた調査と分析による事例研究をもとに、里地里山の景観における視点場の環境デザインについて、場所や地域の回遊性と固有性に着目して考察を行う。

註および引用文献

4.4

- 1) アートイベント「たんねのあかり」においては、谷根川や棚田への立ち入りは禁止とされたため、それらの場所は視点場としての計画は行われていない。
- 2) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007年、51頁。
- 3) 石上文正「『環境』の定義について」『人間と環境 電子版』No. 1、人間環境大学、2011年、1-5頁。
- 4) 月橋奈、他『谷根-TANNE-ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973年、134-135頁。
- 5) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015年、69頁。
- 6) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021年、46-47頁。
- 7) 谷根神社参道は、参道入口から長さ約65m続く平坦部と、高低差約10mの高台へと上る長さ約25mの階段部で構成される。
- 8) 谷根神社の大藤について、「谷根名物のひとつに、谷根神社の大藤がある。川添いの道から神社の参道を進み一の鳥居、二の鳥居をくぐり最初の石段を上ると左側に大藤がその巨体をくねらせている。次の長い石段の中ほどで、石段をまたいで右側に渡り、一老杉にからみ、昇竜の格恰で天をついている。「谷根村史誌」にも「谷根神社は、狐塚最北端中腹にある藤の花の名所」と述べてあり、村人たちの豊穰祈願の祭場でもあり、憩いの場でもあったのである。」と記述がある。大藤は谷根神社とともに、地域の歴史の中で景観を構成する重要な要素の一つであると考えられる。
引用文献：月橋奈、他『谷根-自然・文化・生活-』柏崎市ガス水道局、1978年、14頁。
- 9) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典 増補改訂版』井上書院、2016年、115頁。
- 10) 高低差の数値は、国土交通省 国土地理院「地理院地図（電子国土 Web）」の標高の数値から算出した。
- 11) 日本人成人平均身長は、スポーツ庁による令和5年度の「体力・運動能力調（年齢別対角測定の結果 身長、体重）」を参照し、20代から70代までの平均身長を算出した。身長（cm）男子170.15、女子157.05であった。人体の基準寸法「眼高＝身長（H）×0.9」の計算式を用い、目線高さを算出した。計算式は、小原、他編『インテリアの計画と設計 第二版』を参照した。目線高さ（cm）男子153.14、女子141.35となり、男女平均は147.24であった。以上の寸法を参考とし、ここでは、目線高さの基準を150cm

とした。(数字は小数点第三位で四捨五入)

スポーツ庁 政府統計の総合窓口 (e-Stat) 「体力・運動能力調査 / 令和5年度 (速報)」、

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/1368148.htm (閲覧 2024 年 5 月 9 日)

- 12) 奥性 (おくせい) とは、「視覚的、感覚的に接している区切られた空間に対し、見えな
い部分、または見えそうで見えない部分があると感じる感覚」のこと。

引用文献：土肥博至 (監修)、前掲書 (註 2)、2007 年、33 頁。

- 13) 奥行きは、対象相互の位置関係による視距離の長さに関係する。対象となる空間の手前
端部を視点位置と定めた場合、奥の端部に人がいたときの「活動の認知限界」が 135m
と示されている。対象の位置関係に距離があり、人の動きの判別の困難さから、視距離
が 135m 以上の対象空間を奥行きがあるものとする。

参考文献：篠原修『景観のデザインに関する基礎的研究』東京大学学位論文、1980 年

4.5

- 14) 清水裕士「フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践にお
ける利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』001 号、WebLab、
2016 年、59-73 頁。

4.6

- 15) 内山久雄 (監修)、佐々木葉 (著)、前掲書 (註 5)、2015 年、72 頁。

参考文献

日本建築学会 (編)『空間デザイン事典』井上書院、2006 年

第5章 谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割

5.1 本章の目的

5.2 里地里山の景観と回遊性

5.2.1 点在する文化的要素と視点位置

5.2.2 経路形状と回遊性

(1) 地域の中心となる河川空間と経路形状

(2) 経路形状の回遊性と視線の向き

(3) 経路形状と回遊性を高める要因

5.2.3 移動空間と滞留空間

(1) 見学ルートと移動空間と滞留空間の関係

(2) 地域の拠点と滞留空間

(3) 谷根地区中心部の移動空間と経路の意味

5.3 里地里山の景観と固有性

5.3.1 地域固有の景観と生活景

5.3.2 地形の目利きと地域文化

5.3.3 視点場の設定と地域の固有性

5.4 視点場と地域の回遊性と固有性

5.4.1 里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場

5.4.2 小盆地の回遊性と固有性

5.4.3 視点場と地域の回遊性と固有性

5.5 まとめ：谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割

第5章 谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割

5.1 本章の目的

本章の目的は、「たんねのあかり」の実践を通じた第3章および第4章での分析-1、2を踏まえ、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割について、場所や地域の回遊性と固有性に焦点をおいて考察することである。本章の構成を図5-1に示す。

5.2では、第3章での分析から、地域の特徴の把握に関わる景観に着目した、身体的かつ視覚的な空間の体験と回遊性の関係について考察する。考察する項目は、点在する文化的要素と視点位置（5.2.1）、経路形状と回遊性（5.2.2）、移動空間と滞留空間（5.2.3）の3つの項目である。5.2の構成を図5-2に示す。

5.3では、第4章での分析から、里地里山の景観を構成する場所の分類と視点場の類型化をもとに、地域の固有性を表す場所と視点場の関係と特徴について考察する。考察する項目は、地域固有の景観と生活景（5.3.1）、地形の目利きと地域文化（5.3.2）、視点場の設定と地域の固有性（5.3.3）の3つの項目である。5.3の構成を図5-3に示す。

5.4では、前節までの考察を踏まえ、視点場と地域の回遊性と固有性について考察する。考察する項目は、里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場（5.4.1）、小盆地の回遊性と固有性（5.4.2）、視点場と地域の回遊性と固有性（5.4.3）の3つの項目である。5.4の構成を図5-4に示す。

5.5では、「たんねのあかり」が実施された谷根地区中心部を事例とした、地域の回遊性と固有性に関する考察を踏まえ、里地里山の景観における視点場の役割について考察し、本章のまとめとする。



図5-1 「第5章 谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割」の構成

5.2 里地里山の景観と回遊性

「回遊性」の考察（第3章 分析-1を踏まえた考察）

5.2 里地里山の景観と回遊性

3.4 開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握



5.2.1 点在する文化的要素と視点位置

- 引用：2.3（地形と成り立ち）
- 2.4（歴史と地域文化）
- 3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）
- 3.4.4（「たんねのあかり」における使用場所の特徴）

3.5 開催年ごとの見学ルートの特徴と分類：経路形状の回遊性



5.2.2 経路形状と回遊性

（1）地域の中心となる河川空間と経路形状

- 引用：2.5（河川と橋梁）
- 3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）
- 1.1.3（環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性）

（2）経路形状の回遊性と視線の向き

- 引用：3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）
- 1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）
- 2.3（地形の成り立ち）
- 2.6（谷根地区中心部の里地里山の景観）

（3）経路形状と回遊性を高める要因

- 引用：1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）
- 3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）

3.5 開催年ごとの見学ルートの特徴と分類：移動空間と滞留空間



5.2.3 移動空間と滞留空間

（1）見学ルートと移動空間と滞留空間の関係

- 引用：3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）
- 図3-19（「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート）
- 3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）
- 3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）
- 1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）

（2）地域の拠点と滞留空間

- 引用：3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）
- 3.3（分析方法）
- 3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）

（3）谷根地区中心部の移動空間と経路の意味

- 引用：3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）

※引用箇所の表記の順番は、本章の本文中の記載の順番とした。

図5-2 「5.2 里地里山の景観と回遊性」の構成

5.2.1 点在する文化的要素と視点位置

研究対象地とした新潟県柏崎市谷根地区中心部は、2.3（地形と成り立ち）と2.4（歴史と地域文化）にて述べたとおり、柏崎市と上越市の境に位置する米山の北面の裾から日本海へと向かう山ひだの中に位置している、里地里山の集落である。谷根地区中心部のほぼ中央の南北方向に谷根川が流れ、河川を中心に川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼや棚田、人びとの暮らしの場が集中している。その周囲を雑木林（二次林）や人工林、天然林が囲み、自然豊かな里地里山の景観が広がっている。谷根地区中心部には、自然と人為による歴史の中でつくられてきた文化的要素が数多く点在している。3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）にて示したとおり、地域における文化的要素とは、日々の暮らしの中で育まれてきた、地域固有の歴史や文化に関わる要素である。谷根地区中心部においての文化的要素を例示すると、稲作文化に関わる棚田や稲架木、地域の信仰に関わる神社と寺院や、谷根地区に点在する道祖神などである。また、谷根地区中心部の中央に位置する旧上米山小学校も、地域のコミュニティならびに地域文化の形成に重要な文化的要素の一つとして挙げられる。このような文化的要素群によって形成される、ある地域の景観を文化的景観という。

文化財保護法第二条（文化財の定義）において、「文化的景観」とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの¹⁾」と定義されている。また、「文化財保護法の一部改正に伴う関係省令及び告示の整備等について（通知）No. 2」の重要文化的景観選定基準の解説の中で、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地」とは、「ある一定の範囲の土地において、当該地域の住民の日常生活や住民が生活のため持続的に業を行う中で、地域独特の気候、地質、地形、植物相等を利用して作り出してきた景観地を指す²⁾」と記されている³⁾。

地域における文化的景観を形成する人びとの生活や生業、地域の風土などから形づくられる文化的要素は、ある一定の範囲の土地に自然の地形や人びとの用途によって、それぞれ適した場所に点在している。3.4.4（「たんねのあかり」における使用場所の特徴）の分析から、谷根地区中心部では、地形の特徴が表れている河川、道路、棚田の位置を生活や生業の基準とし、これらの基準となった場所を、文化的要素群が取り囲むように点在しているという関係があることがわかった。地域の地形を活かし、人びとが生活や生業を営む中で、生業に関わる棚田や稲架木、コミュニティの拠点となる小学校などを例に挙げると、アクセスしやすく、生活や生業を営む上で作業がしやすい場所に、地域の文化的要素は配置されていたと考えられる。一方、地域の信仰に関わる神社と寺院、道祖神などを例に挙げると、日常生活の中で、高台や橋のもと、道辻といった目にしやすい場所にも、これらの文化的要素が置かれたと考えられる。そして、これらの文化的要素を見る視点位置は、地域における日常的な生活の動線上、または生活や生業を営む場所に存在するといえる。なお、「視点位置」は、視対象を眺める人の位置を指す。「視対象」とは、視点から眺められる対象であり、「視

点場」とは、視対象を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況を指す。

以上から、まず、谷根地区中心部を事例とした里地里山の集落では、地域に点在する文化的要素は、人びとが生活や生業を営む中で、アクセスしやすく、作業がしやすい場所であり、目にしやすい位置に配置されている。次に、地域の文化的要素を見る視点位置は、視点位置の地域内の配置から、日常的な生活の動線上や、生活や生業を営む場所に位置すると考察する。これらのことより、谷根地区中心部を事例とした里地里山において、地域の文化的要素は、日常的に目にしやすい身近な位置にある、身近な存在であるといえる（表5-1）。

表5-1 「5.2.1 点在する文化的要素と視点位置」の考察の整理

5.2.1-①	谷根地区中心部を事例とした里地里山の集落では、地域に点在する文化的要素は、人びとが生活や生業を営む中で、アクセスしやすく、作業がしやすい場所であり、目にしやすい位置に配置される。
5.2.1-②	地域の文化的要素を見る視点位置は、視点位置の地域内の配置から、日常的な生活の動線上や、生活や生業を営む場所に位置する。
5.2.1-③	地域の文化的要素は、日常的に目にしやすい身近な位置にある、身近な存在である。

5.2.2 経路形状と回遊性

（1）地域の中心となる河川空間と経路形状

新潟県柏崎市谷根地区中心部は、2.5（河川と橋梁）にて述べたとおり、地区中心部のほぼ中央を南北にわたって、谷根川が縦断して流れている。かつてのおもな地域の生業が稲作であったことから、自然災害への対策を含む谷根川との関わりが日々の生活の中で重要であった。また、谷根川に架かる橋梁は東西の地域をつなぎ、橋上空間は、祭事の空間にも利用されている地域文化と暮らしの要所となっている。谷根川と橋梁は、地域の生活に密着した自然と人為との深い関係が築かれている場所である。谷根川に沿って河川を周回するように道路と橋梁が配置されている。谷根川の谷根地区中心部の区間では南北に約1kmの距離があり、5本の橋梁が最短約100m、最長約275mの間隔で架けられている。このような河川沿いの道路と河川に架かる橋梁は、地域における日常的な生活の動線となって、地域内のさまざまな生活拠点や利便施設をつないでいる。谷根地区中心部のように、河川が中央を流れる地域では、河川沿いの道路と橋梁が地域をつなぐ重要な要素となり、日常の動線となる場合が多いと考えられる。

3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）にて述べたとおり、「たんねのあかり」では、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働によって、開催年ごとに地域内を巡る見学ルートが設定された。見学ルートが開催年ごとに設定された理由は、継続し

ているイベントであることから、再訪するイベント時の来訪者も多く、開催年ごとのテーマに沿って、見学ルートから眺められる景観や演出方法に変化をもたせる計画がなされたことによる。また、開催年によっては、演出対象となる場所の使用許可が得られない場合があったため、開催年ごとに異なる見学ルートが設定された。

見学ルートの経路形状を分類すると、谷根川を中心に空間演出が行われた場合は「回遊型」、棚田を中心に空間演出が行われた場合は「中通路型」、谷根川と棚田が空間演出された場合は「回遊・中通路型」の経路形状であった。「回遊型」は、おもに谷根川沿いを周回する道路が見学ルートとなった。「中通路型」は、おもに棚田の中央を通る道路が往復する見学ルートとなった。これらの見学ルートの経路は、地域における日常的な生活の動線となっている道路と橋梁上に設定された。7回開催された「たんねのあかり」では、見学ルートの経路形状として、「回遊型」が5回、「回遊・中通路型」が1回、「中通路型」が1回設定された。これらの見学ルートは、イベント開催回数7回のうち、「回遊・中通路型」を含む6回が、「回遊型」の経路形状で計画された。また、1.1.3（環境デザイン分野におけるフィールドワーク調査の重要性）にて述べたとおり、「たんねのあかり」では、おもに旧上米山小学校の校庭を拠点とし、谷根地区中心部を回遊する見学ルートが設定された。イベント時の来訪者は、見学ルートに沿って、空間演出が施された文化的要素などが位置する場所を巡ることで、地域の個性や魅力を知って学ぶ機会を得た。「たんねのあかり」は、イベント時の来訪者にこのような地域を知る機会を提供することを試みたイベントであった。「たんねのあかり」が計画される上で、おもに「回遊型」の経路形状の見学ルートが用いられたことは、対象地域を把握する上で、身体的かつ視覚的な空間体験が重要であると考えられたためであった。これらのことから、谷根地区中心部のように、中央に河川が流れる地域では、地形の特徴から河川空間が地域の中心となり、河川空間を周回する河川沿いの道路を歩き、橋梁を渡り、地域を回遊することでその地域の個性や特徴を知る機会を得ることができると考えられる。

以上から、谷根地区中心部のように、中央に河川が流れる地域では、地形の特徴から河川空間が地域の中心となる。人は河川空間を周回する河川沿いの道路や橋梁上を移動して地域を回遊することで、地域の個性や特徴を知ることができると考察した。このような地域においての回遊性のある経路形状をもつ道路は、地域住民にとっては日常の動線となり、来訪者にとっては地域を把握する上で有効な経路となるといえる（表5-2 ※5.2.2（1））。

（2）経路形状の回遊性と視線の向き

「たんねのあかり」の回遊型の見学ルートを事例として挙げ、経路形状と視線の向きについて、3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）での分析をもとに考察をする。文化的要素などの地域を構成する要素の位置は、おもに回遊型の経路に囲まれた谷根川が位置する内側部分と、日常的な生活の動線でもある回遊型の経路上、または近接している位置に点在していた。そして、河川を中心とした回遊型の経路は、点在するさまざまな構成要素とその周囲を取り囲むかたちを形成していた。「たんねのあかり」で設定された見学ルートの

分析において、回遊型の経路を連続した視点位置とすると、地域を構成する要素を見る視線は、回遊型の経路の内側へ向かうものと進行方向に向かうものが多くみられた。これは、谷根地区中心部において、谷根川の河川空間が、地域の特徴を表す主要な景観構成要素であることを示している。国土交通省による「河川景観ガイドライン⁴⁾」によると、「私たちが目にする河川景観には、その背景に、過去から現在までの自然の営みや長年にわたり人間が流域や河川に働きかけた結果が内包されている。その意味で、河川景観とは、単にいま現在目に映る景色だけを指すものではなく、また、個別・単一の物体や事象だけを指すものでもない。」とし、さらに、河川景観とは、「地形、地質、気候、植生等様々な自然環境や人間の活動、それらの時間的・空間的な関係や相互作用、そしてその履歴等も含んだ環境の総体的な姿」として考えるべきであると述べられている。谷根地区中心部のように、地域の中央に河川が位置する場合、その河川空間は地域の特徴を表す景観を形成する主要な要素となり、河川空間を軸として周回する回遊型の経路が配されていくと考察する。

国土交通省の河川審議会による「河川を活かした都市の再構築の基本的方向 中間報告（平成10年9月）⁵⁾」では、河川の特性を活かした今後の都市と河川のあり方についての記述の中で、「河川は、上流の山間部から下流の河口部まで連続的な空間を形成している。河川は、都市における広大な公共空間として都市の骨格を形成するものである。また、河川はそれぞれの都市のランドマークとなるとともに、四季折々の風景の変化の中で、人々にうるおいを与えている」と記している。この報告資料は、おもに都市部の河川を対象としているが、河川は、都市部だけではなく人びとが生活を営むさまざまな地域においても同様に、地域の骨格を形成し、地域のランドマークになることが読み取れる。

ケヴィン・リンチは、都市のイメージを形づくる5つのエレメントの一つとして、ランドマークを挙げ、「ランドマーク landmark もやはり、点を示すものであるが、この場合は観察者はその中にはいらず、外部から見るのである。これは普通は、建物、看板、商店、山など、どちらかといえば単純に定義される物理的な物をさす。何かをランドマークとして用いるということは、必然的に、限りない多くの可能性の中から、あるひとつのエレメントをとりだすということを意味している⁶⁾」と定義している。続いて、さまざまなランドマークを例示する中で、塔や大きな丘などのほかに、「どこにでもある看板、商店の正面、樹木」などを挙げ、これらは、都市の観察者のイメージをつくるアイデンティティやストラクチャーの手がかりとして用いられ、「市内での行動に慣れれば慣れるほど、それらに頼る度合いも強まるようである」と述べている。このことから、地域のランドマークとなるものは、多数のエレメントの中から、一つのエレメントとしてとりだしやすく、地域の中での行動において目印として頼りやすいものであるといえる。上記以外の文献では、ランドマークは、「灯台や鉄塔のような土地における方向感覚の目印になる建物、国、地域を象徴するシンボリックなモニュメント、建築、空間を意味する。また、広い地域の中で目印となる特徴的な自然、建物や事象も含まれる⁷⁾」と定義されている。また、その特徴として、記号性や図式化して理解することに役立つサイン機能をもち、空間の中での特異点として認知・記憶される要素

であり、空間・環境の「しるし」であるとも定義されている⁸⁾。これらのことから、本論文では、「ランドマーク」は、ある地域の「目印」となるものと定義する。

1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）にて述べたように、地域内を回遊しながら移動する場合、地域の中心に位置する河川は、さまざまな位置から眺められることで、人が自分の現在の位置を確認できる一つの目印（ランドマーク）になるといえる。このような地域において目印となるランドマークは、ある環境においてのわかりやすさの情報であり、目印と自分の位置との関係によって経路探索を簡単にする要素となる。地域の目印となるランドマークの存在によって、自分の位置を把握できること、経路探索が簡単になること、道に迷わずに移動できることから、地域の目印となる要素は、地域の回遊性を高める要因の一つになると考えられる。谷根地区中心部において、目印となるものの一つに谷根川が該当する。

谷根地区中心部は、2.3（地形の成り立ち）と2.6（谷根地区中心部の里地里山の景観）にて示したように、里地里山の景観および農村景観の特徴をもつ地域である。また、谷根地区中心部の里地里山の景観の中で、地域の目印となるものは谷根川である。紙野桂人は著書にて、都市空間における見えることの重要性について述べる中で、大阪市の中心市街地を流れる大川が、市街地からはあまり見えなくなっている実態を示し、「都市空間にあって人間とのかかわりを保つ最小限度の条件は、それが人の目に見えることである。（中略）市街地を通るものの目に見えない河は、市民の意識から薄れ、それが都市空間において果たしている意味を見失わせていく⁹⁾」と記述している。都市部では、河川沿いが歩行空間となっていない場合、林立する建物群によって、視線を遮られて河川を見ることが難しい場合が多い。里地里山の谷根地区中心部では、河川沿いには高木、竹林や建物はあるものの、都市部と比較して、視線を遮る要素は少ない。したがって、谷根地区中心部の谷根川は、地域内を通るものの目に見えやすい河川であり、河川を見ることで地域住民や来訪者が互いの関わり的一端を感じたり、人びとが眺められる河川景観を通じて河川空間との関わりを意識したりする場所になるといえる。

以上から、河川空間が地域の中央に位置する場合、その河川空間は地域の特徴を表す景観を形成する主要な要素となる。また、都市部と比較して、視線を遮る要素が少ない里地里山の景観の中にある河川空間は、人の目に見えやすい。このような河川空間は、地域内を回遊しながら移動する場合、さまざまな位置から眺められることから視線の向きが集中しやすく、人が自分の現在の位置を確認できる一つの目印になる。地域の目印となる要素は、人にわかりやすさの情報を提供しつつ、その存在によって、人が自分の位置を把握できること、経路探索が簡単になること、道に迷わずに移動できることから、地域の回遊性を高める要因となると考察した（表5-2 ※5.2.2（2））。

（3）経路形状と回遊性を高める要因

経路形状と回遊性を高める要因について考察する。空間における回遊性とは、出発地点から、点在する場所を巡ってふたたび出発地点へと戻ることが可能なつながりをもつ空間の

性質を指すと、1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）にて定義した。また、3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）での分析から、「たんねのあかり」の見学ルートの回遊性は、起点と終点を同位置として、出発地点の起点から、谷根川や棚田（六広道路）などの中心となるものを取り囲むように進み、点在する谷根地区の文化的要素などの使用場所を巡って、ふたたび出発地点であった終点へと戻ることが可能につながりをもつ、見学ルートの経路形状による歩行空間の性質によるものであった。また、「たんねのあかり」の見学ルートの回遊性は、もともと地域内に存在する、谷根地区中心部の地形や地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものと考えられた。

「たんねのあかり」の開催を継続し、見学ルートの距離が徐々に延長して約1km以上となった開催年以降、ショートカットルートが設定された。「たんねのあかり」では、ショートカットルートを利用し、一周目とは逆向きの進行方向にて見学ルートを回遊したり、興味を持った場所を再訪したりする人の流れが観察できた。見学ルートにショートカットルートがある場合、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる傾向にあると考察する。これらの考察から、ある経路において、起点と終点が同位置にあることと、ショートカットルートがあることは、回遊性を高める要因になるといえる。

以上から、谷根地区中心部を事例とした分析から、地域の回遊性は、出発地点である起点と帰着地点である終点を同位置とし、起点を出発して地域を巡って終点に戻るといふ、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）を設定することで生まれる歩行空間の性質であると考えられた。また、経路の距離が延長する場合、ショートカットルートを付加すると、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まるといえる（表5-2 ※5.2.2（3））。

表 5-2 「5.2.2 経路形状と回遊性」の考察の整理

5.2.2 (1)	<p>① 中央に河川が流れる里地里山の地域では、地形の特徴から河川空間が地域の中心となる。</p> <p>② 人は河川空間を周回する河川沿いの道路や橋梁上を移動して地域を回遊することで、地域の個性や特徴を知ることができる。このような地域における回遊性のある経路形状をもつ道路は、地域住民にとっては日常の動線となり、来訪者にとっては地域を把握する上で有効な経路となる。</p>
5.2.2 (2)	<p>① 河川空間が地域の中央に位置する場合、その河川空間は地域の特徴を表す景観を形成する主要な要素となる。</p> <p>② 都市部と比較して、視線を遮る要素が少ない里地里山の景観の中にある河川空間は、人の目に見えやすい。このような河川空間は、地域内を回遊しながら移動する場合、さまざまな位置から眺められることから、視線の向きが集中しやすく、人が自分の現在の位置を確認できる一つの目印になる。</p> <p>③ 地域の目印となる要素は、人にわかりやすさの情報を提供しつつ、その存在によって、人が自分の位置を把握できること、経路探索が簡単になること、道に迷わずに移動できることから、地域の回遊性を高める要因となる。</p>
5.2.2 (3)	<p>① 地域の回遊性は、出発地点である起点と帰着地点である終点を同位置とし、起点を出発して地域を巡って終点に戻るといふ、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）を設定することで生まれる歩行空間の性質である。</p> <p>② 回遊性のある経路の距離が延長する場合、ショートカットルートを加えると、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる。</p>

5.2.3 移動空間と滞留空間

(1) 見学ルートと移動空間と滞留空間の関係

「たんねのあかり」において開催年ごとに設定された見学ルートは、3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）と図3-19（「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート）、および3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）にて示したとおり、谷根地区中心部の谷根川を中心として演出対象場所に配された「回遊型」の経路と、棚田（鉄塔下）がおもな演出対象場所となった「中通路型」の経路、および双方を組み合わせた「回遊・中通路型」

の経路であった。開催年ごとの見学ルートの距離は、2009 年は 644.43m、2010 年は 854.18m、2011 年は 1166.27m（ショートカットルート 644.27m）、2012 年は 1834.42m（ショートカットルート 1313.01m）、2014 年は 1523.42m（ショートカットルート 1167.25m）、2016 年は 1174.05m（ショートカットルート 629.96m）、2018 年は 1192.27m（ショートカットルート 644.44m）であった。これらの約 600m から約 1800m の距離で設定された見学ルートは、「たんねのあかり」において、空間演出が施された場所を眺める連続した視点位置であると同時に移動空間であった。「移動空間」とは、人が移り動く空間を指し、例えば、道路や参道などが挙げられる¹⁰⁾。

一方、滞留空間は、おもに休憩や交流を目的として、見学ルート沿いまたは見学ルート上に設けられた。滞留空間となった場所の数は、2009 年では 1 か所、2010 年では 2 か所、2011 年では 2 か所、2012 年では 3 か所、2014 年では 5 か所、2016 年では 4 か所、2018 年では 5 か所であった。イベントの開催年を重ねるごとに滞留空間の設定箇所数が増えた理由として、見学ルートの延長化、来場者数増加に対応した交流・休憩場所の提供、里神楽の披露や演奏会などのイベントプログラムの充実による開催場所の増設が挙げられる。滞留空間として設定された場所は、本部や物販、飲食店が置かれた旧上米山小学校と校庭（以後、本章において旧上米山小学校と表記するものは、校庭を含む）、本部が置かれた池田工務店工場前広場と田んぼ（宮前橋付近）、谷根神社、休憩空間となった中和田橋、久保橋、上米山郵便局付近広場、道路脇空地（宮前橋横）、galley tanne、子どもの遊び場がつけられた棚田（鉄塔下）脇空地の 10 か所であった。それぞれの場所を用途から分類すると、施設と付属する広場、神社と境内、橋上空間と橋詰空間、道路や棚田脇で人目につきやすい位置にある田んぼと空地であった。これらの場所はいずれも、見学ルート上または見学ルート横に位置し、アクセスしやすく、移動空間から見えやすい滞留空間であった。

前述の滞留空間となった場所は、移動空間である見学ルートに沿って地域内に点在している。その中で、見学ルートの起点と終点が設定された場所は、谷根地区中心部のほぼ中央に位置する旧上米山小学校、地区北側に位置する棚田（鉄塔下）付近の池田工務店工場前広場、高台の谷根神社下の田んぼ（宮前橋付近）の 3 か所であった。これらの場所は、起点と終点が同位置の出発地点となり、見学ルートは出発地点から地域を巡り、ふたたび出発地点へと戻るように設定された。池田工務店工場前広場と田んぼ（宮前橋付近）は、開催年ごとの全体の配置計画とイベントプログラムの内容から選択された場所であった。旧上米山小学校は、地区内の中央に位置していること、ならびに地域コミュニティの拠点であることから、滞留および起点と終点として設定された場所であった。旧上米山小学校は、3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）にて述べたとおり、2009 年度に小学校閉校後、福祉施設に用途変更された。現在、旧上米山小学校の校庭は、福祉施設に併設したグラウンドとして、地域住民が祭事などを行う地域コミュニティの拠点と一つとなっている。旧上米山小学校は、谷根地区の地域住民の多くが通った小学校であり、地区行事を行う場所となっていることから、地域の拠点として、また、地域を移動する際に起点または終点の目安にな

る場所である。「たんねのあかり」においても、旧上米山小学校の場所はイベントの拠点や見学ルートの起点と終点が置かれ、7回の開催のうち6回では交流や休憩のための滞留空間となった。

1.1.4（里地里山を歩いて地域を知るアートイベント「たんねのあかり」）において、空間における回遊性とは、出発地点から、点在する場所を巡ってふたたび出発地点へと戻ることが可能なつながりをもつ空間の性質を指すと定義した。同項において、地域の目印となるものと述べた谷根川のように、来訪者は、地域の拠点に定められた出発地点を目印として、自身の位置を確認しながら、ふたたび出発地点を帰着地点として目指すことで、道に迷わず見学できると考えられた。このことから、「たんねのあかり」の見学ルートのように、地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、移動空間として一連のつながりをもつ経路において、出発地点である起点と帰着地点である終点を同位置とすることが、経路のわかりやすさの向上に関わることから有効であると考察する。そして、これらの起点と終点を置く位置は、滞留空間として機能しやすい、旧上米山小学校のような地域の拠点が適していると考えられる。

以上から、「たんねのあかり」の見学ルートのように、地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、移動空間として一連のつながりをもつ経路とし、出発地点である起点と帰着地点である終点を同位置とすることが、経路のわかりやすさの向上に関わる要因になることから重要である（表5-3 ※5.2.3（1））。

（2）地域の拠点と滞留空間

谷根地区中心部の旧上米山小学校を一例とした、地域の拠点と滞留空間について考察する。地域の拠点の一つである旧上米山小学校は、地区中央部を南北に流れる谷根川沿いを周回する道路に面して、地域の中央部に位置している。谷根地区中心部は、里地里山の集落である。「集落」とは、地域社会において人びとが集まって生活を営み住まう場である。広義には都市も集落に含まれるが、一般には農山漁村の集落を指す^{11)、12)}。里地里山の集落では、小学校や役場庁舎、公民館、コミュニティセンターなどの公共施設が地域の拠点となる¹³⁾。谷根地区中心部では、上米山コミュニティセンターと旧上米山小学校が、おもな地域の拠点となっている。3.5.1（開催年ごとの見学ルートの特徴と分類）にて示したとおり、「たんねのあかり」では、上米山コミュニティセンターには事務局本部が置かれ、旧上米山小学校にはイベント本部と見学ルートの起点と終点、交流や休憩場所などが設営され、人びとの滞留空間となった。3.3（分析方法）にて、「滞留空間」とは、人がある場所で歩みを緩め、止まり、たまるといった滞留行動が起こる空間を指すと定義した。そして、滞留行動には、広場などにおける待ち合わせや休憩などの人の自由な意思によるものがあると述べた。3.4.1（谷根地区中心部の文化的要素の種類と位置）にて分類したように、旧上米山小学校は、「地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」であり、地域住民が祭事などを行う地域コミュニティの拠点の一つとなっている。このことから、人びとが集まる地域の拠点は、地域の中央部に位置し、「地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」であり、人びとの滞留行動

を促す滞留空間として機能しやすいという特徴をもつ場所と考えられる。つまり、地域の拠点となる場所が、地域の中央部に位置し、かつ移動空間からアクセスしやすく、見えやすい位置にあるならば、地域に回遊性のある経路を設定する場合、このような地域の拠点は、その経路の起点と終点、および滞留空間を配するのに適した場所といえる。

以上から、まず、里地里山の集落である谷根地区中心部を事例に考察し、旧上米山小学校のような地域の拠点は、人が集まる滞留空間として機能しやすいという特徴をもつ場所と考えられた。次に、谷根地区中心部のように里地里山の地域において、ある特定の場所が、地域の中央に位置し、移動空間から見えやすくわかりやすい場所である場合、このような場所には地域の拠点が置かれ、「地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」となり、人びとの滞留行動を促す滞留空間として機能しやすいといえる。また、地域の拠点となる場所は、地域に回遊性のある経路を設定する場合、その経路の起点と終点、および滞留空間を配するのに適した場所といえる（表5-3 ※5.2.3（2））。

（3）谷根地区中心部の移動空間と経路の意味

谷根地区中心部の移動空間と経路の意味について考察する。「たんねのあかり」では、旧上米山小学校に起点と終点が置かれ、見学ルートは回遊性のある経路として設定された。3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）で述べたとおり、見学ルートの経路は、谷根地区中心部のおもに道路と橋梁上の移動空間であり、もともと地域に存在する日常的な主要動線であった。また、「たんねのあかり」の協働によるフィールドワーク調査において、旧上米山小学校を起点と終点として、繰り返し辿った調査時の経路でもあった。このようなフィールドワーク調査を通じた、地域の特徴を把握するための身体的かつ視覚的な空間の体験によって、地域においての日常の動線が、谷根地区の地域住民と、来訪者である女子美術大学の教員と学生らにとっての共通の活動の動線となっていった。協働活動を通じて形成された地域内の共通の動線は、移動による空間体験を共有しながら、地域住民と来訪者にとって共通の重要な経路としての意味をもっていたと考察する。また、協働による調査時に用いたおもな経路は、回遊性のある経路であったため、その経路を移動しつつ、同じ連続した視点位置から谷根地区中心部の里地里山の景観を繰り返し眺めることで、地域の個性や特徴の理解を深めることに影響したと考えられる。

以上から、ある地域の個性や特徴を地域住民と来訪者が相互に理解する上で、地域の日常の動線を用いた移動空間に、回遊性のある経路を設定することは有効であるといえる。また、このような回遊性のある経路を、繰り返し巡りながら地域の景観を眺める機会が得られれば、地域の個性や特徴の理解がより深まると考えられる（表5-3 ※5.2.3（3））。

表 5-3 「5.2.3 移動空間と滞留空間」の考察の整理

5.2.3 (1)	<p>「たんねのあかり」の見学ルートのように、地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、移動空間として一連のつながりをもつ経路とし、出発地点である起点と帰着地点である終点を同位置とすることが、経路のわかりやすさの向上に関わる要因になることから重要である。</p>
5.2.3 (2)	<p>① 里地里山の集落である谷根地区中心部を事例とし、旧上米山小学校のような地域の拠点、人が集まる滞留空間として機能しやすいという特徴をもつ。</p> <p>② 谷根地区中心部のように里地里山の地域において、ある特定の場所が、地域の中央に位置し、移動空間から見えやすくわかりやすい場所である場合、このような場所には地域の拠点が置かれ、人びとの滞留行動を促す滞留空間として機能しやすい。</p> <p>③ 地域の拠点となる場所は、地域に回遊性のある経路を設定する場合、その経路の起点と終点、および滞留空間を配するのに適した場所である。</p>
5.2.3 (3)	<p>① ある地域の個性や特徴を地域住民と来訪者が相互に理解する上で、地域の日常の動線を用いた移動空間に、回遊性のある経路を設定することは有効である。</p> <p>② 地域の日常の動線を用いた回遊性のある経路を、繰り返し巡りながら地域の景観を眺める機会が得られれば、地域の個性や特徴の理解がより深まる。</p>

5.3 里地里山の景観と固有性

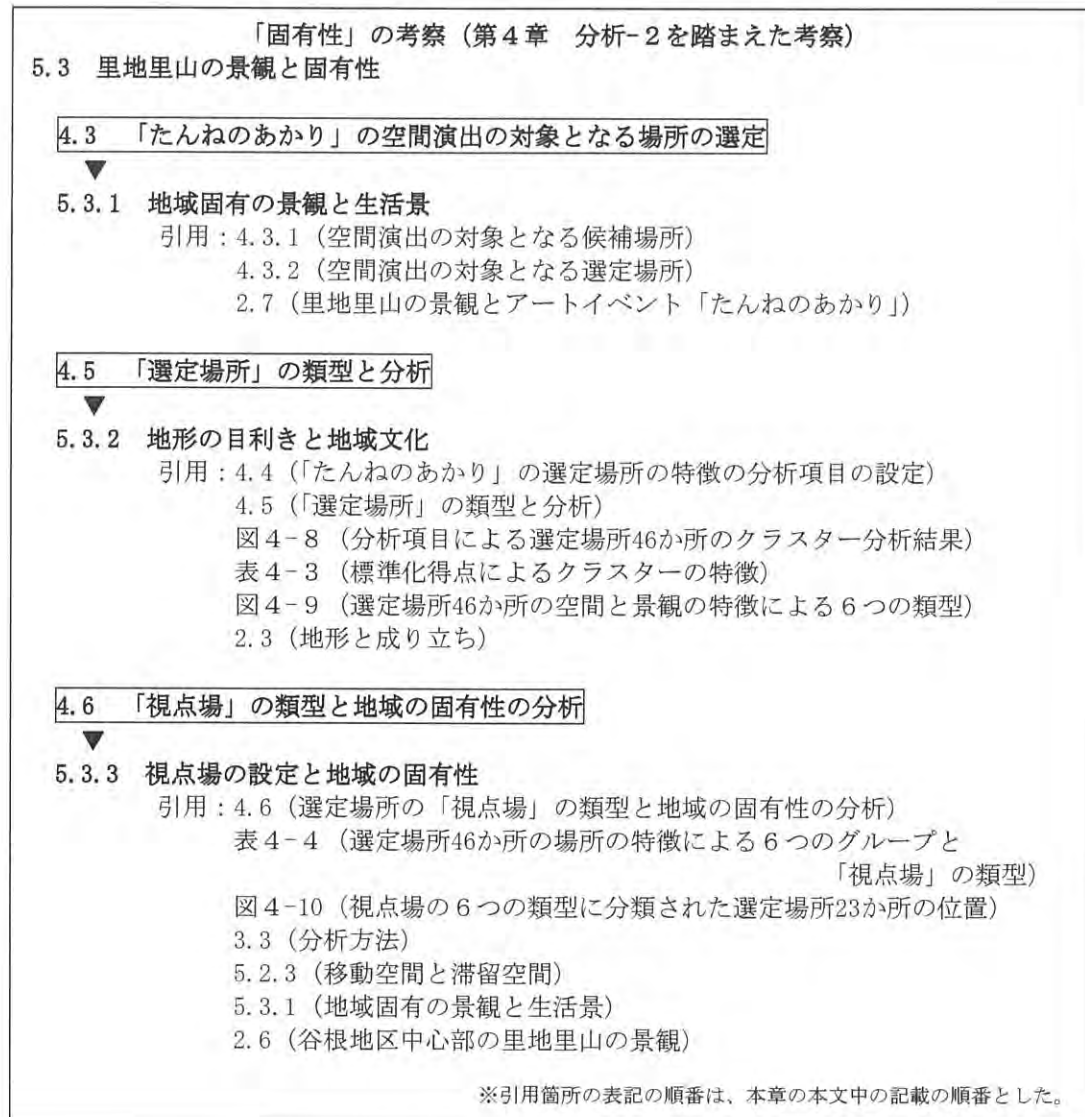


図5-3 「5.3 里地里山の景観と固有性」の構成

5.3.1 地域固有の景観と生活景

4.3.1（空間演出の対象となる候補場所）と、4.3.2（空間演出の対象となる選定場所）にて述べたように、谷根地区中心部の里地里山を舞台に展開した「たんねのあかり」では、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員と学生らとの協働で行われたフィールドワーク調査を通じて、空間演出の対象となる場所が設定された。これらの設定された場所は、谷根地区中心部での地域の活動拠点となる場所や、地域個性を表す場所などの候補となった場所

から選定された場所であった。本論文では、この場所を「選定場所」とした。選定場所の候補となった、「案内による候補場所」は、谷根地区の地域住民の案内による場所で、谷根地区の主要施設や地域拠点となっている場所であり、谷根地区の地域文化や生活において場所の意味をもつものであった。また、これらの場所は、地域への愛着と誇りを形成する場所と考えられた。一方、谷根地区の地域住民と来訪者である女子美術大学の教員と学生らとの協働によって設定された、「協働による候補場所」は、地域の個性や魅力を創出する場所であり、谷根地区を特徴づける場所であると考えられたことから、「たんねのあかり」での協働活動によって設定された場所の意味をもつものであった。ある地域における場所の意味は、その場所を使う人びとによってもたらされる場所がもつ価値であり、場所を使う人びとの間で共有されて育まれていく価値でもあるといえる。そして、ある地域での意味や価値をもった場所を視覚的に捉える場合、地域固有の景観として地域住民と来訪者に共通して認識されると考察する。

「たんねのあかり」では、地域固有の要素によって形づくられる景観を活かしながら、空間演出が行われた。地域固有の景観は、ある地域の個性や魅力を創出し、地域を特徴づける場所の景観であり、地域住民によって日々の暮らしの中で形成される景観である。このような地域住民の暮らしの中で形成される、身近な生活環境の景観を「生活景」という¹⁴⁾。

『生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり』では、中村による「景観」の定義である「景観とは人間をとりまく環境のながめにほかならない。しかしそれは単なるながめではなく、環境に対する人間の評価と本質的なかわりがある」を参照し、生活景とは、「人間をとりまく生活環境のながめにほかならない。しかし、それは単なるながめではなく、生活環境に対する人間の評価と本質的な関わりがある¹⁵⁾」と定義している。さらに、生活景は、「私たちの日常的な暮らしを反映するものであると同時に、歴史的に形成され、地域風土や伝統に依拠した生活を通じて生みだされたながめでもある。特に際立った印象を与えるものではないにしても、一つ一つの建築、一つ一つの景観要素が集まってつくりだす、地域性を感じさせるながめでもあり、地域の景観の基調をなすものである」とも述べられている。

「たんねのあかり」において、地域住民と来訪者との協働にて選定された選定場所 46 か所は、谷根地区の文化的要素や地域拠点などの要素群から成る地域固有の景観を、イベント時の来訪者が眺めることができるように設定された。これらの地域固有の景観は、おもに地域の日常的な暮らしを反映した生活景であったといえる。生活景は、ある地域で生活を営む地域住民によって、日々の暮らしの中で時間を重ね形づくられた生活環境の眺めであり、地域固有の景観である。すなわち、生活景は、地域の固有性が景観として表れたものである。また、ある地域の生活景は、来訪者に地域の固有性を視覚的に伝達する媒体にもなると考えられる。一方、生活景を眺めることで把握できる地域の固有性は、地域住民にとってはあたりまえの日常の景観である。「たんねのあかり」で実施された地域住民と来訪者との協働によるフィールドワーク調査のように、地域住民の視点に来訪者の視点が加わり、地域内外の人びとの協働によって見いだすことができるものが、地域の固有性であるといえる。

文化庁による「令和３年度 文化観光高付加価値化リサーチ¹⁶⁾」の中で、地域文化の固有性に関し、地域文化を見いだすまなざしの多様性について述べられている。前掲のリサーチでは、「地域ならではの固有性は、ありふれたもののよう存在し、誰かに見つけられるのを待っている。その地域に住む人にとっては、自分たちの暮らしや生活文化はあまりにも当たり前日常にあるものなので、地域に固有のものだとは認識しづらい。そのため、地域文化の固有性は外部からの“まなざし”によって見出されることが多い。見出す“まなざし”は多様であったほうがよい」と述べられていることから、地域の固有性を見だし、再認識するためには、地域内外の人びとの協働による活動や視点が重要であることがわかる。

以上から、まず、地域固有の景観は、地域住民によって、日々の暮らしの中で時間を重ね形づくられた生活環境の眺めである。そして、この生活環境の眺めを生活景といい、地域の固有性が景観として表れたものであるといえる。次に、生活景は景観として表れて地域の固有性を示すが、地域住民にとっては、あたりまえの何気ないものであることが多い。そこに異なる視点をもった来訪者と地域住民との協働による視点が加わることで、生活景に地域の固有性を見だし、地域固有の景観の価値を再認識できると考えられた。続いて、これらの考察から、2.7（里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」）にて、地域の固有性を表す要素は、地域住民と来訪者との多角的な視点をもってその価値を見いだすことができると考えられた点を、「たんねのあかり」の実践内容を分析することで検証した（表5-4）。

表5-4 「5.3.1 地域固有の景観と生活景」の考察の整理

5.3.1-①	地域固有の景観は、ある地域の地域住民によって、日々の暮らしの中で時間を重ね形づくられた生活環境の眺めである。この生活環境の眺めを生活景といい、地域の固有性が景観として表れたものである。
5.3.1-②	生活景は景観として表れて地域の固有性を示すが、地域住民にとってはあたりまえの何気ないものであることが多い。そこに異なる視点をもった来訪者と地域住民との協働による視点が加わることで、生活景に地域の固有性を見だし、地域固有の景観の価値を再認識できる。

5.3.2 地形の目利きと地域文化

4.4（「たんねのあかり」の選定場所の特徴の分析項目の設定）では、「たんねのあかり」の選定場所46か所の特徴を、視対象と視点場の関係に着目して分析するために、空間の特徴と景観の特徴による分析項目を9項目設定した。空間の特徴による分析項目は、高低差、空間の広がり、奥行き、曲線形状、圍繞感の5項目とした。景観の特徴による分析項目は、見晴らし、見通し、見え隠れ、文化的意味の4項目とした。次に、4.5（「選定場所」の類型と

分析)では、「たんねのあかり」の選定場所46か所を、空間の特徴と景観の特徴による9つの分析項目を用いてクラスター分析を行った。クラスター分析の結果、選定場所は6つのグループに分類できた(図4-8)。6つのグループは、クラスターごとの所属メンバーと標準化得点(表4-3)をもとにして特徴を分析し、「Ⅰ:境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ:地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ:河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ:蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ:河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)」、「Ⅵ:開けた傾斜地の棚田」の類型が抽出された(図4-9)。これらの類型による6つのグループに分類された「たんねのあかり」の選定場所は、グループごとに特徴をもった谷根地区中心部における6つのタイプの地域の固有性を表す場所であるといえる。

谷根地区中心部における6つのグループごとの地域の固有性を表す場所と特徴を、第4章での分析をもとに以下にまとめる。

「Ⅰ:境界をもつ内部的場所」は、人工物や自然物などの遮蔽を感じる要素によって囲まれ、選定場所の内側に立って選定場所の外側を見た場合に、視線の先が見えたり隠れたりする場所と分析した。谷根地区中心部では、谷根神社と境内、小道、竹林などであった。

「Ⅱ:地域個性を形成する要素と場所」は、谷根地区中心部の歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を形成する、文化的意味をもつ要素が配された場所と分析した。谷根地区中心部では、稲架木や双体道祖神、旧上米山小学校、田んぼなどであった。

「Ⅲ:河川と高台による低地部と高地部」は、場所の特徴から二つのタイプに大別できた。一つ目は、丘陵部の高台、または低地部から丘陵部へと向かう傾斜面に位置する場所であり、対象を仰角、または俯角で見る関係がある場所と分析した。二つ目は、河川空間であり、視点場はおもに道路や橋上空間であり、視対象となる川面との間に高低差がある場所と分析した。谷根地区中心部では、前者は、日蓮宗正平寺と境内と谷根神社参道であり、後者は、谷根川の河川空間であった。

「Ⅳ:蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」は、曲線形状をもつ河川空間と道路空間の場所であった。河川空間または道路空間の視点位置から見た対象となる空間の長さが視界から先へと続く特徴をもつ場所であった。谷根地区中心部では、谷根川の河川空間と谷根川沿いの道路空間であった。

「Ⅴ:河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)」は、橋上空間と橋詰空間の場所であった。これらの場所を視点位置とした場合、周囲の水平方向に高木や建造物などの視線を遮る要素がほとんどなく、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる見晴らしのよい場所と分析した。谷根地区中心部では、谷根川に架かる橋梁の橋上空間と橋詰空間であった。

「Ⅵ:開けた傾斜地の棚田」は、棚田と棚田沿いの地域内において広幅員の道路であった。選定場所となった棚田は、低地部から丘陵部にかけての広範囲にわたる傾斜地に位置し、周囲の水平方向に視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる空間の広がりをもった場所であり、棚田沿いの道路も同様の特徴をもつ場所であった。谷根地区中心部で

は、鉄塔下の棚田と六抔道路横の棚田、および六抔道路であった。

谷根地区中心部の6つのグループの地域の固有性を表す場所と特徴についての分析から、これらの6つのグループの場所は、谷根地区中心部の農村景観の基本構造をもった特徴的な地形を構成する主要な6つのタイプに分類された場所であることがわかった。2.3（地形と成り立ち）にて示したように、谷根地区中心部は、米山の裾に位置し、地区を南北方向に流れる谷根川を中心に、川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼと棚田や暮らしの場が集中している農村景観の基本構造をもった里地里山の景観が広がる地域である。このような地域では、樹木群によって境界や位置が示される高台にある神社や寺院、日々の営みの中で農具や民具の材料を得られる竹林、稲架木や道祖神、小学校と校庭、田んぼといった文化的要素が配置される見晴らしのよい場所、高低差のある神社参道や河川空間、蛇行する河川と河川に沿った道路、河川で東西にわかれた地域をつなぐ河川に架かる橋梁の橋上空間と橋詰空間、地区の平坦部から丘陵部にかけて広がる棚田といった、地域の特徴的な地形を構成する主要なタイプの場所が複合して、地域固有の景観が形成されている。すなわち、6つのタイプの場所が、単体のみで地域の景観を構成するのではなく、いくつかのタイプが複合した組み合わせによって地域固有の景観が形成されている。地域固有の景観は、地域で暮らす人びとの長い歴史と日々の営みによる生活環境の中で、自然と人為によって培われてきた地域文化の表れである。このような景観として表れる地域文化は、自然とともに生活を営む人びとが、その地域の地形の特徴を読み、地形を目利きして、自然との関係を築いてきた人びとの生業や生活のかたちの表れであるともいえる。

堀繁は、水田耕作集落の空間構造について、「水は高きから低きへ流れる。そのため、すべての田に水が流れ込むよう地形をよく読んで慎重に整備する必要があった。こうして大地形ではなく微地形の目利きが発達した¹⁷⁾」と、農村における微地形の目利きと利用について述べている。また、農村景観について述べる中で、「水田耕作を中心としたわが国の農村では、微地形をも含めた山や川の自然地形の目利きをし、使い込み、さらにそれらを強調し、補完するために、樹木・樹林を使うということを行ってきたのである。したがって、地形と樹木こそが各農村の生活の記憶であり、文化であり、個性なのである」とまとめている。谷根地区中心部の6つのグループに分類された地域の固有性を表す場所の特徴から、谷根川の流れ、平坦地から丘陵地にかけて位置する棚田、樹木群で境界や位置が示された高台の神社や寺院、これらを取り巻いて小盆地を形づくる周囲の山々といった地形の中で、谷根地区中心部の人びとが、谷根川を中心に地形の目利きをして暮らしてきたことが読み取れる。

また、若月は、「微地形と場所性」についての論文の中で、場所の固有性を場所性と表現し、日本の代表的な都市である東京を一例に挙げ、近年の現状を、「場所性は都市の連続的な広がりの中に埋もれてしまい、ますます見えにくくなってきている。こうした状況のなかで、場所性を再び浮き上がらせる手掛りとして、地形は重要な意味をもっている¹⁸⁾」と述べ、場所の固有性と地形との関係の重要性を示している。また、「日本は地形の起伏に富

んだ場所が多く、大都市のなかでもとくに東京は開析谷と台地が複雑に入り組み、いわば地形のしわに左右されながら町が形づくられてきた形跡がある」と、かつての近世・江戸―東京の場所に根ざした町づくりと微地形の扱い方を提示している。「開析谷（かいせきこく）」とは、同文献での注釈を引用すると、「河川の流れや氷河などの浸食作用によって生じた谷」である。

以上から、地域の固有性を表す「たんねのあかり」での「選定場所」は、クラスター分析によって6つに分類されたグループごとの特徴の分析と考察を通じ、谷根地区中心部の農村景観の基本構造をもった、特徴的な地形を構成する主要な6つのタイプの場所であることがわかった。谷根地区中心部における地域の特徴的な地形を構成する主要な6つのタイプの場所は、境界をもつ内部的場所（Ⅰ）、地域個性を形成する要素と場所（Ⅱ）、河川と高台による低地部と高地部（Ⅲ）、蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路（Ⅳ）、河川の橋上空間と橋のもと（橋詰空間）（Ⅴ）、開けた傾斜地の棚田（Ⅵ）であった。そして、これらの6つのタイプの場所は、単体のみで地域の景観を構成するのではなく、いくつかのタイプが複合した組み合わせによって地域固有の景観が形成されていると考えられる。地域固有の景観は、地域で暮らす人びとが生活環境の中で、培ってきた自然と人為による地域文化が景観として表れたものといえる。また、景観として表れる地域文化は、自然とともに生活を営む人びとが、その地域の地形を目利きして、自然との関係を築いてきた人びとの生業や生活のかたちの表れである。谷根地区中心部のように、農村景観の広がる里地里山では、人びとはその地域の自然地形を目利きして暮らしてきた。この人びとの暮らしによって形成された地域文化は自然と人為による里地里山の景観として表れ、このような景観が地域の固有性を高めると考察する（表5-5）。

表 5-5 「5.3.2 地形の目利きと地域文化」の考察の整理

5.3.2-①	<p>① 地域の固有性を表す「たんねのあかり」での選定場所は、クラスター分析によって6つに分類されたグループごとの特徴の分析と考察を通じ、谷根地区中心部の農村景観の基本構造をもった特徴的な地形を構成する主要な6つのタイプの場所である。</p> <p>② 谷根地区中心部における地域の特徴的な地形を構成する主要な6つのタイプの場所は、境界をもつ内部的場所（Ⅰ）、地域個性を形成する要素と場所（Ⅱ）、河川と高台による低地部と高地部（Ⅲ）、蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路（Ⅳ）、河川の橋上空間と橋のもと（橋詰空間）（Ⅴ）、開けた傾斜地の棚田（Ⅵ）である。</p>
5.3.2-②	<p>5.3.2-①で示した6つのタイプの場所は、単体のみで地域の景観を構成するのではなく、いくつかのタイプが複合した組み合わせによって地域固有の景観が形成されている。</p>
5.3.2-③	<p>① 地域固有の景観は、地域で暮らす人びとが生活環境の中で、培ってきた自然と人による地域文化が景観として表れたものである。</p> <p>② 景観として表れる地域文化は、自然とともに生活を営む人びとが、その地域の地形を目利きして、自然との関係を築いてきた人びとの生業や生活のかたちの表れである。</p> <p>③ 谷根地区中心部のように、農村景観の広がる里地里山では、人びとはその地域の自然地形を目利きして暮らしてきた。この人びとの暮らしによって形成された地域文化は自然と人による里地里山の景観として表れ、このような景観が地域の固有性を高める。</p>

5.3.3 視点場の設定と地域の固有性

4.6（選定場所の「視点場」の類型と地域の固有性の分析）において、選定場所の視点場の類型抽出と地域の固有性の分析では、視対象にも視点場にもなるもの23か所の場所（表4-4）を対象とし、6つに分類された選定場所の類型の特徴の分析から、「たんねのあかり」における視点場の6つの類型を抽出した（図4-10）。「たんねのあかり」における6つの視点場の類型は、「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」であった。

谷根地区中心部における6つの視点場の類型ごとの特徴を以下にまとめる。

「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」は、住宅地エリアの竹林と小道、高台に位

置する神社と境内などにある視点場であった。これらの視点場は高木群や建造物によって囲まれ、人びとが移動する空間となるだけではなく、立ち止まり、滞留する空間にもなりうる内部的な特徴をもつ。

「2 文化的景観を眺める視点場」は、一つ目は旧上米山小学校と校庭であり、谷根地区のシンボルかつランドマークとなっている旧小学校校舎を眺めることができる視点場であった。二つ目は、谷根地区の稲作や暮らしを示す、棚田や里地里山の景観を眺める視点場であった。これらの視点場から眺められる地域の景観は、地域住民にとっては日常生活の中で身近に眺められる景観であり、一方、来訪者にとっては、地域の歴史や文化、生活の一端を見ることができる文化的景観である。

「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」は、谷根神社参道であった。この参道は、低地部から見上げる鎮守の森と、高台から見下ろす生活景を眺めることができる視点場であった。高低差のある視点場は、谷根地区中心部の地形の特徴、および稲作や地域文化と深いつながりをもつ谷根神社と地域との関係を、景観を眺めることで感じられる場所である。

「4 シークエンス景観を眺める視点場」は、谷根川の蛇行する河川形状、または谷根川と小俣川の流れによって形成された、地形に沿った曲線形状をもつ道路空間の視点場であった。谷根地区中心部の谷根川沿いの道路を歩き、緩やかな地形の起伏を体感しつつ、地域に点在する文化的要素や谷根川と棚田といった地域の固有性を形成するさまざまな要素による景観を、多方向から眺めることができる距離をもった視点場である。

「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」は、谷根川に架かる橋上空間と橋詰空間の視点場であった。周囲に高木や建造物などの視界を遮る要素がほとんどなく、周囲を広く見回すことができる場所であった。谷根川沿いの道路を歩く人と、谷根川に架かる橋梁を渡ったり橋上で河川を眺めたりする人との視線が交差する視点場である。

「6 眺望景観を眺める視点場」は、視点位置となる道路の左右両側に視線を遮る要素がないことで周囲を見渡すことができる視点場であった。また、谷根地区中心部の低地部から丘陵部にかけての傾斜路であり、低地部から、また丘陵部から地域の眺望を得ることができる視点場である。

これらの6つの類型に分類されたそれぞれの視点場は、谷根地区の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であると考えられた。また、「たんねのあかり」にて設定された視点場は、視点場から眺めることができる地域の固有性を形成する視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める一つの要因になると分析した。

前述の視点場の6つの類型ごとの特徴から、これらの視点場が位置するのは、滞留空間または移動空間に大別することができる。3.3（分析方法）で示したとおり、「滞留空間」とは、広場などの人がある場所で歩みを緩め、止まり、たまるといった滞留行動が起こる空間である。5.2.3（移動空間と滞留空間）で示したとおり、「移動空間」とは、道路や参道などの人

が移り動く空間である。6つの視点場をそれぞれの場所の特徴から、滞留空間と移動空間に分類し、表5-6に示す。

表5-6 6つの視点場の移動空間と滞留空間の分類

分類	視点場の6つの類型	事例
滞留空間	1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場	竹林、小道、神社境内、施設に付属する広場
	2 文化的景観を眺める視点場	小学校校庭、棚田脇空地
移動空間	3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場	神社参道
	4 シークエンス景観を眺める視点場	河川沿いの道路
	5 視線が交差する視点場 （見る-見られる関係の視点場）	河川に架かる橋梁の橋上空間と橋詰空間
	6 眺望景観を眺める視点場	棚田横の道路

「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」と「2 文化的景観を眺める視点場」は、地域内にある諸施設の敷地内に位置する視点場、または地域文化に関わる神社、竹林、小学校と校庭などに位置する視点場であった。これらの視点場は、神社を除き、河川沿いの生活利便性の高い平坦部に位置しており、地域コミュニティの拠点や広場といった滞留空間としての特徴をもつ。神社のみ高台に位置し、地域広域の眺望景観を得られる視点場であった。「たんねのあかり」において、おもに滞留空間として設定した視点場であった。これら2つのタイプの視点場では、視点場がもつ前述の特徴から、5.3.1（地域固有の景観と生活景）にて述べた、地域固有の景観としての生活景の眺めが得られる。また、これらの滞留空間となる視点場では、生活景とともに人の景を眺めることができると考えられる。「人の景」とは、ある場所で活動をする人や人びとによって創出される、人と場所の関係が表れた景観である。佐々木は、都市の広場を例に挙げ、「都市の広場は、人々のさまざまな活動の場となる。（中略）活動をする人々の姿自体が、広場の景観構成要素となる。人を視対象とした眺めを、「人の景」と呼び、広場に限らず水辺や緑地などでも重要となる¹⁹⁾」と述べている。また、「人の景」を魅力的にするための空間のデザインの重要性を強調し、そのためにも「実際の広場で人々の様子を丁寧に観察」することを推奨している。ある地域において、日常生活の中で生活利便性の高い位置にある視点場は、地域コミュニティの拠点や広場などの滞留空間としての特徴をもち、生活景や人の景が眺められる視点場になると考察する。

「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」は神社参道、「4 シークエンス景観を眺める視点場」は河川沿いの道路、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」は河川に架かる橋梁の橋上空間と橋詰空間、「6 眺望景観を眺める視点場」は棚田横の道路

に位置する視点場であった。これらの4つのタイプの視点場は、参道、道路空間、橋上と橋詰空間に位置しており、地域における日常の動線となる、おもに移動空間としての特徴をもつ。また、高低差のある断面形状や、曲線の線形をもつ平面形状といった、視点場からの眺めに変化をもたらす特徴をあわせもつ場合が多く、「たんねのあかり」において、移動空間として見学ルートを設定した視点場であった。このような、参道を含む道路と橋梁に位置する4つのタイプの視点場は、前述の視点場がもつ特徴から、おもに地域における移動空間として人びとの生活活動を支え、人びとは歩いたり、ときに立ち止まったりしながら、地域内のさまざまな景観を眺めることができる。2.6（谷根地区中心部の里地里山の景観）にて示した、俯瞰景、仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観といった、谷根地区中心部の里地里山の景観を構成する4つのタイプの景観を眺めることができる視点場の4つの類型であるといえる。

篠原修は、土木景観の把握に関し、土木施設（構造物）が視点場となる場合について、道路と橋梁の2点を挙げて記述している。まず、視点場となる道路について、「視点場となる土木施設のうちで最もポピュラーなものは道路である。もちろん、道路の本来の役割はある場所へ到達するための通路であることにあるが、それは同時に、われわれが日常的に利用している最も公共的な空間であるがゆえに重要な視点場となっている²⁰⁾」と述べ、道路が公共的な視点場であることを示している。また、視点場としての道路の特徴について、「第1に連続する空間であること、第2に方向性をもった視点場であること」と述べ、続いて、「第1の特徴は、道路が視点場である場合、（中略）シークエンス景観が現れる」とし、「第2の特徴は、視線方向が進行方向一つまり、道路の線形に平行となって視軸がその方向に限定される」と説明している。次に、視点場となる橋梁について、「橋梁は一般に水面上にかけられるものであるから、景観的には橋上の視点には近傍の空間が確保されていることとなる。つまり、橋梁は眺望のポテンシャルが高い視点場である」と述べ、橋梁が眺望を得られる場合が多い視点場であることを示している。さらに、都市の生活空間における橋梁の事例を挙げるとともに、日本庭園での橋の景観的ポテンシャルについても言及している。

ある地域において、日常の動線となる道路空間や橋上と橋詰空間に位置する視点場は、第一に、俯瞰景、仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観といった、地域の景観を構成するさまざまな眺めを得られる移動空間としての特徴をもつと考えられる。第二に、道路空間に位置する視点場は、日常的に利用される公共的な視点場であり、橋上と橋詰空間に位置する視点場は、谷根地区中心部のように河川に架かる橋梁であるならば、眺望を得られる場合が多い視点場であると考察する。

以上から、「たんねのあかり」における視点場の6つのタイプの特徴の考察より、谷根地区中心部において、おもに滞留空間に位置する視点場は、「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」と「2 文化的景観を眺める視点場」であった。そして、おもに移動空間に位置する視点場は、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺め

る視点場」であった。谷根地区中心部における視点場は、移動空間に位置する視点場と、滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類することができた。まず、滞留空間に位置する視点場は、ある地域において、日常生活の中で生活利便性の高い位置にあり、地域コミュニティの拠点や広場などの滞留空間としての特徴をもち、生活景や人の景が眺められる視点場であると考察した。次に、移動空間に位置する視点場は、俯瞰景、仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観といった、地域の景観を構成するさまざまな眺めを得られる移動空間としての特徴をもつと考えられた。その中で、道路空間に位置する視点場は、日常的に利用される公共的な視点場であり、橋上と橋詰空間に位置する視点場は、谷根地区中心部のように河川に架かる橋梁であるならば、眺望を得られる場合が多い視点場であると考察した。

「たんねのあかり」を事例とした、6つの類型の視点場は、里地里山の谷根地区中心部の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であるといえる。そして、6つの類型の視点場は、いずれも日常生活の中で地域の拠点や動線となる場所に位置する公共的な視点場であるため、地域住民にとって普段は視点場として意識されにくい場所であると考えられる。「たんねのあかり」の活動のように、地域住民と来訪者の協働活動を通じて、地域内に視点場を見いだして設定することは、その視点場から眺められる地域の景観や文化的要素といった視対象群とともに、地域の固有性を高めると考察する。すなわち、地域内外の視点をもって、地域内に視点場を設定することは、地域の固有性を高めるために重要な方法の一つであるといえる（表5-7）。

表 5-7 「5.3.3 視点場の設定と地域の固有性」の考察の整理

5.3.3-①	<p>「たんねのあかり」における6つの視点場の類型の特徴から、谷根地区中心部における視点場は、移動空間に位置する視点場と、滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもに滞留空間に位置する視点場： <ul style="list-style-type: none"> 「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」 「2 文化的景観を眺める視点場」 ・おもに移動空間に位置する視点場： <ul style="list-style-type: none"> 「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」 「4 シークエンス景観を眺める視点場」 「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」 「6 眺望景観を眺める視点場」
5.3.3-②	<p>滞留空間に位置する視点場は、ある地域において、日常生活の中で生活利便性の高い位置にあり、地域コミュニティの拠点や広場などの滞留空間としての特徴をもち、生活景や人の景が眺められる視点場である。</p>
5.3.3-③	<p>移動空間に位置する視点場は、俯瞰景、仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観といった、地域の景観を構成するさまざまな眺めを得られる移動空間としての特徴をもつ。その中で、道路空間に位置する視点場は、日常的に利用される公共的な視点場であり、橋上と橋詰空間に位置する視点場は、谷根地区中心部のように河川に架かる橋梁であるならば、眺望を得られる場合が多い視点場である。</p>
5.3.3-④	<p>6つの類型の視点場は、里地里山の谷根地区中心部の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所である。</p>
5.3.3-⑤	<p>① 6つの類型の視点場は、いずれも日常生活の中で地域の拠点や動線となる場所に位置する公共的な視点場であるため、地域住民にとって普段は視点場として意識されにくい場所である。</p> <p>② 「たんねのあかり」の活動のように、地域住民と来訪者の協働活動を通じて、地域内に視点場を見いだして設定することは、その視点場から眺められる地域の景観や文化的要素といった視対象群とともに、地域の固有性を高める。すなわち、地域内外の視点をもって、地域内に視点場を設定することは、地域の固有性を高めるために重要な方法の一つである。</p>

5.4 視点場と地域の回遊性と固有性

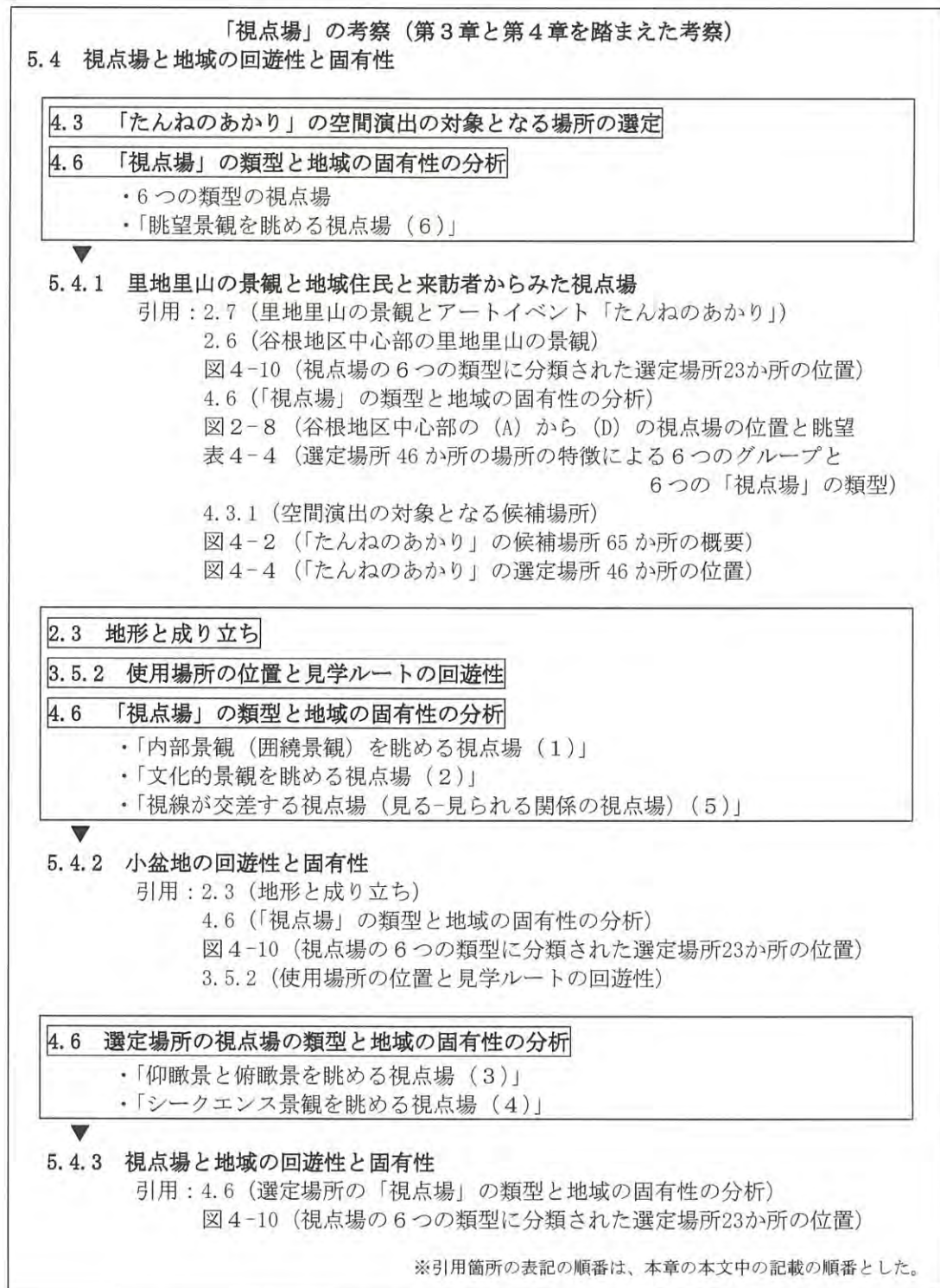


図5-4 「5.4 視点場と地域の回遊性と固有性」の構成

5.4.1 里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場

・「眺望景観を眺める視点場」

2.7（里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」）にて研究対象地についてまとめたとおり、谷根地区中心部は、米山の裾から日本海へと続く山ひだの中に位置している里地里山の集落である。谷根地区中心部の南北方向に谷根川が流れ、河川を中心に川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼや棚田、人びとの暮らしの場が集中している。その周囲を雑木林（二次林）や人工林、天然林が囲み、自然豊かな里地里山の景観が広がっている。谷根川沿いの道路を辿り地域を巡ると、谷根地区中心部の仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観が複合した変化に富む里地里山の景観を眺めることができる。また、谷根地区の低地部を取り囲む丘陵地からは俯瞰景を望めることができ、農村景観の基本構造をもつ特徴的な地域の形を知ることができる。

2.6（谷根地区中心部の里地里山の景観）にて述べたとおり、「たんねのあかり」でのフィールドワーク調査にて、谷根地区の地域住民の案内による谷根地区中心部の特徴ある眺望が得られる視点場は、イベント対象エリア外では、谷根川が流れる平坦部を望む丘陵地の高台に位置していた（図2-8）。これらの視点場は、地域住民が日常生活の中で高台から地域の俯瞰景を広範囲に眺め、日々の定点観測を行う「眺望景観を眺める視点場（図4-10）」であると考えられる。「眺望景観を眺める視点場」は、4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）にて抽出した6つのタイプの視点場の一つである。

定点観測に関し、国土交通省大臣官房技術調査課・公共事業調査室の「公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き（案）²¹⁾」では、景観向上効果に関する事後評価の調査手法として、ヒアリング調査、アンケート調査とともに、定点観測調査が挙げられている。同手引き（案）では、調査対象となる場所の概況と利用の様態の時間による変化が定点観測調査の対象例として示されている。調査方法は、おもに利用者の区分、目的、人数、時間、利用概況などの記録と写真撮影で構成される。東京都江東区では、景観定点観測として景観重要地区の景観形成の状況の調査を実施し、対象地区の景観の記録を行っている²²⁾。神奈川県平塚市の景観検討会議では、暮らしの景観の変化を把握するために、日常生活の中での定点観測が課題として検討されている²³⁾。また、神奈川県茅ヶ崎市²⁴⁾、静岡県焼津市²⁵⁾でも同様に、景観資源と眺望の保全と継承を目的として、景観の定点観測を実施または計画している。

このような景観の定点観測は、対象場所や対象物の時間変化を把握する調査方法の一つである。季節、天候、時間などの自然現象による変動要因によって変化する場所や地域の景観は、変化をともなう自然要素の形態と人びとの活動によって形づくられる景観である。地域における日常の定点観測は、里地里山の地域住民にとって生活や生業を営む上で、時間や季節によって変化する地域の景観、棚田や樹木、河川などの自然要素と道路や橋梁、建築物など人工要素の変化の状況を、目視や写真撮影によって把握する平穏な暮らしのための景観調査であるといえる。

・6つの種類の視点場

前述の谷根地区中心部の高台に位置するイベント対象エリア外の視点場以外に、4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）にて示したとおり、「たんねのあかり」のイベント対象エリア内では、6つの類型に分類された視点場が23か所あった（表4-4、図4-10）。これらの「たんねのあかり」における23か所の視点場を、4.3.1（空間演出の対象となる候補場所）にて示した図4-2をもとにして、案内による選定場所、または協働による選定場所（図4-4）のどちらに属した場所であるか分類し、一覧を表5-8に示す。

表5-8 案内または協働による選定場所の視点場

視点場の類型	選定場所		①	②
	番号	名称	案内による選定場所	協働による選定場所
1 内部景観(園地景観)を眺める 視点場 (6か所)	01	gallery tanne	○	
	03	谷根神社(神社・境内)	○	
	13	竹林	○	
	27	道路(小道/宮前橋付近)		●
	33	上米山郵便局付近広場		○
	35	池田工務店工場前広場		○
2 文化的景観を眺める視点場 (2か所)	14	旧上米山小学校(現:(特養)たんねの里)	○	
	22	棚田(鉄塔下)脇空地		○
3 仰景と俯瞰を眺める視点場 (1か所)	16	谷根神社参道	○	
4 シークエンス景観を眺める視点場 (6か所)	24	道路(曲線状坂道/竹林付近)		●
	37	道路(曲線状/県道田屋三叉路付近)		●
	38	道路(曲線状/県道田屋小俣川付近)+橋梁		●
	39	道路(曲線状/県道田屋gallery tanne付近)		●
	43	谷根川周辺道路全域(一部道路沿い空地含む)		●
	46	道路(曲線状/県道田屋惣ゼン橋付近)		●
5 視線が交差する視点場 (見る-見られる関係の視点場) (7か所)	08	中和田橋(基七橋)	○	
	09	宮前橋	○	
	10	久保橋	○	
	19	道路(県道田谷)+中和田橋		●
	34	道路脇空地(中和田橋付近)		●
	44	道路脇空地(惣ゼン橋横)		●
	45	道路脇空地(宮前橋横)		●
6 眺望景観を眺める視点場 (1か所)	30	六弘道路		●
箇所数			8	15
箇所数合計			23	

※選定場所(46か所)番号:

・案内による選定場所 No. 01-18

(視点場となる選定場所 No. 01, 03, 08, 09, 10, 13, 14, 16)

・協働による選定場所 No. 19-46

(視点場となる選定場所 No. 19, 22, 24, 27, 30, 33, 34, 35, 37, 39, 43, 44, 45, 46)

凡例:

○:道路以外の選定場所(参道含む)(11か所)

●:道路または道路脇空地の選定場所(12か所)

視点場23か所のうち、案内による選定場所で視点場となった場所（以後、「案内による視点場」という）は8か所、協働による選定場所で視点場となった場所（以後、「協働による視点場」という）は15か所であった。視点場が位置する場所を比較すると、丸印(○)は、谷根神社参道を含む道路以外に位置する視点場で、施設敷地内、神社境内と参道、竹林、橋

上空間に位置していた。黒丸印(●)は、道路または道路脇空地に位置する視点場で、おもに谷根川沿いの道路や道路空間と一体となっている道路脇空地に位置していた。なお、道路脇空地(中和田橋付近)(34)、道路脇空地(惣ゼン橋横)(44)、道路脇空地(宮前橋横)(45)は、道路脇の橋詰空間であった。「案内による視点場」は、視点場の類型をみると、谷根神社境内や竹林などの「1 内部景観(囲繞景観)を眺める視点場」、旧上米山小学校の「2 文化的景観を眺める視点場」、谷根神社参道の「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、谷根川に架かる橋上空間の「5 視線が交差する視点場(見る-見られる関係の視点場)」であった。「協働による視点場」は、施設併設の広場の「1 内部景観(囲繞景観)を眺める視点場」、棚田(鉄塔下)脇空地の「2 文化的景観を眺める視点場」、道路空間に位置する「4 シークエンス景観を眺める視点場」、道路または道路脇空地の「5 視線が交差する視点場(見る-見られる関係の視点場)」、六広道路の「6 眺望景観を眺める視点場」であった。

協働による視点場 15 か所のうち、道路以外の場所として丸印(○)に分類されたものの、道路または道路脇空地に近似の特徴がある視点場が 3 か所(33、35、22)あった。上米山郵便局付近広場(33)と池田工務店工場前広場(35)は、イベント時の本部や休憩場所を設けた場所で、施設の前面道路と連続した空間として使用した場所であった。また、棚田(鉄塔下)脇空地(22)は、棚田と道路に囲まれた空地であり、道路に連続した場所であった。これら 3 か所の視点場は、いずれも道路に連続した場所で、道路または道路脇空地に位置する視点場と同等の視点場の位置と考えられる。

このことから、前述の協働による視点場の丸印(○)の 3 か所を、黒丸印(●)の道路または道路脇空地の選定場所とみなした場合、「案内による視点場」8 か所は、道路以外に位置し、「協働による視点場」15 か所は、道路または道路脇空地に位置する視点場に分けられる。

まず、「案内による視点場」は、地域の生活拠点や文化的要素によって形成される場所や、谷根地区中心部の中央に流れる谷根川の橋上空間に位置し、地域住民にとって日常生活の中で密接な関わりをもつ場所に位置する視点場である。一方、来訪者にとっては、道路につながる橋上空間は見つけやすい視点場であると考えられるが、施設内や竹林、谷根神社境内などは、地域住民による案内がなければ、見つけることや立ち入ることが難しい視点場である。次に、「協働による視点場」は、一部、道路脇空地と同等とみなした視点場を含めて、いずれも道路または道路脇空地に位置している。これらの視点場は、地域住民にとっては日常生活の動線上に位置するため、地域固有の眺めを得るための視点場と捉えるよりも、移動空間として捉えている場所と考えられる。一方、来訪者にとっては、道路は公共的な視点場であることから、見つけやすく立ち入ることができる視点場であると同時に、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる視点場でもある。また、来訪者にとっては地域固有の景観を眺めることができる視点場であることから、地域住民と来訪者の協働による活動の機会を設けることで、地域住民の日常生活の動線から眺められる視対象群によって、地域の固有性を示すことができる視点場としての価値を見いだせるのではないかと考察する。

以上から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観と視点場の関係をまとめると、第一に、里地里山の地域の高台に位置する視点場は、地域住民が生活や生業を営む上で、おもに変動要因による時間変化を把握する景観定点観測を行う場所であると考えられる。このような視点場は、地域住民にとって平穏な暮らしのための景観調査を行う場所として機能し、日常の「眺望景観を眺める視点場」といえる。第二に、地域の生活拠点や文化的要素によって形成される視点場や橋上空間にある視点場は、地域住民にとっては、日常生活の中で密接な関わりをもつ場所に位置する視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民に案内されなければ、見つけることや立ち入ることが難しい視点場である。第三に、道路または道路脇空地、橋詰空間に位置する視点場は、公共的な視点場であることから、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができる視点場である。また、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる視点場でもある。一方、おもに道路空間にある視点場は、地域住民にとっては日常生活の動線上に位置するため、地域固有の眺めを得る視点場と捉えるよりも、移動空間として捉えている場所と考えられる。また、地域住民と来訪者の協働によって、道路などの日常生活の動線に、地域の固有性を示すことができる視点場としての価値を見いだすことも可能であると考えられる。すなわち、地域住民と来訪者の協働による視点をもてば、地域においての日常の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を付加することができる（表5-9）。

表 5-9 「5.4.1 里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場」の考察の整理

5.4.1-①	里地里山の地域の高台に位置する視点場は、地域住民が生活や生業を営む上で、おもに変動要因による時間変化を把握する景観定点観測を行う場所であると考えられる。このような視点場は、地域住民にとって平穏な暮らしのための景観調査を行う場所として機能し、日常の「眺望景観を眺める視点場」といえる。
5.4.1-②	地域の生活拠点や文化的要素によって形成される視点場や橋上空間にある視点場は、地域住民にとっては、日常生活の中で密接な関わりをもつ場所に位置する視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民に案内されなければ、見つけることや立ち入ることが難しい視点場である。
5.4.1-③	<p>① 道路または道路脇空地、橋詰空間に位置する視点場は、公共的な視点場であることから、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができる視点場であり、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる視点場でもある。</p> <p>② おもに道路空間にある視点場は、地域住民にとっては日常生活の動線上に位置するため、地域固有の眺めを得る視点場と捉えるよりも、移動空間として捉えている場所と考えられる。</p> <p>③ 地域住民と来訪者の協働によって、道路などの日常生活の動線に、地域の固有性を示すことができる視点場としての価値を見いだすことも可能である。すなわち、地域住民と来訪者の協働による視点をもてば、地域における日常の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を付加することができる。</p>

5.4.2 小盆地の回遊性と固有性

2.3（地形と成り立ち）にて述べたように、谷根地区中心部の地形は、周囲を山々に囲まれ、谷根川と小俣川の流れによって形成された丘陵と平坦地という小盆地の特徴をもつ。谷根盆地と呼ばれる小盆地を取り囲む山々が境界となり、地域の領域を示している。この小盆地の地形によって、谷根地区中心部の里地里山の景観が形づくられている。樋口忠彦は、『日本の景観』の中で盆地の景観について、「四周を青垣山が取り囲み、そのうちに清流の流れる明朗広潤な平地をもつ盆地の景観は、古くから日本人が愛着を覚えてきた景観のひとつであった。谷を遡り山を越えてはじめてうちひろがる、平穏な雰囲気漂浮を漂わせたひとつのまとまりをもった盆地の景観は、日本人の心を魅了したようである²⁶⁾」と述べている。また、日本における典型的な地形空間は7つのタイプに分類できるとし、前述の盆地の景観をもつ地形空間タイプを「秋津洲（あきつしま）やまと型」と呼び、「平野とそのうちを流れる

川、そして周囲を取り囲む山の構成する空間」と定めている²⁷⁾。この地形空間の分類の特徴から、谷根地区中心部は「秋津洲やまと型」の盆地の景観の特徴をもつと考えられ、里地里山の景観および小盆地の景観が広がる山々に囲まれた一つのまとまりをもった領域（以後、ひとまとまりの領域という）であるといえる。谷根地区中心部の小盆地である地形と、4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）にて抽出した6つの類型の視点場（図4-10）との関係について、以下のとおり考察する。

・「文化的景観を眺める視点場」

山々に囲まれたひとまとまりの領域をもつ盆地の地形の中で、自然と人為によって時間を重ねながら里地里山の景観が形成されていく。米山俊直は、遠野（岩手県）をモデルとし、小盆地を中心とする文化領域を一つの世界として小盆地宇宙と名づけ、その特徴をまとめている。その中で、小盆地の特徴は、「相対的にひとつの閉鎖的空間を作っていて、そのため独自の歴史をもち、独自の文化伝統をもちやすい。（中略）山地、丘陵、溪谷、盆地底と、地形的に類別できるような地域を含んでいて、その結果、生活様式、生産活動の様式にもそれぞれの環境条件に対応したものが含まれている²⁸⁾」としている。これらのことから、周囲の山々が領域の境界となる盆地では、地域固有の生活や生業、歴史や文化によって、その地域の里地里山の景観の固有性が育まれると考えられる。すなわち、盆地の地形は、地域の固有性を育み、地域の固有性が里地里山の景観を形成するといえる。また、里地里山の景観は、地域の地形と自然と人為による固有性の表れであるともいえる。谷根地区中心部を例示すれば、小盆地の地形をもつことによって、独自の歴史や文化による地域の固有性が育まれ、里地里山の景観の中に、その固有性が表れていく。谷根地区中心部の地域の固有性は、地域の歴史や文化の拠点としての旧上米山小学校や、生活や生業の場としての棚田といった「文化的景観を眺める視点場」から見た、里地里山の景観の中に把握できると考察する。

谷根地区中心部では、ひとまとまりの領域をもつ小盆地の地形の中で、そのうちを流れる谷根川沿いを周回するように道路と橋梁が生活の動線として配されている。「たんねのあかり」では、地域の中央部を流れる谷根川を中心とし、谷根川沿いの生活の動線を用いて回遊性のある見学ルートが設定された。3.5.2（使用場所の位置と見学ルートの回遊性）の分析において、見学ルートを視点位置とすると、対象を見る視線は見学ルートの内側へ向かうものと進行方向に向かうものが多くみられた。このことは、視対象とした地域の文化的要素の多くが、谷根川沿いの道路に設定された回遊性のある見学ルートに囲まれた範囲内に点在していたことによる。

・「内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」

谷根地区中心部の地形から考えると、周囲を山々で囲まれている小盆地では、先述のとおり、その地形の特徴から閉鎖的空間になりやすい。谷根地区中心部の地域において、日常の視線は、谷根川を周回する回遊性をもった道路と橋上空間を視点場とした場合、地域を取り囲む領域の境界としての山々が位置する外側へ向かうものよりも、地域の中央を流れる谷根川付近の生活や生業を営む場所がある、地域の内側へ向かうものが多いと考えられる。こ

のような視対象を眺める視点場について、その場所の尺度を地域まで拡大するならば、小盆地の地形の特徴をもつ地域は、周囲を境界となる山々に取り囲まれた、ひとまとまりの領域をもった「内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」にもなるといえるだろう。古谷勝則は、囲繞景観について、「身近な身のまわりの景観の構成要素を全体として評価する」景観とし、「一定の範囲を有する空間領域における景観資源や主要な眺望などを含めた、視覚的な環境状態である²⁹⁾」と述べている。さらに、「囲繞景観とは、地域の人々が日常的に利用している場所や、地域の人々に古くから親しまれてきた身の回りの景観を含んでいる。住民にとっては、方言のように親しみがあり安らぎのある地域らしさのある風景である」と説明している。

・「視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」

眺めるという行為と地域の地形や周囲との関係性による身体的な位置づけの感覚について、佐々木は、「ランドマークになる山は方向性（オリエンテーション）を与え、坂や道の曲がり角が、領域の境界の目印となる。海の上で漁師は、島や山の形の組み合わせを手がかりに、海上の位置を記憶した。つまり、周囲の眺め（視対象）によって、逆に眺めている場所（視点）を認識することができる。このような方法で自分のいる場所が身体感覚的に同定できることは、やはり安心感を与えてくれる³⁰⁾」と述べている。さらに、このような地形や環境と人との間に成立する関係は、「見る-見られる関係」であるとし、「自分の住むまちを見下ろすことができる小高い丘、自分の住むまちの位置を教えてくれる周囲の山々の眺めの重要性³¹⁾」についても記している。谷根地区中心部を一例とすれば、周囲を取り囲む山々は、小盆地の領域のまとまりを形成すると同時に、周囲の眺め（視対象）として「見る-見られる関係」を人に提供し、人が自分のいる場所を把握するのに役立つ領域を示す目印になるといえる。谷根地区中心部の中央を流れる谷根川は、経路探索において地域の目印となり、小盆地を取り囲む山々は、地域の領域を示す目印となると考えられる。これらの地域の目印は、風景の中で自分の位置を把握する上で役立つ「わかりやすさ」の情報因子であり、地域住民だけではなく、来訪者にも位置の把握のための「わかりやすさ」の情報を提供するといえる³²⁾。さらに、見る-見られる関係に関し、4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）において、谷根地区中心部の視点場の6つの類型の一つとした「視線が交差する視点場」は、谷根川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する、「見る-見られる関係の視点場」でもあった。谷根川沿いの道路を歩く人と、谷根川に架かる橋梁を渡ったり橋上で河川を眺めたりする人との視線が交差する視点場である。また、河川を眺める橋上にいる人が、道路を歩く人から視対象として眺められるという関係が生じる視点場でもある。このことから、「見る-見られる関係の視点場」は、橋上空間や橋詰空間に位置する「視線が交差する視点場」であり、小盆地の地形や環境と人との関係において成立する視対象によって、視点位置を認識することができる視点場でもあるといえる。

以上から、第一に、谷根地区中心部は、里地里山の景観および小盆地の景観が広がる山々に囲まれたひとまとまりの領域である。小盆地の地形は地域の固有性を育み、里地里山の景

観を形成するといえる。そして、地域の固有性は、「文化的景観を眺める視点場」から見た里地里山の景観の中に把握できると考えられる。第二に、谷根地区中心部のような小盆地といった平野とそのうちを流れる河川、周囲を取り囲む山による地形空間の地域では、地形の特徴から閉鎖的空間になりやすい。地域における日常の視線は、河川を周回する回遊性をもった道路と橋上空間を視点場とした場合、地域を取り囲む山々がある外側へ向かうものよりも、地域の中央を流れる河川付近の生活や生業を営む場所がある地域の内側へ向かうものが多いと考えられる。このような小盆地の地形の特徴をもつ地域は、周囲を境界となる山々に取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、「内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」にもなるといえる。第三に、小盆地の地形をもつ地域の周囲を取り囲む山々は、地域の領域のまとまりを形成すると同時に、周囲の眺め（視対象）として人が自分のいる場所を把握する上で役立つ領域を示す目印になるといえる。このとき、人が視対象を眺める視点が位置する場所は、「見る-見られる関係」をつくる視点場となる。「見る-見られる関係の視点場」は、谷根地区中心部では、河川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する「視線が交差する視点場」である。さらに、小盆地の地形や環境と人との関係において、周囲を取り囲む山々などの視対象によって視点位置を認識することができる視点場でもあるといえる（表5-10）。

表 5-10 「5.4.2 小盆地の回遊性と固有性」の考察の整理

5.4.2-①	谷根地区中心部は、里地里山の景観および小盆地の景観が広がる山々に囲まれたひとまとまりの領域である。小盆地の地形は地域の固有性を育み、里地里山の景観を形成する。地域の固有性は、「文化的景観を眺める視点場」から見た里地里山の景観の中に把握できる。
5.4.2-②	<p>① 谷根地区中心部のような小盆地といった平野とそのうちを流れる河川、周囲を取り囲む山による地形空間の地域では、地形の特徴から閉鎖的空間になりやすい。</p> <p>② 地域においての日常の視線は、河川を周回する回遊性をもった道路と橋上空間を視点場とした場合、地域を取り囲む山々がある外側へ向かうものよりも、地域の中央を流れる河川付近の生活や生業を営む場所がある地域の内側へ向かうものが多い。このような小盆地の地形の特徴をもつ地域は、周囲を境界となる山々に取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、「内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」にもなる。</p>
5.4.2-③	<p>① 小盆地の地形をもつ地域の周囲を取り囲む山々は、地域の領域のまとまりを形成すると同時に、周囲の眺め（視対象）として人が自分のいる場所を把握する上で役立つ領域を示す目印になる。このとき、人が視対象を眺める視点が位置する場所は、「見る-見られる関係」をつくる視点場となる。</p> <p>② 「見る-見られる関係の視点場」は、谷根地区中心部では、河川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する「視線が交差する視点場」である。さらに、小盆地の地形や環境と人との関係において、周囲を取り囲む山々などの視対象によって視点位置を認識することができる視点場でもある。</p>

5.4.3 視点場と地域の回遊性と固有性

・「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「シークエンス景観を眺める視点場」

山々に囲まれたひとまとまりの領域をもつ、小盆地の地形の上に広がる里地里山の景観における視点場を、谷根地区中心部にて実施された「たんねのあかり」を事例として、4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）にて、6つの類型として抽出した。そのうちの2つの類型、「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」と「シークエンス景観を眺める視点場」（図4-10）は、神社参道と道路上に位置する地域内の移動空間にある視点場であった。道路と景観の関係において、天野光一によると、「道路は、人や車が通過する通路という役割以外に、対象を眺める場としての視点場を形成するという役割を担っている。都市内街路から高

速道路に至るまで道路はわれわれに最もなじみの深い公共的な視点場³³⁾」であり、「道路は視点場であると同時に眺められる対象でもある」という特徴があることが示されている。

「たんねのあかり」にて見学ルートが設定された地域内の道路は、連続する公共的な視点場であった。谷根地区中心部では、地域中央を流れる谷根川を取り囲むように道路が敷かれ、谷根川に架かる橋梁群とともに移動空間として、地域の回遊性を形成している。このことから、谷根地区中心部のように、小盆地の中央部に河川が流れる地形をもつ地域では、河川を取り囲むように敷かれた道路は、地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であるといえる。そして、このような道路上の視点場は、地域を蛇行して流れる河川形状と河川の流れによって形成された、地形に沿った曲線形状をもつ道路空間の視点場であり、「シークエンス景観を眺める視点場」として抽出された類型の一つに分類される。4.6（「視点場」の類型と地域の固有性の分析）の分析から、この類型の視点場は、立ち止まって景観を眺めたり、移動しながら継起的に変化する景観を眺めたりすることができる視点場であると述べた。地域の川沿いの道路を歩き、緩やかな地形の起伏を体感しつつ、点在する地域の固有性を形成する文化的要素による景観を、地域を回遊しながら多方向から眺めることができる視点場である。

一方、谷根地区中心部のように、里地里山の低地部と高台に位置する神社をつなぐ参道は、低地部の平坦部分と高台へ上る階段部分で構成される「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」である。階段部分を含む参道の視点場では、低地部から見上げる神社のある鎮守の森と、高台から眺める地域内の田んぼや河川、生活景などを眺めることができる。このような高低差のある参道に位置する視点場は、地域の地形の特徴や、稲作や地域文化と深いつながりをもつ神社と地域との関係を、景観を眺めることで感じる場所である。天野は、急な坂道の構造形態の一つとして階段があるとし、坂道景観の一般的特性として、「上り坂は坂を上り切った場所で展開する新たな眺望を期待させ、視線は坂の頂上付近にある対象に注がれる。そのため上り坂の直線街路では坂の頂上にあるランドマークが強調されやすい。逆に下り坂では富士見坂や塩見坂の名称が各所にあったことからわかるように、眺望が得られる格好の場所であり、昔から都市の眺望点として人々に強い印象を与えていた³⁴⁾」と述べている。なお、事例とした谷根神社の参道は、谷根川に直交して配された直線状の線形の参道であった。このことから、神社参道のような「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」は、地域のランドマークとなる要素を仰瞰景として眺め、名所とされるような地域の固有性を表す要素で構成される眺望を俯瞰景として眺めることができる視点場であるといえる。言い換えれば、この類型の視点場では、地域の固有性を表し、目印となるランドマークのような点的要素を仰瞰景として、地域広域の眺望のような面的要素を俯瞰景として眺めることができる場所であるといえる。また、このような眺めが得られる視点場では、高台からの俯瞰景であり、地域の領域の広がりや点在する文化的要素群によって形成される地域固有の景観を眺める行為を通じて、人は地域を把握すると同時に、自分の立ち位置も把握することができると考えられる。そして、景観を眺めることで地域においての自分の位置が把握でき

ば、地域を移動する場合、位置がわかりやすく目印となる地域中央の河川沿いの道路だけではなく、ショートカットルートを見つけたり、小道や脇道といった別のルートを選択したりすることも可能になり、移動経路における回遊性が高まると考察する。

以上から、第一に、谷根地区中心部のように、小盆地の中央部に河川が流れる地形をもつ地域では、河川を取り囲むように敷かれた道路は、地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であるといえる。このような視点場は、「シーケンス景観を眺める視点場」に分類される。第二に、里地里山の低地部と高台に位置する神社をつなぐ参道は、「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」に分類される。このタイプの視点場では、高台から、地域の領域の広がりや点在する文化的要素群によって形成される地域固有の景観を眺める行為を通じて、人が地域を把握すると同時に、自分の立ち位置も把握することができる視点場でもあると考えられる。このような地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、景観を眺めることで地域における自分の位置を把握できれば、地域を移動する場合、目印となるような河川沿いの道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートを選択することも可能になり、地域の移動経路における回遊性が高まると考察する（表5-11）。

表5-11 「5.4.3 視点場と地域の回遊性と固有性」の考察の整理

5.4.3-①	谷根地区中心部のように、小盆地の中央部に河川が流れる地形をもつ地域では、河川を取り囲むように敷かれた道路は、地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場である。このような視点場は、「シーケンス景観を眺める視点場」に分類される。
5.4.3-②	<p>① 里地里山の低地部と高台に位置する神社をつなぐ参道は、「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」に分類される。このタイプの視点場では、高台から、地域の領域の広がりや点在する文化的要素群によって形成される地域固有の景観を眺める行為を通じて、人が地域を把握すると同時に、自分の立ち位置も把握することができる視点場でもある。</p> <p>② 地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、景観を眺めることで地域における自分の位置を把握できれば、地域を移動する場合、目印となるような河川沿いの道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートを選択することも可能になり、地域の移動経路における回遊性が高まる。</p>

5.5 まとめ：谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割

本章の目的は、アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じた第3章および第4章での分析-1、2を踏まえ、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割について、場所や地域の回遊性と固有性に焦点をおいて考察することであった。

5.2（里地里山の景観と回遊性）では、第3章（分析-1「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較）の分析から、場所や地域の回遊性に焦点をおいて、点在する文化的要素と視点位置（5.2.1）、経路形状と回遊性（5.2.2）、移動空間と滞留空間（5.2.3）の3つの項目を挙げて考察を行った。

5.3（里地里山の景観と固有性）では、第4章（分析-2「たんねのあかり」における選定場所の分類と視点場の類型）の分析から、場所や地域の固有性に焦点をおいて、地域固有の景観と生活景（5.3.1）、地形の目利きと地域文化（5.3.2）、視点場の設定と地域の固有性（5.3.3）の3つの項目を挙げて考察を行った。

5.4（視点場と地域の回遊性と固有性）では、前節までの考察を踏まえ、視点場と地域の回遊性と固有性について、里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場（5.4.1）、小盆地の回遊性と固有性（5.4.2）、視点場と地域の回遊性と固有性（5.4.3）の3つの項目を挙げて、第4章の分析にて抽出した視点場の6つの類型と関連づけて考察を行った。5.4.1では、「眺望景観を眺める視点場（6）」、5.4.2では、「内部景観（囲繞景観）を眺める視点場（1）」、「文化的景観を眺める視点場（2）」、「視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）（5）」、5.4.3では、「俯瞰景と俯瞰景を眺める視点場（3）」、「シークエンス景観を眺める視点場（4）」のそれぞれの視点場の類型と各項での項目を関連づけて考察した。

これまで、アートイベント「たんねのあかり」の実践を通じて得られた情報を整理し、「たんねのあかり」が展開した、谷根地区中心部を事例とした分析と考察を行い、地域の回遊性と固有性に焦点をおき、里地里山の景観における視点場について述べてきた。谷根地区中心部を事例とした考察から、里地里山の景観の固有性を形づくる文化的要素や生活拠点は地域に点在し、また、これらの要素群を視対象として眺める視点場も地域に点在することがわかった。そして、「たんねのあかり」にて、地域住民と来訪者によって設定された見学ルートのように、地域の中央に位置する河川沿いの道路を用いて、回遊性のある経路を設定することができれば、地域内に点在するさまざまな視点場を、連続した公共的な視点場である道路でつなぐことができると考えられる。このとき、地域の中央に位置する河川は、地域の目印となって、来訪者に位置に関するわかりやすさの情報を提供する。そして、このような回遊性をもった連続した視点場が設定できれば、人は移動を伴いながら、この視点場から、地域の固有性を表す要素群によって形成された地域の複合的な景観を視対象として眺めることができ、この景観の中に一つのまとまりをもった地域の固有性を認識できるといえる。本章での谷根地区中心部を事例とした考察から、里地里山の景観における視点場は、地域の回遊性や固有性に関わり、地域のさまざまな視対象を眺め、観察し、地域を知るための視覚的

な情報を得ることができる位置を、地域住民と来訪者に示すという役割をもつことがわかった。

本章では、里地里山の谷根地区中心部にて展開した「たんねのあかり」の実践から、第3章と第4章での分析を踏まえ、里地里山の景観における回遊性、固有性、視点場に焦点をおいて考察を行ってきた。次章では、第一に、第1章から第5章までの内容を総括した上で、本章で考察した里地里山の景観における回遊性、固有性、視点場についての情報を整理し、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論とする。第二に、前節において、里地里山の景観と農村景観の基本構造をもつ谷根地区を事例として得られた結論に基づき、屋外公共空間への応用に向けた里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点を抽出する。

註および引用文献

5.2

- 1) e-Gov ポータル (<https://www.e-gov.go.jp>) 「文化財保護法」、
<https://laws.e-gov.go.jp/law/325AC0100000214> (閲覧 2024 年 9 月 23 日)
- 2) 文化庁「文化財保護法の一部を改正する法律等について、文化財保護法の一部改正に伴う関係省令及び告示の整備等について(通知)(平成 17 年 3 月 28 日 16 庁財第 413 号 文化庁次長通知) No. 2」、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/bunkazai/pdf/hogohou_ichibukaisei_no2.pdf (閲覧 2024 年 9 月 23 日)
- 3) 篠原修、他(著・編)『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、130 頁。
- 4) 国土交通省「河川景観ガイドライン 河川景観の形成と保全の考え方(平成 18 年 10 月)」、
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/riverscape/index.html
(閲覧 2024 年 9 月 23 日)
- 5) 国土交通省 河川審議会「河川を活かした都市の再構築の基本的方向 中間報告(平成 10 年 9 月)」、
https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/past_shinngikai/shinngikai/shinngi/9909205a.html (閲覧 2024 年 9 月 26 日)
- 6) ケヴィン・リンチ(著)、丹下健三、富田玲子(訳)『都市のイメージ』岩波書店、1968 年、58 頁。
- 7) 土肥博至(監修)、環境デザイン研究会(編著)『環境デザイン用語事典』井上書院、2007 年、326 頁。
- 8) 日本建築学会(編)『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016 年、105 頁、140 頁。
- 9) 紙野桂人『人のうごきと街のデザイン』彰国社、1980 年、188-189 頁。
- 10) 土肥博至(監修)、環境デザイン研究会(編著)、前掲書(註 7)、15 頁。
- 11) 同前、148 頁。
- 12) 亀山章(総編集)、他『造園大百科事典』朝倉書店、2022 年、112-113 頁。
- 13) 国土交通省「小さな拠点づくりガイドブック(平成 27 年 3 月)」、
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_guidebook.html (閲覧 2024 年 10 月 22 日)

※ 国土交通省「小さな拠点」づくりガイドブックでは、「小さな拠点」を、「小学校区など、複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図る

ことで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくろうとする取組」と定義している。

5.3

- 14) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註7）、172頁。
- 15) 社団法人日本建築学会（編）『生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり』学芸出版社、2009年、16頁、24-25頁。
- 16) 文化庁「令和3年度 文化観光高付加価値化リサーチ 文化・観光・まちづくりの関係性について（令和3年度）」、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/pdf/93705701_01.pdf
（閲覧 2024 年 10 月 17 日）
- 17) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註3）、166-168頁。
- 18) 横文彦、他（著）、社団法人『見えがくれする都市』鹿島出版会、1980年、92-94頁。
- 19) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015年、193-194頁。
- 20) 篠原修（著）、社団法人土木学会（編）『新体系土木工学 59 土木景観計画』技報堂、1982年、40-43頁。

5.4

- 21) 国土交通省大臣官房技術調査課・公共事業調査室「公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き（案）～市民の目線に立った良質な空間形成に向けて～」（平成 21 年 3 月）、
<https://www.mlit.go.jp/tec/content/keikan-jigohyouka-honbun.pdf>（閲覧 2024 年 11 月 17 日）
- 22) 江東区 都市整備部 都市計画課「景観定点観測について」（2024 年 3 月 1 日更新）、
https://www.city.koto.lg.jp/390112/machizukuri/keikan/toshikeikan_torikumi_kansoku.html（閲覧 2024 年 11 月 17 日）
- 23) 平塚市 まちづくり政策課「第2回 平塚市景観検討会議 議事要点」（平成 18 年 1 月）、
<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/common/000016671.pdf>（閲覧 2024 年 11 月 17 日）
- 24) 茅ヶ崎市 都市部景観みどり課「茅ヶ崎市景観計画年次報告書 2023 年度版」（令和 6 年 3 月）、
https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/008/080/2023nenji.pdf（閲覧 2024 年 11 月 17 日）
- 25) 焼津市 都市政策部 都市計画課「焼津市景観計画 焼津らしい景観地における定点観測による評価（案）」（令和 5 年 8 月）、
<https://www.city.yaizu.lg.jp/documents/14975/bessi02.pdf>（閲覧 2024 年 11 月 17 日）

日)

- 26) 樋口忠彦『日本の景観』筑摩書房、1993年、176頁。
- 27) 樋口忠彦『景観の構造 ランドスケープとしての日本の空間』技報堂出版、1975年、85頁。
- 28) 米山俊直『小盆地宇宙と日本文化』岩波書店、1989年、11-13頁。
※ 同文献では、「小盆地宇宙」には、情報の集散する拠点として城や城下町、市場をもつとされている。谷根地区には現在、城や城下町といった拠点は無いが、月橋奈らによる『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』によると、上杉時代（文献表記による）に谷根城（北山古城を上条家で修築）があったと記されている。
参考文献：月橋奈、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973年、136-138頁。
- 29) 亀山章（総編集）、前掲書（註12）、100頁。
- 30) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）、前掲書（註19）、73-74頁。
- 31) 同前、74頁。
- 32) Kaplan, R., Kaplan, S., and Ryan, R.L. (1988) *With people in mind*. Island Press.
羽生和紀（監訳）『自然をデザインする —環境心理学からのアプローチ』誠信書房、2009年、9-12頁。
- 33) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註3）、212頁。
- 34) 同前、214頁。

参考文献

中村良夫、他（著・編）『環境と空間文化 —建築・都市デザインのモチベーション』学芸出版社、2005年

第6章 結論 里地里山の景観における視点場の環境デザイン

- 6.1 本章の目的
- 6.2 「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場
- 6.3 里地里山の景観における視点場の環境デザイン

第6章 結論 里地里山の景観における視点場の環境デザイン

6.1 本章の目的

本章の目的は、第一に、アートイベント「たんねのあかり」が展開した谷根地区中心部を事例とし、この研究対象地での調査や分析から得られた情報を整理し、「たんねのあかり」の実践を通じた研究の結論とすることである。第二に、前節の結論を踏まえ、第5章の考察をもとに、里地里山の景観における視点場の環境デザインを屋外公共空間の環境デザインに応用するための要点を整理することである。

6.1では、第1章から第5章までの内容を総括し、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた情報を、里地里山の景観における回遊性、固有性、視点場に焦点をおいて整理し、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論とする。

6.2では、前節において得られた、里地里山の景観と農村景観の基本構造をもつ谷根地区を事例とした結論に基づき、屋外公共空間への応用に向けた、里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点を抽出する。

6.2 「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場

本研究は、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画するために、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究対象事例として、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、どのように屋外公共空間の環境デザインに応用することができるのかを検証することを目的とした。

本節では、これまで述べてきた、アートイベント「たんねのあかり」が展開した谷根地区中心部を事例とし、この研究対象地での分析や考察から得られた情報を整理し、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論とする。

第1章では、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画する上で、まず、人と自然、人と場所の関係から形成される景観と場所や地域固有の特性を、どのように環境デザインに反映できるのかを検証していくことが課題であり、対象空間の状態把握のための観察、ならびに観察を行う人の立ち位置である「視点場」の設定が重要であると述べた。次に、屋外公共空間は、対象地とその周辺地域の地域住民と来訪者など、多様な利用者が屋外活動を行う場所である。したがって、さまざまな利用者を想定した環境デザインの計画には、景観の観察と聞き取り調査から成るフィールドワーク調査が有効な手段の一つであることを示した。そして、環境デザイン分野における、フィールドワーク調査の重要性を探るために開始した学外活動が、アートイベント「たんねのあかり」の活動へと展開した経緯を説明した。柏崎市谷根地区の里地里山を舞台とした「たんねのあかり」の実践を通じ、来訪者が里地里山の地域を知って把握するためには、どのような体験、具体的には、地域を歩いて巡る回遊性をともなう身体的な体験と、地域固有の景観を眺める視覚的な体験が重要であるのかを探る必要性について述べた。

第2章では、本研究の対象地である新潟県柏崎市谷根地区のおもに中心部について、文献調査とフィールドワーク調査から得られた情報を、研究対象地の概要、地形と成り立ち、歴史と地域文化、河川と橋梁、里地里山の景観の5つの項目に分けて整理し、地域の特徴を把握した。次に、谷根地区中心部の里地里山において展開したアートイベント「たんねのあかり」の活動の経緯と概要をまとめ、アートイベントとして掲げられたテーマと景観との関係について考察した。

第一に、谷根地区中心部は、米山の裾に位置し、地区を南北方向に流れる谷根川を中心に、川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼや棚田、暮らしの場が集中している農村景観の基本構造をもった特徴的な地形であった。

第二に、谷根地区の高台に位置する神社と寺院を拠点として、かつての生業であった稲作に関連した祭祀や地域芸能などの地域文化が谷根地区に根付いていた。また、地区内にある米山講の登山口や、点在する双体道祖神や石仏に関する文献から、地域の長い歴史の中にも、

数々の地域外との文化交流があったことがわかった。

第三に、谷根地区のかつてのおもな生業が稲作であり、自然災害への対策を含む谷根川との関わりが日々の生活の中で重要であった。また、谷根川に架かる橋梁は東西の地域をつなぎ、橋上空間は祭事の空間にも利用されている地域文化と暮らしに重要な場所であった。谷根川と橋梁は、地域の生活に密着した自然と人為の深い関係が築かれている場所であった。

第四に、フィールドワーク調査を通じ、谷根地区中心部の里地里山の景観において、4つの特徴が把握できた。4つの景観の特徴は、①丘陵地の高台から田んぼや棚田、住宅群を眺める「俯瞰景」、②谷根川沿いの低地部から丘陵地や山林、高台の寺院や神社を眺める「仰俯瞰景」、③谷根川の沿い道路や橋上空間から谷根川や田んぼ、住宅や諸施設を眺める「水平景」、④蛇行する谷根川沿いの道路を移動しながら眺める「シークエンス景観」であった。①、②、③は、「シーン景観」であった。谷根地区中心部の景観は、これらの景観の組み合わせによって構成されていた。

第五に、里地里山の谷根地区中心部にて展開した「たんねのあかり」がアートイベントとして目指したものは、地域住民と来訪者の協働活動を通じて、地域資源や景観資源の価値を見だし、地域の固有性を里地里山の景観の中に再発見し、地域の魅力として地域外にも発信することであったことを示した。

第3章では、「たんねのあかり」の開催年ごとの空間演出の対象場所の特徴を把握し、見学ルートの経路形状の比較と分類から、空間演出の対象場所の位置と回遊性との関係进行分析した。

第一に、「たんねのあかり」の概要をまとめた。谷根地区中心部のどのような場所を空間演出の対象場所である「使用場所」として、2009年から2018年までイベントが7回実施されてきたのか、開催年ごとに概要を整理した。

第二に、「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所の位置と特徴の把握、および見学ルートの経路形状の比較のための分析方法を提示した。一つ目の分析方法では、「たんねのあかり」にて作品が配置されて空間演出が行われた対象場所を、開催年ごとに整理して分析を行い、それらの場所の位置と特徴を把握する手順について示した。二つ目の分析方法では、「たんねのあかり」開催年ごとの見学ルート7点を比較し、経路形状の変化の過程から、空間演出の対象場所の位置と視点位置、見学ルートの回遊性との関係について分析する手順について示した。

第三に、開催年ごとの使用場所の位置と特徴について分析を行った。使用場所を特徴づける文化的要素は、「①稲作文化に関わるもの」、「②神社と寺院」、「③地域の文化や信仰に関わるもの」、「④地域のコミュニティと文化形成に関わるもの」の4つの種類に分類された。開催年ごとの使用場所は、2009年9か所、2010年11か所、2011年16か所、2012年15か所、2014年16か所、2016年20か所、2018年17か所であり、複数回使用された場所をまとめると使用場所の箇所数は66か所であった。使用場所の特徴について、用途と使用場所の種類にて分類し、用途の種類では、「①作品」、物販・飲食・休憩のための「②交流・休憩」

の場所、参拝のための「③神社等」の場所の3項目に分類した。作品の分類において、すべての使用場所を作品とし、「鑑賞型」と「鑑賞・体験型」の2項目に分類した。場所の種類では、使用場所を、「①河川（谷根川・小俣川）」、「②棚田（田んぼ含む）」、「③道路」、「④橋梁」、「⑤広場」、「⑥境内（寺院・神社）」、「⑦参道」、「⑧竹林」、「⑨道路脇空地」、「⑩擁壁」、「⑪施設敷地内」の11項目に分類した。分析結果として、「たんねのあかり」の使用場所は、谷根地区中心部の谷根川や棚田、低地部と丘陵部から成る地形、および地域を構成する文化的要素の配置などの特徴から設定された66か所であることがわかった。

第四に、谷根地区中心部に点在する使用場所を巡るように計画された、開催年ごとの見学ルートの経路形状の比較を行った。まず、開催年ごとの見学ルートの経路形状を抽出し、見学ルートの特徴から分類を行った。見学ルートは経路形状の特徴から、谷根川を中心とした「回遊型」、棚田（鉄塔下）の中央の道路を用いた「中通路型」、谷根川と棚田（鉄塔下）の双方のタイプを組み合わせた「回遊・中廊下型」の3つのタイプに分類された。次に、見学ルートの距離について分析し、見学ルートにショートカットルートがある場合、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる傾向にあると考えられた。また、見学ルートの起点と終点の位置は、「滞留空間」となる使用場所の位置に多く設定されたことがわかった。続いて、使用場所の位置と見学ルートの特徴を分析した。「回遊型」の見学ルートと使用場所は、見学ルートが点在する使用場所を取り囲むかたちを形成する関係であった。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの内側へ向かうものと進行方向に向かうものが多くみられた。「中通路型」の見学ルートと使用場所は、使用場所の作品群が見学ルートを取り囲むかたちを形成する関係であった。見学ルートを視点位置とすると、対象となる使用場所を見る視線は、見学ルートの外側へ向かうものが多くみられた。「回遊・中通路型」の見学ルートと使用場所は、上記の回遊型と中通路型の見学ルートの特徴を組み合わせた関係と視線の向きであった。「たんねのあかり」の見学ルートの経路形状は、「回遊型」、「中通路型」、「回遊・中通路型」の3つのタイプがあり、その特徴は、起点と終点を同一地点として谷根地区中心部に点在する使用場所を巡る、おもに回遊性のある経路であったことが確認できた。以上の分析から、おもな見学ルートは、谷根地区中心部の中央を流れる谷根川を取り囲むように配された河川沿いの道路と、川東地域と川西地域をつなぐ橋梁によってつくられる回遊性のある経路であったことが確認できた。そして、谷根川沿いの道路と橋梁を用いた見学ルートは、旧上米山小学校の校庭や谷根神社などの地域の拠点となる場所をつなぐ、地域の日常生活における動線であったと考えられた。

以上から、第3章では、「たんねのあかり」の開催年ごとの空間演出の対象場所である「使用場所」の特徴を把握し、見学ルートの経路形状の比較と分類から、使用場所の位置と経路形状との関係を分析することで、「たんねのあかり」の見学ルートは、おもに回遊性のある経路であったことが確認できた。そして、この見学ルートの回遊性は、もともと谷根地区中心部にあった、地域の地形と地域文化から形成された、日常的な地域の回遊性によるものと

考えられた。

第4章では、「たんねのあかり」における「選定場所」と「視点場」の類型を抽出し、抽出された類型から、谷根地区中心部を事例とした里地里山の地域の固有性を高める要因を分析した。

第一に、4つの段階で構成した分析方法を述べた。分析方法の手順を以下に示す。①フィールドワーク調査から候補場所 65 か所が定められ、候補場所の中から、選定場所 46 か所が設定された。選定理由を分析して情報を整理する。②選定場所の特徴を把握するための分析項目を、視対象と視点場の関係に着目して設定する。③空間の特徴5項目と景観の特徴4項目を合わせた9項目の分析項目を用い、クラスター分析にて選定場所の分類を行う。クラスター分析では、デンドログラムと標準化得点をもとに特徴の分析をする。④クラスター分析にて分類された選定場所から、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出し、谷根地区中心部を事例とした里地里山の固有性を高める要因について分析する。

第二に、フィールドワーク調査を踏まえ、空間演出の対象となる候補場所から、選定場所が定められた過程とその選定理由を分析した。「案内による候補場所」が 37 か所、「協働による候補場所」が 28 か所で、候補場所は合計 65 か所であった。候補場所 65 か所は、主要施設・地域拠点、河川、橋梁、地域文化・生活要素の4つに分類された。候補場所 65 か所から、イベント時の実用性から定められた3つの条件を満たしたものとして、選定場所 46 か所が設定された。3つの条件は、①イベント対象エリア内にある候補場所であること、②イベント時に占有可能な候補場所であること、③空間演出を施す際に施工可能であることであった。

第三に、「たんねのあかり」のイベント対象エリアにおいての視対象と視点場の関係に着目して、分析項目の設定とそれぞれの項目の定義を行った。選定場所の分析項目として、空間の特徴5項目、景観の特徴4項目を設定した。空間の特徴から設定した分析項目は、「a. 高低差」、「b. 空間の広がり」、「c. 奥行き」、「d. 曲線形状」、「e. 囲繞感」とした。景観の特徴から設定した分析項目は、「f. 見晴らし」、「g. 見通し」、「h. 見え隠れ」、「i. 文化的意味」とした。

第四に、空間の特徴と景観の特徴から設定した9つの分析項目を用いて、クラスター分析を行い、選定場所は6つのクラスターに分類された。6つのクラスターを所属メンバーと標準化得点をもとにして、「Ⅰ：境界をもつ内部的場所」、「Ⅱ：地域個性を形成する要素と場所」、「Ⅲ：河川と高台による低地部と高地部」、「Ⅳ：蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「Ⅴ：河川の橋上空間と橋のたもと（橋詰空間）」、「Ⅵ：開けた傾斜地の棚田」と解釈して分類した。以上のクラスター分析によって、「たんねのあかり」における選定場所 46 か所を、空間と景観に視点をおいた場所の特徴から6つのグループに分類して、谷根地区中心部に設定したこれらの場所の特徴を分析した。

第五に、6つに分類された選定場所のグループの特徴と視点場となった選定場所の構成を分析し、「たんねのあかり」における視点場の類型を抽出した。「たんねのあかり」におけ

る6つの視点場の類型は、「1 内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」であった。

以上から、第4章では、「たんねのあかり」において、谷根地区中心部に設定された46か所の「選定場所」は6つのグループに分類され、6つの「視点場」の類型が抽出された。「選定場所」の6つのグループと「視点場」の6つの類型の分析から、「たんねのあかり」で設定された視点場は、谷根地区の特徴的な地形と、その地形を活かした人によってつくられた場所であり、地域の個性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であることを示した。また、これらの視点場は、視点場から眺めることができる視対象群とともに、谷根地区中心部の里地里山の地域の固有性を高める要因になると分析した。

第5章では、「たんねのあかり」の実践を通じた第3章および第4章での分析-1、2を踏まえ、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の役割について、場所や地域の回遊性と固有性に焦点をおいて考察した。まず、第3章（分析-1「たんねのあかり」開催年ごとの使用場所と見学ルートの経路形状の比較）の分析から、場所や地域の回遊性に焦点をおいて、①点在する文化的要素と視点位置（表5-1）、②経路形状と回遊性（表5-2）、③移動空間と滞留空間（表5-3）の3つの項目を挙げて考察を行った。次に、第4章（分析-2「たんねのあかり」における選定場所の分類と視点場の類型）の分析から、場所や地域の固有性に焦点をおいて、①地域固有の景観と生活景（表5-4）、②地形の目利きと地域文化（表5-5）、③視点場の設定と地域の固有性（表5-7）の3つの項目を挙げて考察を行った。続いて、視点場と地域の回遊性と固有性について、①里地里山の景観と地域住民と来訪者からみた視点場（表5-9）、②小盆地の回遊性と固有性（表5-10）、③視点場と地域の回遊性と固有性（表5-11）の3つの項目を挙げて、第4章の分析にて抽出した視点場の6つの類型と関連づけて考察を行った。これらの考察は、各項ごとに整理して表に示した。

第5章にて整理した考察を、里地里山の景観における回遊性、固有性、視点場などの項目ごとに分類し、谷根地区を事例とした里地里山の景観における視点場の特徴を整理し、本節、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論とする。

・里地里山の景観における回遊性：

- 1) 5.2.2 (1) ② 河川空間を中心とする地域において回遊性のある経路形状をもつ道路は、地域住民には日常の動線となり、来訪者には地域を把握する上で有効な経路となる。
- 2) 5.2.2 (2) ② 里地里山の景観の中にある河川空間は、視線を遮る要素が少なく人の目に見えやすいことから、地域を回遊する場合には、人が位置を確認する目印になる。
- 3) 5.2.2 (2) ③ 地域が目印となる要素は、人にわかりやすさの情報を提供し、人が位

置を把握できること、経路探索が簡単になること、道に迷わずに移動できることから、地域の回遊性を高める要因となる。

- 4) 5.2.2 (3) ① 地域の回遊性は、起点と終点を同位置とし、起点を出発して地域を巡って終点に戻るといふ、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）を設定することで生まれる歩行空間の性質である。
- 5) 5.2.2 (3) ② 回遊性のある経路にショートカットルートを付加すると、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる。
- 6) 5.2.3 (1) 地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、移動空間として一連のつながりをもつ経路とし、起点と終点を同位置とすることが、経路のわかりやすさの向上に関わる。
- 7) 5.2.3 (2) ① 里地里山の集落の小学校のような地域の拠点、人が集まる滞留空間として機能しやすい。
- 8) 5.2.3 (2) ② 里地里山の地域において、ある特定の場所が、地域の中央に位置し、移動空間から見えやすくわかりやすい場所である場合、このような場所には地域の拠点が置かれ、人びとの滞留行動を促す滞留空間として機能しやすい。
- 9) 5.2.3 (2) ③ 地域の拠点となる場所は、地域に回遊性のある経路を設定する場合、その経路の起点と終点、および滞留空間を配するのに適した場所である。
- 10) 5.2.3 (3) ① ある地域の個性や特徴を地域住民と来訪者が相互に理解する上で、地域の日常の動線を用いた移動空間に、回遊性のある経路を設定することは有効である。
- 11) 5.2.3 (3) ② 地域の日常の動線を用いた回遊性のある経路を、繰り返し巡りながら地域の景観を眺める機会が得られれば、地域の個性や特徴の理解がより深まる。

・里地里山の景観における固有性：

- 1) 5.3.1-① 地域固有の景観は、地域住民によって日々の暮らしの中で時間を重ね形づくられた生活環境の眺めである。この眺めを生活景といい、地域の固有性が景観として表れたものである。
- 2) 5.3.1-② 生活景は景観として表れて地域の固有性を示すが、地域住民にとってはあたりまえの何気ないものであることが多い。地域住民と来訪者との協働による視点があれば、生活景に地域の固有性を見だし、地域固有の景観の価値を再認識できる。
- 3) 5.3.2-①-① 谷根地区中心部を事例として、地域の固有性を表す視対象となる場所（「たんねのあかり」での選定場所）は、農村景観の基本構造をもった特徴的な地形を構成する主要な6つの類型に分類できる。
- 4) 5.3.2-①-② 谷根地区中心部を事例とした、地域の固有性を表す視対象となる場所の6つの類型は、「境界をもつ内部的場所（Ⅰ）」、「地域個性を形成する要素と場所（Ⅱ）」、「河川と高台による低地部と高地部（Ⅲ）」、「蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路（Ⅳ）」、「河川の橋上空間と橋のもと（橋詰空間）（Ⅴ）」、「開けた傾斜地の棚田（Ⅵ）」

である（図 6-1）。

- 5) 5.3.2-② 谷根地区中心部を事例とした、6つの類型に分類された地域の固有性を表す視対象となる場所は、単体のみで地域の景観を構成するのではなく、いくつかのタイプが複合した組み合わせによって地域固有の景観が形成されている。
- 6) 5.3.2-③-① 地域固有の景観は、地域で暮らす人びとが生活環境の中で、培ってきた自然と人為による地域文化が景観として表れたものである。
- 7) 5.3.2-③-② 景観として表れる地域文化は、自然とともに生活を営む人びとが、その地域の地形を目利きして、自然との関係を築いてきた生業や生活のかたちの表れである。
- 8) 5.3.2-③-③ 農村景観の広がる里地里山では、人びとはその地域の自然地形を目利きして暮らしてきた。この人びとの暮らしによって形成された地域文化は自然と人為による里地里山の景観として表れ、この景観が地域の固有性を高める。

<p>境界をもつ内部的場所 (I)</p> <p>人工物や自然物などの遮蔽を感じる要素によって囲まれ、該当する場所の内側に立って外側を見た場合に、視線の先が見えたり隠れたりする場所である。</p> <p>該当する場所の内側に滞留した場合、外部空間ではあるものの、周囲を取り囲む遮蔽を感じる要素によって、内部空間のような印象を人に与える場所でもある。</p>  <p>例：谷根神社（神社・境内）</p>	<p>地域個性を形成する要素と場所 (II)</p> <p>地域の歴史や文化、生活によって育まれた地域の個性を形成する、文化的意味をもつ要素がまとまった場所である。</p> <p>文化的意味をもつ要素は、視対象として視覚的に捉えやすい見晴らしのよい場所に位置する。</p>  <p>例：稲架木</p>	<p>河川と高台による低地部と高地部 (III)</p> <p>地域の丘陵部の高台、または低地部から丘陵部へと向かう傾斜面に位置する場所である。</p> <p>丘陵部または低地部を立ち位置とした場合、視点と対象との間の高度の差があり、対象を仰角または俯角で見る関係がある。河川や護岸を見る場合、視点場はおもに道路や橋上空間であり、視対象となる河川の川面との間に高低差がある。道路や橋上空間を立ち位置とした場合、河川が視線の先の方まで見通しよく見える。</p>  <p>例：谷根川（久保橋付近）</p>
<p>蛇行する河川と 河川のかたちに沿った道 (IV)</p> <p>地域を蛇行して流れる河川と、河川形状に沿った曲線の線形もつ道路に位置する場所である。</p> <p>距離が長く曲線の線形が把握しやすい。曲線形状をもつ道路空間と河川空間であることから、視点位置から見た対象となる空間の長さが視界から先へと続く特徴がある。</p>  <p>例：谷根川（中和田橋-惣ゼン橋間）</p>	<p>河川の橋上空間と 橋のたもと（橋詰空間） (V)</p> <p>周囲の水平方向に高木や建造物などの視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる橋上空間、または橋詰空間の場所である。該当する橋上空間、または橋詰空間を視点位置とした場合、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる見晴らしのよい場所でもある。</p> <p>橋上空間において、橋梁の直線的な平面形状や橋の欄干などは、視線を遠くまで誘導する要因となる。</p>  <p>例：中和田橋（甚七橋）</p>	<p>開けた傾斜地の棚田 (VI)</p> <p>低地部から丘陵部にかけての広範囲にわたる傾斜地に位置している棚田で、周囲の水平方向に視線を遮る要素がほとんどなく、周囲を見渡すことができる空間の広がりをもった場所である。</p> <p>遠くまでの視界が確保され、視点位置を基点として視線を左右、水平方向に移動させて周囲を広く見渡すことができる景観が得られる見晴らしのよい場所である。</p>  <p>例：棚田（鉄塔下）</p>

図 6-1 地域の固有性を表す「視対象」となる場所の 6 つの類型

・里地里山の景観における視点場：

- 1) 5.3.3-① 谷根地区中心部を事例として、地域における視点場は、移動空間に位置する視点場と滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類できる。谷根地区中心部の視点場の6つの類型を事例とすると、おもに滞留空間に位置する視点場は、「1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」、「2 文化的景観を眺める視点場」であり、おもに移動空間に位置する視点場は、「3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「4 シークエンス景観を眺める視点場」、「5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「6 眺望景観を眺める視点場」である（図6-2）。
- 2) 5.3.3-② 滞留空間に位置する視点場は、ある地域において、日常生活の中で生活利便性の高い位置にあり、地域コミュニティの拠点や広場などの滞留空間としての特徴をもち、生活景や人の景が眺められる視点場である。
- 3) 5.3.3-③ 移動空間に位置する視点場は、俯瞰景、仰瞰景、水平景などのシーン景観とシークエンス景観といった、地域の景観を構成するさまざまな眺めを得られる移動空間としての特徴をもつ。道路空間に位置する視点場は、日常的に利用される公共的な視点場であり、橋上と橋詰空間に位置する視点場は、谷根地区中心部のように河川に架かる橋梁であるならば、眺望を得られる場合が多い視点場である。
- 4) 5.3.3-④ 谷根地区中心部を事例とした、6つの類型の視点場は、里地里山の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所である。
- 5) 5.3.3-⑤-① 谷根地区中心部を事例とした、6つの類型の視点場は、いずれも日常生活の中で地域の拠点や動線となる場所に位置する公共的な視点場であるため、地域住民にとって普段は視点場として意識されにくい場所である。
- 6) 5.3.3-⑤-② 地域住民と来訪者の協働活動を通じて、地域内に視点場を見い出して設定することは、その視点場から眺められる地域の景観や文化的要素といった視対象群とともに、地域の固有性を高める。すなわち、地域内外の視点をもって、地域内に視点場を設定することは、地域の固有性を高めるために重要な方法である。

<p>おもに 滞留空間に 位置する 視点場</p>	<p>内部景観（囲繞景観）を眺める視点場</p> <p>高木群や建造物によって囲まれ、人びとが移動する空間となるだけでなく、立ち止まり、滞留する空間にもなりうる内部的な特徴をもつ視点場である。</p>  <p>例：谷根神社（神社・境内）</p>	<p>文化的景観を眺める視点場</p> <p>地域住民にとっては日常生活の中で身近に眺められる景観であり、来訪者にとっては、地域の歴史や文化、生活の一端を見ることができ文化的景観としての地域の景観を眺められる視点場である。</p>  <p>例：旧上米山小学校 （現：（特養）たんねの里）</p>		
<p>おもに 移動空間に 位置する 視点場</p>	<p>仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場</p> <p>河川付近の低地部から高台をつなぐ神社参道の視点場である。低地部から見上げる鎮守の森と、高台から眺める地域の田んぼや河川、人びとの生活景を眺めることができる視点場である。高低差のある視点場は、地域の地形の特徴、および稲作や地域文化と深いつながりをもつ神社と地域との関係を、景観を眺めることで感じられる場所である。</p>  <p>例：谷根神社参道</p>	<p>シークエンス景観を眺める視点場</p> <p>蛇行する河川形状や河川の流れによって形成された、地形に沿った曲線形状をもつ道路空間の視点場である。立ち止まって景観を眺めたり、移動しながら継起的に変化する景観を眺めたりすることができる。河川沿いの道路を歩き、緩やかな地形の起伏を体感しつつ、地域に点在する文化的要素や地域の固有性を形成する自然・人工要素による景観を、多方向から眺めることができる距離をもった視点場である。</p>  <p>例：道路（曲線状坂道／竹林付近）</p>	<p>視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）</p> <p>河川に架かる橋上空間と橋詰空間の視点場である。周囲に高木や建造物などの視界を遮る要素がほとんどなく、周囲を広く見回することができる場所である。河川沿いの道路を歩くと、河川に架かる橋梁を渡ったり橋上で河川を眺めたりする人との視線が交差する視点場である。</p>  <p>例：道路（県道田屋） ＋中和田橋</p>	<p>眺望景観を眺める視点場</p> <p>視点位置となる道路の左右両側に視線を遮る要素がないことで周囲を見渡すことができる視点場である。地域の低地部から丘陵部にかけての傾斜路に位置し、低地部または丘陵部から地域の眺望を得ることができる視点場である。</p>  <p>例：六拡道路</p>

図 6-2 里地里山の景観における「視点場」の 6 つの類型

・里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性：

- 1) 5.4.1-① 里地里山の地域の高台に位置する視点場は、地域住民が生活や生業を営む上で、おもに変動要因による時間変化を把握する景観定点観測を行う場所である。このような視点場は、地域住民にとって平穏な暮らしのための景観調査を行う場所として機能し、日常の「眺望景観を眺める視点場」となる。
- 2) 5.4.1-② 地域の生活拠点や文化的要素によって形成される視点場や橋上空間にある視点場は、地域住民にとっては、日常生活の中で密接な関わりをもつ場所に位置する視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民に案内されなければ、見つけることや立ち入ることが難しい。
- 3) 5.4.1-③-① 道路または道路脇空地、橋詰空間に位置する視点場は、公共的な視点場であることから、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができ、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる。
- 4) 5.4.1-③-② おもに道路空間にある視点場は、地域住民にとっては日常生活の動線上に位置するため、地域固有の眺めを得る視点場と捉えるよりも、移動空間として捉えている場所である。
- 5) 5.4.1-③-③ 地域住民と来訪者の協働によって、道路などの日常生活の動線に、地域の固有性を示すことができる視点場としての価値を見いだすことが可能である。すなわち、地域住民と来訪者の協働による視点をもてば、地域における日常の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を付加することができる。
- 6) 5.4.2-① 事例とした谷根地区中心部は、里地里山の景観および小盆地の景観が広がる山々に囲まれたひとまとまりの領域である。小盆地の地形は地域の固有性を育み、里地里山の景観を形成する。地域の固有性は、「文化的景観を眺める視点場」から見た里地里山の景観の中に把握できる。
- 7) 5.4.2-②-① 谷根地区中心部を事例とした、小盆地といった平野とそのうちを流れる河川、周囲を取り囲む山による地形空間の地域では、地形の特徴から閉鎖的空間になりやすい。
- 8) 5.4.2-②-② 小盆地の地域において、日常の視線は、河川を周回する回遊性をもった道路と橋上空間を視点場とした場合、地域を取り囲む山々がある外側へ向かうものよりも、地域の中央を流れる河川付近の生活や生業を営む場所がある地域の内側へ向かうものが多い。小盆地の地形の特徴をもつ地域は、周囲を境界となる山々に取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、「内部景観（圍繞景観）を眺める視点場」にもなる。
- 9) 5.4.2-③-① 小盆地の地形をもつ地域の周囲を取り囲む山々は、地域の領域のまとまりを形成すると同時に、周囲の眺め（視対象）として人が自分のいる場所を把握する上で役立つ領域を示す目印になる。このとき、人が視対象を眺める視点が位置する場所は、「見る-見られる関係」をつくる視点場となる。
- 10) 5.4.2-③-② 「見る-見られる関係の視点場」は、河川に架かる橋上空間や橋詰空間

に位置する「視線が交差する視点場」である。さらに、小盆地の地形や環境と人との関係において、周囲を取り囲む山々などの視対象によって視点位置を認識することができる視点場でもある。

- 11) 5.4.3-① 小盆地の中央部に河川が流れる地形をもつ地域では、河川を取り囲むように敷かれた道路は、地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場である。このような視点場は、「シークエンス景観を眺める視点場」に分類される。
- 12) 5.4.3-②-① 里地里山の低地部と高台に位置する神社をつなぐ参道は、「仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」に分類される。地域の領域の広がりや点在する文化的要素群によって形成される地域固有の景観を、高台から眺める行為を通じて、人が地域を把握すると同時に、自分の立ち位置も把握することができる視点場である。
- 13) 5.4.3-②-② 地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、景観を眺めることで地域においての自分の位置を把握できれば、地域を移動する場合、目印となるような河川沿いの道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートを選択することも可能になり、地域の移動経路においての回遊性が高まる。

・里地里山の景観における地域の文化的要素：

- 1) 5.2.1-① 文化的要素は、目にしやすい位置に配置される。
- 2) 5.2.1-② 文化的要素を見る視点位置は、日常的な動線上、生活や生業を営む場所にある。
- 3) 5.2.1-③ 文化的要素は、日常的に目にしやすい身近な存在である。

・里地里山の景観における地域の地形：

- 1) 5.2.2 (1) ① 中央に河川が流れる里地里山の地域では、地形の特徴から河川空間が地域の中心となる。
- 2) 5.2.2 (2) ① 地域の中央に位置する河川空間は、地域の特徴を表す景観を形成する主要な要素となる。

本節では、第1章から第5章までの内容を総括し、里地里山の景観における回遊性と固有性、視点場についての情報を整理し、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論とした。事例とした谷根地区中心部は、里地里山の景観と農村景観の基本構造、および小盆地の地形の特徴をもつ地域である。このことから、谷根地区中心部を研究対象地とした本論文において、これまで述べてきた内容および本節での結論には、里地里山の景観における視点場の環境デザインを考える上で、有効な方法や要点が含まれると考えられる。次節では、本節において得られた、里地里山の景観と農村景観の基本構造をもつ谷根地区を事例とした結論に基づき、屋外公共空間への応用に向けた、里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点を抽出する。

6.3 里地里山の景観における視点場の環境デザイン

本節では、「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」とは、どのようなものか提示した上で、前節の谷根地区を事例とした結論から、屋外公共空間への応用に向けた、里地里山の景観における視点場の環境デザインに関する情報を抽出する。まず、第1章にて述べたとおり、「里地里山」とは、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く農地、ため池、二次林と人工林、草原などで構成される、人為的な関与によって形成されてきた地域である¹⁾。次に、「里地里山の景観」とは、中村による「景観とは人間をとりまく環境のながめにほかならない²⁾」という定義を参照すると、里地里山の地域における人間を取り巻く環境の眺めである。続いて、「視点場」とは、視対象を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況を指す^{3)、4)}。よって、本論文において、「里地里山の景観における視点場」とは、里地里山の地域における人間を取り巻く環境を眺める人の位置である視点の周囲の空間や状況のことを指すものとする。一方、「環境デザイン」とは、人間と人間活動を取り巻き、影響をおよぼすさまざまな自然的、人工的、社会的要素を対象とし、対象そのものおよび相互の関係を理解、分析、計画することである。また、関係のデザインともいえる^{5)、6)、7)}。これらの定義を踏まえると、本論文において、「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」は、里地里山の景観における地域の回遊性と固有性に関わる視対象と視点場の関係のデザインといえる。また、この視点場の環境デザインは、人を中心として、人と里地里山の景観を形成する要素との関係のデザインであるともいえる。

「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした、里地里山の景観における視点場の研究の結論(6.2)を概観すると、谷根地区中心部を事例とした里地里山での人と地形の関係、人の生活や生業と地域の関係、人と文化的要素の関係、人と景観の関係、地域住民と来訪者の関係といった、人を中心とした自然要素と人工要素とのさまざまな関係についての分析と考察から導かれた結論であった。「たんねのあかり」における活動では、地域住民と来訪者によって、地域に点在する里地里山の景観を構成するさまざまな要素から、地域の個性や特徴を表す要素や場所が視対象として選定され、その視対象を眺める視点場が地域内に定められた。視対象と視点場が設定されたことにより、人が視点場から視対象を眺める、または見るという行為が促された。このことから、視対象と視点場が設定されることで、眺めるまたは見るという行為を通じて、人と視対象と視点場の間に視覚的につながる関係がつけられていったといえる。谷根地区中心部を事例とした分析から抽出された6つのタイプの視点場は、里地里山の谷根地区中心部の特徴的な地形と、その地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所であり、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であった。また、これらの6つのタイプの視点場は、いずれも谷根地区中心部において、日常生活の中で地域の拠点や動線となる場所に位置する公共的な視点場であったため、地域住民にとっては普段は視点場として意識されにくい場所であった。このことから、地域住民と来訪者との協働を通じた多角的な視点から、地域における視対象と視

点場を見つけていくことは、地域の固有性の形成において意義のある方法の一例といえる。

2.3（地形の成り立ち）にて述べたとおり、本研究の事例とした谷根地区中心部は、緩やかに蛇行する谷根川を中心として、低地の平坦部から丘陵地にかけて、田んぼや棚田、住宅地が広がり、低地を見下ろす高台には神社と寺院がある。これらの平坦地と丘陵を取り囲むように、かつて薪炭林であった雑木林（二次林）⁸⁾があり、その背後には米山などの人工林と天然林があるという地形の構造がある。『景観用語事典 増補改訂第二版』では、農村景観に関して、「田の広がる平場、田に水を供給する山、それらの間の山際の集落が農村景観の基本構造である⁹⁾」と説明されている。そして、2.7（里地里山の景観とアートイベント「たんねのあかり」）にて述べたとおり、谷根地区中心部は、柏崎市と上越市の境に位置する米山の北面の裾から日本海へと向かう山ひだの中に位置している、里地里山の集落である。谷根地区中心部のほぼ中央の南北方向に谷根川が流れ、河川を中心に川東地域と川西地域の低地と丘陵地に、田んぼや棚田、人びとの暮らしの場が集中している。その周囲を雑木林（二次林）や人工林、天然林が囲み、自然豊かな里地里山の景観が広がっている。これらのことから、谷根地区中心部は、農村景観の基本構造をもった特徴的な地形であり、里地里山の景観が形成されていることがわかる。

次に、この里地里山の景観と農村景観の基本構造をもつ谷根地区を事例とした結論（6.2）から、屋外公共空間への応用に向けた、「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点を、里地里山の景観における回遊性（A、D）、固有性（B、D）、視点場（C、D）の項目ごとに抽出する。なお、屋外公共空間への応用に向けた環境デザインに関わる要点の抽出では、クリストファー・アレグザンダーらが『パタン・ランゲージ 環境設計の手引き』にて提唱した、環境を構成するさまざまな要素であるパタンとそれらの組み合わせによるランゲージを用いた都市計画や環境設計の方法を参照した¹⁰⁾。

A. 里地里山の景観における回遊性：

1) 回遊性のある経路形状をもつ道路

- 回遊性のある経路形状をもつ道路は、地域住民には日常の動線となり、来訪者には地域を把握する上で有効な経路となる。（5.2.2（1）②）
- 地域の回遊性は、起点と終点を同位置とし、起点を出発して地域を巡って終点に戻るという、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）を設定することで生まれる。（5.2.2（3）①）
- 回遊性のある経路にショートカットルートを加えると、利用者の経路の選択肢と行動の自由度が増し、歩行動線の回遊性が高まる。（5.2.2（3）②）

<回遊性のある経路形状をもつ道路>

地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、同位置の起点と終点、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）、ショートカットルートを設ける。

2) 回遊性と地域が目印

- 河川空間は人の目に見えやすく、地域を回遊する場合、人が位置を確認する目印になる。(5.2.2(2)②)
- 地域が目印となる要素は、人にわかりやすさの情報を提供し、人が位置を把握できること、経路探索が簡単になること、道に迷わずに移動できることから、地域の回遊性を高める要因となる。(5.2.2(2)③)

<回遊性と地域が目印>

地域の経路の回遊性を高めるには、人がわかりやすく位置の把握や経路探索ができるように、河川空間のような地域が目印となる要素があるとよい。

3) 回遊性と滞留場所

- 地域の中央に位置し、移動空間から見えやすくわかりやすい場所には、地域の拠点が置かれ、人びとの滞留行動を促す滞留空間として機能しやすい。(5.2.3(2)②)
- 地域の拠点となる場所は、地域に回遊性のある経路を設定する場合、その経路の起点と終点、および滞留空間を配するのに適している。(5.2.3(2)③)

<回遊性と滞留場所>

地域に回遊性のある経路を設定する場合、地域の中央や移動空間から見えやすい場所は、地域の拠点、経路の起点と終点、人びとの滞留空間を配置する場所として適している。

B. 里地里山の景観における固有性：

1) 地域の固有性

- 地域で暮らす人びとによって、生活環境の中で培われてきた自然と人為による地域文化は、地域固有の景観に表れる。(5.3.2-③-①)
- 地域文化は、人びとが地域の地形を目利きして、自然との関係を築いてきた生業や生活のかたちとして、景観に表れる。(5.3.2-③-②)
- 里地里山では、人びとは地域の自然地形を目利きして暮らしてきた。人びとの暮らしによって形成された地域文化は自然と人為による里地里山の景観として表れ、この景観が地域の固有性を高める。(5.3.2-③-③)

<地域の固有性>

人びとが地域の地形を目利きして、生業や生活を営む中で形成された地域文化は、里地里山の景観として表れ、この景観は地域の固有性を高める。

2) 地域の固有性を表す視対象となる場所

- 地域の固有性を表す視対象となる場所は、農村景観の基本構造をもった特徴的な地形を構成する主要な6つの類型に分類できる。(5.3.2-①-①)
- 地域の固有性を表す視対象となる場所の6つの類型V-1からV-6(以後、視対象となる場所の類型は、V-1からV-6までの番号をつける)は、「V-1 境界をもつ内部的場所」、「V-2 地域個性を形成する要素と場所」、「V-3 河川と高台による低地部と高地部」、「V-4 蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路」、「V-5 河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)」、「V-6 開けた傾斜地の棚田」である。(5.3.2-①-②)
- 6つの類型に分類された地域の固有性を表す視対象となる場所は、単体のみで地域の景観を構成するのではなく、いくつかのタイプの組み合わせによって地域固有の景観が形成される。(5.3.2-②)

<地域の固有性を表す視対象となる場所>

地域の固有性を表す視対象となる場所は、地域の特徴的な地形を構成する6つの類型に分類できる。これらの類型は、単体ではなく組み合わせによって、地域固有の景観を形成する。

地域の固有性を表す視対象となる場所の6つの類型：

- V-1 境界をもつ内部的場所
- V-2 地域個性を形成する要素と場所
- V-3 河川と高台による低地部と高地部
- V-4 蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路
- V-5 河川の橋上空間と橋のたもと(橋詰空間)
- V-6 開けた傾斜地の棚田

3) 多角的な視点と固有性

- 地域固有の景観は、地域住民によって形づくられた生活環境の眺めである。この眺めを生活景といい、地域の固有性が景観として表れたものである。(5.3.1-①)
- 生活景は地域の固有性を景観として示すが、地域住民にとってはあたりまえの何気ないものであることが多い。地域住民と来訪者との協働による多角的な視点によって、生活景に地域の固有性を見だし、地域固有の景観の価値を再認識できる。(5.3.1-②)

<多角的な視点と固有性>

地域の固有性は、地域住民によって形成される生活環境の眺めである生活景として景

観に表れる。生活景は、地域住民にとっては日常の景観であるため、地域住民と来訪者との協働による多角的な視点があれば、生活景に地域の固有性を見いだし、その価値を再認識できる。

C. 里地里山の景観における視点場：

1) 里地里山における地域の視点場

- 里地里山における地域の視点場は、6つの類型に分類できる（以後、地域の視点場の類型は、P-1からP-6までの番号をつける）。これらの6つの視点場の類型は、位置する場所によって、移動空間に位置する視点場と滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類できる。滞留空間に位置する視点場は、「P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」、「P-2 文化的景観を眺める視点場」であり、移動空間に位置する視点場は、「P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」、「P-4 シークエンス景観を眺める視点場」、「P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」、「P-6 眺望景観を眺める視点場」である。（5.3.3-①）
- 地域の視点場は、里地里山の特徴的な地形と、地形を活かした人びとの生活と文化によってつくられた場所に位置し、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所である。（5.3.3-④）

<里地里山における地域の視点場>

里地里山における地域の視点場は、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であり、6つの類型に分類できる。これらの6つの視点場の類型は、位置する場所によって、移動空間に位置する視点場と滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類できる。

里地里山における地域の視点場の6つの類型：

滞留空間に位置する視点場

P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場

P-2 文化的景観を眺める視点場

移動空間に位置する視点場

P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場

P-4 シークエンス景観を眺める視点場

P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）

P-6 眺望景観を眺める視点場

2) 滞留空間と移動空間に位置する視点場の特徴

- 滞留空間に位置する視点場は、生活利便性の高い位置にあり、地域コミュニティの拠点や広場などの滞留空間としての特徴をもち、生活景や人の景が眺められる視点場

である。(5.3.3-②)

- ・ 移動空間に位置する視点場は、地域の景観を構成するさまざまな眺めを得られる移動空間としての特徴をもつ。道路空間に位置する視点場は公共的な視点場である。河川の橋上と橋詰空間に位置する視点場は、眺望を得られる場合が多い。(5.3.3-③)

＜滞留空間と移動空間に位置する視点場の特徴＞

滞留空間に位置する視点場は、生活利便性が高い位置にあり、地域の生活景や人の景を眺めることができる。移動空間に位置する視点場は、道路空間では公共的な視点場となり、河川の橋上空間や橋詰空間では眺望を得ることができる。

3) 多角的な視点と視点場の設定

- ・ 6つの種類の視点場は、地域の拠点や日常の動線となる場所に位置する公共的な視点場であるため、地域住民にとって普段は視点場として意識されにくい。(5.3.3-⑤-①)
- ・ 地域住民と来訪者による多角的な視点をもって、地域に視点場を見いだして設定することは、視点場から眺められる地域の景観や文化的要素といった視対象群との関係をつくり、地域の固有性を高めるために重要な方法である。(5.3.3-⑤-②)

＜多角的な視点と視点場の設定＞

地域の視点場は、地域の拠点や日常の動線などの公共的な場所に位置するため、地域住民にとって視点場として意識されにくい。このため、地域住民と来訪者による多角的な視点をもって、地域に視点場を見いだして設定することで、視点場から眺められる地域の景観や文化的要素などの視対象との関係をつくり、地域の固有性を高めることができる。

D. 里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性：

1) 地域住民と来訪者にとっての視点場

- ・ 地域の生活拠点や文化的要素によって形成される視点場や橋上空間にある視点場は、地域住民にとっては、日常生活で身近にある視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民の案内がなければ、見つけることや立ち入ることが難しい。(5.4.1-②)
- ・ 道路または道路脇空地、橋詰空間に位置する視点場は、公共的な視点場であり、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができ、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる。(5.4.1-③-①)
- ・ 道路空間にある視点場は、地域住民にとっては日常生活の動線上に位置するため、地域固有の眺めを得る視点場と捉えるよりも、移動空間として捉えている場所である。(5.4.1-③-②)
- ・ 地域住民と来訪者との協働によって多角的な視点をもてば、地域における日常生

活の中の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を見いだすことができる。(5.4.1-③-③)

<地域住民と来訪者にとっての視点場>

地域の視点場は、地域住民にとっては、日常生活で身近にある視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民の案内がなければ、見つけることや立ち入ることが難しい。道路などの公共的な視点場は、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができ、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる。これらのことから、地域住民と来訪者との協働によって多角的な視点をもてば、地域においての日常生活の中の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を見いだすことができる。

2) 地形と視点場の位置

- 「P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」は、境界となる山々に周囲を取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、小盆地の地形の特徴をもつ地域に位置する。(5.4.2-②-②)
- 「P-2 文化的景観を眺める視点場」は、地域の固有性と里地里山の景観を形成する、山々に囲まれたひとまとまりの領域である小盆地の地形に位置する。(5.4.2-①)
- 「P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」は、人が地域の領域や現在位置の把握と地域固有の景観が眺めることができる、地域の高台と低地部をつなぐ参道のような経路に位置する。(5.4.3-②-①)
- 「P-4 シークエンス景観を眺める視点場」は、地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であり、地域の中央部に流れる河川を取り囲む道路に位置する。(5.4.3-①)
- 「P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」は、道路を歩く人と橋上にいる人との視線が交差するような河川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する。また、人が現在位置を把握するとき、周囲の眺め（視対象）として目印になる山々に周囲を取り囲まれた小盆地の地形の中にも位置する。(5.4.2-③-①、5.4.2-③-②)
- 「P-6 眺望景観を眺める視点場」は、地域住民が生活や生業を営む上で、平穏な日常のための景観定点観測を行う場所であり、里地里山の地域の高台に位置する。(5.4.1-①)

<地形と視点場の位置>

「P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」:

境界となる山々に周囲を取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、小盆地の地形

の特徴をもつ地域に位置する。

「P-2 文化的景観を眺める視点場」:

地域の固有性と里地里山の景観を形成する、山々に囲まれたひとまとまりの領域である小盆地の地形に位置する。

「P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」:

人が地域の領域や現在位置の把握と地域固有の景観が眺めることができる、地域の高台と低地部をつなぐ参道のような経路に位置する。

「P-4 シークエンス景観を眺める視点場」:

地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であり、地域の中央部に流れる河川を取り囲む道路に位置する。

「P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」:

人の視線が交差するような河川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する。人が現在位置を把握するときに、周囲の眺め（視対象）として目印になる山々に周囲を取り囲まれた小盆地の地形の中に位置する。

「P-6 眺望景観を眺める視点場」:

地域住民が生活や生業を営む上で、平穏な日常のための景観定点観測を行う場所であり、里地里山の地域の高台に位置する。

3) 視点場と地域の固有性と回遊性

- 地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、人が景観を眺めることで自分の位置を把握できれば、地域を移動する場合の経路選択において、目印になるような地域の主要道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートを選択することも可能になり、地域の移動経路における回遊性が高まる。(5.4.3-②-②)

<視点場と地域の固有性と回遊性>

地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、人が景観を眺めることで自分の位置を把握できれば、経路選択において、目印になるような地域の主要道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートの選択が可能になり、地域の移動経路の回遊性が高まる。

本節では、里地里山の景観と農村景観の基本構造をもつ谷根地区を事例とした結論(6.2)から、屋外公共空間への応用に向けた、「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点を、里地里山の景観における回遊性(A、D)、固有性(B、D)、視点場(C、D)の項目ごとに抽出を行った。以上の要点を項目ごとにまとめ、表6-1①(A、B)、表6-1②(C)、表6-1③(D)に示す。

表 6-1 ① 「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点 (A、B)

A. 里地里山の景観における回遊性	
1) 回遊性のある経路形状をもつ道路	地域を巡る経路に回遊性をもたせるには、同位置の起点と終点、一連のつながりをもった経路形状（一筆書きができる経路形状）、ショートカットルートを設ける。
2) 回遊性と地域の目印	地域の経路の回遊性を高めるには、人がわかりやすく位置の把握や経路探索ができるように、河川空間のような地域の目印となる要素があるとよい。
3) 回遊性と滞留場所	地域に回遊性のある経路を設定する場合、地域の中央や移動空間から見えやすい場所は、地域の拠点、経路の起点と終点、人びとの滞留空間を配置する場所として適している。
B. 里地里山の景観における固有性	
1) 地域の固有性	人びとが地域の地形を目利きして、生業や生活を営む中で形成された地域文化は、里地里山の景観として表れ、この景観は地域の固有性を高める。
2) 地域の固有性を表す視対象となる場所	<p>地域の固有性を表す視対象となる場所は、地域の特徴的な地形を構成する 6 つの類型に分類できる。これらの類型は、単体ではなく組み合わせによって、地域固有の景観を形成する。</p> <p>地域の固有性を表す視対象となる場所の 6 つの類型：</p> <ul style="list-style-type: none"> V-1 境界をもつ内部的場所 V-2 地域個性を形成する要素と場所 V-3 河川と高台による低地部と高地部 V-4 蛇行する河川と河川のかたちに沿った道路 V-5 河川の橋上空間と橋のもと（橋詰空間） V-6 開けた傾斜地の棚田
3) 多角的な視点と固有性	地域の固有性は、地域住民によって形成される生活環境の眺めである生活景として景観に表れる。生活景は、地域住民にとっては日常の景観であるため、地域住民と来訪者との協働による多角的な視点があれば、生活景に地域の固有性を見いだし、その価値を再認識できる。

表 6-1 ② 「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点 (C)

C. 里地里山の景観における視点場	
1) 里地里山における地域の視点場	<p>里地里山における地域の視点場は、地域の固有性を形成する要素群を視対象として眺めることができる場所であり、6つの類型に分類できる。これらの6つの視点場の類型は、位置する場所によって、移動空間に位置する視点場と滞留空間に位置する視点場の2つのタイプに分類できる。</p> <p>里地里山における地域の視点場の6つの類型：</p> <p>＜滞留空間に位置する視点場＞</p> <p>P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場</p> <p>P-2 文化的景観を眺める視点場</p> <p>＜移動空間に位置する視点場＞</p> <p>P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場</p> <p>P-4 シークエンス景観を眺める視点場</p> <p>P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）</p> <p>P-6 眺望景観を眺める視点場</p>
2) 滞留空間と移動空間に位置する視点場の特徴	<p>滞留空間に位置する視点場は、生活利便性が高い位置にあり、地域の生活景や人の景を眺めることができる。移動空間に位置する視点場は、道路空間では公共的な視点場となり、河川の橋上空間や橋詰空間では眺望を得ることができる。</p>
3) 多角的な視点と視点場の設定	<p>地域の視点場は、地域の拠点や日常の動線などの公共的な場所に位置するため、地域住民にとって視点場として意識されにくい。このため、地域住民と来訪者による多角的な視点をもって、地域に視点場を見いだして設定することで、視点場から眺められる地域の景観や文化的要素などの視対象との関係をつくり、地域の固有性を高めることができる。</p>

表6-1③ 「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点 (D)

D. 里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性	
1) 地域住民と来訪者 にとっての視点場	地域の視点場は、地域住民にとっては、日常生活で身近にある視点場であるが、来訪者にとっては、地域住民の案内がなければ、見つけることや立ち入ることが難しい。道路などの公共的な視点場は、来訪者でも見つけやすく立ち入ることができ、地域の複合的な景観を移動しながら眺めることができる。これらのことから、地域住民と来訪者との協働によって多角的な視点をもてば、地域における日常生活の中の視点場に、地域の固有性を示す視点場としての価値を見いだすことができる。
2) 地形と視点場の 位置	<p>「P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」： 境界となる山々に周囲を取り囲まれたひとまとまりの領域をもった、小盆地の地形の特徴をもつ地域に位置する。</p> <p>「P-2 文化的景観を眺める視点場」： 地域の固有性と里地里山の景観を形成する、山々に囲まれたひとまとまりの領域である小盆地の地形に位置する。</p> <p>「P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」： 人が地域の領域や現在位置の把握と地域固有の景観が眺めることができる、地域の高台と低地部をつなぐ参道のような経路に位置する。</p> <p>「P-4 シークエンス景観を眺める視点場」： 地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であり、地域の中央部に流れる河川を取り囲む道路に位置する。</p> <p>「P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」： 人の視線が交差するような河川に架かる橋上空間や橋詰空間に位置する。人が現在位置を把握するときに、周囲の眺め（視対象）として目印になる山々に周囲を取り囲まれた小盆地の地形の中に位置する。</p> <p>「P-6 眺望景観を眺める視点場」： 地域住民が生活や生業を営む上で、平穏な日常のための景観定点観測を行う場所であり、里地里山の地域の高台に位置する。</p>
3) 視点場と地域の 固有性と回遊性	地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、人が景観を眺めることで自分の位置を把握できれば、経路選択において、目印になるような地域の主要道路だけではなく、ショートカットルート、小道や脇道などの別のルートの選択が可能になり、地域の移動経路の回遊性が高まる。

これまでまとめてきた要点（表6-1①、表6-1②、表6-1③）から、「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」は、里地里山の地域において人びとが生活と生業を営む上で、住まう地域の地形の目利きにはじまり、地形を活かした地域文化を育むとともに、日常生活の中で形成される自然と人為の関係を構築する上で欠かせないものであり、「人と人の

活動を取り巻く環境」、「視覚環境である景観」、そして「人」との関係のデザインであるといえる。

また、ある地域において、このような人と人の活動を取り巻く自然と人為の関係は、地域住民にとっては日常生活の中で身近な存在であり、特別なものとして意識されにくい場合が多い。よって、「たんねのあかり」における活動のように、地域住民と地域外からの来訪者との協働の活動や交流を通じて多角的な視点をもつことができれば、ある地域での人と地形、自然と人為などの関係の中に、地域の固有性の意味や価値を見いだすことが可能である。地域住民と来訪者が地域内外の多角的な視点をもって、地域内に視点場を設定し、視対象となる地域の個性や特徴を表す文化的要素への視線を導くことは、地域の固有性を高めるための重要な方法の一つになる。そして、地域内に視点場を設定する場合、おもに道路空間や橋上空間などの移動空間に、連続する公共的な視点場を設定することによって、地域の回遊性が形成される。この地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場を移動することで、人は地域の固有性を表す要素群を複合的に里地里山の景観の中に眺めることができる。地域の回遊性と固有性は相互に影響しあい、地域の個性や特徴を育むと考えられる。

谷根地区中心部を事例とした結論（6.2）および「里地里山の景観における視点場の環境デザイン」に関わる要点（表6-1①、表6-1②、表6-1③）から、里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり、以下の項目が重要であることがわかった。

・里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目：

- ① 地域住民と来訪者が協働し、多角的な視点をもって視点場を設定する。
- ② 視点場の設定をすることで、人が視点場から視対象を見る行為を促し、視対象への視線を誘導する。
- ③ 視対象となる要素や場所が視線を遮られることなく見える位置に視点場を設定する。
- ④ 人が地域のさまざまな視対象によって構成される複合的な環境を眺めることができるように、移動可能な連続した公共的な視点場を設定する。
- ⑤ 景観が地域の固有性を視覚的に伝達する媒体となるように、人と視対象との間に視覚的につながる関係を視点場の設定によってつくる。

これらのことから、視点場と視対象に着目して、里地里山の地域において視点場の環境デザインを行うことにより、イベント時だけではなく日常生活の中でも、視点場からの眺めを通じて、地域住民は住まう地域の固有性を再発見し、来訪者は訪れた地域の固有性をより容易に知る機会を得ることができると考えられる。また、地域の固有性を知ることにより、地域住民はより一層の地域への誇りや愛着を育み、来訪者は地域への興味と愛着を抱くようになると考えられる。

以上から、里地里山の景観における視点場の環境デザインには、地域住民と来訪者との協働による多角的な視点をもって視点場を設定することが重要であることがわかった。そし

て、地域において回遊性と固有性に着目して視点場を設定することで、視覚環境である景観を通じて地域住民と来訪者、さらには人びとと地域をつなぐ関係を構築することが可能である。

本章で述べてきた里地里山の景観における視点場の環境デザインを、屋外公共空間にどのように応用できるのか、次章にて、都市部の一つの地域を事例に挙げて検証する。

註および引用文献

6.3

- 1) 環境省「里地里山保全活用行動計画 ～自然と共に生きるにぎわいの里づくり～」、
https://www.env.go.jp/nature/satoyama/keikaku/1-1_keikaku.pdf（閲覧 2024 年 8 月 6 日）
- 2) 土木工学大全編集委員会（編）、中村良夫、他（著）『土木工学大系 13 景観論』彰国社、1977 年、2 頁。
- 3) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、30-35 頁。
- 4) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、18-20 頁。
- 5) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、51 頁、55-56 頁、213 頁。
- 6) 日本デザイン学会 環境デザイン部会（編）『つなぐ 環境デザインがわかる』朝倉書店、2012 年、4-6 頁。
- 7) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 3）、10-11 頁、92-93 頁。
- 8) 月橋会、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973 年、156-158 頁。
- 9) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 3）、167 頁。
- 10) クリストファー・アレグザンダー、他（著）、平田翰那（訳）『パタン・ランゲージ 環境設計の手引き』鹿島出版会、1984 年

第7章 里地里山の景観における視点場の環境デザインの
屋外公共空間での検証

第7章 里地里山の景観における視点場の環境デザインの屋外公共空間での検証

本研究は、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画するために、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究対象事例として、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、どのように屋外公共空間の環境デザインに応用することができるのかを検証することを目的とした。「たんねのあかり」の実践から得られた情報を、第3章から第5章にて、里地里山の景観における回遊性、固有性、視点場の関係に着目して分析と考察を行い、第6章にて、「たんねのあかり」と谷根地区中心部を事例とした里地里山の景観における視点場の研究の結論を述べた(6.2)。この結論をもとに、屋外公共空間の環境デザインへの応用に向けた「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点(表6-1①、表6-1②、表6-1③)」、および「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を提示した(6.3)。本章では、「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と、「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いて、都市部の一つの地域を事例とし、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるのかを検証する。

1.2(既往研究からみる本研究の位置づけ)にて示したように、日本の農業の中心は水田耕作であり、その生活は水の流れを慎重に扱った微地形の目利きと利用に基づいていた。その生業と生活の場の農村が、国土の典型的な空間の形となって、その特徴が都市空間にも強く影響を与えている¹⁾。また、日本の代表的都市である東京では、その微地形は下絵と表現され、微地形を見ることによって場所の固有性(場所性)が浮かび上がり、日本的な都市空間の成り立ちや特徴が読み取れることが示されている²⁾。本節では、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるのかを検証するために、既往研究を踏まえ、日本の代表的都市である東京にて、都市部の一つの地域を事例として挙げる。筆者が女子美術大学で担当する授業において、自然と都市の関係について調査を行い、都市に人と自然の環境をデザインする課題がある。この課題では、対象場所を明治神宮の森につながる表参道周辺地域として、学生らとともに調査を行っている。近年、表参道周辺地域では、表参道駅前から表参道沿いと周辺地域において大規模な再開発が行われ、多くの商業施設や屋外公共空間が整備されている。また、表参道周辺地域において、表参道は地域の中央に位置し、地域住民および来訪者にとって地域の目印となっていると考えられる。これらのことから、表参道周辺地域を対象として事例に挙げ、本論文で提示した「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いて、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるのかを検証する。

＜表参道周辺地域を事例とした里地里山の景観における視点場の環境デザインの屋外公共空間への検証例＞

・手順①：地域に回遊性のある経路を計画する

「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点（表6-1①、表6-1②、表6-1③）」の「A. 里地里山の景観における回遊性」の3項目をもとに、地域に回遊性のある経路を設定する。表参道周辺地域で、地域の拠点となる場所の一つとして、明治神宮の南参道入口付近の広場を起点と終点と定める。表参道周辺地域で、里地里山の河川のように地域の目印となるものとして、表参道（都道都道413号線／表参道交差点-神宮橋交差点間）を設定し、おもに表参道を挟む北側と南側の歩道を使って、表参道地域周辺を回遊する経路を計画する。回遊性をもつ経路の途中にある横断歩道や歩道橋などを用いて、経路のショートカットができるようにする（図7-1）。

・手順②：地域に視点場と視対象を設定する

まず、「B. 里地里山の景観における固有性」の3項目をもとにして、地域の固有性を表す視対象となる場所の6つの類型を参照し、地域の視対象を設定する。次に、「C. 里地里山の景観における視点場」の3項目、および「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」をもとにして、地域の視点場の6つの類型を参照し、地域の視点場を設定する（図7-1、図7-2①、図7-2②、図7-2③）。



図7-1 表参道地域周辺を事例とした地域を回遊する経路と視点場

分類	視点場の類型	番号	地域に設定される視点場	地域の固有性を表す 視対象になる場所
滞留 空間に 位置 する 視点場	P-1 内部景観 (囲繞景観) を眺める 視点場	①	明治神宮の森（明治神宮境内）  神社境内の高木群に囲まれた 待ち合わせなどの滞留空間に なる。	V-1 境界をもつ内部的場所 明治神宮境内、視点場の 領域を示す樹木群など  例：明治神宮境内
		②	ののあおやま (商業施設、広場、地域交流拠点)  周囲をビル群に囲まれた商業 施設の広場で地域交流拠点が ある。	V-1 境界をもつ内部的場所 広場、視点場の領域を示す 商業施設や周囲のビル群など  例：ののあおやま内児童公園
	P-2 文化的景観を 眺める視点場	③	表参道街かど庭園 (参道橋跡、神宮前交番前広場)  表参道と旧渋谷川遊歩道路の 交差点にあり、参道橋跡が ある。	V-2 地域個性を形成する 要素と場所 表参道、ケヤキ並木、 商業施設など  例：表参道

図 7-2 ① 表参道地域を例とした地域の視点場と視対象（P-1、P-2）

分類	視点場の類型	番号	地域に設定される視点場	地域の固有性を表す 視対象になる場所
移動 空間に 位置 する 視点場	P-3 仰瞰景と 俯瞰景を 眺める視点場	④	<p>神宮前歩道橋</p>  <p>表参道に架かる歩道橋で 表参道を俯瞰景として眺め られる。</p>	<p>V-3 河川と高台による 低地部と高地部 表参道、ケヤキ並木、 商業施設など</p>  <p>例：表参道とケヤキ並木</p>
		⑤	<p>表参道 (都道 413 号線／ 表参道交差点-神宮橋交差点間)</p>  <p>地域の主要道路であり、坂道 を地域住民と来訪者が往来 する。</p>	<p>V-4 蛇行する河川と河川のか たちに沿った道路 ケヤキ並木、商業施設など</p>  <p>例：ケヤキ並木と商業施設</p>
	P-4 シークエンス 景観を眺める 視点場	⑥	<p>旧渋谷川遊歩道路 (キャットストリート)</p>  <p>暗渠化された旧渋谷川の上の 道路で緩やかに蛇行している。</p>	<p>V-4 蛇行する河川と河川のか たちに沿った道路 商業施設、住宅など</p>  <p>例：商業施設と住宅</p>

図 7-2 ② 表参道地域を例とした地域の視点場と視対象 (P-3、P-4)

分類	視点場の類型	番号	地域に設定される視点場	地域の固有性を表す 視対象になる場所
移動 空間に 位置 する 視点場	P-5 視線が 交差する 視点場 (見る- 見られる関係 の視点場)	④	神宮前歩道橋  表参道に架かる歩道橋で 表参道を俯瞰景として眺め られる。	V-5 河川の橋上空間と橋の たもと(橋詰空間) 表参道、ケヤキ並木、 商業施設など  例：表参道とケヤキ並木
		⑦	ジャイルフードテラス (商業施設4階テラス)  商業施設の屋外テラス利用者 と歩行者の視線が交差する。	V-5 河川の橋上空間と橋の たもと(橋詰空間) 表参道、ケヤキ並木、 商業施設、神宮前歩道橋など  例：表参道と神宮前歩道橋
	P-6 眺望景観を 眺める視点場	⑧	おもはらの森 (東急プラザ表参道／屋上庭園)  屋上庭園から明治神宮まで 続く表参道と地域の眺望が 得られる。	V-6 開けた傾斜地の棚田 明治神宮の森、表参道、 ケヤキ並木、商業施設など  例：表参道と地域周辺

図7-2③ 表参道地域を例とした地域の視点場と視対象 (P-5、P-6)

・手順③：地域における視点場と地域の回遊性と固有性の要点を確認する

手順①、②にて計画した内容が、「D. 里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性」の3項目に対応しているか確認をする（表7-1）。

表7-1 「里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性」チェックリスト

「里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性」チェックリスト ■：あり／□：なし		
地域住民と来訪者にとっての視点場	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民だけではなく、来訪者でも見つけることや立ち入ることができる公共的な視点場である。 地域住民と来訪者との多角的な視点をもった計画である。 地域住民の日常生活の中の視点場であり、地域の固有性を示す視点場である。 	<div>■</div> <div>□</div> <div>■</div>
地形と視点場の位置	<ul style="list-style-type: none"> 「P-1 内部景観（囲繞景観）を眺める視点場」：周囲を取り囲む境界をもったひとまとまりの領域に位置している。 「P-2 文化的景観を眺める視点場」：ひとまとまりの領域の中に地域の固有性を表す地域の景観が形成されている。 「P-3 仰瞰景と俯瞰景を眺める視点場」：現在位置の把握ができる場所で、低所と高所をつなぐように構成されている。 「P-4 シークエンス景観を眺める視点場」：地域の回遊性をもった連続する公共的な視点場であり、地域の中央となる要素を取り囲む道路に位置している。 「P-5 視線が交差する視点場（見る-見られる関係の視点場）」：人の視線が交差するような橋上空間などに位置し、現在位置を把握する場合に目印となる周囲を取り囲む要素がある。 「P-6 眺望景観を眺める視点場」：地域の高台に位置し、景観観測ができるような地域の眺望が得られる場所に位置する。 	<div>■</div> <div>■</div> <div>■</div> <div>■</div> <div>■</div> <div>■</div>
視点場と地域の固有性と回遊性	<ul style="list-style-type: none"> 地域の固有性に関わる高台などに位置する視点場から、地域の景観を眺めることで人が現在位置を把握できる。 地域に設定された回遊性のある経路を用いる場合、経路選択において、主要道路、ショートカットルート、別のルートの選択も可能である。 	<div>■</div> <div>■</div>

以上のように、「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いて、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、屋外公共空間にどのように応用できるの

か検証を行った。今回は、里地里山の景観における視点場の環境デザインの屋外公共空間への検証例として、表参道周辺地域を事例とした。検証の手順は、①地域に回遊性のある経路を計画する、②地域に視点場と視対象を設定する、③地域における視点場と地域の回遊性と固有性の要点を確認する、という流れとした。地域を知って把握するための身体的、視覚的な体験を提供する環境デザインの方法として、回遊性をもった地域の経路と地域固有の景観に関わる6つの種類の視点場を設定し、都市部の一つの地域を事例として、屋外公共空間における検証例を提示した。

この検証例は、地域に点在する屋外公共空間を回遊性のある経路でつなぎ、地域全体を屋外公共空間として、人びとが地域を広範囲に使うことを想定している。ただし、今回の検証例においては、来訪者の視点のみの例示であり、「里地里山の景観の視点場と地域の回遊性と固有性」チェックリスト（表7-1）の項目うち、「地域住民と来訪者との多角的な視点をもった計画である」ことは達成していないため、今後の課題の一つとしたい。

検証の結果、本論文で提示した「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用いることによって、地域の視点場、回遊性、固有性に焦点をおいた、里地里山の景観における視点場の環境デザインを、都市部の地域における屋外公共空間の計画に展開する応用の可能性を示した。次章では、人びとが地域を広範囲に使う屋外公共空間の環境デザインについて述べ、今後の課題と展望をまとめる。

第7章 註、引用・参考文献

註および引用文献

- 1) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021年、166-167頁。
- 2) 横文彦、他（著）『見えがくれする都市 SD選書 162』鹿島出版会、1980年、91-137頁。

第8章 今後の課題と展望

本研究では、質的向上を目指した、都市部の使われる屋外公共空間を計画するために、アートイベント「たんねのあかり」の実践から得られた調査と分析内容を研究対象事例として、里地里山の景観における視点場の環境デザインが、どのように屋外公共空間の環境デザインに応用することができるのかを検証した。屋外公共空間には、人工要素や自然要素などの空間の構成要素と、人びとの屋外活動によって創出される景観がある。このような屋外公共空間が多くみられる都市部では、都市景観を良好に形成するために、場所や地域の個性を演出する取り組みが必要である。屋外公共空間では、人びとの屋外活動と自然現象の変動要因によって変化をともし、人と自然の関係と、対象物（視対象）を眺める人と場所（視点場）との関係が存在する。これらの人、自然、場所の関係と、空間を構成する要素によって、屋外公共空間の景観は形成される。人と自然、人と場所の関係から形成される景観において、場所や地域固有の特性をどのように環境デザインに反映できるのかを検証していくことが、屋外公共空間の計画における課題であった。

都市部において、屋外公共空間の景観は、例えば、都市公園や街路といった屋外公共空間が単体で存在するのではなく、さまざまな屋外公共空間が複合して形成される環境の眺めである。都市部の地域には、都市公園、商業施設に併設された広場や屋上庭園、公開空地など、さまざまな屋外公共空間が点在しているが、それらは連続した公共的な視点場である道路でつなげていくことができる。このとき、地域の道路上に回遊性のある経路を設定できれば、地域に点在する屋外公共空間をつなぎ、それらのさまざまな屋外公共空間を、地域全体として一つの屋外公共空間とみなすことが可能である。この地域全体としての屋外公共空間は、人びとが地域を広範囲に使うことができる場であり、今後の屋外公共空間の環境デザインが形づくられることが期待される。そして、地域全体がつながるような広範囲の屋外公共空間を形づくるのであれば、このような複合的な屋外公共空間とその景観を計画し、地域の固有性をさらに高めることが、今後の都市景観の形成において重要な課題であると考えられる。

本論文では、屋外公共空間の計画において、対象地域の地域住民と来訪者が協働し、多角的な視点をもって視点場を設定することの重要性を示した。また、地域の回遊性と固有性を高めるために有効と考えられる方法を、本論文で提示した「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関する要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な5つの項目」を用い、都市部での検証例を挙げて示した。地域の視点場の設定には、人が視対象を見ることが、地域の固有性を表す視対象自体が見えることという関係が維持できる場所、すなわち視線を遮る要素が少ない場所に、視対象への視線を誘導できる視点場を設定する必要がある。屋外公共空間は、都市、郊外、田舎などさまざまな地域にあるが、とくに屋外公共空間とその周囲の空間を構成する要素が煩雑になりがちな都市部では、視点場と視対象との視覚環境における適切な関係が形成される場所を見つけることは難し

い。このような現状ではあるものの、対象となる屋外公共空間やその周囲に視点場として有効な場所を見つけて設定し、その場所を日常的に使い続けることで、地域の公共的な視点場として良好な環境を維持することが、屋外公共空間の質的向上には不可欠であると考えられる。これは、例えば、屋外公共空間において、来訪者が地域の公共的な視点場から地域住民の活動を生活景や人の景として見ることで、来訪者の地域への興味や地域を知ろうとする次の活動が誘発され、それが人びとが活動する場所としての屋外公共空間の質的向上に影響すると考えられるためである。使われる屋外公共空間は、さまざまな人びとの活動の場所として、日常生活の中で使い続けられることが重要である。さらに、連続した公共的な視点場として、屋外公共空間や地域に回遊性のある経路を設けることができれば、地域の固有性を表す視対象群や人びとの活動による人の景を多方面から眺めることができるため、屋外公共空間の利用頻度が高まることが期待できると考えられる。

本論文では、新潟県柏崎市谷根地区中心部にて展開した、アートイベント「たんねのあかり」における 2009 年から 2018 年までの活動と空間演出の実践を通じて得られた情報をもとにした、屋外公共空間の環境デザインに関する研究をまとめた。使われる屋外公共空間を計画する上で、地域の回遊性と固有性、視点場の設定の重要性を結論としたが、これは、里地里山の谷根地区中心部および当該地域での活動を事例とした分析と考察に基づく、限定的なものであるといえる。地域における視対象や景観、目印などの構成要素が見えることの重要性を考慮し、本論文では、視線を遮る要素が都市部と比較して少ないと考えられる里地里山を事例としたが、里地里山以外の郊外や都市部においても、同様の方法を用いて研究を行うことが必要である。そして、里地里山、郊外、都市部で得られた結果を比較分析し、地域の回遊性と固有性、および視点場の設定に着目した環境デザインが、質的向上を目指した屋外公共空間を計画する上で有効であるかを検証していくことを、今後の研究の課題としたい。また、本論文で提示した「里地里山の景観における視点場の環境デザインに関わる要点」と「里地里山の景観における視点場の環境デザインを行うにあたり重要な 5 つの項目」を用いた、都市部での検証例においては、来訪者の視点のみの例示であった。本研究において、里地里山の景観における視点場の環境デザインを屋外公共空間に展開する上で、地域住民と来訪者との多角的な視点を取り入れた計画であることを重要項目としているが、この点は達成していない。今後、新たな対象地域において、地域住民と来訪者との協働による計画および検証を課題とする。

註、引用・参考文献

第1章

註および引用文献

1.1

- 1) ヤン・ゲール (著)、北原理雄 (訳)『建物のあいだのアクティビティ』鹿島出版会、2011年、14-21 頁。
※ ヤン・ゲール (著)、北原理雄 (訳)『屋外空間の生活とデザイン』鹿島出版会、1990年の新装版である。
- 2) 土木工学大全編集委員会 (編)、中村良夫、他 (著)『土木工学大系 13 景観論』彰国社、1977 年、2 頁。
- 3) 国土交通省「景観形成ガイドライン 都市整備に関する事業」(平成 23 年 6 月改訂)、
本文 <https://www.mlit.go.jp/common/000234676.pdf>
解説編 第 1 編、第 2 編 <https://www.mlit.go.jp/common/000234678.pdf> (閲覧 2024 年 8 月 3 日)
- 4) 土木学会 (編)『街路の景観設計』技報堂出版、1985 年、2-3 頁。
- 5) 環境省「平成 27 年度版 環境・循環型社会・生物多様性白書 (PDF 版)」、
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h27/pdf.html> (閲覧 2025 年 1 月 31 日)
- 6) 国土交通省 都市局都市計画課「安全で魅力的なまちづくりを進めるための都市再生特別措置法等の改正について」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000070.html (閲覧 2024 年 5 月 20 日)
- 7) 国土交通省 まちづくり推進課「居心地が良く歩きたくなる まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000072.html (閲覧 2024 年 5 月 20 日)
- 8) 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課「新たなステージに向けた 緑とオープンスペース政策の展開について (新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終報告書)」(平成 28 年 5 月)、
<https://www.mlit.go.jp/common/001152250.pdf> (閲覧 2024 年 5 月 20 日)
- 9) 国土交通省 都市局まちづくり推進課「まちなかの居心地の良さを測る指標 (改訂版 ver.1.1)」、
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000081.html (閲覧 2024 年 7 月 20 日)
- 10) ヤン・ゲール、ビアギッテ・スヴァア (著)、鈴木俊治、他 (訳)『パブリックライフ学入門』鹿島出版会、2016 年、12 頁。
- 11) 篠原修、他 (著・編)『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、30-35 頁。

- 12) 内山久雄 (監修)、佐々木葉 (著)『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、18-20 頁。
- 13) 土肥博至 (監修)、環境デザイン研究会 (編著)『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、55 頁。
- 14) 高橋伸夫、他 (編著)『現代地理学入門 身近な地域から世界まで』古今書院、2005 年、16-20 頁。
- 15) ①市民自主企画事業「Asao Fish Flag Project」(2009 年) 神奈川県川崎市麻生区 ※ 麻生市民館と協働、②アートラボはしもと「風-景-観 見逃した世界 ここにある世界」のプログラムとして開催した「こどものまち」ワークショップと展示 (2012 年) 神奈川県相模原市橋本、③「あかり」と「ここにあるもの」をテーマにしたアートイベント「たんねのあかり」(2009 年～2018 年) 新潟県柏崎市谷根地区
- 16) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、京都大学東南アジア研究所 (編)『京大式フィールドワーク入門』NTT 出版、2006 年、5 頁。
- 17) 環境省「里地里山保全活用行動計画 ～自然と共に生きるにぎわいの里づくり～」、https://www.env.go.jp/nature/satoyama/keikaku/1-1_keikaku.pdf (閲覧 2024 年 8 月 6 日)
- 18) 土肥博至 (監修)、環境デザイン研究会 (編著)、前掲書 (註 13)、40 頁。
- 19) 日本建築学会 (編)『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016 年、104 頁、140 頁。
- 20) NPO 法人越後妻有里山協働機構「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」
<https://www.echigo-tsumari.jp/> (閲覧 2024 年 12 月 25 日)
※ 地域芸術祭の事例は多数あるが、本論文執筆の 2024 年時点で継続中のものを、代表的な事例とした (註 20、註 21、註 22)。
- 21) 横浜トリエンナーレ組織委員会「横浜トリエンナーレ」
<https://www.yokohamatriennale.jp/> (閲覧 2024 年 12 月 25 日)
- 22) 瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭」
<https://setouchi-artfest.jp/> (閲覧 2024 年 12 月 25 日)
- 23) 大地を守る会「100 万人のキャンドルナイト」
<https://candle-night.tokyo/> (閲覧 2024 年 12 月 25 日)
※ キャンドルや人工照明などによるあかりを用いて、特定地域内の空間演出を施す地域イベントの代表的な事例は多数あるが、本論文執筆の 2024 年時点で継続中のものを、代表的な事例とした (註 23、註 24、註 25)。
- 24) 金沢工業大学「金澤月見光路」
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/tsukimi/> (閲覧 2024 年 12 月 25 日)
- 25) 一般社団法人 熊本暮らし人まつり、みずあかり運営委員会「熊本暮らし人まつり みずあかり」

- <http://mizuakari.net/>（閲覧 2024 年 12 月 25 日）
- 26) 美濃加茂市市民協働部まちづくり課「さとやまシュール」、
<https://satoyamaschule.com/>（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
- 27) 環境省 自然観光局「エコツーリズムの推進、推進法認定団体 飯能市エコツーリズム推進協議会（埼玉県飯能市）」、
<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/hannou/index.html>（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
- 28) 公益財団法人 東京都公園協会「平山城址公園 里地里山体験！身近なところに別世界が！～平山城址公園・宮嶽谷戸・堀之内寺沢里山公園ウォーキング～」、
https://www.tokyo-park.or.jp/park/hirayama-joshi/news/2024/park_info_8.html
（閲覧 2024 年 8 月 7 日）
- 29) Kaplan, R., Kaplan, S., and Ryan, R.L. (1988) *With people in mind*. Island Press.
羽生和紀（監訳）『自然をデザインする ―環境心理学からのアプローチ』誠信書房、2009 年、9-12 頁。
- 1.2
- 30) 武内和彦、他（編）『里山の環境学』東大出版会、2001 年
- 31) 武内和彦、三瓶由紀（編）「特集②里山の保全と再生 里山保全に向けた土地利用規制」『都市問題』第 97 巻・第 11 号、後藤・安田記念東京都市研究所、2006 年、55-62 頁。
- 32) 森林総合研究所関西支所「里山の過去、現在、未来」（2004 年 10 月）、
https://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/research/pubs/documents/satoyama1_200410.pdf（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
- 33) 深町加津枝「農山村における土地利用とランドスケープの変化」『ランドスケープ研究』64 巻・2 号、日本造園学会、2000 年、147-150 頁。
- 34) 環境省「生物多様性国家戦略 2010」（平成 22 年 3 月 16 日）、
https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives4/files/01_mainbody.pdf（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
- 35) 亀山章（総編集）『造園大百科事典』朝倉書店、2022 年、77 頁、300-301 頁。
- 36) 文化財保護法第二条（文化財の定義）において、「文化的景観」とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されている。
e-Gov ポータル (<https://www.e-gov.go.jp>)「文化財保護法」、
<https://laws.e-gov.go.jp/law/325AC0100000214>（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
- 37) 環境省、前掲資料（註 34）、47 頁、135 頁。
https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives4/files/01_mainbody.pdf（閲覧 2024 年 5 月 20 日）
- 38) 西田正憲「自然・景観・観光をめぐる動きと風景へのまなざし」『地域創造学研究 創

- 刊号』第19巻・第3号、奈良県立大学、2009年、7-35頁。
- 39) 西城潔「歴史性と人の営みに着目した里地里山景観の理解とその教育への展開事例」『宮城教育大学 環境教育研究紀要』第18巻、宮城教育大学、2016年、35-41頁。
 - 40) 進士五十八、他（編）『ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法 農に学ぶ都市環境づくり』学芸出版社、1994年
 - 41) 岩田俊二（著）『農村景観のパタン・ランゲージ 伊賀市での景観基準づくり研究』農林統計出版、2016年
 - 42) 大山勲『伝統的農村集落における道空間の形態と形成要因に関する研究：甲府盆地の平坦地に立地する集居農村集落を対象として』学位論文、東京大学工学系研究科社会基盤工学専攻、2001年
 - 43) 樋口忠彦（著）『日本の景観』筑摩書房、1993年、175-186頁。
 - 44) 樋口忠彦（著）『景観の構造』、技報堂出版、1975年
 - 45) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註11）、170-171頁。
 - 46) 社団法人日本建築学会（編）『生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり』学芸出版社、2009年
 - 47) 渡邊優、佐々木葉「来訪者による生活景の捉え方に関する研究」『景観・デザイン研究講演集』No.8、土木学会、2012年、104-109頁。
 - 48) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註11）、166-167頁。
 - 49) 樋口忠彦（著）、前掲書（註44）、84-149頁。
 - 50) 槇文彦、他（著）『見えがくれする都市 SD選書162』鹿島出版会、1980年、91-137頁。
 - 51) ジェーン・ジェイコブス（著）、黒川紀章（訳）『アメリカ大都市の死と生 SD選書118』鹿島出版会、1977年、39-67頁。
 - 52) バーナード・ルドフスキー（著）、平良敬一、岡野一字（訳）『人間のための街路』鹿島出版会、1973年、101-119頁。
 - 53) ヤン・ゲール（著）、北原理雄（訳）『人間の街 公共空間のデザイン』鹿島出版会、2014年、71-73頁、156-157頁。
 - 54) 同前、156-157頁。
 - 55) ケヴィン・リンチ（著）、丹下健三、富田玲子（訳）『都市のイメージ』岩波書店、1968年
 - 56) ロベルト・ブランビラ、ジャンニ・ロンゴ（著）、月尾嘉男（訳）『歩行者空間の計画と運営』鹿島出版会、1979年
 - 57) クレア・クーパー・マーカス、キャロライン・フランシス（編）、湯川利和、湯川聡子（訳）『人間のための屋外環境デザイン —オープンスペース設計のためのデザイン・ガイドライン』鹿島出版会、1993年
 - 58) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註13）、55頁、213頁。
 - 59) 日本デザイン学会 環境デザイン部会（編）『つなぐ 環境デザインがわかる』朝倉書

店、2012 年

※ 『つなぐ 環境デザインがわかる』には、環境デザイン部会所属の会員によるさまざまな分野からの研究がまとめられている。

- 60) 土肥博至 (監修)、環境デザイン研究会 (編著)、前掲書 (註 13)、51 頁、55-56 頁、213 頁。
- 61) 日本デザイン学会 環境デザイン部会 (編)、前掲書 (註 59)、4-6 頁。
- 62) 篠原修、他 (著・編)、前掲書 (註 11)、10-11 頁、92-93 頁。
- 63) 小島周作、他「吉沢八景選定プロジェクトからみる都市近郊の里地里山地域における子ども達の景観認識」『ランドスケープ研究』80 巻・5 号、日本造園学会、2017 年、575-578 頁。
- 64) 東南裕美、安斎勇樹「観光まちづくりにおけるデザイン・ワークショップの提案 —神奈川県三浦半島における観光まちづくりを事例として」『デザイン学研究』第 68 巻・第 3 号、日本デザイン学会、2021 年、43-52 頁。

参考文献

平塚勇司『都市公園のトリセツ 使いこなすための法律の読み方』学芸出版社、2020 年
泉山塁威、他 (編著)『パブリックスペース活用辞典 図解 公共空間を使いこなすための制度とルール』学芸出版社、2023 年

第 2 章

註および引用文献

2.1

- 1) 1973 年の谷根ダム竣工記念として、同年に柏崎市ガス水道局から出版された文献が、『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』である。以後、おもに柏崎市ガス水道局から出版された文献と合わせた計 4 点 (註 8、註 16、参考文献 2 点) を本章の文献調査にて用いた。

2.2

- 2) 柏崎市役所「柏崎市の人口 住民基本台帳人口に基づく人口と世帯数 令和 6 (2024) 年 3 月末日現在の人口・世帯数」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html> (閲覧 2024 年 4 月 27 日)
- 3) 「里地里山 (さとちさとやま)」とは、環境省 自然環境局によると、「里地里山とは、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域」と定義されている。
環境省 自然環境局「里地里山の保全・活用」、
<https://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html> (閲覧 2024 年 4 月 28 日)

- 4) 柏崎市役所 企画政策課「柏崎市の人口 各種人口データ 町名別人口（人口と世帯数、地区別人口）住民基本台帳からみる柏崎市の人口推移（町名別）令和6（2024）年、平成21（2009）年、平成30（2018）年」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html>（閲覧2024年4月27日）
- 5) 柏崎市の行政区上米山地区は、谷根（63世帯）、小杉（1世帯）、吉備（0世帯）、たんねの里（27世帯）で構成されている。「たんねの里」は、谷根地区の旧上米山小学校を改築してつくられた特別養護老人ホームである。2011年4月開設。
柏崎市役所 企画政策課「柏崎市の人口 各種人口データ 行政区別人口（人口と世帯数、自然動態と社会動態、地区別人口、推計人口）住民基本台帳からみる柏崎市の人口推移（行政区別）令和6（2024）年3月」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/shiseijoho/tokei/jinkotokei/28563.html>（閲覧2024年4月30日）
- 6) 柏崎市役所 産業振興部 商業観光課 観光振興係「谷根のハナモモ」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/soshikiichiran/sangyoshinkobu/shogyokankoka/kankosinko/23/26/2/20022.html>（閲覧2024年4月27日）
- 7) 柏崎市役所 産業振興部 商業観光課 観光振興係「米山（標高993メートル）の登山コース」、
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/soshikiichiran/sangyoshinkobu/shogyokankoka/kankosinko/46/34/2/5495.html>（閲覧2024年4月27日）

2.3

- 8) 月橋奈、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973年、134-135頁。
- 9) 同前、134-135頁。
- 10) 標高の数値は国土交通省 国土地理院「地理院地図（電子国土 Web）」による。
<https://www.gsi.go.jp/>（閲覧2024年4月28日）
- 11) 月橋奈、他、前掲書（註8）、156-158頁。
- 12) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021年、167頁。

2.4

- 13) 月橋奈、他、前掲書（註8）、135頁。
- 14) 月橋奈、他、前掲書（註8）、135-138頁。
- 15) 2009年には、「たんねのあかり」のプレイベント「なかよしワークショップ 第一部・第二部」を開催した。第一部では、作品制作を行い、第二部では、「昔の農具のことや谷根の自然・地域・歴史を知ろう！」と題して、谷根地区の地域住民から、女子美術大学関係者と上米山小学校の学生たちに谷根地区の歴史や文化、農具・民具の使い方についてのレクチャーが行われた。「たんねのあかり」では、これらの農具・民具を借用し

て、作品制作が行われた。

- 16) 月橋会、他『谷根—自然・文化・生活—』柏崎市ガス水道局、1978 年、70 頁。

2.5

- 17) 新潟県 土木部河川管理課「新潟県の河川一覧 二級河川」、
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kasenganri/1202317242294.html> (閲覧 2024 年 4 月 29 日)
- 18) 月橋会、他、前掲書 (註 8)、145-147 頁。
- 19) 月橋会、他、前掲書 (註 16)、10-11 頁。
- 20) JF 新潟漁連 (新潟県漁業協同組合連合会)「新潟県柏崎市谷根川 さけの森づくり」、
<http://www.van-rai.net/nigyoren/mori/sakenomori/sakenomori.htm> (閲覧 2024 年 4 月 30 日)
- 21) 公益社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会「谷根川さけの森づくり推進協議会」、
<https://www.midori100.com/volunteer/detail/cd/50/> (閲覧 2024 年 4 月 30 日)

2.6

- 22) 篠原修、他 (著・編)、前掲書 (註 12)、66 頁、28 頁、46-47 頁。
- 23) 土肥博至 (監修)、環境デザイン研究会 (編著)『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、15 頁、129 頁、275 頁。
- 24) 国土交通省 国土技術政策総合研究所「国総研資料 第 945 号 公園緑地における眺望保全・再生の手引き (案)」、
<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0945.htm> (閲覧 2024 年 4 月 30 日)
- 25) 内山久雄 (監修)、佐々木葉 (著)『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、20-21 頁。
- 26) 篠原修、他 (著・編)、前掲書 (註 12)、15 頁。

2.7

- 27) 月橋会、他、前掲書 (註 8)、56-158 頁。
- 28) 月橋会、他、前掲書 (註 16)、10-11 頁、70 頁。
- 29) アートイベント「たんねのあかり」は、2009 年、2010 年、2011 年、2012 年、2014 年、2016 年、2018 年の 7 回開催された。「たんねのあかり」プロジェクトに携わった女子美術大学の関係者は、女子美術大学の教員、学生、卒業生で構成された。参加人数は、2009 年 12 名、2010 年 16 名、2011 年 23 名、2012 年 10 名、2014 年 9 名、2016 年 13 名、2017 年 13 名、2018 年 19 名であった。なお、2017 年は、アートイベント「たんねのあかり」の開催はなく、ワークショップ開催や地域の PR 冊子制作などのプロジェクト活動のみ実施された。
- 30) 女子美術大学「たんねのあかり」イベントチーム代表 下田倫子 (編集)『「あかり」と「そこにあるもの」をテーマにしたアートイベント たんねのあかり 2009 SUMMER

報告書』女子美術大学「たんねのあかり」イベントチーム、2009 年、2 頁。

※ 「たんねのあかり」のイベント告知の呼びかけ文章は、「たんねのあかり」ブログ（2009 年 5 月開設、<http://tannenoakari.jugem.jp/>）に掲載された。その後、女子美術大学や谷根地区内外で配布されたイベント告知資料などに掲載された。

31) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註 23）、172 頁。

32) 西田正憲『瀬戸内海の発見』中央公論新社、1999 年、85 頁。

33) 同前、87 頁。

参考文献

月橋玄、他『谷根—TANNE—水への決意』柏崎市ガス水道局、1985 年

月橋玄、他『谷根—水との連想』月橋玄（発行責任者）、1997 年

第 3 章

註および引用文献

3.2

1) アートイベント「たんねのあかり」は、新潟県柏崎市谷根地区中心部にて、2009 年から開催された里地里山をキャンドルのあかりで演出するイベントであった。2009 年は 8 月に開催され、柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントの一つとして位置づけられた。2010 年以降は 10 月上旬から中旬に行われた。プロジェクトの活動内容は、あかりのアートイベントを主軸とし、夏季には近隣の小学校の子どもたちとのワークショップ開催や、アートやデザインに関するレクチャーなどを実施した。また、たんねのあかり実行委員会を中心に、谷根地区のシンボルマークや看板、ウォーキングマップが制作され、地域活性化を目指した活動が行われた。2024 年 4 月、たんねのあかり実行委員会（事務局：上米山コミュニティセンター内／柏崎市谷根地区）は解散し、活動を終了した。

※ （公財）新潟県文化振興財団助成事業（2010～2012、2014、2016、2018 年度）

※ 女子美術大学 100 周年記念大村文子基金大村特別賞 平成 23 年度受賞

2) 2009 年開催の「たんねのあかり」では、女子美術大学「たんねのあかり」イベントチームが主催となり、谷根地区では、たんねのあかりサポート委員会（本部：上米山コミュニティセンター）が設置されて協働による運営が行われた。2010 年以降、谷根地区の地域住民と女子美術大学の教員らで構成された、たんねのあかり実行委員会が主催となり、以後、「たんねのあかり」でのさまざまな活動の運営が行われた。なお、本論文で述べた、2009 年の柏崎市立上米山小学校の閉校記念イベントとして実施された「たんねのあかり」が、2009 年以降も継続されるようになった理由は、「NST 新潟総合テレビ制作『たんねのあかり ～農村を照らす心の灯～』（2010 年 11 月 6 日放映）」での、谷根地区の地域住民や女子美術大学の関係者へのインタビュー内容を参照した。

- 3) アートイベント「たんねのあかり」は、13 時ごろから地元産物や新米などの販売店が開かれ、21 時まで行われていた。日没時間に合わせ、18 時に提灯行列と点灯式が執り行われ、あかりによる空間演出の鑑賞時間は 21 時までの 3 時間であった。
- 4) 柏崎市立上米山小学校は、2009 年度をもって閉校となった。校舎、校庭のリノベーションが行われ、2024 年現在は、特別養護老人ホームたんねの里となっている。2010 年以降の「たんねのあかり」では、イベント時の本部、飲食店や休憩所の場所として、特別養護老人ホームたんねの里のグラウンドを借用していた。
- 5) 「たんねのあかり」イベント来場者数は、2009 年：約 1000 人、2010 年：約 3000 人、2011 年：約 6000 人、2012 年：約 8000 人、2014 年：約 8000 人、2016 年：約 3000 人（当日雨天）、2018 年：約 7000 人であった。なお、来場者数は、イベント時には地区内の乗用車で来場は禁止されており、臨時駐車場の駐車台数および臨時シャトルバス乗車人数から算出して、公表した来場者数である。

3.3

- 6) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016 年、61 頁。
- 7) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、187 頁。
- 8) 同前、187 頁。

3.4

- 9) 「たんねのあかり 2010」では、おもな空間演出の対象場所が棚田（鉄塔下）と設定され、本部が対象場所近くの久保橋横の工務店工場前広場に置かれた。この開催年のみ、旧上米山小学校校庭は、イベント実施エリア外であったため使用されなかった。「たんねのあかり 2014」では、棚田（鉄塔下）をおもな空間演出の対象場所に設定され、旧上米山小学校校庭には、物販、飲食、休憩場所が設けられてイベント時の来訪者が集まる拠点の一つとされた。

第 4 章

註および引用文献

4.4

- 1) アートイベント「たんねのあかり」においては、谷根川や棚田への立ち入りは禁止とされたため、それらの場所は視点場としての計画は行われていない。
- 2) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、51 頁。
- 3) 石上文正「「環境」の定義について」『人間と環境 電子版』No. 1、人間環境大学、2011 年、1-5 頁。
- 4) 月橋会、他『谷根-TANNE-ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973 年、134-135

頁。

- 5) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、69 頁。
- 6) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、46-47 頁。
- 7) 谷根神社参道は、参道入口から長さ約 65m 続く平坦部と、高低差約 10m の高台へと上る長さ約 25m の階段部で構成される。
- 8) 谷根神社の大藤について、「谷根名物のひとつに、谷根神社の大藤がある。川添いの道から神社の参道を進み一の鳥居、二の鳥居をくぐり最初の石段を上ると左側に大藤がその巨体をくねらせている。次の長い石段の中ほどで、石段をまたいで右側に渡り、一老杉にからみ、昇竜の格恰で天をついている。「谷根村史誌」にも「谷根神社は、狐塚最北端中腹にある藤の花の名所」と述べてあり、村人たちの豊穰祈願の祭場でもあり、憩いの場でもあったのである。」と記述がある。大藤は谷根神社とともに、地域の歴史の中で景観を構成する重要な要素の一つであると考えられる。
引用文献：月橋奈、他『谷根－自然・文化・生活－』柏崎市ガス水道局、1978 年、14 頁。
- 9) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典 増補改訂版』井上書院、2016 年、115 頁。
- 10) 高低差の数値は、国土交通省 国土地理院「地理院地図（電子国土 Web）」の標高の数値から算出した。
- 11) 日本人成人平均身長は、スポーツ庁による令和 5 年度の「体力・運動能力調（年齢別対角測定の結果 身長、体重）」を参照し、20 代から 70 代までの平均身長を算出した。身長（cm）男子 170.15、女子 157.05 であった。人体の基準寸法「眼高＝身長（H）× 0.9」の計算式を用い、目線高さを算出した。計算式は、小原、他編『インテリアの計画と設計 第二版』を参照した。目線高さ（cm）男子 153.14、女子 141.35 となり、男女平均は 147.24 であった。以上の寸法を参考とし、ここでは、目線高さの基準を 150cm とした。（数字は小数点第三位で四捨五入）
スポーツ庁 政府統計の総合窓口（e-Stat）「体力・運動能力調査 / 令和 5 年度（速報）」、
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/1368148.htm（閲覧 2024 年 5 月 9 日）
- 12) 奥性（おくせい）とは、「視覚的、感覚的に接している区切られた空間に対し、見えない部分、または見えそうで見えない部分があると感じる感覚」のこと。
引用文献：土肥博至（監修）、前掲書（註 2）、2007 年、33 頁。
- 13) 奥行きは、対象相互の位置関係による視距離の長さに関係する。対象となる空間の手前端部を視点位置と定めた場合、奥の端部に人がいたときの「活動の認知限界」が 135m と示されている。対象の位置関係に距離があり、人の動きの判別の困難さから、視距離

が135m以上の対象空間を奥行きがあるものとする。

参考文献：篠原修『景観のデザインに関する基礎的研究』東京大学学位論文、1980年

4.5

- 14) 清水裕士「フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』001号、WebLab、2016年、59-73頁。

4.6

- 15) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）、前掲書（註5）、2015年、72頁。

参考文献

日本建築学会（編）『空間デザイン事典』井上書院、2006年

第5章

註および引用文献

5.2

- 1) e-Gov ポータル (<https://www.e-gov.go.jp>) 「文化財保護法」、
<https://laws.e-gov.go.jp/law/325AC0100000214>（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
- 2) 文化庁「文化財保護法の一部を改正する法律等について、文化財保護法の一部改正に伴う関係省令及び告示の整備等について（通知）（平成 17 年 3 月 28 日 16 庁財第 413 号 文化庁次長通知）No.2」、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/bunkazai/pdf/hogohou_ichibukaisei_no2.pdf（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
- 3) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、130 頁。
- 4) 国土交通省「河川景観ガイドライン 河川景観の形成と保全の考え方（平成 18 年 10 月）」、
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/riverscape/index.html
（閲覧 2024 年 9 月 23 日）
- 5) 国土交通省 河川審議会「河川を活かした都市の再構築の基本的方向 中間報告（平成 10 年 9 月）」、
https://www1.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/past_shinngikai/shinngikai/shinngi/9909205a.html（閲覧 2024 年 9 月 26 日）
- 6) ケヴィン・リンチ（著）、丹下健三、富田玲子（訳）『都市のイメージ』岩波書店、1968 年、58 頁。
- 7) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語事典』井上書院、2007 年、326 頁。
- 8) 日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間学事典[増補改訂版]』井上書院、2016

年、105 頁、140 頁。

- 9) 紙野桂人『人のうごきと街のデザイン』彰国社、1980 年、188-189 頁。
- 10) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註 7）、15 頁。
- 11) 同前、148 頁。
- 12) 亀山章（総編集）、他『造園大百科事典』朝倉書店、2022 年、112-113 頁。
- 13) 国土交通省「小さな拠点づくりガイドブック（平成 27 年 3 月）」、
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_guidebook.html（閲覧
2024 年 10 月 22 日）
※ 国土交通省「小さな拠点」づくりガイドブックでは、「小さな拠点」を、「小学校区
など、複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービ
スや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図る
ことで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくろうとする取組」と定義して
いる。

5.3

- 14) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）、前掲書（註 7）、172 頁。
- 15) 社団法人日本建築学会（編）『生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり』学芸出版
社、2009 年、16 頁、24-25 頁。
- 16) 文化庁「令和 3 年度 文化観光高付加価値化リサーチ 文化・観光・まちづくりの関係性
について（令和 3 年度）」、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/pdf/93705701_01.pdf
（閲覧 2024 年 10 月 17 日）
- 17) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 3）、166-168 頁。
- 18) 槇文彦、他（著）、社団法人『見えがくれする都市』鹿島出版会、1980 年、92-94 頁。
- 19) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム
社、2015 年、193-194 頁。
- 20) 篠原修（著）、社団法人土木学会（編）『新体系土木工学 59 土木景観計画』技報堂、1982
年、40-43 頁。

5.4

- 21) 国土交通省大臣官房技術調査課・公共事業調査室「公共事業における景観整備に関する
事後評価の手引き（案）～市民の目線に立った良質な空間形成に向けて～」（平成 21 年
3 月）、
<https://www.mlit.go.jp/tec/content/keikan-jigohyouka-honbun.pdf>（閲覧 2024 年
11 月 17 日）
- 22) 江東区 都市整備部 都市計画課「景観定点観測について」（2024 年 3 月 1 日更新）、
[https://www.city.koto.lg.jp/390112/machizukuri/keikan/toshikeikan_torikumi_k](https://www.city.koto.lg.jp/390112/machizukuri/keikan/toshikeikan_torikumi_kansoku.html)
[ansoku.html](https://www.city.koto.lg.jp/390112/machizukuri/keikan/toshikeikan_torikumi_kansoku.html)（閲覧 2024 年 11 月 17 日）

- 23) 平塚市 まちづくり政策課「第2回 平塚市景観検討会議 議事要点」(平成18年1月)、
<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/common/000016671.pdf> (閲覧2024年11月17日)
- 24) 茅ヶ崎市 都市部景観みどり課「茅ヶ崎市景観計画年次報告書 2023年度版」(令和6年3月)、
https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/008/080/2023nenji.pdf (閲覧2024年11月17日)
- 25) 焼津市 都市政策部 都市計画課「焼津市景観計画 焼津らしい景観地における定点観測による評価(案)」(令和5年8月)、
<https://www.city.yaizu.lg.jp/documents/14975/bessi02.pdf> (閲覧2024年11月17日)
- 26) 樋口忠彦『日本の景観』筑摩書房、1993年、176頁。
- 27) 樋口忠彦『景観の構造 ランドスケープとしての日本の空間』技報堂出版、1975年、85頁。
- 28) 米山俊直『小盆地宇宙と日本文化』岩波書店、1989年、11-13頁。
 ※ 同文献では、「小盆地宇宙」には、情報の集散する拠点として城や城下町、市場をもつとされている。谷根地区には現在、城や城下町といった拠点は無いが、月橋奈らによる『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』によると、上杉時代(文献表記による)に谷根城(北山古城を上条家で修築)があったと記されている。
 参考文献: 月橋奈、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973年、136-138頁。
- 29) 亀山章(総編集)、前掲書(註12)、100頁。
- 30) 内山久雄(監修)、佐々木葉(著)、前掲書(註19)、73-74頁。
- 31) 同前、74頁。
- 32) Kaplan, R., Kaplan, S., and Ryan, R.L. (1988) *With people in mind*. Island Press.
 羽生和紀(監訳)『自然をデザインする —環境心理学からのアプローチ』誠信書房、2009年、9-12頁。
- 33) 篠原修、他(著・編)、前掲書(註3)、212頁。
- 34) 同前、214頁。

参考文献

中村良夫、他(著・編)『環境と空間文化 —建築・都市デザインのモチベーション』学芸出版社、2005年

第6章

註および引用文献

6.3

- 1) 環境省「里地里山保全活用行動計画 ～自然と共に生きるにぎわいの里づくり～」、
https://www.env.go.jp/nature/satoyama/keikaku/1-1_keikaku.pdf（閲覧 2024 年 8 月 6 日）
- 2) 土木工学大全編集委員会（編）、中村良夫、他（著）『土木工学大系 13 景観論』彰国社、1977 年、2 頁。
- 3) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、30-35 頁。
- 4) 内山久雄（監修）、佐々木葉（著）『ゼロから学ぶ土木の基本 景観とデザイン』オーム社、2015 年、18-20 頁。
- 5) 土肥博至（監修）、環境デザイン研究会（編著）『環境デザイン用語辞典』井上書院、2007 年、51 頁、55-56 頁、213 頁。
- 6) 日本デザイン学会 環境デザイン部会（編）『つなぐ 環境デザインがわかる』朝倉書店、2012 年、4-6 頁。
- 7) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 3）、10-11 頁、92-93 頁。
- 8) 月橋会、他『谷根—TANNE—ダム・自然・文化』柏崎市ガス水道局、1973 年、156-158 頁。
- 9) 篠原修、他（著・編）、前掲書（註 3）、167 頁。
- 10) クリストファー・アレグザンダー、他（著）、平田翰那（訳）『パターン・ランゲージ 環境設計の手引き』鹿島出版会、1984 年

第7章

註および引用文献

- 1) 篠原修、他（著・編）『景観用語事典 増補改訂第二版』彰国社、2021 年、166-167 頁。
- 2) 槇文彦、他（著）『見えがくれする都市 SD 選書 162』鹿島出版会、1980 年、91-137 頁。

写真提供

小林敬季氏 撮影

- 図3-2、右列上から2点目から6点目まで、45頁。
- 図3-4、作品番号10-01、10-03、10-05、10-06、10-07、10-08、10-10、10-11、49頁。
- 図3-5、作品番号11-02、11-05、11-06、11-07、11-08、11-09、11-11、11-12、11-13、11-14、11-15、50頁。
- 図3-6、作品番号12-03、12-04、12-05、12-06、12-07、12-08、12-09、12-12、12-13、51頁。
- 図3-7、作品番号14-02、14-03、14-04、14-05、14-06、14-07、14-08、14-09、14-13、14-14、14-15、14-16、52頁。
- 図3-8、作品番号16-01、16-02、16-03、16-04、16-05、16-07、16-08、16-09、16-10、16-11、16-12、16-13、16-14、16-15、16-16、16-17、16-18、16-20、53頁。
- 図3-9、作品番号18-02、18-03、18-04、18-05、18-06、18-09、18-11、18-12、18-13、18-15、18-16、18-17、54頁。
- 図3-12、作品番号10-08、10-09、61頁。
- 図3-14、作品番号12-10、63頁。
- 図3-15、作品番号14-03、14-05、14-06、64頁。

朴嘉暎氏 撮影

- 図3-2、右列上から7点目、45頁。
- 図3-9、作品番号18-01、18-08、18-14、54頁。

横山勝樹氏 撮影

- 図3-3、作品番号09-02、09-03、09-05、09-08、09-09、48頁。

池田麻美氏 撮影

- 図3-3、作品番号09-04、09-07、48頁。
- 図3-4、作品番号10-09、49頁。
- 図3-5、作品番号11-04、50頁。
- 図3-14、作品番号12-09、63頁。

真島未来氏 撮影

- 図3-3、作品番号09-06、48頁。

清水梨江氏 撮影

- 図3-4、作品番号10-04、49頁。

鈴木彩有里氏 撮影

- 図3-9、作品番号18-07、54頁。

池田民樹氏 撮影

- 図4-2、(20) 谷根ダム・赤石ダム、95頁。

桜井雅浩氏 撮影

- 図4-2、(36) 秋葉神、95頁。

たんねのあかり実行委員会 提供

- 図3-6、作品番号12-01、12-02、12-10、12-11、12-14、12-15、51頁。
- 図3-9、作品番号18-10、54頁。

※上記以外の写真は筆者撮影による。

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々のご指導およびご協力を賜りました。主査 女子美術大学 横山勝樹先生、副査 女子美術大学 大崎綾子先生、副査 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 高山範理先生には、ご指導と的確なご指摘を賜りました。

横山勝樹先生には、本論文ならびに都市計画や環境デザインの研究において、幅広いご指導ご鞭撻を賜りました。また、本研究の基盤である「たんねのあかり」の活動におきましても、長年にわたりご理解とご指導を賜りました。深く感謝申し上げます。

大崎綾子先生には、ご多忙の中、本論文のご指導とご審査を賜りました。ご指導の折には、執筆の進捗を保つことや、言葉を丁寧に扱うことの重要性など、研究に取り組む姿勢に至るまでご教示いただきました。深く感謝申し上げます。

高山範理先生には、ご多忙の中、本論文のご指導とご審査を賜りました。女子美術大学での「環境論」のご講義では、里地里山の景観と谷根地区との関係を考える契機をいただきました。また、論文執筆の進め方や分析方法に至るまで、有益なご助言を賜りました。深く感謝申し上げます。

本論文は、新潟県柏崎市谷根地区にて展開されたアートイベント「たんねのあかり」の活動を研究の基盤としています。この地域と大学との協働による活動において、新潟県柏崎市谷根地区と小杉地区の皆さま、たんねのあかり実行委員会の皆さま、女子美術大学の教員、卒業生、学生の皆さまには、2009年から2018年までの活動期間および本論文執筆期間を通じて、長年にわたり多大なご協力を賜りました。活動開始当初の2009年を振り返れば、柏崎市立上米山小学校の校長 阿部節子先生、教頭 佐々木克己先生、諸先生方、小学生の皆さま、保護者の皆さまのご理解とご協力がなければ、「たんねのあかり」の活動は実現し得ませんでした。心より御礼申し上げます。また、「たんねのあかり」の活動と谷根地区の地域の魅力を広く発信してくださった、柏崎日報社の故 品田正伸氏、NST 新潟総合テレビ元会長の故 村山稔氏、ならびにその他の新聞社、出版社、報道関係者の皆さまにも、心より深く感謝申し上げます。たんねのあかり実行委員会（2009年から2010年当時）の実行委員長 池田民樹氏、副実行委員長 竹内正氏、吉川静氏、桜井雅浩氏をはじめ、谷根地区と小杉地区の皆さまには、「たんねのあかり」の活動以外にも、柏崎市と谷根地区の地域の歴史、伝統、文化について多くのことをご教示いただきました。心より感謝申し上げます。また、女子美術大学の卒業生および関係者である池田麻美氏、廣上朝子氏、南出誠氏には、「たんねのあかり」開始前からともに活動に携わっていただきました。心より感謝申し上げます。本論文に「たんねのあかり」の活動記録写真をご提供いただきました小林敬季氏をはじめ、その他の活動関係者の皆さまにも、深く感謝申し上げます。最後に、この場をお借りして、「たんねのあかり」の活動に関わってくださったすべての方々に、心より御礼申し上げます。

※「たんねのあかり」の活動関係者の所属および氏名は、2009年当時のものを記載しました。